

まえがき

このたびは、BYD の車をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。BYD の車を正しくご利用いただき、正しくメンテナンスするために、ご利用の前に必ず本マニュアルのすべての内容をよくお読みください。

特別説明：BYD は、純正部品を使用し、マニュアルに従って正しく利用、メンテナンス、整備することをおすすめしています。非純正部品への交換や車の改造を行うと、車両の性能、特に安全性や耐久性に影響を与えるおそれがあります。それにより発生した車の破損および性能上の不具合は品質保証対象外となります。また、車の改造は、国の法規や地方条例に違反する場合があります。

よりよいサービスをお届けするために、皆さまからの貴重なご意見やアドバイスをいただけましたら幸いです。そのためにも必ず正しい連絡先情報をご提供ください。また、変更がある場合は早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、システム上の情報更新を依頼してください。同時に、国の関係法規および地方条例に常にご関心をお寄せいただき、できるだけ早く車両登録をしていただきますようお願い申し上げます。そうされませんと、車両登録ができなくなるおそれがあります。

本マニュアルに「アドバイス」、「注意」および「警告」が記載されているところは、怪我や破損が発生しないように記載内容をお守りください。シンボルマークの表示や使い方は、次の通りです。

アドバイス

メンテナンスなどを容易にするために守らなければならない事項

注意

車両の損傷を避けるために守らなければならない事項

警告

身の安全を守るために守らなければならない事項



左図に示す禁止マークは、「このようなことをしてはいけません」、または「このようなことを起こしてはいけません」を意味します。

本マニュアルに*記号が付いている内容は、一部の車種にのみ適用され、それが搭載されていることを表しています。使われているイラストは代表例です。お買い上げの車と異なる場合は、実車を参考にしてください。

本マニュアルは、製品を正しくお使いいただくためのものであり、本製品の仕様およびソフトウェアバージョンに関する説明を表すものではありません。製品仕様やソフトウェアバージョンについては、本製品に関する契約書(もしあれば)を参照していただくか、製品をお買い上げいただいた販売店までお問い合わせください。

著作権は、BYD に帰属します。

BYD から書面による許可を得ずに、本マニュアルの一部、または全部の内容を転載、複製することを禁じます。

本マニュアルを複製する場合は、必ずその責任を追及します。

BYD DOLPHIN 概要

BYD DOLPHIN は、新しいパワートレインを搭載した純電気乗用車で、BYD が総力を結集したエコプロダクツです。ボディーはモノコック構造を採用。床下のブレードバッテリーはボディーと一体化しているため、バッテリーと車両双方の安全性を確保しています。

BYD DOLPHIN はそれぞれのモードにおいて、すべてモーターで駆動するために、環境保全においてゼロエミッションを確実に達成しています。

車が電気によって駆動されるため、車内、車外の音が極めて小さく、ガソリン車とは比べものにならない運転環境、乗り心地のよさをユーザーにお届けします。

車両設計では、高電圧システムの安全性が十分に考慮されているため、衝突事故から乗員の安全を守ります。

バッテリーマネジメントシステムは、常にパワーバッテリーをモニタリングしています。バッテリーのセル毎の電圧や電流などの各性能指標に基づいて、過充電や過放電およびオーバーヒートなどのバッテリー性能に影響をおよぼす一連の問題がないようにバッテリーの出力を調整し、バッテリーが常に正常に機能していることを確保します。

	イラスト目次	イラストで検索します
1	安全	本章の内容を一通りお読みください
2	コンビネーション メーター	メーター、各種警告灯および表示灯などの見方 について
3	コントローラーの 操作	ドアとウィンドウの開閉、運転開始前の調節な どについて
4	使用および運転	運転時の必要操作およびアドバイスについて
5	車内装置	車内装置などの使い方について
6	お手入れと メンテナンス	車のお手入れおよびメンテナンス手順につい て
7	故障が発生したとき	故障が発生したとき、または緊急時の対応策に ついて
8	車両仕様	車両仕様および指示メッセージについて
	さくいん	さくいん

まえがき	1	スマートエントリー& スタートシステム	75
BYD DOLPHIN 概要	3	チャイルドロック	77
1 安全		3-2 シート	78
1-1 シートベルト	16	シートについて	78
シートベルトについて	16	フロントシートの調節	80
シートベルトを着用するとき	18	リアシートの収納	82
1-2 エアバッグ	22	ヘッドレスト	83
エアバッグについて	22	3-3 ステアリングホイール	84
運転席および助手席 エアバッグ	23	ステアリングホイール コンビネーションスイッチ	84
前席サイドエアバッグ	24	ステアリングホイールの 手動調節	89
サイドカーテンエアバッグ	25	3-4 スイッチ	90
エアバッグの作動条件および 注意事項	26	ライトスイッチ	90
1-3 幼児用補助装置	34	ワイパースイッチ	95
幼児用補助装置 (チャイルドシート)	34	助手席側ウィンドウ スイッチ	100
1-4 イモビライザー	41	走行距離切替スイッチ	100
イモビライザー	41	モードスイッチユニット	101
1-5 データの収集および処理	43	助手席側エアバッグ スイッチ	103
データの収集および処理	43	自動緊急通報システム E-Call	105
2 コンビネーションメーター		ハザードランプスイッチ	106
2-1 コンビネーション メーター	50	サンシェードスイッチ *	106
コンビネーションメーター イメージ	50	ルームランプスイッチ	107
メーター表示灯	51	4 使用および運転	
3 コントローラーの操作		4-1 充電 / 放電について	111
3-1 ドアおよびキー	64	充電について	111
キー	64	充電方法	117
ドアの施錠 / 解錠	68	充電ポート盗難防止 ロック機能	127
		外部給電方法	129

4-2 バッテリー…………… **132**
 パワーバッテリー …………… 132
 起動バッテリー (12V) …………… 136

4-3 ご利用要領…………… **139**
 慣らし運転期間 …………… 139
 トレーラーのけん引 …………… 139
 安全運転上のご注意 …………… 140
 荷物の積み込み …………… 141
 冠水路の走行 …………… 143
 火災の予防 …………… 145
 電気の省エネで車を
 長持ちさせる方法について … 147

4-4 始動および運転…………… **149**
 車の始動 …………… 149
 車の運転 …………… 151
 シフト機構 …………… 153
 電動パーキングブレーキ
 (EPB) …………… 155
 オートビークルホールド
 (AVH) …………… 159
 運転要領 …………… 162

4-5 運転支援機能…………… **164**
 アダプティブクルーズコント
 ロール (ACC) システム …… 164
 ナビゲーションパイロット
 (ICC) …………… 170
 衝突予測警告 (PCW) および
 自動緊急ブレーキ (AEB) …… 173
 フロントクロストラフィック
 アラート (FCTA) および
 フロントクロストラフィック
 オートブレーキ (FCTB) …… 178
 交通標識認識システム
 (TSR) …………… 180
 インテリジェントスピードリ
 ミットコントロール (ISLC) … 182

ハイビームアシストシステム
 (HMA) …………… 184
 レーンサポートシステム
 (LDA) …………… 186
 緊急時車線維持支援 (ELKA) … 189
 ブラインドスポットアシスト
 システム (BSA) …………… 191
 ドライバー眠気注意力警告
 (DAW) …………… 194
 幼児置き去り検知 (CPD) …… 195
 タイヤ空気圧モニタリング … 197
 車両接近通報装置 (AVAS) … 199
 BYD アラウンドビュー
 システム …………… 200
 駐車支援システム …………… 202
 安全運転支援システム …… 207

4-6 他の主要機能について…… **214**
 ルームミラー …………… 214
 電動ドアミラー …………… 215
 ワイパー …………… 217
 タイヤチェーン …………… 219

5 車内装置

5-1 空調システム…………… **222**
 エアコンについて …………… 222

5-2 小物入れ…………… **229**
 吹き出し口 …………… 229
 ドアポケット …………… 229
 駐車券収納ボックス …… 229
 インストルメントパネル
 センターボックス …… 230
 グローブボックス …… 230
 センターコンソール
 ボックス …………… 231
 カップホルダー …………… 232
 サングラスホルダー * …… 233

シートバックポケット	233
5-3 その他の装置	234
サンバイザー	234
アシストグリップ	235
USB ポート	235
SD カードスロット*	236
12V アクセサリー電源	237
ワイヤレス充電エリア*	238
リアシェルフ	240
カーペット	240
フック	241
緊急脱出ハンマー	241
5-4 マルチメディアシステム	243
マルチメディアコントロール パネル PAD	243
6 お手入れとメンテナンス	
6-1 メンテナンス上のご注意	246
メンテナンス周期および メンテナンス内容	246
6-2 定期メンテナンス	253
定期メンテナンス	253
車両の防食について	254
塗装メンテナンスのお願い	255
洗車	256
車内の清掃	258
6-3 セルフメンテナンス	261
セルフメンテナンス	261
車両の保管	265
ボンネット	266
冷却システム	267
ブレーキシステム	268
ウォッシュャ	269
空調システム	270
ワイパーブレード	271

タイヤ	273
フューズ	277

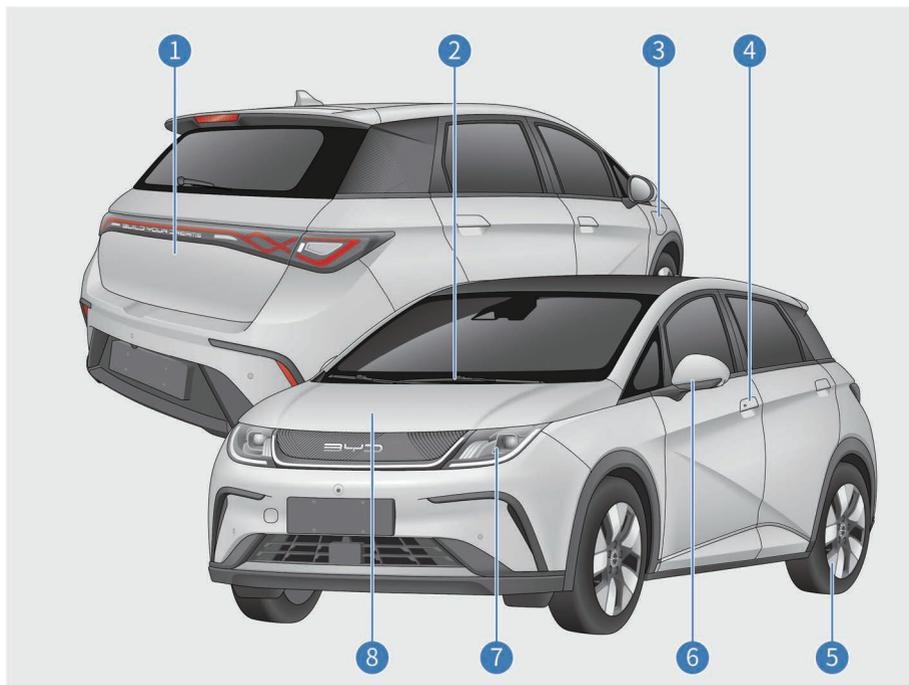
7 故障が発生したとき

7-1 故障が発生したとき	284
非常信号灯	284
リモートキーのバッテリーが 切れたら	285
緊急時シャットダウン システム	286
車両火災が発生したら	287
バッテリーの液漏れが 発生したら	288
レッカー移動が必要なとき	290
タイヤのエア漏れが 発生したら	292

8 車両仕様

8-1 データ情報	298
車両諸元	298
8-2 指示メッセージ	301
車両の表示	301
警告ラベル	303
マイクロ波通信用 ウィンドウ	305
8-3 適合宣言書	306
リモートキー	306
8-4 BYD 先進運転支援 システムについて	307
BYD 先進運転支援システムを 安全にお使い頂く上での 重要事項確認書	307
さくいん	312
略語一覧	318

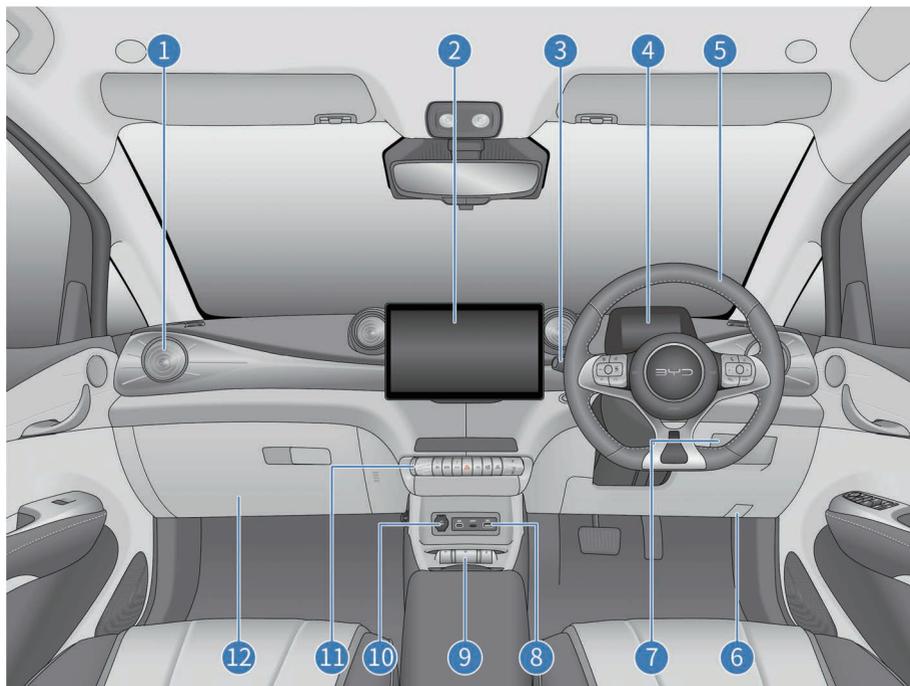
■ 車外



①	テールゲート	P 71
②	ワイパー	P 95
③	充電ポートフラップ	P 111
④	ドア	P 68
⑤	タイヤ	P 273
⑥	電動ドアミラー	P 215
⑦	コンビネーションランプ	P 90

8	ボンネット	P 266
	冷却システム	P 267
	ウォッシュ液	P 269
	ブレーキフルード	P 268
	モータールームフューズボックス	P 278

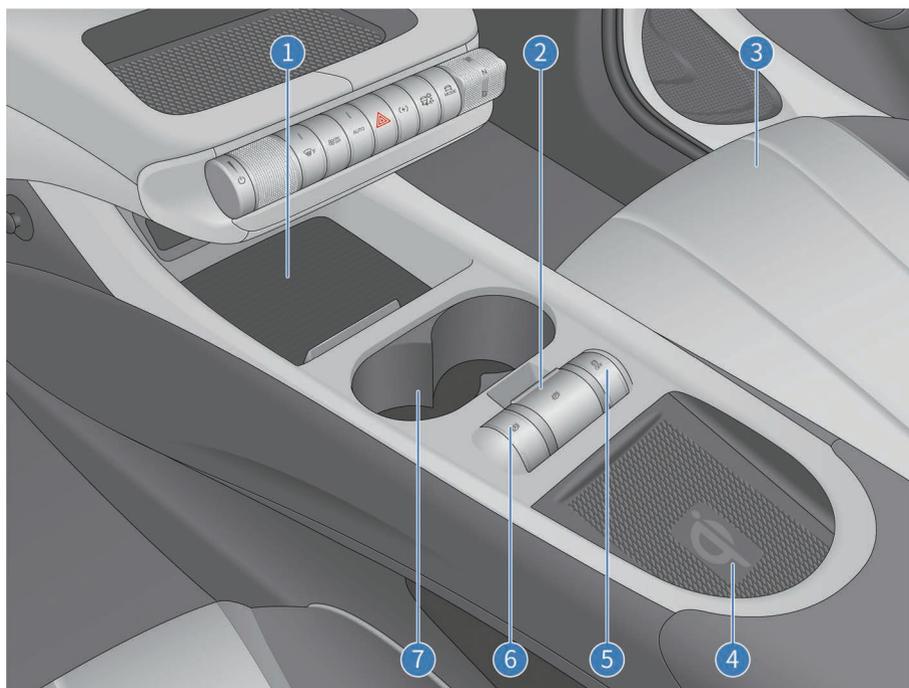
■ インストルメントパネル



①	吹き出し口	P 229
②	マルチメディアタッチスクリーン	P 243
③	ワイパースイッチ	P 95
④	コンビネーションメーター	P 50
⑤	ステアリングホイール	P 89
	ステアリングホイールコンビネーションスイッチ	P 84
⑥	ボンネットリリースレバー	P 266
⑦	駐車券収納ボックス	P 229

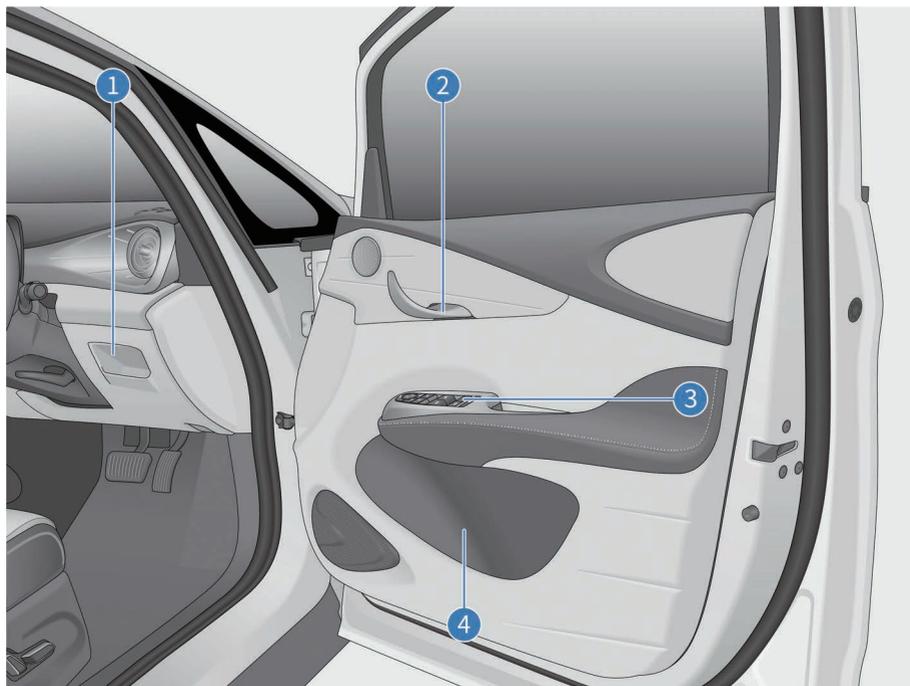
8	充電ポート	P 235
9	電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチ	P 155
	オートビークルホールド (AVH) スイッチ	P 159
	ESC ON/OFF スイッチ	P 207
10	12V アクセサリー電源	P 237
11	コンビネーションスイッチ	P 101
	シフト機構	P 153
	エアコン ON/OFF ボタン	P 222
12	グローブボックス	P 230

■ センターコンソール



① センターコンソールボックス	P 231
② 電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチ	P 155
③ シート	P 78
④ ワイヤレス充電エリア*	P 238
⑤ ESC ON/OFF スイッチ	P 207
⑥ オートビークルホールド (AVH) スイッチ	P 159
⑦ カップホルダー	P 232

■ ドア



- ① 駐車券収納ボックス…………… P 229
- ② ドアノブ…………… P 68
- ③ パワーウィンドウスイッチ…………… P 97
ウィンドウロックキー…………… P 99
集中ドアロック…………… P 100
ドアミラーの調整ボタン…………… P 215
- ④ ドアポケット…………… P 229

1-1 シートベルト	16
シートベルトについて	16
シートベルトを着用するとき	18
1-2 エアバッグ	22
エアバッグについて	22
運転席および助手席	
エアバッグ	23
前席サイドエアバッグ	24
サイドカーテンエアバッグ	25
エアバッグの作動条件および	
注意事項	26
1-3 幼児用補助装置	34
幼児用補助装置	
(チャイルドシート)	34
1-4 イモビライザー	41
イモビライザー	41
1-5 データの収集および処理	43
データの収集および処理	43

シートベルトについて

急ブレーキ、急ハンドル、衝突の際にシートベルトを正しく使用することで、乗員の死傷者数を大幅に減らすことが研究により明らかになっています。以下をよくお読みになり、厳守してください。

⚠ 警告

- 走行中は常にシートベルトを着用してください。
- 事故による傷害または重傷を負わないために、ドライバーおよび乗員全員は常にシートベルトの着用を徹底してください。
- 発進前に、乗員全員がシートベルトを確実に締めていることを確認してください。シートベルトを締めていないと、急ブレーキや衝突事故時に、乗員の生命にかかわる重大な傷害を負うおそれがあります。
- 車両のシートベルトは大人のサイズに合わせて設計されているため、お子様向けではありません。お子様の年齢や体格にあった適切な幼児用補助装置（チャイルドシート）を選定してください（詳細は「[幼児用補助装置（チャイルドシート）](#)」の区分をご参照ください）。
- お子様を載せる場合は、必ずリアシートに乗せてシートベルトを確実に締めてください。事故の統計データによると、お子様をリアシートに乗せて幼児用補助装置を正しく使用することで、フロントシートに乗せるときよりも安全性が高くなります。
- お子様リアシートに立ったり、ひざまずくことがないようにしてください。緊急ブレーキや衝突事故発生時に幼児用補助装置を利用していないと、生命にかかわる重大な傷害を負うおそれがあります。緊急ブレーキや衝突事故発生時にお子様を確実に守るため、お子様を膝の上に乗せないでください。
- シートベルトの破損または異常がある場合は、ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に点検や処置を依頼してください。それまでは該当シートを使用しないでください。

シートベルトの緊急ロック機能

- 急ハンドル、緊急ブレーキ、衝突事故があった場合や、乗員の身体が勢いよく前へ傾くと、シートベルトは自動的にロックし、乗員を効果的に拘束および保護します。
- 走行中は、シートベルトが乗員の動きに合わせて伸縮するため、身体を動かしても支障はありません。
- シートベルトの引き出し方が速く、シートベルトがロックされた場合は、シートベルトを少し巻き戻してからゆっくり引っ張り出すと、シートベルトをスムーズに引き出すことができます。

シートベルトのプリテンショナー / ロードリミット機能

重大な正面衝突事故が発生し、プリテンショナーの作動条件が揃った場合、プリテンショナーはシートベルトの緩みを瞬時に巻き取りロックし、乗員の身体を拘束します。ロードリミッターは、乗員にかかるシートベルトの過度の負荷を回避するため拘束力を一定レベルに保ち、乗員にかかる拘束力の強さの衝撃を緩和します。

警告

- プリテンショナーの部品や配線を修理したり、テスターを使用してシステム回路を検査しないでください。誤作動を起こし、正常な作動ができなくなるおそれがあります。

シートベルトを着用するとき

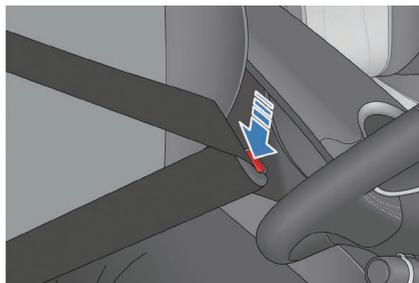
1. シートおよびシートバックを適切な位置や角度に調節します。(詳細は「[フロントシートの調節](#)」を参照してください)。

2. 3点式シートベルトの位置を調節します。

- 正しい運転姿勢でシートベルトのストラップをゆっくり引っ張り出し、肩部から胸骨を通るように着用します。腰ベルトは腰部を押さえず、できる限り骨盤部を通るように着用してください。このとき、シートベルトが脇の下や首の後部に当たらないようにしてください。



3. タングプレートをバックルに「カチッ」と音がするまで押し込んでから、反対方向にタングプレートを引っ張り、確実にロックできたかを確認します。シートベルトにねじれがないように注意してください。



4. シートベルトのロックを解除します。

- バックルの赤い解除ボタンを押すと、タングプレートが外れ、シートベルトが戻ります。シートベルトがスムーズに戻らない場合は、シートベルトを引っ張り出してねじれがないかをチェックしてください。



警告

- 肩ベルトは、肩の真ん中を通してください。また、シートベルトは首から遠く離し、肩から簡単に外れないようにしてください。そうしないと、急ブレーキや事故時にシートベルトが十分に機能せず、乗員の重大な傷害につながるおそれがあります。
- 事故時に、乗員の腹部にベルトがかかったことで発生する傷害を避けるため、腰ベルトを骨盤部のできるだけ低い位置に掛けてください。
- シートベルトの保護機能がより発揮できるように、シートベルトを身体に密着させてください。また、身体とシートベルトの間に、ものを挟まないでください。
- ベルトがねじれたまま着用しないでください。ねじれによりベルトの幅が狭くなり、事故のときに衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けるおそれがあります。
- リアシートのシートベルトが保護機能を確実に発揮できるように、タンクプレートに対応するバックルに確実に挿し込んでください。ドライバーは、乗員にシートベルトを正しく着用させる責任があります。
- 発進する前に、乗員全員がシートベルトを締めていることを確認してください。
- シートベルトは1人用です。お子様も含めて、2人以上で1本のシートベルトを使わないでください。
- シートバックを倒しすぎないでください。シートバックを直立にすることで、シートベルトの保護機能が十分に発揮できます。
- シートベルトが破損するおそれがあるため、シートベルトやタンクプレート、およびバックルを、ドアや後部席のシートバックに挟まないでください。
- シートベルトに、切れ、摩耗、緩みなどの異常がないかを定期的に点検してください。異常がある場合は、ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場にチェックや処置を依頼し、それまでは該当シートを使用しないでください。
- シートベルトの取り外し、分解、改造を絶対にしないでください。
- 事故発生後は、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場ですシートベルトを点検してください。プリテンショナー機能が作動した場合は、シートベルトを交換してください。
- シートベルトを交換する場合は、必ず適合するシートベルトに交換してください。

⚠ 警告 (続き)

- 重大な事故が発生した場合は、明らかな損傷がなくても、シート ASSY と一緒にシートベルトを交換し、エアバッグシステムを十分に点検してください。
- 廃車にする場合や、プリテンショナーおよびシートベルトを廃棄する場合は、必ず BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場へご相談ください。
- 妊娠中の方も、他の乗員と同じようにシートベルトを正しく着用してください。事故発生時にベルトが腹部にかかることで妊婦や胎児に重大な傷害を起こさないために、腰ベルトを骨盤部のできるだけ低い位置に掛けてください。
- タングプレートとバックルを確実に結合させるために、バックルには、コイン、クリップまたは他の異物を入れないでください。

シートベルトリマインダー

始動後に、ドライバーまたは乗員がシートベルトを着用していない場合、着用するまで音声・視覚警告システムが作動します。

■ シートベルト非着用警告灯

すべての席のシートベルトが使われていない場合、シートベルト非着用警告灯が点滅します。

■ 非着用座席の表示

シートベルトが使われていない座席の表示灯が点灯します。

■ 前席シートベルトリマインダー

電源ポジション「OK」時に運転席シートベルトを着用していない、または助手席の乗員がシートベルトを着用していない場合、シートベルト非着用警告灯が点灯して該当座席の表示灯も点灯します。また、走行中もシートベルトを着用していないと、シートベルト非着用表示灯が点灯すると同時に警告音を鳴らし、ドライバーや乗員に注意喚起します。

■ 後席シートベルトリマインダー

電源ポジション「OK」時に後部座席に座っている乗員がシートベルトを着用していない場合、シートベルト非着用警告灯が点灯して該当座席の表示灯も点灯します。走行中で後部座席に乗員がおり、シートベルトを着用していない場合は、シートベルト非着用表示灯のみが点灯し警告音は鳴りません。

- ドライバーまたは乗員がシートベルト*を着用すると、シートベルト非着用警告灯が消灯し、該当座席の表示灯もすべて消灯します。

⚠ 警告

- エアバッグ故障警告灯が点灯しているときは走行しないでください。電源ポジションを「ON」にすると点灯し、システムチェック後に消灯するため、必ず消灯してから走行してください。
- 助手席やリアシートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して、警告灯が点灯することがあります。

ℹ アドバイス

- 上記機能の異常または故障がある場合は、ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場まで連絡し、機能が正常に戻るまでは、該当シートを使用しないでください。
- 走行中、乗員はシートに座ってシートベルトを確実に着用してください。着用しないと、急ブレーキや衝突事故時に、乗員の生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

エアバッグについて

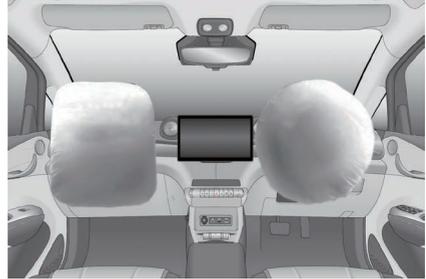
- エアバッグシステムは補助拘束装置の一部で、シートやシートベルトの働きを補助します。大きな衝突事故が発生してシステムの作動条件が揃うと、エアバッグが瞬時に膨張します。シートベルトと併用することで、ドライバーおよび乗員の頭部や胸部などを保護し、負傷や死亡の確率を軽減します。
- エアバッグシステムは、衝突の種類によって、フロントエアバッグとサイドエアバッグに大別されます。フロントエアバッグは、運転席エアバッグ、助手席エアバッグがあり、サイドエアバッグには、シートサイドエアバッグとファーサイドエアバッグ、サイドカーテンエアバッグがあります。
- エアバッグシステムはシートベルトに取って代わるものではなく、パッシブセーフティシステムの構成部分です。シートベルトを確実に締めていないと、エアバッグシステムは保護機能を最大限に発揮できません。

⚠ 警告

- シートベルトとエアバッグシステムの保護機能を最大限に発揮できるように、正しい姿勢でシートベルトを着用してください。
- エアバッグの部品を取り外さないでください。
- BYD が装着を認めていないシートカバーでは、エアバッグ性能の低下につながったり、乗員に思わぬ傷害をおよぼすおそれがあります。サイドエアバッグと乗員の間には、絶対にものを置かないでください。
- サイドエアバッグと乗員の間にもものを置かないでください。
- サイドエアバッグが搭載されているシートの側面には、大きな力を加えないでください。
- 衝突事故発生後にエアバッグモジュールが膨張せず、プリテンショナーシートベルトがロックされなくても、乗員を思わぬ膨張から保護するために、エアバッグコントロールユニットは暗号化されることがあります。このような場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。
- エアバッグ故障警告灯で下記状況のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障しています。走行をやめて、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。
 - 電源ポジション「OK」時に警告灯が点灯しない、または点灯し続ける。
 - 運転中に警告灯が点灯する。

運転席および助手席エアバッグ

車両には、運転席エアバッグと助手席エアバッグが搭載されています。走行中、エアバッグシステムの電子コントロールユニット（ECU）が中程度から重度の正面衝突を感知し、エアバッグの作動条件が揃うと、エアバッグが瞬時的に膨らみ上体への衝撃を軽減します。

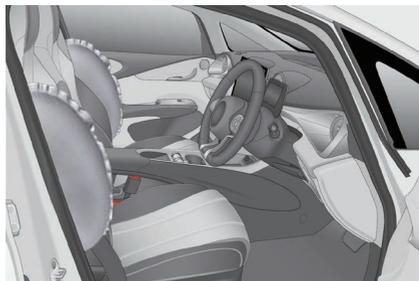


フロントエアバッグの作動プロセス

- 中程度から重度の正面衝突が発生すると、センサーが急激な減速を検知してコントロールユニットに信号を発信し、フロントエアバッグを瞬時に膨張させます。
- 正面衝突が発生した場合は、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束します。エアバッグは、エアクッションに相当するもので、頭部や胸部の拘束や保護をアシストします。
- 衝突の強さがエアバッグ作動のしきい値に達していない場合、シートベルトが保護機能を発揮します。エアバッグは最小限の補助保護を提供します。
- フロントエアバッグは、膨張するとすぐに収縮するため、ドライバーの視線やステアリングホイール、またはその他の制御装置の操作を妨げないようにします。
- エアバッグは、千分の一秒以内に作動できるため、事故発生時にドライバーや乗員をさらに保護することができます。
- エアバッグ作動時は大きな音が発生しますが、通常は人に傷害を与えることはありません（耳鳴り、または一時的な聴力障害を起こすことはありませんが、すぐに回復します）。
- 衝突後に煙のようなものが見えることがあります。これは、エアバッグ表面の貼り付き防止の粉末で毒性はありませんが、呼吸器疾患がある方は、一時的な不快感を覚える場合があります。
- 助手席エアバッグの ON/OFF は、助手席側エアバッグスイッチで設定することができます。詳細は「[助手席側エアバッグスイッチ](#)」を参照してください。

前席サイドエアバッグ

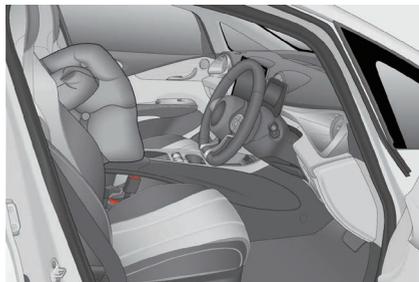
左右のフロントシートにサイドエアバッグが搭載されている場合（図のように、エアバッグがフロントシートバックの外側に取り付けられており、2箇所とも「AIRBAG」の表示があります）。



- 走行中に発生した中程度から重度の側面衝突により、エアバッグの作動条件が揃うと、エアバッグは作動し、衝突を受けた側の乗員の胸部を保護し、怪我を軽減します。
- 側面衝突が発生したとき、通常衝突を受けた側のエアバッグのみ作動します。
- 助手席側が衝突された場合、シートには乗員が乗っていないなくても、助手席側のエアバッグは作動します。
- シートサイドエアバッグの機能を最大限に発揮させるため、乗員はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢で身体をシートバックに密着させる必要があります。

前席ファーサイドエアバッグ：

- 本車には、前席ファーサイドエアバッグが搭載されています（図のように当該エアバッグが運転席シートバックの内側に備えられており、「AIRBAG」の表示がありません）。



- 走行中に発生した中程度から重度の側面衝突または斜め方向からの衝突を受けた場合、ファーサイドエアバッグの作動条件が揃うと、ファーサイドエアバッグが作動して衝突を受けた側の運転席および助手席乗員の頭部や肩部を保護し、怪我を軽減します。
- 助手席側に衝突された場合は、乗員が乗っていないなくても助手席側のファーサイドエアバッグが作動します。

- 運転席に搭載されているファーサイドエアバッグの機能を最大限に発揮できるように、乗員はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢で身体をシートバックに密着させてください。

シートサイドエアバッグが搭載されている車について

- シートバックを濡らさないでください。雨または水しぶきでシートバックが濡れた場合、サイドエアバッグシステムが正常に動作できなくなるおそれがあります。
- 絶対にシートバックにカバーをかけたり、自分でシートバックカバーを交換しないでください。不適切なシートバックカバーの交換、または不適切なカバーの使用は、衝突発生時のサイドエアバッグの作動を妨げるおそれがあります。

サイドカーテンエアバッグ

- 左右サイドカーテンエアバッグが搭載されている場合（ボディサイドとヘッドライニングの結合部に内蔵され、Aピラーパネル、Bピラーパネル、Cピラーパネルに「CURTAINAIRBAG」の表示があります）。



- 中程度から重度の側面衝突により、サイドカーテンエアバッグの作動条件が揃うと瞬時に膨らみ、衝突を受けた側の乗員の頭部を保護し、怪我を軽減します。

i アドバイス

- 側面衝突が発生したとき、通常衝突を受けた側のエアバッグのみ作動します。
- サイドカーテンエアバッグの機能を最大限に発揮させるため、乗員はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢で身体をシートバックに密着させる必要があります。

エアバッグの作動条件および注意事項

エアバッグ作動条件

- エアバッグの作動条件：エアバッグが作動する決定的な要素は、衝突発生時の衝撃力の強さ、事故パターン、衝突角度、障害物および速度が関係しています。また、特殊な衝突事故が発生したときも、エアバッグシステムが作動することがあります。
- エアバッグシステムは、すべての事故において機能するわけではありません。軽度な正面衝突や後面衝突、または横転事故が発生した場合は、エアバッグシステムは作動しません。ドライバーや乗員は、確実に保護を受けられるようにシートベルトを正しく着用してください。
- エアバッグシステムが作動する決定的な要素：衝突時に発生し、ECUから得られる減速度曲線と設定値に対して、全面的にインテリジェントな比較を行ったうえで判断します。衝突時に発生し、検知される減速度曲線などの信号がECU内部にあらかじめ設定された関係参照値より弱い場合は、衝撃で大きく変形したとしてもエアバッグは作動しません。
- BYDのエアバッグシステムのECUは、設定時によくあるそれぞれの誤作動や道路状況を十分に考慮しており、衝突事故の発生にはいろいろな原因やパターンがあります。安全のため、本オーナーズマニュアルの記載を遵守し正しくご使用ください。そうしないと、エアバッグが正しく機能しないおそれがあります。

エアバッグが作動するとき

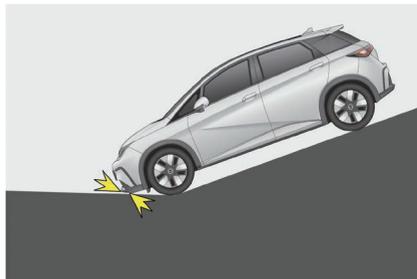
深い溝を通り、車両の先端部が地面にぶつかったとき。



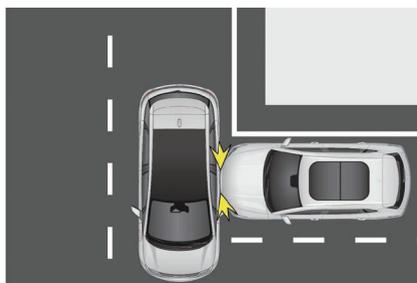
路肩の突起物、縁石などにぶつかったとき。



急な下り坂を走り、車両の先端部が地面にぶつかったとき。



車両側面に他の車両がぶつかったとき。

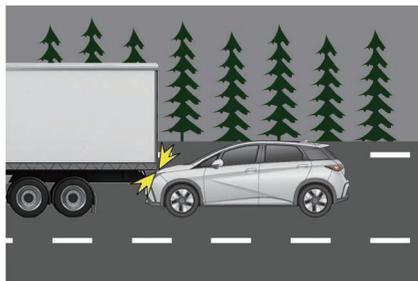


エアバッグが作動しないとき

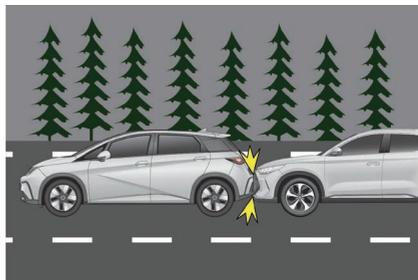
コンクリートの柱、樹木または他の細長いものにぶつかったとき。



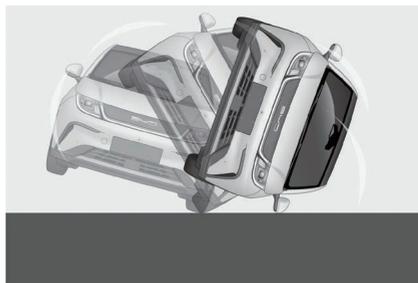
トラックの荷台の下に潜り込んだとき。



後方から追突されたとき。



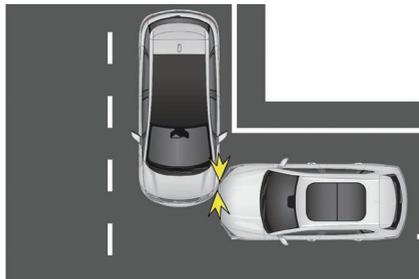
車両が横転したとき。



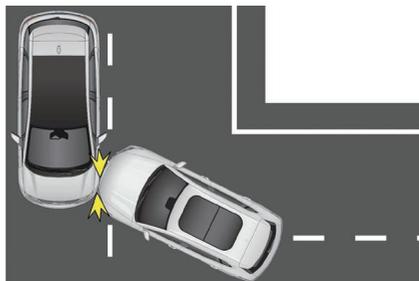
壁または車両に斜めにぶつかったとき。



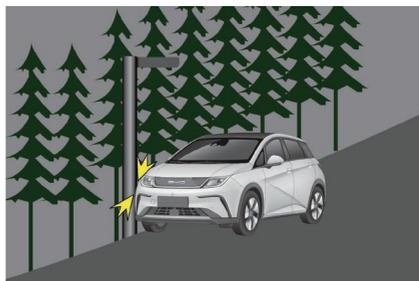
車室以外の部位で側面から衝突を受けたとき。



側面が斜め方向から衝突されたとき。



側面が柱のようなものに衝突したとき。



⚠ 警告

- エアバッグは指定車種を対象に開発されているため、サスペンション、タイヤ寸法、バンパー、シャーシおよびオリジナルデバイスを変更すると、エアバッグシステムに悪影響を与えます。また、エアバッグシステムのすべての部品を他車種へ流用しないでください。エアバッグシステムが故障し、身体に危害を与えるおそれがあります。
- 当該システム作動時に最も効果的に保護機能を発揮させるため、ドライバーの場合は、胸部からステアリングホイールの間を 25cm 以上離してください。
- 走行中はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢を保ってください。シートベルトを着用せずに前かがみになるなど、正しく着席していない場合は、事故によりエアバッグが作動したときに怪我をする危険性が高まります。
- ステアリングホイールキャップの表面、インストルメントパネル右側エアバッグ近くの表面、A、B、C ピラーパネルの表面に何かを貼り付けたり、何かで覆う、または装飾を施さないでください。汚れは、乾いた布や水で湿らせた布で拭き取り、強く叩かないでください。
- お子様を補助装置なしで座らせる、または大人が抱いてフロントシートに座らないでください。事故の発生によりエアバッグが作動すると、生命にかかわる重大な怪我につながるおそれがあります。
- チャイルドシートは後席シートに取り付けてください。エアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- エアバッグ作動時に衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあるため、助手席エアバッグの格納部に手や足を置いたり、顔や胸などを近づけないでください。また、お子様も近づかせないようにしてください。
- スマホホルダー、コップ、灰皿などのアクセサリーは、エアバッグカバーの上またはエアバッグが機能する範囲内に取り付けしないでください。取り付けた場合、事故が発生しエアバッグが展開することで、怪我をする危険性が高まります。
- サイドカーテンエアバッグは、展開速度が速く、かつ衝撃力が強いいため、このエアバッグを搭載している車両の走行中は、ドアに寄りかからないでください。寄りかかった状態で事故に遭うと、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

▲ 警告 (続き)

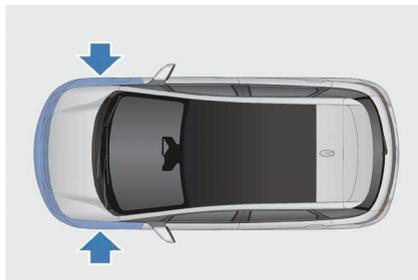
- フロントガラス、ウィンドウガラス、A ピラーパネル、ヘッドライニング、B ピラーパネル、C ピラーパネル、アシストグリップなど、サイドカーテンエアバッグが機能する範囲に、アクセサリやものを置かないでください。サイドカーテンエアバッグの展開により、アクセサリなどが強く飛ばされたり、サイドカーテンエアバッグが正常に展開できなくなることで、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- 車両を譲渡する場合は、購入時に入手したすべての資料を新しい持ち主に渡してください。
- シートまたはドア側のエアバッグ付きシートのトリム部品を改造、交換しないでください。改造や交換によりシステムが機能できなくなる、またはサイドエアバッグが予期せず作動し、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- サイドカーテンエアバッグが内蔵されている A ピラーパネル、ヘッドライニング、B ピラーパネル、C ピラーパネルの分解や修理をしないでください。分解や修理により、システムが機能できなくなったり、サイドカーテンエアバッグが予期せず作動し、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- エアバッグシステムのすべての構成部品は、関連ラベルを含め、いかなる変更もしないでください。エアバッグに対するすべての作業は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。
- 展開したエアバッグは部分的に熱くなっており、やけどするおそれがあるため、熱がさめるまで触れないでください。
- エアバッグが作動すると微粉末が放出されます。目や皮膚に付着したときは、水で完全に洗い流してください。
- 展開したエアバッグが破裂して怪我をすることがあるため、エアバッグモジュールの上に身体を乗せないでください。
- エアバッグは、1 回限りの使い捨てです。エアバッグが作動または破損した場合、当該システムを交換してください。
- 車両またはエアバッグシステムの各部品を廃棄処分する場合は、関係する安全規定および廃却処分手順を守ってください。
- エアバッグシステムは、周囲の電磁環境に対して強い耐干渉性と耐妨害性を有します。事故を防ぐため、国が許可した電磁環境以外で車両を使わないでください。
- 一般的な誤操作や道路状況を考慮したエアバッグシステムとなっていますが、事故を防ぐため、車両の底部をぶついたり、悪路での乱暴な運転はしないでください。

⚠ 警告 (続き)

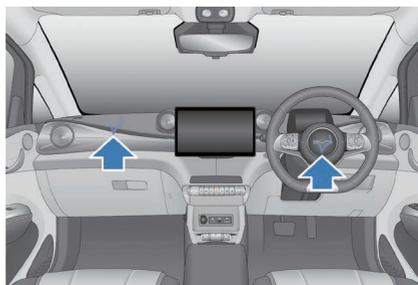
- ドアが壊れるぐらい強く閉めないでください。エアバッグが誤作動するおそれがあります。
- 十分な検証を受け、オリジナルワイヤーハーネスシステムとエアバッグシステムが完全にマッチングしているエアバッグシステムのため、車両全体のワイヤーハーネスを改造や変更すると、エアバッグの誤作動または衝突発生時の不作動につながるおそれがあります。

下記のいずれかの場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

- エアバッグが展開したとき。
- コンビネーションメーターのエアバッグ故障警告灯[⚠]が異常点灯しているとき。
- 車の前方（図の網かけ部）で衝突事故が発生したが、フロントエアバッグが展開していないとき。

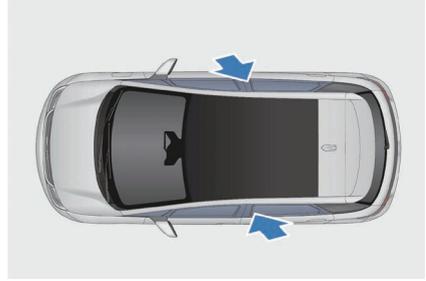


- エアバッグカバーに、破れ、割れまたは他の破損があるとき。



- エアバッグの取り外し、分解、取り付け、修理を行う必要があるとき。
- サイドエアバッグやサイドカーテンエアバッグが展開したとき。

- 事故で車両のドア部分に衝撃が加わり、エアバッグの展開に至らなかったとき。



- サイドエアバッグが格納されているシートの表面に傷、割れ、またはその他の類似破損があったとき。
- カーテンエアバッグが格納されている A ピラー、ルーフレール、および C ピラーの装飾（パッド）部に傷、割れ、またはその他の類似破損があったとき。

幼児用補助装置（チャイルドシート）

幼児用補助装置（チャイルドシート）は、事故発生時にお子様を適切に保護することができます。お子様の安全を確保するため、幼児用補助装置を取り付ける前に幼児用補助装置メーカーからの取扱説明書、および本オーナーズマニュアルをよくお読みください。

⚠ 警告

- 走行中はお子様を抱かないでください。
- お子様に合った幼児用補助装置を選んでください。
- 幼児用補助装置メーカーおよび本オーナーズマニュアルの取扱説明に従い、幼児用補助装置を正しく取り付けてください。そうしないと、事故の際にお子様が生計にかかわる重大な傷害を負うおそれがあります。
- 幼児用補助装置をシートから取り外した後は、安全な置き方で車内に収納してください。
- 事故や急ブレーキ時にお子様を確実に守るため、お子様の年齢や体格にあったシートベルト、または幼児用補助装置を使用してください。お子様を腕に抱くことは、幼児用補助装置の代わりにはなりません。事故発生時に、お子様がガラスにぶつかったり、保護者と車両の間に挟まれるおそれがあります。
- フロントシートに幼児用補助装置を取り付けしないでください。助手席に後ろ向きで幼児用補助装置を取り付けると、エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。
- 首や顔にシートベルトが当たって正しく着用できないお子様は、幼児用補助装置を使用してください。

お子様が車両に乗る場合は、適切な幼児用補助装置を使用して安全を確保してください。また、幼児用補助装置を正しい方法で取り付けて使用してください。

幼児用補助装置の選定で考慮すべき重要なこと

- 幼児用補助装置のタイプやサイズは、お子様に適するものであること。
- 幼児用補助装置のタイプやサイズは、特定の着座位置に適するものであること。
- 幼児用補助装置は、ECE R44/R129 基準に適合していること。

助手席エアバッグスイッチ

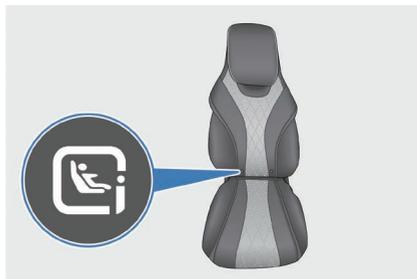
- 助手席側エアバッグスイッチは、助手席側のインストルメントパネルに設置されております。助手席側ドアを開けて操作してください。
- 詳細は「[助手席側エアバッグスイッチ](#)」を参照してください。

⚠ 警告

- 助手席側のフロントエアバッグを有効にした場合は、助手席に後ろ向き装着タイプのチャイルドシートを設置しないでください。

幼児用補助装置アンカー**フロントシート**

- フロントシートには、ISOFIX/i-Size アンカーが装備されています。図のようにアンカー位置を表示するラベルは、シートバックの該当アンカーの上方に付いています。
- フロントシートバックの裏側には、トップテザー用アンカーが装備されています。

**⚠ 警告**

- トップテザーを利用する幼児用補助装置を取り付ける場合は、ヘッドレスト上の穴にトップテザーを通してから、トップテザーをシート底部のアンカーに固定して引っ張ってください。

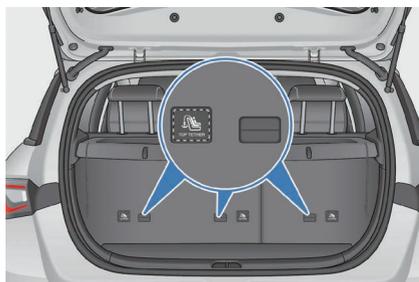
リアシート

- 外側のリアシートには、ISOFIX/i-Size アンカーが装備されています。
- 図のようにアンカー位置を表示するラベルは、シートバックの該当アンカーの上方に付いています。



⚠ 注意

- アンカーは、シートとシートバックの間隙間に設置されています。
- リアシートバックの裏側にはトップテザー用アンカーが装備されています。
- トップテザーアンカレッジによるシートベルト固定式幼児用補助装置は特定の市場でのみ使用できます。



警告

- リアシート外側席に取り付けた幼児用補助装置にトップテザーが付いている場合は、リアシェルフを取り外さないと、トップテザーアンカーが見えません。
- リアシェルフの破損やお子様の生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあるため、リアシェルフには昇らないでください。
- それぞれの方向に幼児用補助装置を揺らし、確実に取り付けられていることを確認します。
- ロアアンカーを使う場合、アンカーの周りに異物がなく、シートベルトが幼児用補助装置の裏側に引っかかかっていないことを確認してください。また、幼児用補助装置が確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、緊急ブレーキや事故時に、お子様が生命にかかわる重大な傷害を負わせるおそれがあります。
- 運転席後ろのシートに幼児用補助装置を取り付けている場合、リアシートとの間隔が狭くなると、運転席を動かすときにお子様の足に当たったり、幼児用補助装置を押してしまうおそれがあるため、確認してから動かしてください。
- 1つのアンカーポイントに、2つの幼児用補助装置を取り付けしないでください。事故発生時、1つのアンカーポイントで2つの幼児用補助装置を支えきれないおそれがあります。

幼児用補助装置の取り付けについて

助手席に幼児用補助装置を取り付ける場合は、必ず次の説明に従ってください。

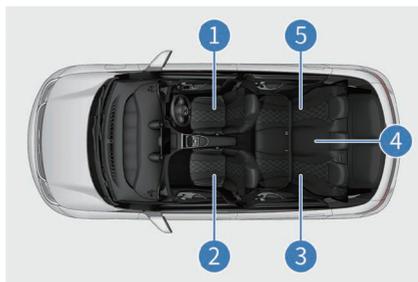
- 助手席側のフロントエアバッグを有効にした場合は、助手席に後ろ向き装着タイプのチャイルドシートを取り付けしないでください。後ろ向き幼児用補助装置を助手席から取り外したときは、必ず助手席フロントエアバッグを有効にしてください。
- お子様かトリムに触れないよう、必要に応じて助手席を後方へスライドさせてください。
- 助手席シートバックの角度を必要に応じて調整し、座席に幼児用補助装置をしっかりと押し付けてください。
- 幼児用補助装置に幼児用補助装置ヘッドレスト上のシートベルトガイドが付いている場合は、ガイドを前向きに設置し、Bピラー上のシートベルトアンカーアッパーに合わせるようにしてください。
- 助手席に前向き幼児用補助装置を取り付ける場合は、後方へシートを最大限にスライドさせ、ONになっているエアバッグから遠く離してください。
- ねじれがなく、ガイドの端部で曲がりがないようにシートベルトをガイドに通してください。

リアシートに幼児用補助装置を取り付ける場合は、必ず次の説明に従ってください。

- フロントシートに乗員が乗っていない場合は、リアシートに乗せているお子様とフロントシートの間のスペースを確保するため、フロントシートを前へスライドさせる、またはフロントシートのシートバックを前へ倒してください。
- シートバックで幼児用補助装置を安全に支えるため、ヘッドレストの高さ調整または取り外しをすることができます。
- 幼児用補助装置にシートバックが付いていない場合は、ヘッドレストを取り外さないでください。また、同時にヘッドレストをロック位置に合わせてください。
- リアシートでトップテザーを利用する場合は、トップテザーをヘッドレストシャフトの外側に通してください。
- リアシートに取り付けられた幼児用補助装置にトップテザーが付いている場合は、リアシェルフを取り外さないと、トップテザーアンカーが見えません。また、取り外したリアシェルフは、安全な置き方で車内に収納してください。
- 取り付け方の詳細については、幼児用補助装置に付いている取扱説明書をよくお読みください。

幼児用補助装置の取り付け方：

- ① 運転席
- ② 助手席
- ③ リアシート左側席
- ④ リアシート中央席
- ⑤ リアシート右側席



	座席					
	1	2		3 ^{b)}	4 ^{b)}	5 ^{b)}
		助手席フ ロントエ アバッグ ON ^{a)}	助手席フ ロントエ アバッグ OFF ^{a)}			
汎用型シートベルトを使用している座席に適用します (はい/いいえ)	×	はい 前向きのみ	はい	はい	はい	はい
i-Size 座席 (はい/いいえ)	×	はい 前向きのみ	はい	はい	いいえ	はい
横向き固定装置に適用する座席 (L1/L2/いいえ)	×	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
適用の最大後ろ向き固定装置 (R1/R2X/R2/R3/いいえ)	×	いいえ	R1/R2X/ R2/R3	R1/R2X/ R2/R3	いいえ	R1/R2X/ R2/R3
適用の最大前向き固定装置 (F2X/F2/F3/いいえ)	×	F2X/F2/ F3	F2X/F2/ F3	F2X/F2/ F3	いいえ	F2X/F2/ F3
適用の最大かさ上げ固定装置 (B2/B3/いいえ)	×	B2/B3	B2/B3	B2/B3	B2/B3	B2/B3

^{a)}：シートを前後へスライドしたり、シートバックの角度を必要に応じて調整したりすることができます。

^{b)}：ヘッドレストの高さ調整または取り外しをすることができます。お子様がフロントシートに触れないように、必要に応じてフロントシートの位置を調整することができます。

×：このシートの位置は、この重量グループのジュニアシートに適合していない。

1-3 幼児用補助装置

- 推奨の幼児用補助装置：
 (身長によるお子様のグループ分けは、ECE R129 基準による)

お子様の身長 (cm)	メーカー	幼児用補助装置	備考
< 83	Maxi-Cosi	Pebble 360	シートベルトを締め ます
76 ~ 105	Britax Römer	Trifix 2 i-Size	ISOFIX、シートベル トを締めます
100 ~ 150	Britax Römer	Kidfix i-Size ^{a)}	ISOFIX、シートベル トを締めます

^{a)}：必ず SecureGuard および XP-PAD でシートベルトを固定してください。

体重によるお子様のグループ分けは、ECE R44 基準による

お子様の体重 (kg)	メーカー	幼児用補助装置	備考
22 ~ 36	Graco	Booster Basic	シートベルトを締め ます

- ① 40 ~ 83cm
- ② 76 ~ 105cm
- ③ 100 ~ 150cm
- ④ 22 ~ 36kg



イモビライザー

盗難防止機能が作動している状態でいずれかのドアを開けると、システムは車の盗難を防ぐために警報音を鳴らし、同時にターンシグナルランプが点滅します。



1

安全

イモビライザーを設定する

1. 電源ポジションを「OFF」にします。
2. すべての乗員が車から降ります。
3. すべてのドアを施錠します。このとき、セキュリティ表示灯は点灯し続け、8秒後にイモビライザーが自動的に設定されます。システムの設定が完了すると、セキュリティ表示灯は点滅します。
4. 表示灯が点滅していることを確認し車から離れます。車内からドアを解錠するとシステムが作動するため、設定中は車内に残らないでください。

警報の作動

- 下記のいずれかの場合、システムは警告音を鳴らします。
 - リモートキーを使わずに機能を ON にし、ドアやテールゲート、ボンネットを解錠した場合。
 - リモートキー始動機能を使用せずに車の電源を入れた場合。

盗難防止警報の解除

- 下記の操作を行うと警報を解除できます。
 - リモートキーでドアを解錠する。
 - NFC キーでドアを解錠する。
 - マイクロスイッチでドアを解錠する。
 - リモートキーの遠隔操作でテールゲートを解錠する。
 - リモートキーの遠隔操作で車を始動させる。
 - リモートキーを携帯した状態で「スタート/ストップ」ボタンを押す。

⚠ 警告

■ 変更や追加によるイモビライザーの改造をしないでください。このような変更は、システム故障につながるおそれがあります。

セキュリティ表示灯

イモビライザーの設定中は、セキュリティ表示灯は 8 秒間点灯します。



データの収集および処理

- 本節では、BYD の車両をご利用いただく際のシステムが、個人データを収集および処理する方法について重要な情報を提供します。
- データ処理、データ保護およびデータ主体の権利についての詳細は、BYD のホームページにアクセスし、最新版の車両プライバシーポリシーをご覧ください（**車両設定** → **システム設定** → **更に表示** → **プライバシーポリシー**）。
- 本車両には、欧州法規に適合するイベントデータレコーダー（EDR）を備えています。主に特定の衝突事故またはこれに類する衝突事故が発生した場合（たとえば、エアバッグの展開または障害物への衝突時）、安全関係のシステムの状態データを記録し、以下の車両システムの稼働状況を把握するために使用します。
 - 車両速度
 - タイヤ空気圧の状態
 - アダプティブクルーズコントロールシステムの状態
 - シートベルトの着用状態
- 衝突またはこれに類する衝突事件がある程度に達した場合のみ、車両が EDR データを記録します。車両が正常に走行している間は、EDR データを記録しません。
 - EDR システムに記録された関係情報をもとに事故分析ができるように、事故発生時の車両安全に関するシステムの状態を把握します。
 - EDR データは、特別な機器で車両にアクセスして読み出す必要があります。BYD は、法律で許可されている、またはお客様の同意を得た場合にのみ第三者に対して個人データを開示します。車両メーカー以外に、専門機器を所有する第三者機構（例：政府機構）が車両 EDR にアクセスする権限および機器を持っているときは、EDR データ情報を読み出すこともできます（たとえば、エアバッグコントロールユニットのデータを読み出して事故分析を行います）。

車両データの処理

- 車両センサーやコントロールユニットが収集または送信するデータなど、車両利用時にシステムが収集したデータは、車両の安全運転に必要なものです。
- 収集されたデータは、運転支援（ドライバー補助システム）や、特定の快適機能、インフォテインメント機能の作動に利用されます。
- 収集、処理される個人データは、主に車載データ、遠隔サービス関係のデータおよび他のデータを含みます。詳細は次の通りです。

車載データ

走行データ

- 車両を使用している間、システムはそれぞれの車両状態データ（たとえば、速度、バッテリー残量、ブレーキシステム）、または周囲のモード（たとえば、距離センサー、温度など）の収集と処理をします。
- 通常、これらのデータは保存されませんが、コントロールユニット、センサー、または車両に取り付けられたデータを記録する他のユニットは、メンテナンス要求、エラー情報、その他の情報の記録に用いられます。
- 車載データは車載デバイスにのみ保存されますが、法律で義務付けられている OBD（「車載式故障診断装置」）のポートを介して、データを読み取ることができます。たとえば、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場、もしくは他の第三者がデータを読み取ることができます。
- 整備中にシステムへアクセスする場合、品質検査保証、製品不具合報告、またはユーザークレームの検証の目的として、これらの情報が BYD の技術者に提供されます。

遠隔サービス関係データ

遠隔監視サービス

- 車は遠隔監視サービス機能を備えています。
- 安全性を確保するための遠隔診断や無線通信（OTA）によるアップデート、およびアップグレード（オーナーの了承が必要）などの遠隔監視サービスが含まれます。
- 監視サービスの目的:サービスの提供（遠隔支援 / 診断）、製品開発とセキュリティ / パブリックセーフティ。
- 使用する国または設定により、車両位置情報、車両状態（たとえば、電費、速度、シフトポジション、電源ポジション、エレクトロニクススピードコントローラーの状態、ステアリングシステムの状態、バッテリーの状態、パワーユニットの状態、車両の性能状態など）を含む各種の車両情報は、上記の目的で BYD のサーバーに送信されることがあります。

その他

インフォテインメントシステム

- 車両の仕様により、ドライバーは自らインフォテインメントシステムでビデオを再生するためのメディアデータ、ナビゲーションシステムに用いられるアドレスデータ、またはオンラインサービスに用いられるデータなどのデータを、インフォテインメントシステムに追加することができます。
- 車両の仕様により、車両の個人設定にアクセスできます。
- 車両に保存されているデータは、いつでも削除できます。
- BYD は、第三者に送信されたデータを管理することはできません（特に、オンラインサービスの一部として第三者のコンテンツを使用した場合）。

モバイルデバイスの集積

- 車両の仕様により、インフォテインメントシステムを介して、モバイルデバイスの接続や制御を行うことができます。
- デバイスの画面または音声は、インフォテインメントシステムを介して表示 / 再生、またはストリーミングが必要な場合があります。
- 位置情報や車両情報のような付加データは、アプリケーションを介して送信し、ナビゲーションシステムや通信、または他の第三者サービスに用いることができます。
- データ処理の具体的なパターンはそれぞれの機能に依存しており、ユーザーまたはデバイスや関係サービスを提供する第三者が制御します。

インターネットアクセスと接続サービス

- 車両の仕様により、インフォテインメントシステムのネットワークデバイスを介してインターネットにアクセスすることで、車両の特定の機能、または BYD のサービスを実現することができます。
- BYD は、いかなる相手側が提供するこのようなサービスのすべてについて責任を負いません。
- そのような場合には、データ使用に関する情報について、関連するオンラインサービスプロバイダーにお問い合わせください。

カメラ映像の記録 / 周辺区域の監視

- 車には、複数のカメラ / センサーが搭載されています。
- 一部の機能は、車両の進路を感知して評価する必要があります。これは、車両周辺のもの（障害物など）を感知するカメラによって行われます。
- オペレーティングシステムで必要なさらなる分析を行うため、映像は関連する制御モジュールに送信されます。

- 一部の映像はランダムアクセスメモリ (RAM) でのみ処理され、その他の映像は、車両の装備に応じて保存されることがあります。
- 車両には、周囲の撮影に用いられる外向きカメラ (OFC) を搭載していることがあります (ドライブレコーダー)。
- また、車内の撮影に用いられる内向きカメラ (IFC) を 1 台搭載することができます。
- この 2 種類の映像はすべて車内に保存されます。
- カメラを起動させる場合は、ドライバーは居住地の法律要求を確認する責任があります。
- OFC または IFC を起動させる前に、関係法律の要求を確認してください (国によっては、IFC の使用許可を得る必要があり、ドライブレコーダーに利用される OFC を厳しく制限する国もあります)。
- 搭載を考えられるカメラの詳細については、本オーナーズマニュアルにおける「BYD アラウンドビューシステム」のセクションを参照してください。

車の第三者への譲渡、およびオフラインモード

- 別の人が使用していた車両を購入、または譲渡された場合、新しい所有者は、インフォテインメントシステムを介して設定されたカスタマイズ / ユーザー設定のすべてにアクセスできます (アドレステーブル、ナビゲーションシステムなど)。
- 車両をオフラインモードに設定することで、車両と BYD データサーバー間の通信、車両の関係データや個人データの処理を制限することができます。
- マルチメディアタッチパネル PAD のショートカットメニューから、 をタッチして Wi-Fi を OFF にします。
- 次の操作でも、Wi-Fi を OFF にできます。  → システム設定 → インターネット → Wi-Fi から OFF にします。

当局への個人情報開示

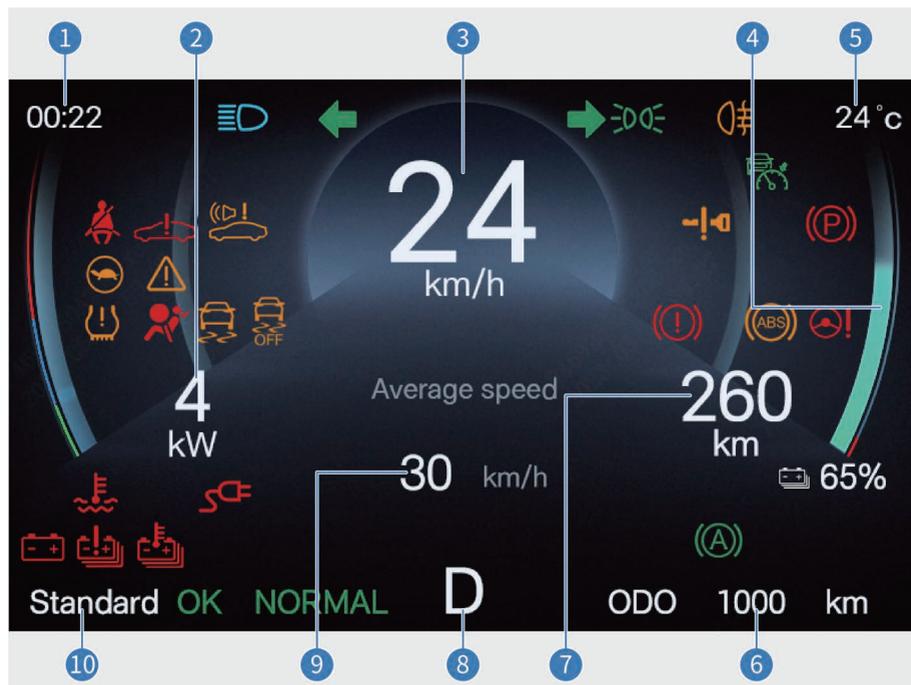
- BYD は、法律で許可されている、またはお客様の同意を得た場合にのみ第三者に対し個人データを開示します。
- ただし、政府機関には、適用される法律に従って車両からデータを読み出す権限を付与されることがあります (たとえば、事故究明のためにデータをエアバッグコントロールユニットから読み出す)。
- 法律で義務付けられている場合、BYD は犯罪捜査などの要求に従って、お住まいの国 / 地域の政府当局に対してデータを開示する義務を負う場合があります。

ユーザーのデータ保護の権利

- BYD は、お客様のプライバシーを尊重し、すべてのデータ保護法、特に一般データ保護規則（GDPR）および適用する現地の法律を厳しく遵守します。
- これらの法律によって個人データが処理される際、オーナーは特定の権利を有します。
- データ主体は、情報の通知を受ける権利、アクセス権、訂正権、削除権（「忘れられる権利」）、および個人データの処理に異議を唱える、または制限する権利（または同意を撤回する権利、およびデータの移植性に対する権利）を有します。
- 場合によっては、これらの権利は制限されることがあります。たとえば、お客様のデータを処理する法的義務があると表明できる場合、または情報の提供により、別の人物に関する個人データが開示される場合、もしくは法律によりそれらの情報の開示が禁止される場合です。
- 場合によって、同意を撤回されたとしても、当社は関係データを保持できる場合があります。
- データ処理やデータ保護、およびデータ主体の権利についての詳細については、BYD のホームページにアクセスし、最新版の車両プライバシーポリシーをご覧ください（**車両設定** → **システム設定** → **更に表示** → **プライバシーポリシー**）。

2-1 コンビネーション	
メーター	50
コンビネーションメーター	
イメージ	50
メーター表示灯	51

コンビネーションメーターイメージ



- | | |
|---------------|-------------|
| ① 時間 | ⑥ 総走行距離 |
| ② パワーメーター | ⑦ 航続可能距離 |
| ③ スピードメーター | ⑧ シフトポジション |
| ④ パワーバッテリー残量計 | ⑨ 平均速度 |
| ⑤ 外気温度 | ⑩ 回生ブレーキモード |

メーター表示灯

	方向指示表示灯		ポジションランプ表示灯
	ハイビーム表示灯	NORMAL	ノーマルモード表示灯
OK	OK 表示灯		ACC 状態表示灯 *
	オートビークルホールド表示灯 (待機状態に入ると、メーター表示灯は白色で点灯します)		駆動パワー制限警告灯
	マスターウォーニング表示灯		リモートキーシステム警告灯
	ABS 故障警告灯		ESC OFF 警告灯
	ESC 故障警告灯		タイヤ空気圧警告灯
	ドライバー眠気注意力警告灯 *		幼児置き去り検知表示 / 警告灯 *
	リアフォグランプ表示灯		AVAS (車両接近通報装置) 故障警告灯
	パーキングシステム故障警告灯		エアバッグ故障警告灯
	ステアリングシステム故障警告灯		シートベルト非着用警告灯
	モーター冷却水オーバーヒート警告灯		パワーバッテリー充電接続表示灯
	低電圧給電システム故障警告灯		パワーバッテリー過熱警告灯

2
コンビネーションメーター

	パワーバッテリー故障警告灯		パワートレイン故障警告灯
	電動パーキングブレーキ表示灯		

警告灯 / 表示灯について

リモートキーシステム警告灯

- リモートキーが車内にない状態で「スタート/ストップ」ボタンを押すと、警告灯が数秒間点灯すると同時にコンビネーションメーターのブザーが1回鳴り、コンビネーションメーターに「キー検出不可 カードリーダーにキーを近づけて車始動」と表示されます。
- リモートキーを携帯した状態で「スタート/ストップ」ボタンを押すと、警告灯は点灯せずに車両が始動します。
- 「スタート/ストップ」ボタンを押した際に警告灯が点滅している場合は、リモートキーのバッテリー残量が低下しています。
- キーが車内にない場合は、コンビネーションメーターに「キーが検知されていません。車内にあるかをご確認ください」と表示されます。

ABS (アンチロックブレーキシステム) 故障警告灯

- ABS (アンチロックブレーキシステム) 故障警告灯は、電源ポジションを「OK」にした場合に点灯します。ABS が正常に作動しているときは、数秒後に消灯します。システムに故障などが発生したときは、故障が解消されるまで警告灯が再度点灯します。
- ABS 故障警告灯が点灯 (パーキングシステム故障警告灯は消灯) している場合は、ABS は作動していませんが、ブレーキシステムは正常に作動します。
- ABS 故障警告灯が点灯 (パーキングシステム故障警告灯は消灯) している場合は、ABS が作動しないため、急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキを踏むと、ホイールがロックします。
- 下記状況のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障しています。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。
 - 電源ポジション「OK」時に警告灯が点灯しない、または点灯し続ける。
 - 運転中に警告灯が点灯する。

アドバイス

- 作動中に警告灯がしばらく点灯しますが、異常ではありません。
- パーキングシステム故障警告灯と ABS 故障警告灯が同時に点灯した場合は、ブレーキをかけても ABS が機能せず、車両姿勢も極めて不安定な状態になるため、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

- ABS 故障警告灯とパーキングシステム故障警告灯が同時に点灯し、かつ EPB が完全に解除された場合は、前後タイヤの制動力配分システムも効かなくなったことを表します。



タイヤ空気圧警告灯

- タイヤ空気圧警告灯は、電源ポジションを「OK」にした場合に点灯します。タイヤ空気圧モニタリングシステムが正常に作動しているときは、数秒後に消灯します。システムに故障が発生したときは、警告灯が再度点灯します。
- タイヤ空気圧警告灯が点灯または点滅すると同時に、コンビネーションメーターのインフォメーションディスプレイに「チェック TPMS」と表示され、タイヤ空気圧表示画面の数値部に「---」が表示された場合は、タイヤ空気圧モニタリングシステムが故障しています。
- タイヤから「信号異常」が発信された場合は、タイヤ空気圧信号が干渉を受けている、またはタイヤ空気圧モニタリングモジュールが破損しているおそれがあります。
- タイヤ空気圧警告灯が高速で点滅すると同時に、コンビネーションメーター内のインフォメーションディスプレイに表示される、タイヤ空気圧表示画面の数値表示部の一部が赤くなった場合は、該当タイヤに急激な空気圧の減少があります。
- タイヤ空気圧警告灯が常時点灯すると同時に、コンビネーションメーターのタイヤ空気圧表示画面の一部が黄色になった場合は、該当タイヤの空気圧が少ない状態を表します。1 つまたは複数のタイヤの温度数値が黄色になったときは、タイヤ温度が高すぎることを表します。

上記のいずれかが発生した場合は、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、車両の点検を依頼してください。



ESC（横滑り防止装置）故障警告灯

- ESC（横滑り防止装置）故障警告灯は、電源ポジションを「OK」にした場合に点灯します。ESC機能が正常に作動しているときは、数秒後に消灯します。システムに故障が発生したときは、故障が解消されるまで警告灯が再度点灯します。
- 走行中にESC故障警告灯が点滅している場合は、ESCシステムが作動していることを表します。
- ESC故障警告灯が点灯（ABS故障警告灯、パーキングシステム故障警告灯は消灯）している場合は、ESCの車両安定性制御が無効になりますが、ABSおよびブレーキシステムは正常に作動します。
- ESC故障警告灯が点灯（ABS故障警告灯、パーキングシステム故障警告灯は消灯）している場合は、横滑り防止装置が作動しないため、急ハンドルや前方障害物の緊急回避時に、車両姿勢が極めて不安定な状態になります。
- 下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。
 - 電源ポジション「OK」時に警告灯が点灯しない（セルフテストなし）。
 - 運転中に警告灯が点灯し続ける。

アドバイス

- 作動中に警告灯がしばらく点灯することがありますが、異常ではありません。
- ABS故障警告灯、ブレーキシステム警告灯、ESC故障警告灯が同時に点灯した場合、ブレーキを掛けると車両姿勢が極めて不安定な状態になります。このとき、ABSが完全に機能していないため、ただちに安全な場所に停車してBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡してください。



ESC OFF 警告灯

- ESC OFF を操作すると、ESC OFF 警告灯が点灯し横滑り防止装置が機能しなくなります。再度 ESC OFF を操作すると、ESC OFF 警告灯が消灯し、横滑り防止装置が機能します。

i アドバイス

- ESC OFF 警告灯が点灯している場合は、ブレーキをかけても横滑り防止装置が機能しないため、車両姿勢が不安定になります。ドライバーは、急ハンドルや突然現れた障害物の緊急回避時に、必ず警戒感を高めながら低速で走行してください。
- ドライバーは、 → ADAS → アクティブセーフティ の設定画面から、ESC OFF を操作することで解除できます。



駆動パワー制限警告灯

- 車両のパワーが制限された場合に点灯します。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。



マスターウォーニング表示灯

- 表示灯が点灯している場合は、要注意であることを表します。また、インフォメーション表示部に故障や警告のメッセージが表示されます。



幼児置き去り検知表示 / 警告灯 *

- 幼児置き去り検知表示灯 *：幼児置き去り検知システムを OFF にすると表示灯が点灯し、「OFF」のメッセージを 5 秒間表示します。「ON」または「遅延」をタッチすると表示灯が消灯し、幼児置き去り検知警告機能が正常に戻ります。
- 幼児置き去り検知警告灯 *：故障している場合は、幼児置き去り検知システムの故障メッセージを 5 秒間表示し、警告灯が点灯します。幼児置き去り検知システムが故障している場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場点検してください。



ドライバー眠気注意力警告灯 *

- ドライバーモニタリングシステムは、ドライバーの操作状態を検知してドライバーの疲労度合いを評価します。評価結果に応じて、リアルタイムにドライバーへ注意喚起することで運転の安全性を高めます。



AVAS（車両接近通報装置）故障警告灯

- AVAS（車両接近通報装置）が故障すると表示灯が点灯します。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場まで連絡してください。



シートベルト非着用警告灯

- 電源ポジション「OK」時、フロント側およびリア側のシートベルトが未着用の場合に点灯します。シートベルトが確実に装着されるまで点灯し続けます。



エアバッグ故障警告灯

- 電源ポジション「OK」時に点灯し、エアバッグシステムが正常に作動している場合は、数秒後に警告灯が消灯します。エアバッグ ECU、衝突センサー、インフレーター、警告灯、結線、および電源をモニタリングするものです。
- 下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。
 - 電源ポジション「OK」時に警告灯が点灯しない、または点灯し続ける。
 - 運転中に警告灯が点灯する。

❗ パーキングシステム故障警告灯

- ブレーキフルードの液量が低下している、またはブレーキシステムが故障している場合に警告灯が点灯します。下記状況のいずれかが発生した場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
 - 電源ポジションが「OK」の状態でもブレーキフルードの液量が低下している場合に警告灯が点灯します。

i アドバイス

- ブレーキフルードの液量が低下している状態での運転は非常に危険なため、運転を止めてください。
- 車両を始動後、ブレーキフルードの液量に問題がなく、電動パーキングブレーキシステムが正常に作動している（電動パーキングブレーキスイッチをスムーズに引き上げたり、解除ができ、「電動パーキングブレーキシステムを確認」のメッセージが出ていない）場合は、警告灯が常時点灯します。
- パーキングブレーキ故障警告灯と ABS 故障警告灯が同時に点灯している場合。

i アドバイス

- 作動中に警告灯がしばらく点灯することがありますが、異常ではありません。

ステアリングシステム故障警告灯

- ステアリングシステム警告灯が常時点灯している場合は、ステアリングシステムが故障しているため、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での点検してください。

アドバイス

- ステアリングシステムは、モーターによりステアリングホイールを回すための力を軽減するものです。
 - ステアリングホイールを回すとき、モーターの動作音（「ぶんぶん」のような音）が聞こえることがありますが故障ではありません。
 - ステアリングホイールを 5 秒以上全切り（限界位置を保持）のままにしないでください。5 秒を超えると過熱保護機能が作動し、操舵力が重くなる、または損傷します。
- 長時間頻繁に据え切りをした場合、ステアリングシステム故障警告灯が点灯していないのに操舵が重く感じられることがありますが、故障ではありません。
 - 長時間頻繁に据え切りした場合、ステアリングシステムの過熱を防ぐため、アシスト力が低下して操舵が重く感じられることがあります。このようなときは、頻繁なハンドル操作を避ける、または停車して電源を切ってください。システムは、10 分以内に正常な状態に戻ります。

警告

- ステアリングシステム故障警告灯が点灯している場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。



低電圧給電システム故障警告灯

- 運転中に警告灯が点灯している場合は、低電圧給電システムに不具合があることを表します。そのまま運転を続けると、車両が突然停止するなどの思わぬ事故につながるおそれがあるため、エアコン、ファン、ラジオなどを止めて安全な場所に停車し、早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に救援を依頼してください。
- 警告灯が点灯している場合は、充電および放電を停止します。
- 走行中は警告灯が点灯し続けると、速度を制限します。
- 充電または給電しない場合は、DC モジュールおよびバッテリーモジュールの作動状態を知らせます。



パワートレイン故障警告灯

- パワートレインが故障した場合に点灯します。
- 下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。
 - 電源ポジション「OK」時に警告灯が点灯し続ける。
 - 運転中に警告灯が点灯する。

⚠ 注意

- 警告灯が点灯している状態では、可能な限り運転しないでください。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡し、点検および問題の確認を依頼してください。



パワーバッテリー過熱警告灯

- 警告灯が点灯している場合は、パワーバッテリーの温度が高すぎることを表します。車両を停車し、温度を下げてください。パワーバッテリー過熱警告灯が点滅しているときは、ただちに安全な場所に停車し、早めに車両から離れてください。
- 下記の条件で走行した場合、パワーバッテリーが過熱することがあります。
 - 炎天下や長時間・長距離で上り坂を走行するとき。
 - 長時間にわたり頻繁に発進・停止、急加速・急ブレーキ繰り返す交通状況、または長時間連続で走行するとき。



パワーバッテリー故障警告灯

- 電源ポジション「OK」時に点灯し、パワーバッテリーシステムが正常に作動している場合は、数秒後に警告灯が消灯します。システムの故障があった場合は、警告灯が再び点灯します。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡し、車両の点検を依頼してください。
- 下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。
 - 警告灯が電源ポジション「OK」時に点灯し続ける。
 - 運転中に警告灯が常時または時々点灯する。



モーター冷却水オーバーヒート警告灯

- 警告灯が点灯している場合、モータークーラントの温度が高すぎることを表します。ただちに安全な場所に駐車し、警告灯が消灯するまでお待ちください。

メーターのその他故障について

コンビネーションメーターには次のような故障メッセージが表示されることがあります。その都度、推奨される対応方法に従って操作してください。

アイコン表示	故障メッセージ	対応方法
	車載充電システムを確認してください	車載充電システムが故障しています。充電設備の接続異常がないか確認したうえで、新たな充電設備に接続してください。解消しなかった場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	ネットワーク故障 安全に停車し、BYD サービスに連絡してください	車両のデータネットワークが故障していることを表します。周囲の安全を確認したうえでただちに停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	EV 機能が制限されています	EV 機能が制限されていることを表します。ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場点検してください。
	ヘッドライトシステムを確認	ヘッドライトシステムが故障していることを表します。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	運転支援機能が制限されています *	衝突予測警告システムや自動緊急ブレーキシステムが故障していることを表します。車両を停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	運転支援機能が制限されています *	ブラインドスポットインフォメーションシステムが故障していることを表します。車両を停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	運転支援機能が制限されています *	ナビゲーションパイロットが故障していることを表します。車両を停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

アイコン 表示	故障メッセージ	対応方法
	インテリジェントカメラ機能 制限あり 利用不可*	インテリジェントカメラが利用できないことを表します。車両を停車し、フロントガラスに搭載しているカメラの撮影範囲内に異物や曇りがないかを点検してください。異物や曇りがない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	シフト機構を確認してください*	シフトコントローラーが故障していることを表します。ただちに停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

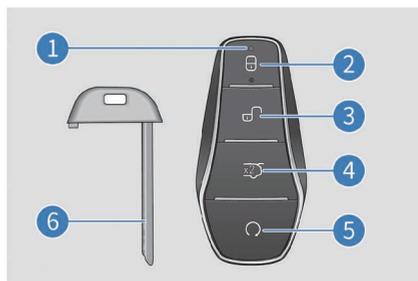
3-1 ドアおよびキー	64
キー.....	64
ドアの施錠 / 解錠.....	68
スマートエントリー& スタートシステム.....	75
チャイルドロック.....	77
3-2 シート	78
シートについて.....	78
フロントシートの調節.....	80
リアシートの収納.....	82
ヘッドレスト.....	83
3-3 ステアリングホイール	84
ステアリングホイール コンビネーションスイッチ.....	84
ステアリングホイールの 手動調節.....	89
3-4 スイッチ	90
ライトスイッチ.....	90
ワイパースイッチ.....	95
助手席側ウィンドウ スイッチ.....	100
走行距離切替スイッチ.....	100
モードスイッチユニット.....	101
助手席側エアバッグ スイッチ.....	103
自動緊急通報システム E-Call.....	105
ハザードランプスイッチ.....	106
サンシェードスイッチ*.....	106
ルームランプスイッチ.....	107

キー

リモートキー

リモートキーを携帯した状態で運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアの施錠 / 解錠ができます。リモートキーのボタン操作では、ドアの施錠 / 解錠に加えて、テールゲートを開いたり、リモートスタートなどができます。

- 1 表示灯
- 2 「ロック」 ボタン
- 3 「アンロック」 ボタン
- 4 「テールゲートオープン」 ボタン
- 5 「スタート / ストップ」 ボタン
- 6 メカニカルキー



⚠ 警告

- リモートキーの中に入っているボタン電池は危険なため、電池の新旧を問わずお子様の手の届かないところに置いてください。
- 電磁波による電子機器への影響があるため、植え込み型心臓ペースメーカーまたは植え込み型除細動器を使用されている方は、スマートエントリー&スタートシステムのアンテナから遠く離れてください。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器、またはそれ以外の医療電子機器を使用されている方は、電磁波が機器に与える影響を製造メーカーに確認してください。電磁波が、医療機器の使用に予測できない悪影響を与えるおそれがあります。

▲ 注意

- リモートキーは電子部品です。リモートキーの破損を防ぐため次の説明に従ってください。
 - リモートキーをインストルメントパネルなどの温度が高いところに置かないでください。
 - リモートキーを勝手に分解しないでください。
 - リモートキーで他のものを強く叩いたり、キーを落とさないでください。
 - リモートキーを水に浸けたり、超音波洗浄機で洗浄しないでください。
 - リモートキーを携帯電話などの電磁波が発生する装置と一緒に置かないでください。
 - リモートキーに電磁波を遮断するものを付けしないでください（例：金属シール）。
 - 同一の車両にエマージェンシーキーを登録することができます。詳細な説明については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- リモートキーの作動範囲内でドア操作ができない、またはキーの表示灯が暗く点灯しない場合：
 - 近くにリモートキーの動作を干渉するラジオ局や航空無線発信機がないかを確認してください。
 - リモートキーのバッテリーが切れている可能性があります。リモートキーのバッテリーを点検してください。バッテリーの交換が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- リモートキーを紛失した場合は、車両の盗難や予期せぬ事故を起こさないため、できるだけ早く BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 送信周波数の変更、送信電力の増加（送信周波数アンプの追加を含む）、アンテナの外付けや他の送信アンテナの流用をしないでください。
- 使用時は、さまざまな無線通信業務に干渉がないようにしてください。干渉が見つかった場合は、ただちに使用を停止し、干渉の解消措置を取ってから使用してください。
- 小電力無線機を使用するときは、さまざまな無線通信業務の干渉、または産業用、研究用および医療用設備の放射干渉を避けてください。
- 飛行機や空港の近くで使わないでください。機内でスイッチが押されると電波が発信され、飛行機の運航に支障をきたすおそれがあります。
- 車両から離れる場合は、必ずキーを携帯して施錠してください。また、絶対にお子様を 1 人で車内に残さないでください。

メカニカルキー

メカニカルキー(リモートキー内):運転席側ドアハンドルに挿し込むことで、施錠/解錠ができます。使わないときは、メカニカルキーをリモートキーに収納してください。

メカニカルキーの取り出し

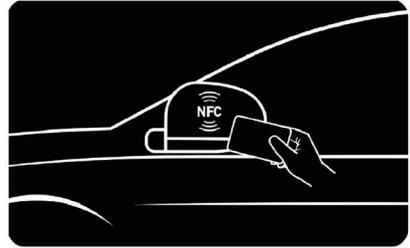
図のようにリモートキー上の「PUSH」ボタン②を押し、矢印①方向にメカニカルキーを取り出します。



- メカニカルキーを使用した後は、「PUSH」ボタン②を押しながらメカニカルキーを戻してください。

NFCカードキー*

■ NFCカードキー:NFCカードキーを運転席側のドアミラーにあるNFCマークにかざすと、電源ポジション[OFF]状態ですべてのドアの施錠/解錠ができます。



⚠ 注意

- NFCカードは電子機器です。NFCカードが機能しない、または破損しないように、次の説明に従ってください。
 - ワイヤレス充電器を ON している場合は、NFC カードを充電エリアに置かないでください。
 - NFC カードを使用する場合は、電磁波を遮断するものを付けしないでください（例:金属シール、携帯電話の金属製バックカバーなど）。
 - NFC カードをインストルメントパネルなどの高温部に置かないでください。
 - NFC カードを強く曲げないでください。
 - NFC カードを他の固いものと一緒に置かないでください。
- NFCカードは近距離無線通信を行うもので、通信可能な距離は2cm以内になります。NFCカードをかざす場合は、ドアミラーに近づけて1~2秒キープしてください。
- NFCカードは、NFC通信規格に基づいたキーです。車両の安全性を確保するため、大切に保管してください。紛失した場合は、紛失したカードを解除するため、ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場、新たにカードを作成してください。

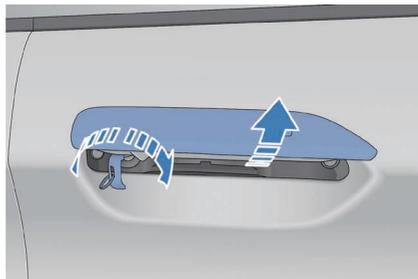
ドアの施錠 / 解錠

メカニカルキーでの施錠 / 解錠

上のほうにフロントドアハンドルを起し、キーを鍵穴に挿し込んでから回します。

■ 解錠：時計回りにキーを回します。

- メカニカルキーで解錠した後、キーを抜き出してから、ドアを開けます。



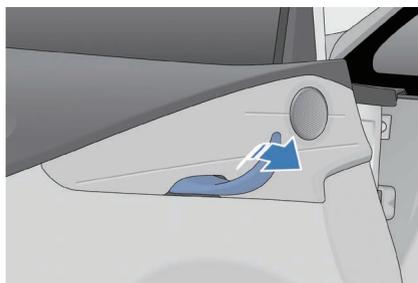
■ 施錠：反時計方向にキーを回します。

- 右側フロントドアが右側リアドアと同じ高さ、または右側リアドアより低いことを確認してから右側フロントドアを閉め、手でドアを押し付けながら反時計回りにキーを回してドアを施錠します。

ノブ操作でドアを開けるとき

■ 解錠している場合は、ノブを1回引き上げると車内からドアが開けられます。

■ 施錠している状態でドアを開ける場合は、2回連続でノブを引き上げます。



⚠ 警告

- お子様が悪くドアを開けてしまい、予期せぬ事故を起こすおそれがあるため、お子様にノブを触らせないでください。
- お子様を乗せている場合は、必ずチャイルドロック機能をONにしてください。

⚠ 注意

- チャイルドロックを搭載しているため、チャイルドロックを解除していない場合は、リアドアのノブを引き上げても開けることができません。

リモートキー操作での施錠 / 解錠

- ワイヤレスリモートコントロール機能は、作動範囲内であればすべてのドアの解錠や施錠、付加機能が操作できます。
- 登録済みのリモートキーを携帯し、作動範囲内でリモートキーのボタンを押すと、すべてのドアの施錠 / 解錠ができます。

施錠

- 車の電源ポジションが「OFF」で、すべてのドアおよびボンネットが閉まっているときにロックボタンを押すと、すべてのドアが同時に施錠され、ターンシグナルランプが1回点滅します。施錠後、すべてのドアが確実に施錠されていることを確認してください。
- ドアのいずれかが開いている場合は、ターンシグナルランプが点滅せず、ホーンが1回鳴ります。
- 電源ポジションを「OFF」にしていない場合は、ターンシグナルランプが点滅せず、ホーンが1回鳴ります。



3

リモートコントロールの操作

解錠

- アンロックボタンを押すと、すべてのドアが同時に解錠され、ターンシグナルランプは2回点滅します。
- リモートキーの操作で同時にすべてのドアを解錠する場合は、ドアが開いていなくてもルームランプが15秒間点灯してから消灯します。
- 盗難防止機能が作動している状態でリモートキーの操作によりドアを解錠した場合は、30秒以内にドアを開けてください。そうしない場合は、すべてのドアは自動的に施錠されます。
- 「ロック」または「アンロック」ボタンを押し続けても、施錠または解錠することはできません。ボタンから指を離し、再度「ロック」または「アンロック」ボタンを押してください。

自動下降

- リモートキーの「アンロック」ボタンを長押しすると、すべてのウィンドウガラスを自動で開けることができます。

リモートキーのリモコン操作でテールゲートの開 / 閉

- 2回連続でリモートキーの「テールゲートオープン」ボタンを押すと、ターンシグナルランプが2回点滅しテールゲートが開きます。

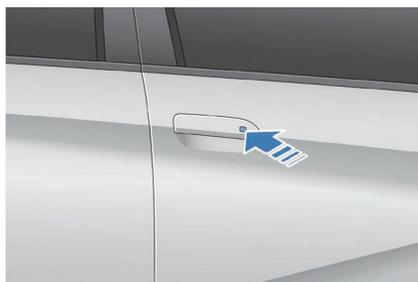


- キー閉じ込め防止機能
 - 施錠された状態で、キーを車内やトランクルームに置いたままテールゲートを閉めた場合、キーの車内への置き忘れを防ぐため、自動的にドアを解錠しターンシグナルランプを2回点滅させます。

マイクロスイッチ操作での施錠 / 解錠

施錠

- 車の電源ポジションが「OFF」で、ドアを閉めた状態で施錠されていない場合、リモートキーを携帯しながらフロントドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアが同時に施錠され、ターンシグナルランプが1回点滅します。



- 電源ポジションを「OFF」にしていない場合は、ターンシグナルランプが点滅せず、ホーンが1回鳴ります。
- ドア、ボンネット、テールゲートのいずれかが開いている状態でも、マイクロスイッチ操作により、閉まっているドアを施錠することができます。ただし、ターンシグナルランプは点滅せず、ホーンが1回鳴ります。

解錠：

- 施錠されている状態でリモートキーを携帯し、作動範囲内でフロントドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアが同時に解錠され、ターンシグナルランプが2回点滅します。
- 盗難防止機能が作動している状態で解錠した場合は、30秒以内にドアを開けてください。そうしないと、すべてのドアは自動的に再度施錠されます。
- 以下の場合は、マイクロスイッチを押しても施錠 / 解錠はできません。
 - ドア開閉時に、マイクロスイッチを押したとき。
 - リモートキーが車内に置いてあるとき。

自動下降

フロントドアハンドルのマイクロスイッチを長押しすると、ドアを解錠して窓ガラスを下すことができます。

アドバイス

- リモートキーがドアハンドル、またはウィンドウに近すぎる場合は、この機能が有効にならず操作ができないことがあります。
- ドライバーは、 → **車両設定** → **ドアと窓** の設定画面から、マイクロスイッチの長押しによるウィンドウガラス開閉機能のON/OFFを設定できます（詳細は、実際の車両仕様によります）。

マイクロスイッチ操作でのテールゲート解錠

- 車が施錠されている状態でリモートキーを携帯し「テールゲートマイクロスイッチ」を押すと、テールゲートを解錠させることができます。
- 車が解錠されている状態で「テールゲートマイクロスイッチ」を押すと、テールゲートを開けることができます。

NFCカードでの施錠/解錠

- NFCカードを運転席側ドアミラーにあるNFCマークの感知エリアに近づけます。

ドアの施錠：

- 車両の電源ポジションを「OFF」にし、ドアを閉じた状態で NFC カードを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざすと、すべてのドアが同時に施錠し、ターンシグナルランプが 1 回点滅します。

ドアの解錠：

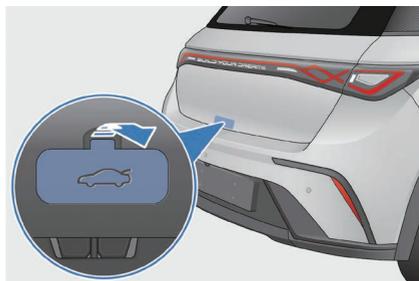
- イモビライザーが作動している状態で、NFC カードを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざすと、すべてのドアが同時に解錠し、ターンシグナルランプが 2 回点滅します。
- イモビライザーが作動している状態で、NFC カードを使って解錠したときは、30 秒以内にドアを開けてください。そうしないと、すべてのドアが自動的に再度施錠されます。
- NFC カードで解錠した場合、4 分間は NFC カードで車両を始動することができ、4 分以上経過すると、NFC カードで車両を始動できなくなります。この機能は、電話ポジションを「OFF」にしたときに解除されます。
- 以下の場合、NFC カードを右運転席側ドアミラーの感知エリアにかざしても、施錠 / 解錠ができません。
 - ドアの開閉操作と同時に、NFC カードを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざしたとき。
 - 車両の電源ポジションが「OFF」以外のポジションに入っているとき。

注意

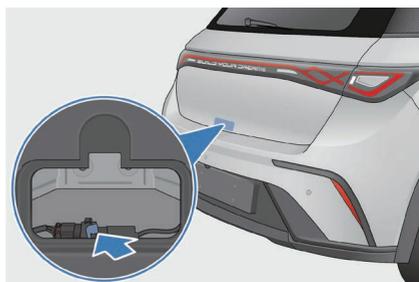
- キーレス操作権限の有効時間は最大 4 分間です。

車内からのテールゲートの緊急時解錠

1. テールゲートプロテクターからテールゲートロック用ハンドホール蓋を外します。



2. レバーを動かすと、テールゲートが解錠されます。



3

コントロールローラーの操作

i アドバイス

- 車が停電した場合は、車内からテールゲートの緊急時解錠ができます。

集中ドアロックの施錠 / 解錠

集中ドアロックスイッチでの車両の施錠 / 解錠

詳細は「[集中ドアロック](#)」を参照してください。

ドアの自動施錠 / 解錠

- 速度が約 8km/h を超えると、すべてのドアを自動で施錠します。
- 「スタート / ストップ」 ボタンを押して車両の電源ポジションを「OK」から「OFF」にすると、すべてのドアを自動で解錠します。

すべてのドアを同時に施錠 / 解錠する

- イモビライザーが作動していない状態で施錠すると、集中ドアロックの施錠ボタンのバックライトが点灯します。車両を解錠すると、バックライトが消灯します。

- 集中ドアロックの施錠ボタンを押すと、すべてのドアが同時に施錠されます。この場合、車外からの解錠操作はできなくなります。ドアを開けるときは、車内のドアノブを1回引いてロックが解錠されてから、もう一度車内のドアノブを引くとドアを開けることができます。

i アドバイス

- 車両が強い衝突を受けた場合は、すべてのドアを自動で解錠します。自動で解錠する判定は、衝撃の強さや事故などのパターンにより決定されます。

メカニカルキーでの全ドア緊急施錠

- 集中ドアロックが機能しない場合は、ロック状態になるまでキー操作で運転席側以外のドアの緊急ロック用ツマミを回します（時計回りに左側ドアのツマミを回し、反時計方向に右側ドアのツマミを回します）。その後、ドアを閉じてメカニカルキーで運転席側ドアを施錠します。このとき、車が施錠されている状態で、4ドアのアウトドアハンドルを操作してもドアを開けることができません。



- 解錠するときは、メカニカルキーで運転席側ドアを解錠します。解除後、車に乗り込んでから他のドアのインナードアノブを操作してドアを解錠し、それからアウトドアハンドルを引くとドアを開けることができます。またはインナードアノブを1回引き上げてドアを解錠させるか、もう1回インナードアノブを引き上げるとドアを開けることができます。

i アドバイス

- 緊急施錠時は、メカニカルキーの変形や折れがないように力を控えてください。

スマートエントリー&スタートシステム

機能を ON にする場合

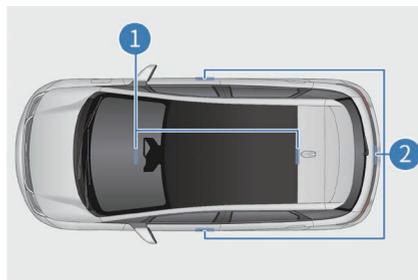
リモートキーの「ロック / アンロック」ボタンを押すと、ドアの施錠 / 解錠ができます（詳細は「[リモートキー操作での施錠 / 解錠](#)」または「[マイクロスイッチ操作での施錠 / 解錠](#)」をお読みください）。

車を始動する場合

リモートキーを携帯した状態でブレーキペダルを踏みながら「スタート / ストップ」ボタンを押すと、車両を始動できます（詳細は「[車の始動](#)」を参照してください）。

アンテナの搭載位置

- ① 室内アンテナ
- ② 室外アンテナ



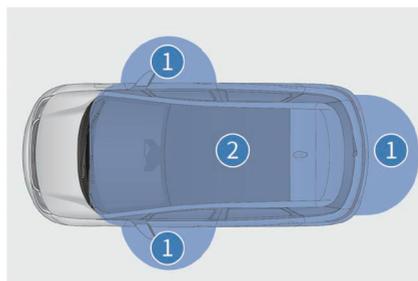
3

コントロールの操作

作動範囲

登録済みのリモートキーが作動範囲内でない場合は、スマートエントリー&スタートシステム機能を使用できません。

- ① 機能が ON になる作動範囲——フロントドアハンドルおよびテールゲートオープンスイッチから約 1m の範囲内。
- ② 機能が ON になる作動範囲——室内。



他車のリモートキーが、本車両のリモートキーの近くにある場合は、ドアの解錠時間が通常より長くなりますが異常ではありません。

i アドバイス

次の場合は、スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しない場合があります。

- 近くにテレビ塔、発電所、ラジオ放送局などの強い電磁波を発生する施設があるとき。
- リモートキーを、双方向無線電話や携帯電話などの通信装置と一緒に携帯しているとき。
- リモートキーが金属に接触したり、覆われているとき。
- ドアハンドルを素早く操作しているとき。
- リモートキーがドアハンドルに近づいたとき。
- 近くにある別の車両の中で、ワイヤレスリモートコントロール機能を操作しているとき。
- リモートキーのバッテリーが切れているとき。
- リモートキーが、高電圧設備またはノイズが発生する設備の近くにあるとき。
- リモートキーを、他車のスマートエントリー&スタートシステムのキーや、無線電波を発する他の装置と一緒に携帯しているとき。
- 作動範囲内であっても、一部の場所（インストールメントパネルの上、グローブボックスの中、床）では、リモートキーが正常に作動しないことがあります。

- スマートエントリーシステムが正常に作動せず車両に乗り込めない場合は、リモートキーに内蔵されているメカニカルキーで運転席側ドアの施錠/解錠を操作する、またはワイヤレスリモートコントロール機能ですべてのドアの施錠/解錠を操作できます。
- 「スタート/ストップ」ボタンを押してもスタート機能が正常に作動しない場合は、下記の要因が考えられます。
 - リモートキーが作動せずにコンビネーションメーターのリモートキーシステム警告灯が点灯し、コンビネーションメーターに「キーのバッテリー残量が少なくなっています。できるだけ早くバッテリーを交換してください」のメッセージが表示されているときは、リモートキーのバッテリーが切れていることが考えられます。
- スマートエントリー&スタートシステムが故障で正常に作動しない場合は、すべてのリモートキーをお持ちいただき、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での修理をしてください。

節電

- 運転していない場合でも、リモートキーと車両は常に通信を行っています。そのため、リモートキーを車内または車両から 2m 以内に置かないください。
- リモートキーは長時間強い電磁波を受信すると、バッテリーを急速に消耗するため、以下のような機材から 1m 以上離してください。
 - テレビ
 - パソコン
 - ワイヤレス充電器
 - 電気スタンド
 - 電気蛍光灯スタンド

チャイルドロック

チャイルドロックは、リアシートに座っている子供が不注意でリアドアを開けるのを防ぐための機能です。チャイルドロック装置は、左リアドアおよび右リアドアの側面にあります。

- ① チャイルドロックボタン OFF
- ② チャイルドロックボタン ON

チャイルドロックボタンを ON にすると、車内からリアドアを開けることができません。リアドアを開けるには、車外のドアハンドルを使用してください。



⚠ 注意

- 特にお子様を乗せている場合は、運転前にドアが閉まり、かつチャイルドロック機能が作動していることを確認してください。
- シートベルトを正しく着用しチャイルドロックを作動させることで、交通事故によるドライバーや乗客の車外放出を防止すると同時に、ドアが不意に開くことも防止します。

シートについて

- 走行中は乗員全員がシートバックを垂直にし、背中をシートバックに密着した状態でシートベルトを正しく着用してください。
- 走行中に荷物が移動しないよう適切に固定してください。また、荷物の積み込み高さはシートバックを超えないようにしてください。

警告

- 倒したシートバックの上、トランクルームの中、または荷物の上に座らないでください。そうしないと、緊急ブレーキや衝突発生時に、シートに正しく着座していない、またはシートベルトを正しく着用していない方は、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 走行中に乗員を立たせたり、シート間を移動しないでください。そうしないと、急ブレーキや衝突発生時に重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートの下にものを置かないでください。シートロック機構の機能に影響を与えたり、不意にシート調節レバーが持ち上がることでシートが急に動き出し、車両を制御できなくなるおそれがあります。
- シートを調節する際は、手をシートの下に入れたり、動作中の部品に近づけたりしないでください。手や指が挟まれるおそれがあります。
- シートバックを調節した後、後ろへ身体を寄せてシートバックがロックされていることを確認してください。確実にロックされていないと、緊急ブレーキや事故の原因となり傷害を受けるおそれがあります。
- 運転中または走行中にシートバックを倒さないでください。シートベルトの肩ベルト部分が身体を正しく止めていないと、事故発生時にドライバーや乗員が肩ベルト部分にぶつかり、頸部などに重大な傷害を受けたり、腰ベルトから滑り出して重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートバックと背中間にクッションなどを入れないでください。運転姿勢が安定せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 折りたたんだシートバックの上に乗らないでください。シートの損傷や転倒によって思わぬ怪我をするおそれがあります。
- シートの思わぬ移動によって車両が制御不能にならないように、走行中は運転席シートの調節をしないでください。
- 乗員が正しく着座するまで、車両を発進させないでください。

⚠ 注意

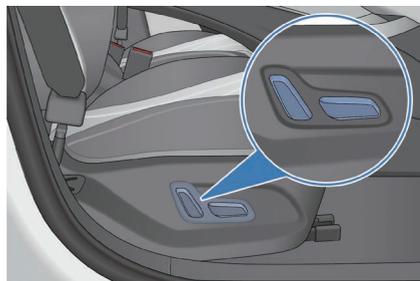
- ペダル、ステアリングホイールおよびインストルメントパネル上のコントローラーなどが、ドライバーの操作しやすい範囲にあるように運転席シートを調節してください。
- シートを調節する前にシートベルトを締めないでください。
- シートを調節するときは、シートが乗員または荷物に当たらないように注意してください。

フロントシートの調節

フロントパワーシートの位置調節は、シートの前後位置、シートクッションの高さ*、およびシートバック角度調節を含みます。車両に搭載されている機能に応じて、次の調節方法で調整してください。

シートポジション調節スイッチ

- 前後方向にシートポジション調節スイッチを操作すると、シートポジションを前後方向に調節することができます。
- スイッチの後部を上下方向に操作すると、シートの高さを調節することができます。



シートバック角度調節スイッチ

- 前後方向にシートバック角度調節スイッチの上端を操作すると、シートバックの角度を調節することができます。

📘 アドバイス

- スイッチから手を離すと、シートは現在の位置に止まります。シートの下にものを置かないでください。シートの動作を妨げるおそれがあります。

ヒーターシステム

- ヒーターシステムは、マルチメディアディスプレイ → エアコンボタン → 座席暖房 で ON または OFF を制御します。
- マルチメディアトップページのプルダウンメニューから、シートヒーター設定アイコンを呼び出すことができます。



ヒーターシステムの調節

- ドライバーは、マルチメディア内のヒーターアイコンの操作から、シートヒーターの動作を制御します。ヒーター機能は、2 段切替となっています。
- 電源ポジションを「ON」にするたびに、シートヒーター機能はデフォルトの OFF 状態となります。

リアガラスおよびドアミラーのヒーター

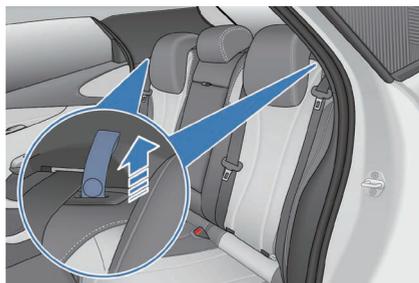
- ドライバーは、リアガラスおよびドアミラーのヒータースイッチの操作から、リアガラスおよびドアミラーのヒーター機能を ON または OFF にします。

警告

- 低温やけどの原因になるため、長時間連続して使わないでください。特に、乳幼児や高齢者、身体の不自由な方、薬を服用された方、糖尿病などの症状が原因で、痛みを感じる機能が低下している方は注意してください。
- 突起があるものをシートに載せたり、ピンなどのとがったもので突き刺したりしないでください。

リアシートの収納

リアシート上のストラップを引っ張ると、リアシートのシートバックを倒すことができます。



⚠ 警告

- シートバックを起こすときは、ゆっくりと手で戻してください。急に戻すと身体に当たり、思わぬ怪我をするおそれがあります。
- シートバックを起こすときは、シートベルトを挟み込まないでください。挟み込まれているとシートベルトを正しく着用できません。

ℹ アドバイス

- シートバックを倒すまたは起こすときにスピードが速すぎると、リアシートおよびシートバック上のシートベルトの破損や機能の異常が起きるおそれがあります。そのため、リアシートを倒すまたは起こすときは、ゆっくりと操作してください。
- リアシートを展開する場合は、勢いよくシートバックを後方へ押し付けないようにしてください。シートバックに力が掛かり解錠できないおそれがあります。
- シートバックを起こすときは、バックルがシート上の開口部から露出しているかを確認してください。
- シートベルトのタングプレートをバックルに差し込むときは、シートを反転させないでください。

ヘッドレスト

ヘッドレストの調節

1. ヘッドレストを高くする
ヘッドレストを適切な位置まで引き上げ、ロック音が聞こえたら手を離します。
2. ヘッドレストを低くする
ヘッドレストの高さ調節ノブを押したままヘッドレストを適切な位置まで下げ、ロック音が聞こえたら手を離します。
3. ヘッドレストの取り外し
ヘッドレストの高さ調節ノブを押したままヘッドレストを抜き出してからノブを離します。
4. ヘッドレストの取り付け
ヘッドレストの足を元の位置に差し込み、切り欠きが前に向くように保ちます。ヘッドレスト高さ調節ノブを押したまま、ヘッドレストを適切な位置まで下げてから手を離します。



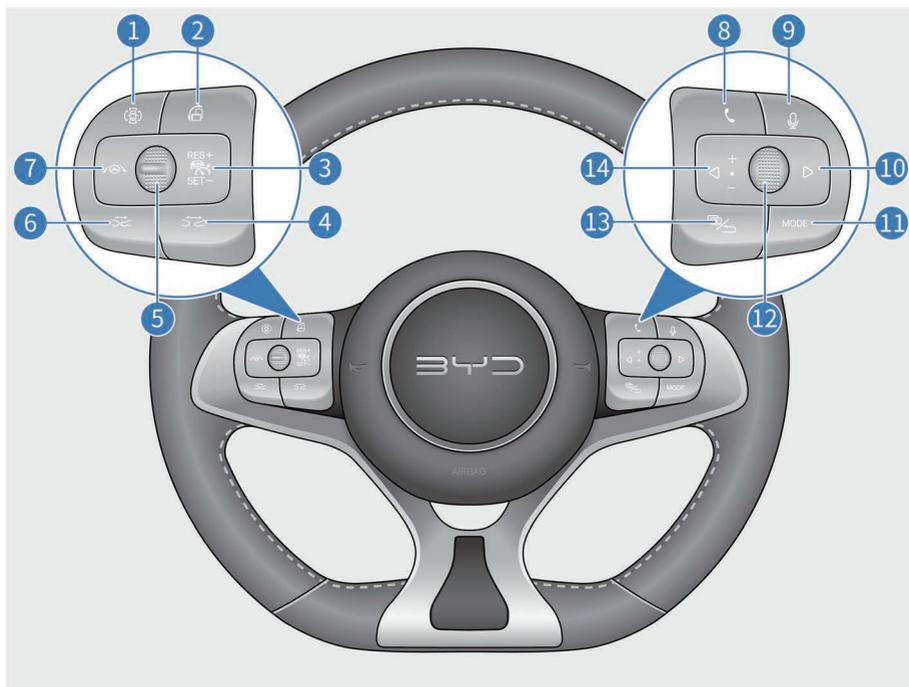
3

コントローラーの操作

警告

- ヘッドレストは、首や頭部の傷害を避けることができます。後頭部がヘッドレストの中心になるように、乗員の実際の身長に合わせてヘッドレストを適切な位置に調節してください。調節していないと、ヘッドレストの効果を最大限に発揮できません。
- ヘッドレストの中心が耳の上部になるように位置を調節してください。
- ヘッドレスト調節後、調整した位置で確実にロックされていることを確認してください。
- ヘッドレストが装着されていない状態で運転しないでください。
- ヘッドレストのステーにもものを掛けしないでください。

ステアリングホイールコンビネーションスイッチ



- | | |
|-----------------------|----------------|
| ① BYD アラウンドビューシステム | ⑧ 電話ボタン |
| ② スクリーン回転ボタン | ⑨ 音声制御ボタン |
| ③ アダプティブクルーズコントロールボタン | ⑩ 右矢印ボタン |
| ④ 車間距離+ | ⑪ モードボタン |
| ⑤ 設定速度レバー | ⑫ ホイールボタン |
| ⑥ 車間距離- | ⑬ メーター/リターンボタン |
| ⑦ ナビゲーションパイロットボタン | ⑭ 左矢印ボタン |

電源ポジションを「OK」にすると、オーディオコントロールスイッチが使えるようになります。

左側ボタン

BYD アラウンドビューシステム

- BYD アラウンドビューモードの場合は、BYD アラウンドビューシステムを OFF にします。BYD アラウンドビューモード以外の場合は、BYD アラウンドビューシステムを ON にします。

スクリーン回転ボタン

- スクリーン回転ボタンを押すと、マルチメディアコントロールパネル PAD が回転します。

RES + (設定速度レバーを上方向に)

- ACC を有効にして、前回のシステム設定値を呼び出します。
- 設定速度は 5km/h ずつ加速します。

アダプティブクルーズコントロールボタン

- アダプティブクルーズコントロールシステム (ACC) の ON/OFF を操作します。

SET - (設定速度レバーを下方向に)

- 設定速度は 5km/h ずつ減速します。

車間距離 +

- ACC 追従走行機能作動中に、前の車両との車間距離を 4 段切替で調整できます。1 回押すと 1 段下がります。

車間距離 -

- ACC 追従走行機能作動中に、前の車両との車間距離を 4 段切替で調整できます。1 回押すと 1 段上がります。

ナビゲーションパイロットボタン

- ナビゲーションパイロット機能の ON/OFF を操作します。

アドバイス

- アダプティブクルーズコントロール機能の使い方については、「[アダプティブクルーズコントロール \(ACC\) システム](#)」および「[ナビゲーションパイロット \(ICC\)](#)」を参照してください。

右側ボタン

ホイールボタン

- メーターメニューモード以外でのマルチメディア音量調節：
 - 上方向にホイールを回す：最大音量になるまで音量を1段ずつ上げます。
 - 下方向にホイールを回す：最小音量になるまで音量を1段ずつ下げます。
 - ホイールを押す：ミュートモードになります。
- メーターメニューモードでの調節：
 - 上方向にホイールを回す：メーターメニューモードでは、スクロールアップで第2階層 / 第3階層メニューを選びます。
 - 下方向にホイールを回す：メーターメニューモードでは、スクロールダウンで第2階層 / 第3階層メニューを選びます。
 - ホイールを押す：メーターメニューモードでは、現在のオプションの詳細メニューに入るか、現在の設定を確定します。

注意

- メーターメニューモードをONにすると、マルチメディアシステムはミュートモードになります。マルチメディアの音量を調節するときは、メーターメニューモードをOFFにしてください。

左矢印 / 右矢印ボタン

- マルチメディアラジオモードの場合：
 - ◀ボタンを押すと、前の放送局を選局します。
 - ▶ボタンを押すと、次の放送局を選局します。
- マルチメディア USB/Bluetooth 音楽 / サードパーティ音楽 APP などのモードの場合：
 - ◀ボタンを押すと、前の曲を再生します（曲番号 - 1）。
 - ◀ボタンを短く押すと、Bluetooth 通話記録、電話帳画面が表示されます。スクロールアップで希望の項目を選びます。
 - ▶ボタンを押すと、スクロールアップで次の曲を再生します（曲番号 + 1）。
 - ▶ボタンを短く押すと、Bluetooth 通話記録、電話帳画面が表示されます。スクロールダウンで希望の項目を選びます。

- メーターメニューモードの場合：
 - ◀ ボタンを押すと、左へメインメニューおよびそのサブメニューを切り替えます。
 - ▶ ボタンを押すと、右へメインメニューおよびそのサブメニューを切り替えます。

電話ボタン

- 電話をかける、または電話に出れます（このボタンを押すと、オーディオシステムがミュートモードに入ります）。
- システムが Bluetooth と関係のない画面を表示しており、Bluetooth を接続していない場合、ボタンを短く押すと「Bluetooth が接続されていません！ Bluetooth で接続してください」の表示画面に切り替わります。Bluetooth に接続されている場合は、ダイヤル画面に切り替わります。
- ダイヤル画面に電話番号を入力するか、通話記録、電話帳画面で電話番号を選んでボタンを短く押すと、ダイヤル機能が作動します。
- Bluetooth に接続した状態で、ダイヤル画面に番号が入力されていない場合、ボタンを短く押すと通話記録画面の発信履歴画面に直接切り替わります。再度押すと、発信履歴画面の一番上の電話番号を自動的にダイヤルします。

音声制御ボタン

- ボタンを押すと、マルチメディアタッチスクリーンが音声制御画面に切り替わり、音声機能を操作することができます。
- 再度ボタンを押すと、新たに音声コマンドが入力できます。

メーター / リターンボタン

- コンビネーションメーターがメニューモード以外の場合、メーター / リターンボタンを押すと、メーターメニューが表示されます。
- コンビネーションメーターがメニューモードの場合、メーター / リターンボタンを押すと、前の画面に戻ります。前の画面がないときは、メニュー画面が閉じます。
- Bluetooth 通話画面の場合は、短く押すことで通話を終了できます。

モードボタン

- モード選択：モードボタンを押すと、メディア APP、周辺機器、プリンストール APP を切り替えることができます。

ホーンボタン

- ホーンのパッド面を押すと、ホーンが鳴ります。手を離すとホーンが止まります。

注意

- 長時間ホーンのパッド面を押さないでください。ホーンの破損につながるおそれがあります。

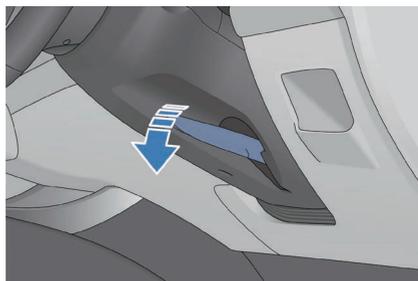
アドバイス

- 交通ルールを守り、ホーンを適切に使ってください。

ステアリングホイールの手動調節

ステアリングホイールの角度を調節するときは、ステアリングホイールを握りながら次の操作を行います。

- ステアリングホイールの調節レバーを下に押し、ステアリングホイールを必要な角度と必要な軸方向の位置に調節してから、レバーをロック位置に戻します。



3

コントロールの操作

⚠ 警告

- 走行中にステアリングホイールの調節をしないでください。操縦を誤り、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- ステアリングホイールを調節した後、上下方向に動かして確実に固定されていることを確認してください。

パワーステアリングモードの設定

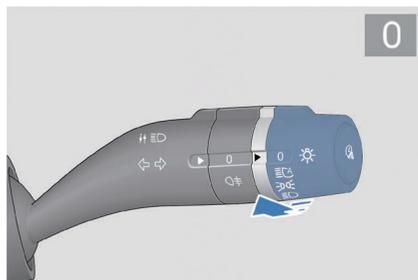
- パワーステアリングの感触は、人によって異なります。ドライバーにより、パワーステアリングの感触の評価やニーズも異なります。
- ドライバーは、 → **車両設定** → **スマートシャーシ** の設定画面から、**ステアリングアシスト** で **コンフォート/スポーツ** の操舵モードを選択できます。

i アドバイス

- 高速走行時にステアリングの操作力が軽く感じる場合は、ステアリングアシストの設定を **スポーツモード** に設定することをおすすめします。

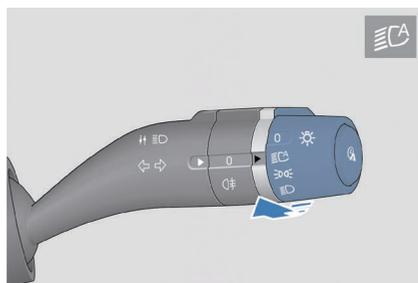
ライトスイッチ

ライトスイッチを 0 に回すと、デイトタイムランニングライト以外のすべてのライトが消灯します。



オートライト

ライトスイッチを  に回すと、BCM (Body Control Module) が照度センサーで周囲の明るさを取得し、自動的にポジションランプやロービームの ON/OFF を制御します。

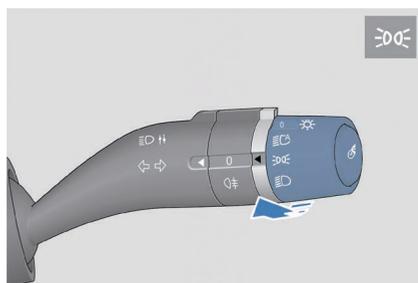


▲ 注意

- 照度センサーは、インストルメントパネルの上端部にあり、センサーが遮られたり、その上に液体がかかったりすることを避けてください。

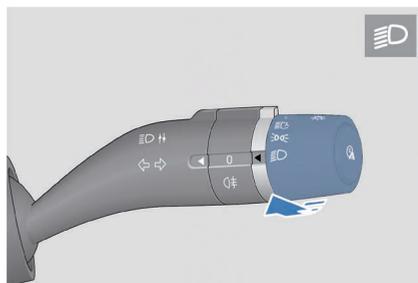
ポジションランプ

ライトスイッチを  に回すと、ポジションランプが点灯します。



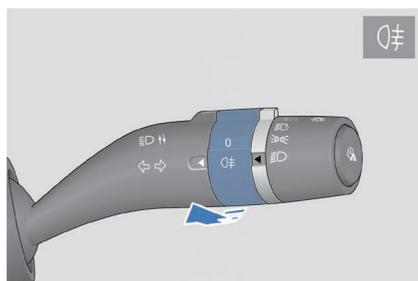
ロービーム

ライトスイッチをに回すと、ロービームが点灯します。



リアフォグランプ

ライトスイッチをに回し、リアフォグランプスイッチをに回すと、リアフォグランプが点灯します。



3

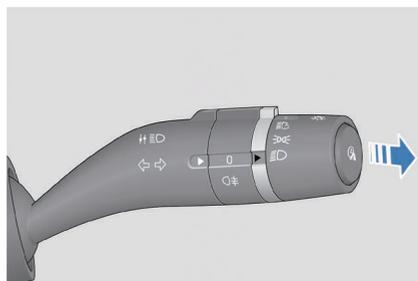
コントローラーの操作

⚠ 警告

- 晴天時には使用しないでください。後方車の視界を悪化させるおそれがあります。
- リアフォグランプは、霧や雨、雪などの悪天候で視界が悪いときに使用してください。

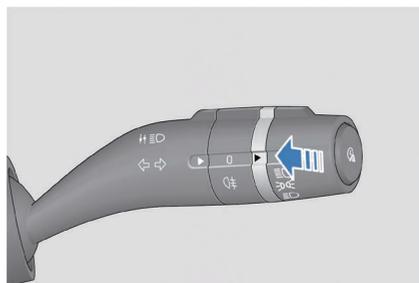
ハイビーム

ライトスイッチをに回し、ライトスイッチのレバーを前方（ステアリングホイールから離れる方向）に押し、ハイビームが点灯します。ライトスイッチのレバーを手前（ステアリングホイールに近づく方向）に引くと、ハイビームが消灯します。「前、後」方向にライトスイッチのレバーを操作する、ロービームを OFF にする、または「OK」レンジをシフトするとハイビームが消灯します。



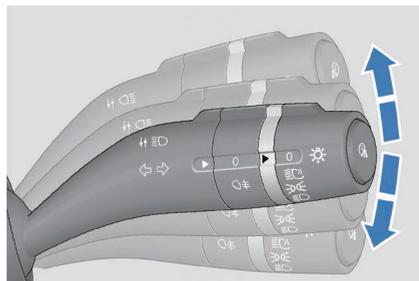
パッシングライト

ライトスイッチのレバーを手前（ステアリングホイールに近づける方向）に引くと、パッシングライトが点灯し、手を離すとライトスイッチは自動的に戻り、パッシングライトが消灯します。



ターンシグナルランプ

- コンビネーションスイッチのレバーを上方向に上げると、左ターンシグナルランプとコンビネーションメーターの方向指示表示灯が同時に点滅します。
- コンビネーションスイッチのレバーを下方向に下げると、右ターンシグナルランプとコンビネーションメーターの方向指示表示灯が同時に点滅します。
- ターンシグナルランプをつけた後に手を放しても、ターンシグナルランプは点滅し続けます。曲がり切ってからは、自動的に消灯します。ドライバーの運転の違いにより、特別なケースでは、ステアリングホイールを1回転させないとリセットしない場合があります。



オート OFF 機能

- オート OFF 機能の作動条件: ライトスイッチを または に回し、電源を「スタート」から「ストップ」に切り替えると ON になります。
- オート OFF 機能が ON の状態で運転席側ドアが閉まっている場合、オート OFF 機能により、点灯中のヘッドライトおよびポジションランプが 10 秒後に消灯します。
- オート OFF 機能が ON の状態で運転席側ドアが開いている場合、オート OFF 機能により、点灯中のヘッドライトおよびポジションランプが 10 分後に消灯します。
- 自動で消灯した後にライトスイッチのポジションを切り替えた場合、切り替えたポジションに応じてライトが点灯します。このとき、オート OFF 機能の作動条件が揃うと、再度オート OFF 機能が作動します。
- オート OFF 機能の解除: 車両の電源を入れると、オート OFF 機能が OFF になります。ライトスイッチは、通常通り操作できます。

- オート OFF 機能によりランプが消灯し、イモビライザー作動後に再度イモビライザーを OFF にした場合、消灯したランプが自動的に再度点灯します。運転席側ドアを開けていなければ、オート OFF 機能によりランプが 10 秒後に再度消灯します。ドアを開けると、オート OFF 機能によりランプが 10 分後に消灯します。

ヘッドライト残照機能

- 降車後のヘッドライト点灯機能：

- ドライバーは、マルチメディアタッチスクリーンから降車後のヘッドライト点灯機能の点灯時間を設定できます。点灯時間の初期値は 10 秒です。ライトスイッチを 、、または  に回し、電源ポジションが「OFF」にして、すべてのドアを施錠した状態で車両から離れようとする、該当ライトが 10 秒（または設定された時間）点灯します。

- 乗車前のヘッドライト点灯機能：

- ドライバーは、マルチメディアタッチスクリーンで乗車前のヘッドライト点灯機能の点灯時間を設定することができます。点灯時間の初期値は 10 秒です。ドライバーがライトスイッチを 、、または  に回し、解錠された車に接近しようとする、該当ライトが 10 秒（または設定された時間）点灯します。

- ライトの点灯時間および消灯時間は、 → 車両設定 → 照明&アンビエント の画面で設定値を変更することができます。

ヘッドライトの高さ調節

ドライバーは、ロービームを ON にした状態で  → **車両設定** → **照明&アンビエント** の設定画面から **ヘッドライト高さ調整** で、ヘッドライトの照射角を調整できます。



車の負荷状況	ライトの推奨グレード
ドライバーのみ	0 ~ 2
ドライバーおよび助手席の乗員	
満員	0 ~ 2
満員、トランクルーム満載（均一分布で、技術上許容される最大負荷で計算します）	1 ~ 3
ドライバーのみ、トランクルーム満載（均一分布で技術上許容される最大負荷で計算します）	1 ~ 3

■ 車両により負荷状況が異なる場合があるため、実際の状況に応じて調整してください。

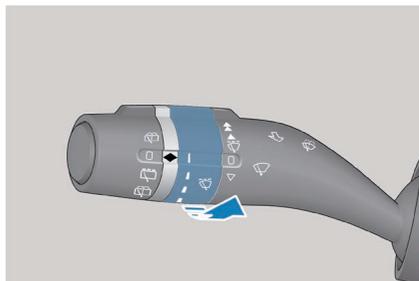
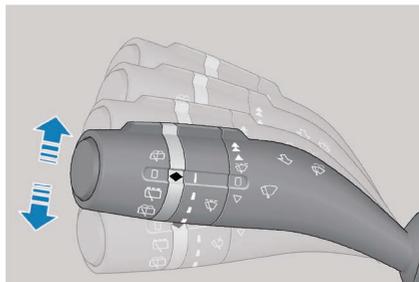
ワイパースイッチ

フロントワイパーとウォッシャー

- レバーを動かしてワイパーとウォッシャーを操作します。レバーは5段階切り替えとなっています。

- ▲：高速モード
- △：低速モード
- ☒：間欠モード
- 0：停止
- ▽：ミストモード

- モードを切り替える場合は、上または下にレバーを操作します。
- 低速および高速モードの場合、ワイパーは連続的に作動します。
- ミストモード▽でワイパーを作動させるには、0位置からレバーを下方に下げます。ワイパーは、レバーを離すまで低速で作動します。
- 間欠モード☒の間欠時間は、ワイパースイッチの間欠時間設定ツマミを回して調整します。雨量マークの幅が狭くなるほど間欠時間が長くなります。



3

フロントローラーの操作

フロントウォッシャ

- フロントガラスを洗浄する場合は、レバーを手前（ステアリングホイールに近づける方向）に引くと、ウォッシャ液が噴射すると同時にワイパーが作動します。
- ワイパースイッチを動かす時間が1秒以下の場合、ワイパーは1回作動します。1秒以上の場合、ワイパーが2回作動します。

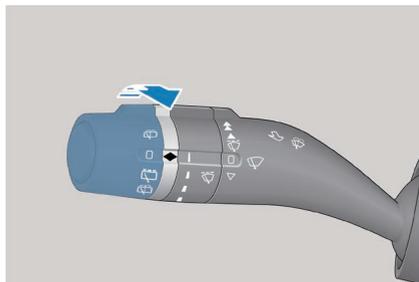
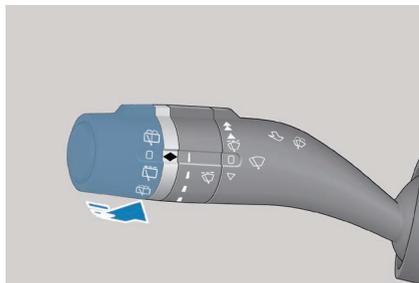


⚠ 警告

- 寒冷時は、ガラスに噴射したウォッシャ液が凍結することで視界が妨げられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。ウォッシャ液を噴射する前に、ガラスをヒーターで温めてください。
- 寒冷地では不凍剤の含まれたウォッシャ液を使用してください。不凍剤が入っていないウォッシャ液を使用すると、ガラスの視界が妨げられることがあります。

リアワイパーおよびウォッシャ*

- ワイパースイッチのツマミを  位置に回すと、リアワイパーが作動します。
ツマミを 0 に回すかテールゲートを開けると、ワイパーが止まります。
- スイッチをリアワイパーの  位置に回して保持すると、リアワイパーとウォッシャが同時に作動します。
- スイッチをリアワイパーの  位置に回すと、ウォッシャ液が噴射された後、ワイパーが2回作動して停止します。



⚠ 注意

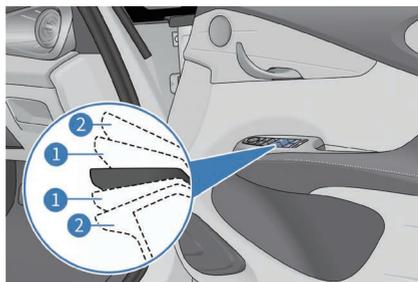
- ウォッシャーを 10 秒以上連続作動させたり、ウォッシャー液が切れている状態で作動しないでください。オーバーヒートによりモーターが破損するおそれがあります。
- ワイパー機能は車両仕様により異なります。

i アドバイス

- 定期的にブレードを点検し、ブレードの汚れを除去してください。
- 雨が降り出した直後にワイパーを作動させると、雨水に土砂やほこりが混じってしまうため、フロントガラスをきれいに拭き取れないことがあります。また、視界も一瞬でぼやけてしまうため、運転に影響を与えるおそれがあります。
- ガラス洗剤液を使ってください。水や他の洗剤液を使うと、ワイパーモーターの破損につながるおそれがあります。
- テールゲートが開いている、または確実に閉まっていない場合、リアワイパーの制御機能は作動しません。テールゲートをきちんと閉じるとリアワイパーの制御機能が復帰します。

パワーウィンドウスイッチ

- 運転席側のウィンドウスイッチは 4 つあり、それぞれのウィンドウガラスの開閉を制御できます。
 - 下降：スイッチを押す。
 - 上昇：スイッチを引き上げる。

**自動操作**

- 自動下降：2 段階までスイッチを押し込んでから手を離すと、ウィンドウガラスが自動で下がります。
- 自動上昇：2 段階までスイッチを引き上げてから手を離すと、ウィンドウガラスが自動で上がります。
- 途中で止めるときは、反対方向に軽く押します。

手動操作

- 手動下降：1段階までスイッチボタンを押し続けると、ウィンドウガラスは下がり続けます。
- 手動上昇：1段階までスイッチボタンを引き上げ続けると、ウィンドウガラスは上がり続けます。

電源ポジション OFF 後の作動機能

- 電源ポジションを「OFF」にした後、フロントドアを開けない場合、10分以内まではウィンドウガラスを開閉する機能を使用してウィンドウガラスの開閉操作ができます。フロントドアを開けるとウィンドウガラス開閉操作ができなくなります。

▲ 警告

- パワーウィンドウを閉じるときは、ウィンドウガラスで手や指を挟まないようにしてください。
- 走行中は顔や身体を車外に出さないでください。車外のものに当たり、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ウィンドウガラスを開閉するときはお子様に声をかけ、手や指などを挟まないことを確認してから操作してください。
- リアシートにお子様に乗っている場合は、リアウィンドウスイッチをロックすることをおすすめします。

挟み込み防止機能*

ウィンドウガラス上昇中に人やものが挟まれると、ウィンドウガラスの上昇が止まり、自動的に下がります。

挟み込み防止機能の初期化*

- ウィンドウガラスの上昇または下降中に起動バッテリーの接続を解除すると、ウィンドウガラスの自動上昇および挟み込み防止機能が無効になります。復帰させる場合は、次の方法で復帰させてください。
 - パワーウィンドウスイッチを引き上げ続けてウィンドウガラスを全閉し、全閉位置で0.5秒間作動させ続けます。
 - 自動でウィンドウガラスを全閉にする場合は、ウィンドウガラスがガラスランラバー上部付近を上昇中に一定の抵抗が検知されると、ウィンドウガラスは挟み込み防止のために下がります。

⚠ 警告

生命にかかわる重大な傷害を防止するために、ウィンドウガラスを閉じる場合は、下記の注意事項を守ってください。

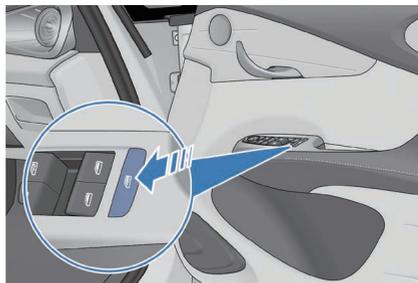
- ウィンドウガラスを操作するときは、ドライバーや乗員の身体が挟まれないようにきちんと確認してから操作してください。
- 絶対に、お子様にパワーウィンドウを操作させないでください。
- 身体の一部で、挟み込み防止機能を故意に作動させないでください。
- ウィンドウガラスが閉まり切る直前に挟まれたとき、ものによっては、挟み込み防止機能が作動しないおそれがあります。

⚠ 注意

- 挟み込み防止機能の初期化を頻繁に行うと、パワーウィンドウモーターの過熱保護機能が作動します。
- ウィンドウガラス自動上昇機能と挟み込み防止機能が作動しない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に点検を依頼してください。

ウィンドウロックキー

- ウィンドウロックキーを押してウィンドウロック表示灯が赤色に点灯すると、ドライバー側のスイッチでのみ 4 ドアのウィンドウガラスの開閉操作ができます。リアウィンドウスイッチでは、ウィンドウガラスの開閉ができません。
- 再度ウィンドウロックキーを押すと、ウィンドウロック表示灯が消灯してリアウィンドウスイッチが操作できます。

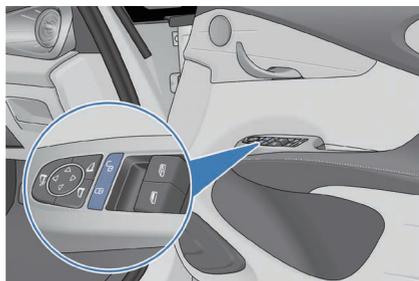


集中ドアロック

運転席側のドアには電動ドアロックを搭載しています。2つのボタンですべてのドアの施錠や解錠ができます。

施錠

「集中ドアロック施錠」ボタンを押すと、すべてのドアロックが同時に施錠され、施錠の表示灯が赤く点灯します。

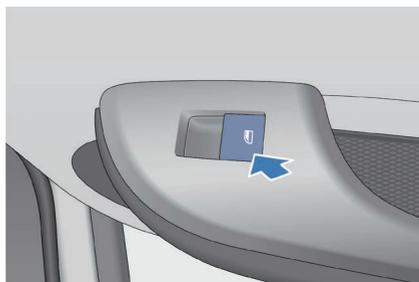


解錠

「集中ドアロック解錠」ボタンを押すと、すべてのドアロックが同時に解錠され、施錠の赤の表示灯が消灯します。

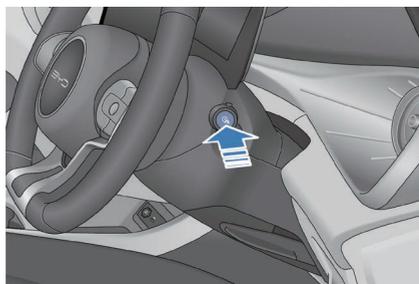
助手席側ウィンドウスイッチ

車両の電源ポジションが「OK」の場合は、助手席側およびリアドアのウィンドウスイッチで、助手席側ウィンドウガラスおよびリアウィンドウガラスの上昇/下降を操作できます。



走行距離切替スイッチ

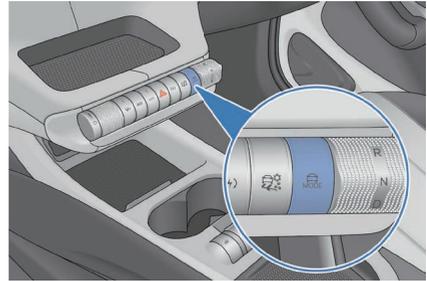
- 「走行距離切替」スイッチを押すと、「odo メーター」——「TRIP A」——「TRIP B」の切り替えができます。それと同時に、コンビネーションメーターには切替状態が表示されます。
- 「TRIP A」、「TRIP B」を長押しすると、走行距離がリセットできます。



モードスイッチユニット

走行モード

ホイールを回すと、NORMAL/ECO/SPORT の3つのモードを切り替えることができます。

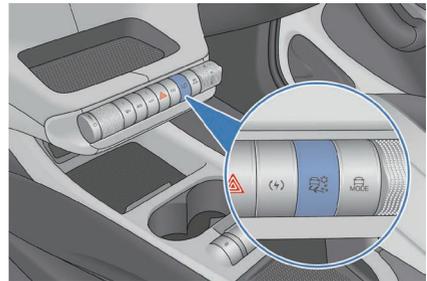


- エコモード (ECO)：モーター出力を抑制し電費を向上させ、快適なドライブ体験が得られるモードです。
- ノーマルモード (NORMAL)：標準設定モードで、システムのデフォルトとして設定された走行モードです。
- スポーツモード (SPORT)：良好なモーター出力が得られますが、バッテリーの残量が少なく、車が高温や低温などの環境である場合は、加速性能がやや低下します。

スノーモード

ホイールを回すと、雪道走行専用モードに入ります。OFF にするときは、再度ホイールを回します。

- 表面が固いものや滑りやすいもの（草、雪、氷や砂利など）で覆われている路面で使用します。
- スノーモードは、滑りやすい状況でのトラクション、乗り心地、ハンドリング特性、アクセルペダルの慎重な操作を最適化します。



3

コントローラーの操作

⚠ 注意

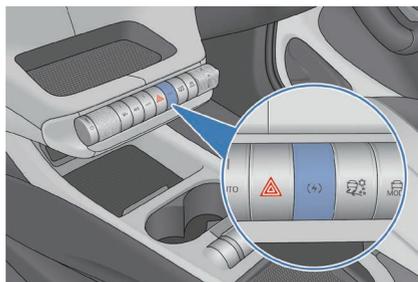
- 雪道走行時、ダイナミックスタビリティコントロールを作動することでモーター性能が低下する場合は、ESC システムを OFF にすれば、改善されることがあります。解消した後、ESC は新たに ON する必要があります。

i アドバイス

- ドライバーが「ECO モード」、「NORMAL モード」、「SPORT モード」、「スノーモード」の切り替えを操作し、アクセルペダルを完全に離すと、モーターの出力特性がドライバーのニーズに応じて変わるため、安全に注意してください。
- 「ECO モード」、「NORMAL モード」、「SPORT モード」、「スノーモード」では、電源 OFF 時の記憶機能を備えており、電源を切ってから再始動した場合、前回電源 OFF 時のモードを維持します。

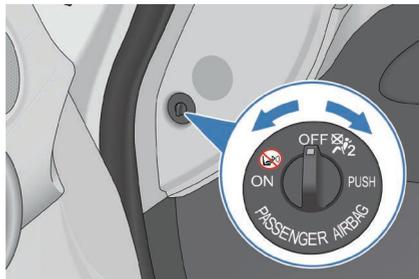
「回生ブレーキ」モード

ホイールを回すと、標準回生ブレーキ / 強い回生ブレーキの 2 つのモードを切り替えることができます。



助手席側エアバッグスイッチ

- 助手席側エアバッグスイッチを備えている場合は、スイッチ操作で助手席側エアバッグを ON/OFF にすることができます。
- 助手席側エアバッグスイッチは、助手席側のインストルメントパネルに設置されているため、操作時は助手席側のドアを開けてから操作してください。
- 助手席側エアバッグ状態表示灯は、車両のヘッドライニングに付いています。
- 運転時は、スイッチが要求される位置にあるかを確認してください。
- 助手席の使用状況により、助手席側エアバッグの ON または OFF を操作してください。
 - スイッチが「ON」の位置にある場合は、助手席側エアバッグが ON になります。助手席側エアバッグ状態表示灯「PASSENGER AIRBAG」が常時点灯すると、「ON」が点灯して「OFF」が消灯します。中程度から重度の衝突事故が発生し作動条件が揃うと、助手席側エアバッグが展開します。
 - スイッチが「OFF」の位置にある場合は、助手席側エアバッグが OFF になります。助手席側エアバッグ状態表示灯「PASSENGER AIRBAG」が常時点灯し、「ON」およびが消灯して「OFF」およびが点灯します。中程度から重度の衝突事故が発生し作動条件が揃っても、助手席側エアバッグは展開しません。



⚠ 警告

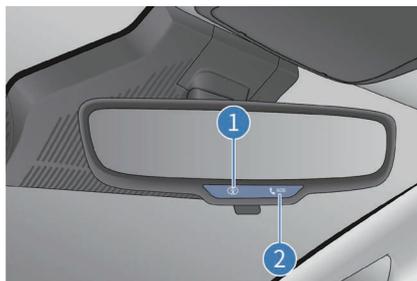
- 生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあるため、助手席側エアバッグを ON にした場合は、助手席に後向き装着タイプのチャイルドシートを取り付けしないでください。
- 大人が助手席に座る場合は、必ず助手席側エアバッグスイッチを「ON」にしてください。
- スイッチを「OFF」にしているのに「ON」の状態になっている場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

⚠ 注意

- エアバッグシステムの破損を防ぐため、車両の電源ポジションを「OFF」にしてからスイッチを操作してください。
- ドライバーは、助手席側の乗員のためにスイッチが正しい位置にあることを確認してください。

自動緊急通報システム E-Call

- 1 E-Call 状態表示灯
- 2 SOS ボタン



- E-Call とは、緊急通報システムのことです。E-Call を手動で利用する場合は、SOS と表記された呼び出しボタンを 2 秒以上押してください。
- エアバッグが展開したり、激しい衝突を検出した場合は、E-Call が自動的に緊急通報します。
- E-Call は、緊急通報専用のコールセンターへ手動または自動で通報し、緊急通報をします。オペレーターの問いかけに応答できる場合は、質問に合わせて状況の説明をお願いいたします。

3

コントローラーの操作

警告

- SOS の呼び出しボタンを押すときは、安全なところに停車してから行ってください。走行中に押そうとすると注意が散漫になり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

注意

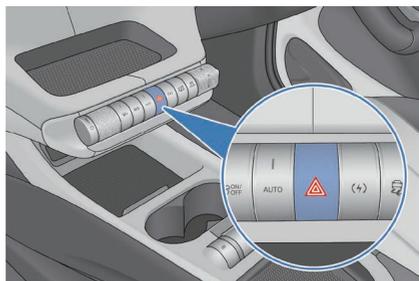
- E-Call を発報すると、以下の条件以外で車両側からの操作で E-Call をキャンセルすることはできません。
 - E-Call システムから 10 回以上 E-Call 専用コールセンターを呼び出しても応答がない。
 - E-Call 専用コールセンター側から E-Call を終了する。

アドバイス

- E-Call とは、事故や急病などの緊急時に、消防や警察、医療機関への連絡を補助するサービスです。
- エアバッグが展開する自動緊急通報後は、自動通報機能が使用できなくなりますので、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡してください。

ハザードランプスイッチ

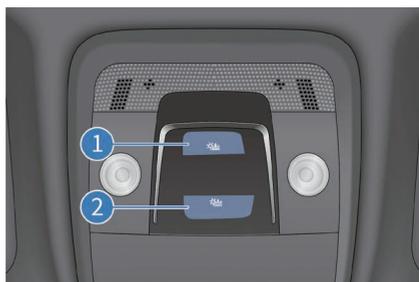
▲スイッチを回すと、すべてのターンシグナルランプが点滅すると共に、コンビネーションメーター内の方向指示表示灯が点滅します。再度▲スイッチを回すと、点滅が止まります。



サンシェードスイッチ *

サンシェードを開ける

- サンシェードオープンボタン①を押し続けると、サンシェードが開きます。途中でボタンを離すと、現在の位置で止まります。
- サンシェードオープンボタン①を押し直後に離すと、サンシェードは自動で開きます。途中でボタン①またはボタン②を押すと、現在の位置で止まります。



サンシェードを閉める

- サンシェードクローズボタン②を押し続けると、サンシェードが閉まります。途中でボタンを離すと、現在の位置で止まります。
- サンシェードの初期化をしている場合、サンシェードクローズボタン②を押した直後に離すと、サンシェードが自動で閉まります。途中でボタン①またはボタン②を押すと、現在の位置で止まります。

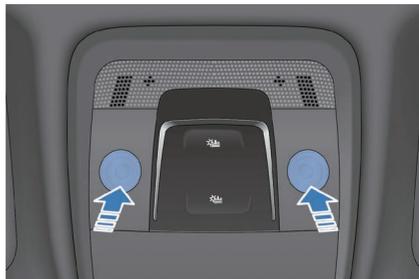
▲ 注意

- サンシェードの開閉中の破損を避けるため、サンシェードに強い外力を与えないでください。

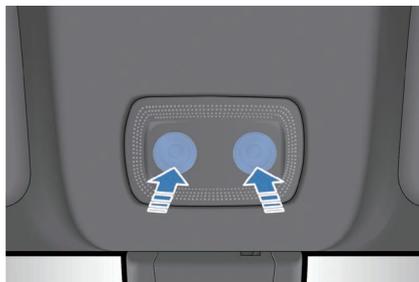
ルームランプスイッチ

電源ポジションを問わず、フロントルームランプのレンズに触るとランプが点灯します。

仕様 1



仕様 2



3

コントローラーの操作

i アドバイス

- いずれかの電源ポジションでドアスイッチを ON にしている場合は、ドアが開いている状態でスイッチに触ると、ルームランプの高照度・低照度を切り替えることができます。
- 電源ポジションを「OFF」にしてドアスイッチを ON にしている場合は、ドアが開いている状態でしばらくすると、ルームランプが消灯します。

4-1 充電 / 放電について	111		
充電について	111		
充電方法	117		
充電ポート盗難防止			
ロック機能	127		
外部給電方法	129		
4-2 バッテリー	132		
パワーバッテリー	132		
起動バッテリー (12V)	136		
4-3 ご利用要領	139		
慣らし運転期間	139		
トレーラーのけん引	139		
安全運転上のご注意	140		
荷物の積み込み	141		
冠水路の走行	143		
火災の予防	145		
電気の省エネで車を			
長持ちさせる方法について ..	147		
4-4 始動および運転	149		
車の始動	149		
車の運転	151		
シフト機構	153		
電動パーキングブレーキ			
(EPB)	155		
オートビークルホールド			
(AVH)	159		
運転要領	162		
4-5 運転支援機能	164		
アダプティブクルーズコント			
ロール (ACC) システム ..	164		
		ナビゲーションパイロット	
		(ICC)	170
		衝突予測警告 (PCW) および	
		自動緊急ブレーキ (AEB)	173
		フロントクロスストラフィック	
		アラート (FCTA) および	
		フロントクロスストラフィック	
		オートブレーキ (FCTB)	178
		交通標識認識システム	
		(TSR)	180
		インテリジェントスピード	
		リミットコントロール	
		(ISLC)	182
		ハイビームアシストシステム	
		(HMA)	184
		レーンサポートシステム	
		(LDA)	186
		緊急時車線維持支援	
		(ELKA)	189
		ブラインドスポットアシスト	
		システム (BSA)	191
		ドライバー眠気注意力警告	
		(DAW)	194
		幼児置き去り検知 (CPD)	195
		タイヤ空気圧モニタリング ..	197
		車両接近通報装置 (AVAS) ..	199
		BYD アラウンドビュー	
		システム	200
		駐車支援システム	202
		安全運転支援システム	207

4-6 他の主要機能について…	214
ルームミラー……………	214
電動ドアミラー……………	215
ワイパー……………	217
タイヤチェーン……………	219

充電について

⚠ 警告

- 充電設備は高電圧が掛かっているため、お子様だけで充電をしたり充電設備を使わないでください。また、充電中はお子様を充電設備に近づけないでください。
- 充電が医療電子機器や植え込み型電子機器に与える影響については、電子機器メーカーへ確認してから充電作業を行ってください。
- 安全な場所で充電してください（液体、火元、熱源などがある環境を避けるなど）。
 - 雨の中で充電するときは、水が掛からないように充電装置を保護してください。
 - 雷が鳴っているときは落雷で感電するおそれがあるため、車両、充電器、充電ケーブルに触れないでください。
- 充電前の設備点検および操作について
 - 給電設備、充電コネクタ、充電ポート、車載充電ケーブルなどに、ケーブルの摩耗やポートの錆び、ケースの割れ、またはポート内の異物付着などの異常がないことを確認してください。
 - プラグやソケット、充電コネクタ、充電ポートの金属端子が錆びや腐食で破損している場合、または緩みがある場合は充電しないでください。
 - プラグやソケット、充電コネクタ、充電ポートが明らかに汚れている場合、または濡れている場合は、乾燥している清潔な布で拭いてください。
 - コードやケーブルが断線して発熱し、発火するおそれがあるため、プラグやコード、ケーブルを動かすと充電が停止する場合は、使用を中止してください。
 - コードやケーブルが断線して発熱し、発火するおそれがあるため、コードやケーブルを引く、ねじる、曲げる、踏む行為はしないでください。
 - コードやケーブルが断線して発熱し、発火するおそれがあるため、コードやケーブルをコネクタやコントロールボックスなどに巻き付けしないでください。
 - 給電プラグは本体部分を持ち、コンセントに対して真っすぐ奥まで挿し込んでください。確実に挿し込めていないと、発熱して発火するおそれがあります。

⚠ 警告 (続き)

- 規格に適合する充電設備で充電してください。
 - 誤って使用すると感電のおそれがあるため、充電用コンセントは電気工事の資格を有する専門業者が施工したものを使用してください。
 - 誤って使用すると感電のおそれがあるため、アースがつながっている充電用コンセントを使用してください。
 - 故障や火災を防ぐため、充電設備および関係ポートの改造や取り外し、修理はしないでください。
 - 安全基準を満たさない充電設備、または潜在的危険性がある充電設備で充電しないでください。また、充電中はお子様やペットを充電設備に近づけないでください。
- 感電による傷害につながるおそれがあるため、手が濡れている状態で操作しないでください。
- 充電中に車両や充電設備に異常が見つかった場合は、ただちに充電を停止し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 充電中は、モータールームを開ける必要がある修理をしないでください。
- 感電による傷害につながるおそれがあるため、充電完了後は、濡れた手や水の中などに入った状態で充電設備を切り離さないでください。
 - 発進する前に、充電設備が充電ポートから切り離されていることを確認してください。

充電上のご注意

- コンビネーションメーター内のパワーバッテリー残量 (SOC) 表示が赤いエリアにある場合は、パワーバッテリーの残量が低下しています。残量が赤いエリアまで低下しているときは早めに充電してください。また、パワーバッテリーの寿命を縮めてしまうため、バッテリーが切れてから充電することは避けてください。
- 家庭用 AC 普通充電とは、車両に装備されている車載 AC 充電ケーブルを使用して充電することです。規格に適合する専用交流回路と電源ソケットを使用してください。専用回路は、回路の破損またはパワーバッテリーへの高出力充電による回路トリップから、安全を守るためのものです。専用回路を使用せずに充電すると、回線上の他の機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

- 充電設備の破損を防ぐために（充電設備利用上のご注意）
 - 充電設備に衝撃を与えないでください。落下や外部からの衝撃などによる機械的破損がないように注意してください。
 - 充電設備をヒーターや他の熱源の近くに置かないでください。
- 充電前に充電コネクタを挿し込む：
 - 充電前に、充電コネクタと充電ポートに異物が付着していない、充電コネクタ端子の絶縁キャップに緩みや変形がないことを確認します。
 - 充電コネクタを持ち、充電コネクタを充電ポートに合わせてから押し込み、充電コネクタを充電ポートに確実に取り付けます。
- 充電完了後に充電コネクタを抜き出す：
 - 充電を停止し、充電ポートのロックが解錠されていることを確認します。
 - 充電コネクタを持ち、充電コネクタ上のボタンを押しながら充電コネクタを抜き出します。
 - 充電ポートがロックされたまま充電コネクタを抜き出さないでください。充電ポートを破損させるおそれがあります。
- 充電上のご注意：
 - 充電中に車両を始動してエアコンを使用できますが、充電電力を確保するため、エアコンを使用しないことをおすすめします。
 - 充電時は車両から降りることをおすすめします。
 - 充電時は換気の良い場所に車両を止めてください。
- パワーバッテリーがフル充電になると、システムが自動的に充電を停止します。充電ポートには盗難防止ロックが装備されているため、ロックを解錠してから充電コネクタを抜き出してください。
- DC 充電を停止する場合は、充電器を OFF にしてから充電コネクタを切り離してください。家庭用 AC 普通充電で充電する場合は、車両側の充電コネクタを切り離してから電源側のプラグを抜き出してください。
- 充電が完了し充電コネクタを抜き出した後、充電ポートキャップおよび充電ポートフラップを確実に閉じてください。水や異物が充電ポートに入ると正常に使用できなくなるおそれがあります。
- 車両を始動させる前に、充電設備が切り離されていることを確認してください。充電コネクタを最後まで挿し込まないと、充電設備のロック機構が機能しないため、充電コネクタをつないだまま車両を発進させてしまうと、充電設備および車両の破損につながるおそれがあります。

- バッテリー温度が低すぎる、または高すぎる場合、バッテリーの充電性能に影響を与えるおそれがあります。
- 低温の環境で充電する場合、温度コントロールシステムでバッテリー低温時の充電能力を改善させることができます。充電スタンド出力の制限により、充電時間や加熱時間が延び、加熱による電気消費が増えますが異常ではありません。
- DC 充電時に気温が低く残量が多い場合は、バッテリーの低温特性により充電電流が小さくなります。残量が少ない状態でバッテリーを充電すると、充電速度を上げることができます。
- 車両の使用直後は、バッテリーの温度が相対的に高く充電性能が優れているため、車両の使用直後の充電をおすすめします。
- 低温の環境で充電中にエアコンを使用する場合、バッテリー温度コントロールシステムの性能および充電性能に影響を与えるおそれがあります。
- 充電中にバッテリー温度コントロールシステムが作動した場合、コンビネーションメーターやマルチメディアタッチスクリーンの充電電力が、一時的に変動して表示されることがありますが異常ではありません。
- バッテリーを長持ちさせるため、充電が完了前にバッテリー補正機能が作動することがあります。バッテリー補正機能が作動すると、充電時間が長くなることがあります。
- 高温の環境で、DC による高出力充電を行う場合は、バッテリー温度コントロールシステムの充電性能がエアコンの使用により低下し、充電時間が長くなることがあります。充電効率を確保するため、充電中はエアコンを使用しないことをおすすめします。
- 充電中に加熱や冷却を行う場合、充電時間が延び、充電中の電気消費も増えますが異常ではありません。
- 充電中および充電終了後のしばらくの間、バッテリー冷却システムが作動してコンプレッサーやファンなどの作動音がモータールームから聞こえますが異常ではありません。
- 充電時、コンビネーションメーターやマルチメディアタッチスクリーンにフル充電の所要時間が表示されます。温度や残量、または充電施設などにより、フル充電目安時間は多少異なりますが異常ではありません。
- 天候などにより充電ポートフラップが凍り付いた場合は、強引に開けようとせず温水で溶かしてから開けてください。

i アドバイス

- 充電ポートフラップが解錠されるまでは、充電ポートフラップを強制的に開けないでください。
- 充電ポート盗難防止ロックを解錠せずに充電コネクタを強制的に挿し込まないでください。
- 充電ポートキャップを外した状態で充電ポートフラップを閉じないでください。
- 充電中、放熱ファンとエアコンのコンプレッサーがパワーバッテリーの加熱や冷却の必要性により、自動的に作動することがありますが異常ではありません。

一般充電故障の診断

症状	考えられる原因	対処方法
充電されないとき：充電設備に接続して充電をスタートしている	パワーバッテリーがフル充電になっている	パワーバッテリーがフル充電になっている場合は、自動的に充電を停止します。
	パワーバッテリー温度が設定温度より低い / 高い	パワーバッテリーが加熱、または冷却されるまで適切な場所に停車し、温度が正常になるのを待ってから充電してください。
	起動バッテリーが過放電になっている	起動バッテリーを交換してください。
	充電設備が故障している	充電設備の電源表示灯が正常に点灯していない、またはその他の異常表示がないかを確認し、別の充電設備で充電を行うかスタッフにご連絡ください。
	車両表示故障	コンビネーションメーターに充電システム故障メッセージが表示されている場合は、充電を停止してBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡してください。
充電が途中で止まった	交流回路が停電している	電源が復旧すると、自動的に充電を再開します。
	充電コネクタがきちんと接続されていない	充電コネクタが確実に接続されていることを確認してください。
	充電コネクタスイッチが押し込まれている	充電コネクタスイッチが押し込まれると、充電が停止するため、充電コネクタを新たに接続して充電をスタートする必要があります。
	パワーバッテリーの温度が高すぎる	コンビネーションメーター内のパワーバッテリー過熱警告灯が点灯すると、充電が自動的に止まります。バッテリーを冷却してから充電を再開してください。
	車両や充電スタンドが故障している	充電スタンドや故障メッセージが表示されていないかを確認し、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡してください。

充電方法

■ 充電前の点検：

- 充電装置のキャビネットの割れ、ケーブルの摩耗、プラグの錆、または異物の付着などの異常がないことを確認します。
- 充電コネクタを挿し込んででも緩みがある場合は、充電しないでください。
- 充電ポートに水または異物がない、金属端子に錆や腐食がないことを確認します。

■ 上記のことがあるときは充電しないでください。ショートや感電などにより、身体に危害を与えるおそれがあります。

家庭用 AC 普通充電

1. 充電器について

- 車両と規格に適合するコンセントを接続し、バッテリーを充電します。仕様は、AC200V です。
- 高出力充電による回路焼損や自動保護ブレーカーが誤作動し、他の設備へ影響を与えることを避けるため、ソケットは規格に適合する家庭用コンセントを選択してください。
- 車載された装置は AC200V 用で、規格に適合する給電プラグ、充電コネクタ、コントロールボックス、充電ケーブルで構成された、Mode2 タイプです。給電プラグを家庭用コンセントに挿し込み、充電コネクタを車両の充電ポートに挿し込みます。
- 充電時間：コンビネーションメーターまたはマルチメディアに表示される充電時間についてのご注意を参照してください。

⚠ 警告

- 充電に関する警告の詳細は、「[充電について](#)」における充電関係の警告を参照してください。
- 周囲温度：最大 50℃までとし、充電装置を使わないときは、乾燥した冷暗所に保管してください。
- 充電中、充電装置をトランクルームや車両前部の下、タイヤの近くに置かないでください。
- 使用中は、車両にひかれたり地面に落とす、または人に踏まれることがないようにしてください。
- 充電装置を移動するために直接ケーブルを引っ張る、または落下させることは禁止されています。
- 充電装置を移動させるときは取り扱いに注意してください。また、充電設備や関係ポートに対する改造や取り外し、修理は禁止されています。
- 後付けの電線やアダプター / コンバーターを使わないでください。
- 家庭用給電コンセントのコードが柔らかくなった場合や、充電コネクタケーブルの摩耗、絶縁層の破裂やその他の破損がある場合は、充電設備を使用しないでください。
- 充電コネクタ、給電プラグ、家庭用コンセントの断線や破裂、または表面の破損がある場合は、充電設備を使用しないでください。
- 充電ポートフラップの故障を防ぐため、必要以上に充電ポートフラップを開閉しないでください。充電ポートフラップの開閉操作 2 回の時間間隔は 1 秒以上をおすすめします。

⚠ 注意

- BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場や認定技術者に連絡し、充電設備の要求事項に従い、適切な電源を選択してください。
- 充電設備のアースについて：設備のアース工事を確実にしてください。充電設備に故障や破損が起きた場合、アース線は最小抵抗の回路を介して電流を逃し、感電の危険性を下げます。
- 給電プラグは、安全基準に適合し正しく設置されており、アースを確実に取っている家庭用コンセントと合っているものを使用してください。

ℹ アドバイス

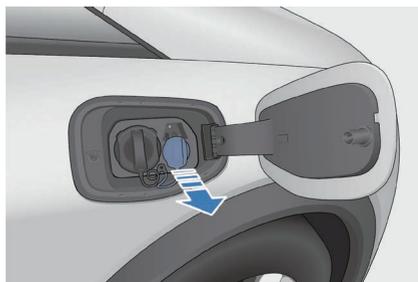
- 充電中の放熱性が悪くなるため、充電ケーブルを巻いたまま使用しないでください。
- 充電に関するご注意の詳細は、「[充電について](#)」を参照してください。

2. 充電をする場合

- 電源ポジションを「OFF」にし、ドアロックを解錠して充電ポートフラップを押し込んで開けます。



- 充電ポートキャップと充電コネクタのカバーを開け、充電コネクタのプラグと車両側コンセントの部分に、障害物がないかを確認します。



4

使用および運転

i アドバイス

- 充電ポートフラップが解錠されるまでは、充電ポートフラップを強制的に開けないでください。
- 天候などにより充電ポートフラップが凍り付いた場合は、強引に開けようとせず温水で溶かしてから開けてください。

- 給電ポート側の接続：
 - Mode 2 タイプの給電プラグを家庭用コンセントに挿し込みます。
- 車両側の接続：
 - 充電コネクタを車両側充電ポートに挿し込みます。
- 充電コネクタを適切に挿し込むと、コンビネーションメーターの充電接続表示灯 **SCF** が点灯します。

▲ 注意

- 充電ポート盗難防止ロックを解錠せずに、充電コネクタを挿し込まないでください。
- 充電中は、コンビネーションメーターに関係充電パラメーターと充電画面が表示されます。
 - このとき、マルチメディアからスマート充電を設定することができません。設定手順の詳細は「[充電予約](#)」を参照してください。
- スマート充電が設定されている場合、普通充電はできません。
- 充電中は、コンビネーションメーターにフル充電までの目安時間が表示されます。目安時間は、温度や残量、充電施設などにより多少増減をしますが異常ではありません。
- バッテリー残量が少ない場合、スマート充電は使用できません。

3. 充電を停止する場合

- 充電が完了する：
 - フル充電になると、自動的に充電が完了します。
- 充電ポートの接続を切る：
 - 盗難防止機能がOFFの場合は、実際の状況に応じて充電コネクタ上のメカボタンを押してから充電コネクタを抜き出すか、そのまま充電コネクタを抜き出してください。
 - 盗難防止機能が有効になっている場合は、リモートキーのアンロックボタン、またはドアハンドルのマイクロスイッチを押して、充電コネクタを外します。

i アドバイス

- 車両を解錠した状態でリモートキーの「アンロック」ボタンを押す（電源ポジション「OFF」で充電するとき）、または運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押します（リモートキーが近くにあるとき）。
- 充電ポート盗難防止ロック機能が作動している場合は、充電コネクタを抜き出す前に車両を解錠し、充電ポート盗難防止ロック機能を解錠後、30秒以内に充電コネクタを抜き出してください。抜き出さないと、充電ポート盗難防止ロック機能が作動して再度施錠します。
- 充電ポート盗難防止ロックの作動モードは、マルチメディアから設定できます。設定手順の詳細は、「[充電ポート盗難防止ロック機能](#)」を参照してください。
- ロック解錠操作をしても充電コネクタが抜き出せない場合は、数回ほど解錠操作を繰り返してください。それでも抜き出せないときは、非常解錠を操作してください。操作手順は「[充電ポート盗難防止ロック機能](#)」を参照してください。
- 充電ポート盗難防止ロック機能をOFFにしても充電コネクタを抜き出せない場合は、車両を解錠してから再度操作してください。

- 給電プラグを外します。
- 車両の充電ポートキャップと充電ポートフラップを閉めます。
- 使用した充電設備を元に戻します。



! 警告

- Mode 2 タイプを移動するために直接ケーブルを引っ張る、または落下させることは禁止されています。設備を移動させるときは取り扱いに注意し、使用後は充電装置を冷暗所に保管してください。

i アドバイス

- 充電ポートキャップを全開している状態で、充電ポートフラップを閉じないでください。

AC 充電スタンドでの充電

1. 充電器について

■ 単相（AC）壁掛け式充電ボックス *

- 基準に適合する家庭用充電ボックスで車両のバッテリーを充電します。充電設備の使い方は、使用する充電設備のマニュアルを参照する、または本マニュアルに従って操作してください。
- 単相（AC）壁掛け式充電ボックス：この装置は、充電ボックス、充電コネクタ、およびケーブルで構成されています。断路器、非常停止スイッチなどについては、充電ボックスの取扱説明書を参照してください。

■ 単相 AC 充電スタンド

- 公共の場に設置される AC 充電スタンドで車のバッテリーを充電します。
- 充電時間：コンビネーションメーターまたはマルチメディアに表示される充電時間についてのご注意を参照してください。

2. 充電する

■ 車両を解錠し、充電ポートフラップを開けます。

- 「[家庭用 AC 普通充電](#)」の充電を参照し、充電ポートフラップを解錠して開けます。

■ 車両側の接続：

- 充電装置の充電コネクタを車両の充電ポートに挿し込み、確実に施錠します。

■ 充電の設定：

- 認証を必要とする AC 充電スタンド / ボックスについては、カードをかざす、または QR コードをスキャンしてください。取り扱い方法の詳細は、充電スタンド / ボックスの取扱説明書を参照してください。

■ コンビネーションメーター充電接続表示灯 が点灯します。

■ 充電中、コンビネーションメーターには関係充電パラメーターが表示されます。また、充電画面も同時に表示されます。

3. 充電を停止する

- 充電完了：
 - 任意で充電を終了させる、またはフル充電になると、充電が自動的に止まります。
- 充電ポートの接続を切る：
 - 「**家庭用 AC 普通充電**」の充電を参照し、充電ポートの接続を切り離します。
- AC 充電ポートフラップを閉めます（「**家庭用 AC 普通充電**」についての説明を参照してください）。
- 充電設備を整理し、適切に保管してください。
 - AC 充電スタンド / ボックスの場合は、充電コネクタを充電スタンド / ボックスの指定位置に戻します。

DC 急速充電

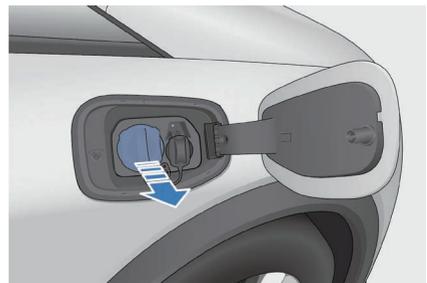
1. 充電器について

- 公共の DC 急速充電器で車両のバッテリーを充電します。DC 急速充電器は、特定の充電スポットに設置されています。
- 充電時間：コンビネーションメーターに表示される充電時間についてのご注意を参照してください。
- 設備規格：CHAdeMO 対応。充電器関連の説明を読んでください。

2. 充電する

CHAdeMO の充電コネクタを使って車両と DC 充電スタンドを接続し、DC 急速充電をします。

- 充電ポートフラップを解錠し、充電ポートフラップおよび充電ポートキャップを開けます。
- 車両側の接続：
 - CHAdeMO の充電コネクタを車両の充電ポートに確実に挿し込みます。
- 充電設備の操作手順で操作し、充電を開始します。
- コンビネーションメーター充電接続表示灯  が点灯します。



- 充電中、コンビネーションメーターには関係充電パラメーターが表示されます。また、充電画面も同時に表示されます。

3. 充電を停止する

- 充電が完了する：
 - 予定の時間になる、または充電が完了すると、充電器は自動的に充電を終了します。
- 充電ポートの接続を切る：
 - DC 充電コネクタ上のメカニカルロックボタンを押して、充電コネクタを抜き出します。
- 充電器で DC 急速充電が完了したら、充電設備を整理して充電コネクタを指定の位置に戻します。
- DC 充電ポートキャップと充電ポートフラップを閉めます。

警告

- 充電に関する警告の詳細は、「[充電について](#)」を参照してください。

注意

- 充電完了後、ロック解錠操作をしても充電コネクタが抜き出せない場合は、数回ほど解錠操作を繰り返してください。それでも抜き出せないときは、非常解錠を操作してください。操作手順は「[充電ポート盗難防止ロック機能](#)」を参照してください。
- DC 充電時のロック解錠は、3 秒以内に 2 回連続でリモートキーの「アンロック」ボタンを押さないと解錠できません。
- 充電に関するご注意の詳細は、「[充電について](#)」を参照してください。

アドバイス

- 充電ポートキャップを外した状態で、充電ポートフラップを閉じないでください。

スマート充電機能

- 本車はスマート充電機能を搭載しているため、長時間車両をしない場合でも起動バッテリーの負極（-）端子を取り外す必要はありません。
- 左ボディードメインコントローラーが起動バッテリーの電圧低下を検知すると、パワーバッテリーを使用して起動バッテリーを充電することができます。

i アドバイス

- 長時間車両を放置すると、自動的にスマート充電機能が作動することがあります。これは、制御プログラムにより自動的に作動しており、車両が故障しているわけではありません。
- スマート充電に必要な電気エネルギーはパワーバッテリーパックから取り出しているため、スマート充電機能が作動すると、パワーバッテリーの残量が低下することがありますが、車両の故障ではありません。
- スマート充電機能によるパワーバッテリーの過放電を避けるため、パワーバッテリー残量が少ないとスマート充電機能は利用できません。そのため、パワーバッテリー残量が少ない状態で長時間駐車することは避け、早めに充電してください。

充電予約

- マルチメディアで充電モードを設定することができます。設定は次の操作で行います。
 -  → **エネルギー** → **充電設定** の設定画面から、**スマート充電** の設定に入ります。
- リターンボタン  または home  をタッチすることで、スマート充電画面を閉じることができます。

設定画面

- 1 充電予約
- 2 充電開始 / 終了時間
- 3 繰り返しサイクル
- 4 設定



- 初期設定では車両がすぐ充電できるように設定されており、予約充電は OFF になっています。
- 予約充電を行う場合は、充電予約①を ON して充電開始 / 終了時間②、繰り返しサイクル③を設定します。設定後、**確定** をタッチすると設定を保存します。
- 予約充電予約完了後、充電待ち時間内に充電コネクタを接続する、または車両の電源ポジションを「OFF」にすると、マルチメディアが充電を予約していることを知らせます。必要に応じてすぐに充電するかを変更できます。
- ドライバーは、予約充電設定④から電源オフ時予約リマインダーや充電器接続予約リマインダーおよびパワー OFF 通知機能を ON/OFF することができます。

⚠ 注意

- 予約充電は、BYD の AC 普通充電設備を対象に開発したものです。BYD 純正部品以外の AC 普通充電設備を利用する場合は、予約充電を OFF にしてください。充電設備が非対応のため予約ができない、またはすぐに充電することで車両のバッテリー残量が低下したり、電圧不足につながるおそれがあります。

i アドバイス

- 通知画面の即時充電に変更は、今回の予約に限るものです。すべての予約をキャンセルする場合は、設定画面で充電予約スイッチを OFF にしてください。
- バッテリー残量が低下している場合は、予約充電前に最小限のバッテリー残量を確保するための充電を行います。最小限のバッテリー残量を確保するための充電を行うときは、マルチメディアにパワー OFF 通知および充電コネクタ接続通知を発信し、コンビネーションメーターの下側にメッセージを表示します。
- DC 充電コネクタ* に接続すると、予約充電の設定が無効になりすぐに充電を開始します。

充電ポート盗難防止ロック機能

充電コネクタの盗難を防ぐため、充電ポートには車両に対する充電・給電中の盗難防止機能が備わっています。初期設定は OFF のため、ON にするときは、 → エネルギー → 充電設定 の設定画面から、**充電ポート盗難防止ロック機能** を ON にしてください。

■ ON で充電する場合、ドライバーは次の方法で盗難防止ロック機能を解除し、充電コネクタを抜き出すことができます。

- OFF にした状態でリモートキーのアンロックボタンを押して解錠します。
- 運転席側ドアハンドルにあるマイクろスイッチを押して解錠します。
- 運転席内側の下にある集中ドアロックを押して解錠します。

■ 下記表の通り、車両が No.2、3、4 の状態にある場合は、ドライバーが上記解錠操作以外に充電コネクタボタンを操作し解錠することで、充電コネクタを抜き出すことができます。ただし、この操作は充電ポートや充電コネクタの使用寿命を縮めるおそれがあるため、緊急時以外にこの操作を頻繁に行うことは避けてください。



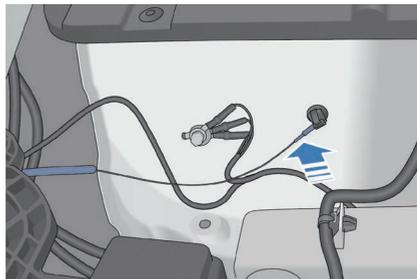
番号	「充電ポート盗難防止ロック作動モード」設定状態	4 ドア盗難防止ロック状態	充電コネクタ抜き出しの可否
1	ON	施錠	不可
2	ON	ON	可能
3	OFF	施錠	可能
4	OFF	ON	可能

⚠ 注意

- 充電ポート盗難防止ロック機能を解錠後、30 秒以内に充電コネクタを抜き出してください。30 秒経過すると、充電ポート盗難防止ロック機能が再度作動して施錠するため、新たに解錠してから充電コネクタを抜き出してください。
- 盗難防止ロック機能を OFF にしたときは、充電が停止すると自動で解錠します。盗難防止ロック機能を ON にしたときは、車両を解錠してください。

交流充電ポートの非常解錠

- 充電ポート盗難防止ロックが故障して充電コネクタを抜き出せない場合、手動で非常解錠の操作をして、充電コネクタを抜き出せます。
- ボンネットを開けると、モータールーム内に充電ポート盗難防止ロックを解錠するためのワイヤーがあります。このワイヤーを引くと、充電コネクタを解錠することができます。

**⚠ 注意**

- 緊急時解錠を使用できるのは、交流充電コネクタのみです。
- 上記機能の異常または故障がある場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

外部給電方法

■ 本車には外部給電機能を備えています (V2L)。

⚠ 警告

- 外部給電中に、外部給電用ソケットや車両側ポートの金属端子を触らないでください。
- 外部給電中に異臭や煙立ちなどの異常がある場合は、ただちに外部給電を停止してください。
- 外部給電についての警告は、充電警告と同じです（「[充電について](#)」を参照してください）。
- 使わないときは、本製品を乾燥した冷暗所に保管してください。
- 外部給電しているときは、設備をトランクルームや車の前部の下、タイヤの近くに置かないでください。
- 使用中は車にひかれたり地面に落とす、または人に踏まれないようにしてください。
- 落下禁止。この充電装置を移動するために、直接ケーブルを引っ張ることは禁止されています。
- コンセントのコードが柔らかくなった場合や、給電コネクタケーブルの摩耗、絶縁層の破裂やその他の破損がある場合は、外部給電設備を使用しないでください。
- 給電コネクタ、給電コンセントの断線や破裂、または表面の破損がある場合は、外部給電設備を使用しないでください。

⚠ 注意

- 外部給電器 * 使用時の注意事項については、「[充電上のご注意](#)」を参照してください。
- 外部給電前にパワーバッテリーの残量を確認し、外部給電後の航続可能距離を予測してください。
- 外部給電前に、負荷が OFF になっていることを確認してください。
- V2L 外部給電装置は、規格 EVPS-004:2014 に適合している必要があります。また、V2H 外部給電装置は、規格 EVPS-002:2014、または EVPS-002:2018 に適合している必要があります。
- 外部給電中に給電コネクタを抜き出さないでください。外部給電完了後は、外部給電装置の作動が止まっていることを確認してから、給電コネクタを外してください。

i アドバイス

- 外部給電は、可能な限りパワーバッテリー残量が多い状態で使用してください。
- パワーバッテリー残量が少ないときは、外部給電の使用が制限されます。
- 電源ポジション「OFF」で、車両を長時間外部給電器に接続した状態で電気エネルギーを出力しない場合、車両の漏洩電力が多くなるため、給電コネクタを外すようおすすめします。

外部給電方法

外部給電の開始について

- 給電前に、イモビライザーを OFF にしているか確認します。
- 充電ポートフラップのロックを解錠し、車両の充電ポートフラップと DC 充電ポートフラップを開けます。
- 外部給電前の点検：
 - 車両のパワーバッテリー残量が 15% 以上であることを確認します。
 - V2L 接続装置のキャビネットの割れ、ケーブルの摩耗、プラグの錆、および異物の付着などの異常がないかを確認します。
 - 充電ポートに水分または異物がない、金属端子に錆や腐食による破損などの異常がないことを確認します。
 - 上記 2 つ目、3 つ目の異常がある場合は、ショートや感電などにより身体に危害を与えるおそれがあるため、外部給電を中止してください。
- 外部給電器の接続：
 - V2L 外部給電器を充電ポートに接続してコンセント上の表示灯が常時点灯すれば、正常に使用できます。
- 外部給電を開始する：
 - 外部給電器をしっかりと接続し、外部給電器のスタートボタンを押すと外部給電が開始します。コンビネーションメーターには、外部給電に関係するデータや給電画面が表示されます。

外部給電を停止する

- 外部給電を終了する：
 - 負荷を切り離します。
- 外部給電器を切り離す：
 - 外部給電器を抜き出します。
 - 充電ポートキャップおよび充電ポートフラップを閉めます（「[家庭用 AC 普通充電](#)」についての説明を参照してください）。
- 給電装置を片づける：
 - 外部給電完了後、外部給電器を収納します。

パワーバッテリー

- パワーバッテリーは車両の動力源で、充放電を繰り返すことができます。また、外部電源でパワーバッテリーを充電することができ、制動時や慣性走行時には、回生ブレーキによりパワーバッテリーの充電ができます。
- パワーバッテリーはボディの底部にあるため、悪路や冠水した道路を走行する場合は、バッテリーが破損しないよう慎重に運転してください。

バッテリー特性

- バッテリー本体の電気化学特性の影響、およびパワーバッテリーを保護する目的から、以下の条件では、性能に一定のばらつきがありますが異常ではありません。
 - パワーバッテリーの残量が多い場合は、回生ブレーキ性能が低下することがあります。
 - フル充電に近づくまでパワーバッテリーを充電すると、トリクル充電モードに切り替わるため、コンビネーションメーターに表示されるフル充電までの予測時間が変化します。
 - パワーバッテリーの残量が少ない場合は、加速性能が低下します。
 - パワーバッテリーの残量が少ない場合は、V2L* が正常に使用できないため、早めに充電してください。
 - 高温や低温の環境では、パワーバッテリーの充放電能力が弱くなるため、充電時間が延びますが異常ではありません。この場合、高出力充電設備で充電するようおすすめします。また、気温が極端に低い状態で走行する場合は、動力性能が低下することがあります。
 - 温度制御機能により、低温の環境でパワーバッテリーを充電する場合の充電能力を大幅に改善しています。低温時の充電については、「[充電上のご注意](#)」を参照してください。
 - バッテリー温度制御機能は、低温の環境で運転する際に適切なタイミングで自動的に加熱を開始し、低温走行時の動力性能や放電性能を確保することで走行性能を向上させます。走行距離が短い場合は、加熱が十分にできないため、電気消費が増えてしまい航続可能距離が短くなる可能性があります。

- パワーバッテリーが通常通りに使用されている場合、車両の航続可能距離は以下の要因により影響を受けます。
 - 運転習慣：一定速度で走行する場合に比べ、加速や減速を頻繁に繰り返すと、航続可能距離が短くなります。また、低速時よりも高速時の方が、航続距離は短くなります。
 - 道路状況：平坦で乾燥している路面を走行する場合に比べ、悪路が続く道路や長い上り坂を走行する方が、航続可能距離は短くなります。
 - 気温：通常環境で走行する場合に比べ、低温環境で走行する場合の方が、航続可能距離は短くなります。
 - 電気機器の使用状況：運転中にエアコンを使わない場合に比べ、エアコンを付けた場合の方が航続可能距離は短くなります。
 - 低温環境では、温度が下がると同時にパワーバッテリーの利用可能残量も低下します。低温環境に停車しているバッテリー残量が多い車両に対して充電すると、バッテリー残量が急に100%になることがあります。

バッテリーの使い方について

- 周辺温度が-10～40℃の環境で使用することをおすすめします。バッテリー残量が少ない場合は、十分な航続可能距離や良好な加速性能を確保するため、早めに充電してください。
- 長期間性能を維持するため、高温や極端な低温の環境に24時間以上駐車することは避けてください。
- 周辺温度が低い環境で長時間駐車する場合は、バッテリーの熱放散を低減させて使用性能を確保するため、地下駐車場や暖房付き駐車場などの温度が高い場所に駐車してください。
- 頻繁な急加速や急減速を避ける、平坦で乾燥している道路を走行する、または必要に応じてエアコンなどの消費電力の大きい電装部品を消したり、エアコンの温度を上げたりして航続可能距離を伸ばすことをおすすめします。
- 普通充電は、パワーバッテリーを長持ちさせる方法です。
- 車両を初めて使用する、または長時間放置した後に使用する場合は、コンビネーションメーターに表示されるバッテリー残量がばらつくことがあります。そのため、運転前にパワーバッテリーをフル充電することをおすすめします。

- 日常的に使用する場合は、定期的に車両のパワーバッテリーをフル充電してください（推奨：充電は週に1回以上）。また、3ヶ月～半年毎に、バッテリー残量が少ない状態（10%以下）からフル充電することをすすめます。
- 極端な走行（急加速や急減速の繰り返しなど）によりパワーバッテリーの温度が高くなった場合は、パワーバッテリーの放電能力が少しずつ低下しますが異常ではありません。また、パワーバッテリーの温度が高すぎてコンビネーションメーターのパワーバッテリー加熱警告灯が点灯したときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- パワーバッテリーの残量が異常に上がる、または下がる場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に点検してください。

警告

非常時や事故発生時、次の警告に注意してください。

- 怪我などを避けるため、パワーバッテリーは直接触らないでください。早急に BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- パワーバッテリーが破損し液体が漏れ出したときは、漏れ出した液体を絶対に触らないでください。不注意で皮膚や目に付着したときは、すぐに多量の水で洗い流し、ただちに医師の手当てを受けてください。
- 車両火災が起きたときは専用消火器で消化し、水系の消火器は使わないでください。
- パワーバッテリーは専門の技術者のみしか整備できないため、ご自身でバッテリーの蓋を開けたり改造しないでください。

▲ 注意

- パワーバッテリーの安全を確保するため、引火性や爆発性があるもの、火元および各種の危険化学品から遠く離れた場所に駐車してください。
- 利用可能なバッテリー残量は、車両の使用時間の増加につれて低下します。
- パワーバッテリーの寿命を縮めるおそれがあるため、駐車時は熱源から遠く離れ、日光が長時間当たる場所を避けてください。
- 長期間（7日以上）車両を使用しない場合は、パワーバッテリーを長持ちさせるために、バッテリーの充電を40%～60%に保つことをおすすめします。3ヶ月以上使用しないときは、パワーバッテリーを3ヶ月毎にフル充電し、その後40%～60%まで放電してください。そうしないと、パワーバッテリーの過放電によるバッテリー性能の低下、または破損を引き起こすおそれがあります。また、このような車両故障は、品質保証の対象外となります。
- パワーバッテリーはボディーの底部にあるため、悪路を走る場合は慎重に運転してください。
- パワーバッテリーが何かにぶつかった場合は、ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場で点検してください。

パワーバッテリーの回収

廃車やパワーバッテリーの処分については、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に問い合わせてください。

起動バッテリー（12V）

起動バッテリーはリアシートの下部に格納されています。バッテリーの点検カバーは、リアシート中央席に着座している乗員のくるぶし部に設置されています。点検カバーを開けると、バッテリーの負極（-）端子および負極（-）側アースハーネスが見えます。

- 起動バッテリーの電圧不足を避けるため、条件（車両の電源ポジションが「OFF」でパワーバッテリーから給電ができ、起動バッテリーの電圧が設計値以下）を満たしている場合は、自動的に「スマート充電」機能が作動します。
- 起動バッテリーの電圧が低すぎると、車両の低圧電源が使用できないため、早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡してください。
- 車両を使用してから3～5年後にサービス工場での通常のメンテナンスを行う場合は、サービス工場のスタッフにバッテリー端子部の腐食状況、バッテリーおよび端子が確実に固定されているかなどの点検をご依頼することをおすすめします。

警告

- 起動バッテリーには、腐食性のある溶液が入っています。起動バッテリーが破損したり、人身事故を起こさないために、起動バッテリーの分解や修理はしないでください。
- 起動バッテリーの取り外し、分解はしないでください。環境汚染や事故を起こした場合、相応の責任を負う必要があります。
- 起動バッテリーは可燃性、爆発性のある水素ガスが発生します。工具を使う場合は、起動バッテリーからの火花の発生を避けてください。また、起動バッテリーの近くでタバコを吸ったり、火を付けないでください。
- 電解液が皮膚や目、服に付着しないように注意してください。電解液が皮膚や目に付着したときは重曹水で皮膚を洗い、多量の水で目を洗い流してただちに医師の手当てを受けてください。
- 誤って電解液を飲み込まないでください。
- お子様を起動バッテリーに近づけないでください。

⚠ 注意

- 起動バッテリーを点検する場合は、始めにマイナス端子（「-」表示）に付いているアース線を外し、取り付け時は最後に取り付けてください。
- 起動バッテリーを洗浄するときは、液体が起動バッテリーの中に入らないように注意してください。

i アドバイス

- 電源ポジションを「OFF」にしてスマート充電をする場合、電源ポジション「OK」時に音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- スマート充電中は修理作業をしないでください。
- 車両から離れるときはきちんとドアを閉め、すべての電気機器をOFFにしてください。
- 長期間車両を放置するときは、ご自身で起動バッテリーのマイナス端子を外してください。

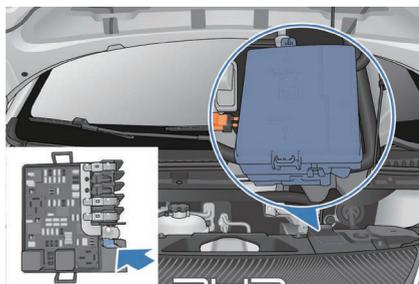
起動バッテリーの電圧不足時のスリープ解除機能

- 本車は、起動バッテリーのスリープ解除機能を搭載しています。長期間車両を放置したことで起動バッテリーがスリープ状態になると、リモートキー操作では解錠できません。この場合、リモートキーを運転席側ドアハンドルに近づけて2回連続でマイクロスイッチを押すと、起動バッテリーのスリープ状態を解除でき、解錠後は正常に利用することができます。上記操作で起動バッテリーのスリープ状態が解除できないときは、起動バッテリーの残量が少ない可能性があります。

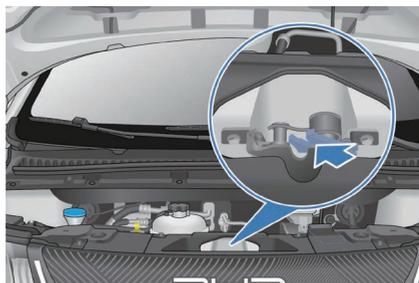
ジャンピングスタートによるスリープ解除*：

運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押しても、起動バッテリーのスリープ状態が解除できず、車両の電源が入らない場合は、他の12V仕様の車両によるジャンピングスタートで始動させることができます。

- ジャンピングスターター用の正極 (+) 端子: モータールームのフューズボックスの中にあります。



- ジャンピングスターター用の負極 (-) 端子: ボンネットストライカーのところにあります。



⚠ 注意

- モータールームのフューズボックスでは、ジャンピングスターターのためのスペースが狭く、感電などの危険があるため、専門家の指導によりジャンピングスタート作業を行うことをおすすめします。

⚠ 警告

- 起動バッテリーの破損を引き起こすおそれがあるため、他車の救援を目的としたジャンピングスタートは行わないでください。
- 起動バッテリーの電圧不足や正常に利用できないためにジャンピングスタートを行う場合は、本オーナーズマニュアルの該当内容をよく読み、必ず記載に従ってブースターケーブルを接続し、関連操作を行ってください。
- 起動バッテリーの内部にはインテリジェントコントロールモジュールが内蔵されています。起動バッテリーの破損を防ぐため、緊急時を除き、無断で取り外しや破壊をしないでください。
- 部品交換や車両整備の前には、起動バッテリーの負極 (-) 端子を外してください。
- 起動バッテリーは乾燥したウエスなどで拭き、水洗いはしないでください。

慣らし運転期間

- パワーユニットが起動しにくい、または回転がよく止まってしまう場合は、ただちに車両を点検してください。
- パワーユニットから異音が発生している場合は、安全なところに停車してから点検してください。
- パワーユニットから冷却水や潤滑油が漏れている場合は、安全なところに停車してから点検してください。
- パワーユニットは慣らし運転が必要です。最初の約 2000km は高速走行を避け、エコモードで可能な限り一定の速度で走行し、慣らし運転することをおすすめします。以下の操作を避けることで、車両を長持ちさせることができます。
 - 始動や運転時、アクセルペダルを強く踏み込まないでください。
 - スピードを出し過ぎないでください。
 - 長時間、一定速度での高速走行や低速走行をしないでください。

トレーラーのけん引

- 本車は乗用車として設計されています。自分や他人の安全のため、定員超過で人を乗せたり、トレーラーをけん引しないでください。
- トレーラーのけん引は、車両の操縦、動力、制動、耐久性、エコ運転および電気消費などに悪影響を与えます。
- リアバンパークロスメンバー（リンフォースメント）を無断で取り外し・取り付け、およびトウバーマウント型サイクルキャリアの後付けをしないでください。リアバンパークロスメンバーを無断で取り外し・取り付けしたことによる不具合は、品質保証対象外となります。
- トウバーマウント型サイクルキャリアの後付けをご希望される場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でのハードウェアのアップグレードを行ってください。
- 運転の安全や快適性は、正しい設備の使い方や慎重な運転習慣により決まります。
- BYD は、商用目的でのトレーラーけん引による破損や故障を保証しません。

安全運転上のご注意

飲酒運転厳禁

少量の飲酒でも、交通条件の変化に対する反応が遅くなります。飲酒量が多いほど反応が鈍くなるため、飲酒運転は絶対にしないでください。

速度の抑制

スピードの出し過ぎは、衝突事故や死傷事故を引き起こす主な原因です。通常は速度が速いほど危険性が高まります。道路状況に応じて安全な速度で走行してください。

車両を安全運転可能な状態に保つ

タイヤのバーストや機械の故障は非常に危険です。故障の確率を下げるため、常に車両の状況を点検し、定められた点検を実施してください。

▲ 注意

- 疲れているときは運転しないでください。
- 運転時は、必ず交通ルールを守ってください。
- 運転中は必ず運転に集中し、運転とは無関係な操作（携帯電話の使用やボタンの調整など）をしないでください。

荷物の積み込み

- 本車には、便利な格納スペースを複数用意しています。積み込む荷物が
多い、または積み込み方が不安定な場合は、車両の操縦性や安定性が悪
くなり安全性が低下することがあります。
- 荷物を積み込む場合は、車両本体、乗員全員、荷物の総重量が車両総重
量を超えないようにしてください。

⚠ 警告

- 積載オーバーや不適切な荷物の積み込み方は、車両の操縦性や安定性
に影響を与えるため、衝突事故を招くおそれがあります。
- 本オーナーズマニュアルに記載される車両総重量や、他の積載ルール
を守ってください。
- 正常な運転への干渉を避けるため、強い磁気を持つものを車両に搭載
しないでください。

客室に荷物を積み込む場合

⚠ 警告

- 衝突時に車内へ投げ出されて乗員に怪我を負わせるおそれがあるもの
は、確実に収納または固定してください。
- 車両後方の安全確認を妨げたり、衝突時に車内へ投げ出されるおそれ
があるため、リアシェルフにものを置かないでください。
- フロントシート後部の床にものを置いている場合、ペダル操作やシー
ト調整の妨げにならないように、シートの下で転がらないようにして
ください。また、荷物を積み込むときはフロントシートバックを超え
ないでください。
- グローブボックスが開いていると、衝突時や急ブレーキ時に乗員の膝
などに怪我を負わせるおそれがあるため、運転時はグローブボックス
をきちんと閉めてください。

ℹ アドバイス

- お子様のおもちゃを車内に積み込まないでください。急ブレーキや衝
突事故などが発生した場合、おもちゃが安全走行を妨げるだけでなく、
お子様に怪我をさせるおそれがあります。

トランクルームに荷物を積み込む場合

警告

- 走行中に移動しないように紐やチェーンで荷物をきちんと固定し、荷物は、フロントシートバックの高さ以上積み込まないでください。
- トランクルームに荷物を均一に入れ、最も重い荷物は一番下で、かつ前側の方に置きます。

冠水路の走行

- 冠水路に進入する前に、水の深さをきちんと確認してください。水の深さは、ボディ下部の縁部を超えてはいけません。
- 冠水路を通り抜ける場合は、発進前にエアコンを消して低速で走行し、アクセルペダルを軽く踏み続けながら、ゆっくり走り抜けてください。
- 絶対に水の中で停車しないでください。また、水の中でバックしたり、モーターをOFFにしないでください。
- 無事に冠水路を走り抜けた後、ブレーキペダルを数回軽く踏んでブレーキローターに付着した水を落とし、できるだけ早く通常の制動性能に戻してください。
- 深い冠水路を通り抜けるとブレーキが濡れることがあるため、慎重に運転してください。



警告

- ブレーキシステムに水や泥などが侵入すると、ブレーキの利きが悪くなり制動距離が長くなるため、事故につながるおそれがあります。
- 冠水路を走り抜けた後は、可能な限り急ブレーキは避けてください。
- モーターの重大な破損につながるおそれがあるため、車両がくぼんでいる冠水路を走る場合は、モーターに水が侵入しないように注意してください。これにより発生した車両故障および破損は、品質保証の対象外となります。
- 冠水路を走り抜けた後は、ドライブトレインシステム、走行システム、電気システムなどの部品も大きな被害を受けているおそれがあります。これにより発生した車両故障および破損は、品質保証の対象外となります。
- 水位がウィンドウガラスよりも高くなり緊急脱出ハンマーを使用した場合は、割れたガラスが室内に入って怪我をするおそれがあります。フロントガラスと前席のウィンドウガラスは合わせガラスで割れないため、後席のウィンドウガラスかテールゲートのガラスを割って脱出してください。

高電圧部品の内部に水が侵入した場合：

- 車両が浸水した場合、高電圧部品は電子部品のため、乾かしても十分に水切りできる保証はありません。
- 高電圧部品の内部に水が侵入すると、部品自体の絶縁性に大きな影響を与えます。また、水分に多く含まれる導電性物質により、高電圧部品の内部ショートや高電圧システムのショートを引き起こすおそれがあるため、車両の安全性能や使用性能に重大な影響を与えます。
- 高電圧部品の内部に水が侵入すると、製品の IP 保護等級、耐電圧などの性能が大きな影響を受けるため、危険性が大きくなります。
- 台風などの荒れた天候で充電する場合、可能な限り雨が当たらないように注意してください。サイドシルの高さ以上に車両が浸水する、または冠水路を走行中に浸水すると、高電圧部品の内部に水が侵入するおそれがあります。そのため、タイヤの半分以上が水に浸かる冠水路は走行せず、もし水が侵入した場合は、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での点検や処置を依頼してください。

火災の予防

車両火災を有効に防止するため、車両を使用する場合は下記の事項に注意してください。

- 車内に引火性・爆発性のあるものを格納しないでください。
 - 炎天下や日が当たる場所に駐車すると、車内の温度が60～70℃以上に達することがあります。そのため、車内にライター、洗浄剤、香水などの引火性、爆発性のあるものを置くと、火災や爆発が発生するおそれがあります。
- 喫煙後、吸い殻は火が完全に消えていることを確認してください。
 - 喫煙は身体の健康を害するだけでなく、火が完全に消えていない吸い殻は、火災を引き起こすおそれがあります。
- BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場にて定期点検を依頼してください。
 - コネクタとワイヤーハーネスとの接続、絶縁、固定位置などに異常がないかを確認するため、車両全体の配線の定期点検を行う必要があります。不具合が見つかった場合は、早めに処置してください。
- 車両の配線の改造、電装品の後付けを禁止します。
 - 電装品（ハイパワーオーディオ、照明器具など）の後付けは、回路に過大な負荷が掛かり、ワイヤーハーネスの発熱による火災の原因になります。
 - 基準外の電器・配線の改造により抵抗が大きくなり、異常に発熱することで火災を引き起こすおそれがあります。電装品の定格から外れたフューズや金属ワイヤーをフューズの代わりに使用することは絶対にしないでください。
- 正しい駐車場所を選びます。
 - 停車時、日にさらされる場所は可能な限り避けてください。
- 車載用の消火器を車両に搭載することをおすすめします。
 - 消火器を車両に搭載する場合、安全を確保するために定期的な点検や交換を行ってください。また、消火器の使い方を熟知し、非常時は迅速に対応できるようにしてください。
- 車両の修理やメンテナンスを行う場合は、モータールームにある起動バッテリーのマイナス端子を外します。

- 車両火災が発生した場合、迅速、冷静に効果的な方法で対処し、被害を最小限にしてください。
 - 火災の発生は、ボディーからの異音や異臭などのような前兆があります。異常を感じたら、できるだけ風が当たらない場所に停車し、車載用の消火器で初期消火を行います。
 - 早めに 119 番に通報すると同時に、該当の保険会社にも通報し現場対応を要請します。
 - 火元を特定します。モータールームから煙があがった場合は、ボンネットをすぐには開けないでください（ボンネットを開けると大量の空気が入り、火の勢いが強くなります。ボンネット閉めることで、火の勢いを抑えて消火を助けることができます）。車載用の消火器を使用し、ボンネットの隙間から火元に向けて消火剤を噴射する、または外部に助けを求めて複数の消火器を借りることができれば、外部から火が見えない状態でボンネットを開けて消火剤を噴射し続けることができます。
 - 事故発生後、早めに保険会社に対応などを依頼します。

i アドバイス

- 思わぬ被害が発生することを防ぐため、車両保険に加入することをおすすめします。

電気の省エネで車を長持ちさせる方法について

- 節電はシンプルであり、車両の寿命を延ばすことにもつながります。
- 電気エネルギーや修理代を節約する要領を次に示します。

1. 回生ブレーキ設定：

- 本車は、回生ブレーキ機能および回生ブレーキ強さの設定機能を搭載しており、 → **エネルギー** → **エネルギー管理** の設定画面から回生ブレーキのモードを選択できます。回生ブレーキ強度が **強** の場合は、制動・惰行中に回収するエネルギーを増やすことができるため、運転習慣に合わせて設定してください。

2. 速度維持：

- 一定速度での運転は、電気の省エネに役立ちます。急アクセル、急ハンドルや急ブレーキは、より多くの電気エネルギーを消費します。
- アクセルペダルを踏むたびに余分な電気エネルギーを消費するため、交通状況に応じて一定速度で走行してください。
- 急発進、急アクセル、急ブレーキを避け、アクセルペダルをゆっくり踏んでください。
- 一定の速度を維持しながら運転することや、信号がない道路を先行車との車間距離を適切に保ち、急ブレーキを避けて走行することは、ブレーキの摩耗の軽減につながります。
- 渋滞している道路はなるべく避けてください。
- 高速道路走行時は適切な速度を維持してください。速度が速いほど電気エネルギーの消費が多くなるため、エコ走行になる範囲内に速度を保つことで省エネにつながります。

3. 負荷の軽減：

- エアコンを作動するとモーターに余分な負荷が掛かるため、より多くの電気エネルギーが消費されます。エアコンを消すと電気エネルギーの消費を減らすことができ、また、外気温度が快適なときは、外気導入モードで外気を取り入れるようにします。
- 車両に積む荷物が多すぎると、車両の負荷が増えてより多くのエネルギーが消費されるため、不要な荷物を積むことは避けてください。

4. その他：

- タイヤの空気圧不足は、タイヤの摩耗や電気エネルギーの消費につながるため、タイヤの空気圧は適切に保ってください。

- フロントタイヤの正しいアライメント（取り付け角度）を保ってください。道路の縁石へ乗り上げる操作を避ける、また、悪路はゆっくり走行してください。フロントタイヤのアライメントが良くないと、タイヤの早期摩耗につながったり、電動パワートレインへの負荷も大きくなるため、電気エネルギーをより多く消費します。
- シャーシは清潔な状態に保ち、泥などの付着がないようにしてください。これにより、ボディ重量を軽減するだけでなく、腐食を防ぐこともできます。

アドバイス

- 走行中は、ニュートラルギアでの惰性走行を厳禁します。

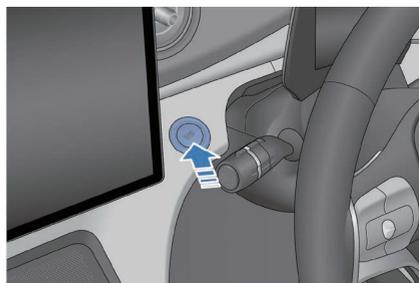
車の始動

通常の始動方法：

- 必要のないランプやアクセサリを OFF にします。
- リモートキーを携帯します。



- ブレーキペダルを踏み込んだ状態で「スタート/ストップ」ボタンを押します。
- メーターの「OK」表示灯が点灯すると、車は走行できる状態になります。



- 次の場合は始動ができません。
 - 「スタート/ストップ」ボタンを押したとき、リモートキーシステム警告灯が点灯してスピーカーから警告音が鳴り、コンビネーションメーターに「キー検出不可」と表示された（リモートキーが車内にない、または干渉によりキーが検知できない）。
 - リモートキーが車内にあるが、正しい位置に置かれていない（たとえば：床面、カップホルダー内、トランクルーム内、収納箱内など）。

緊急時の始動方法

- パーキングブレーキを確実にかけます。
- 必要のないランプやアクセサリを OFF にします。
- シフトレバーを「P」または「N」に入れます。
- 車両の電源ポジションを「OFF」にします。
- リモートキーを車内に置きます。
- 「スタート/ストップ」ボタンを 15 秒以上長押しすると、始動します。

⚠ 警告

- 運転中は「スタート/ストップ」ボタンを触らないでください。
- ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながるため、始動する前にペダルの位置を確認し、位置を確実に覚えてください。
- 始動するときは、必ず運転席に座ってください。運転席以外から始動を行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

リモートスタート機能**始動前**

1. 車両の電源ポジションを「OFF」にします。
2. シフトポジションを「P」レンジに入れます。
3. 速度を 5km/h 以下にします。

リモートキーの「リモートスタート機能」

1. リモートキーの「スタート/ストップ」ボタンを約 2 秒間長押しすると、車両を遠隔で始動させることができます。始動後、ターンシグナルランプが 3 回点滅します。
2. リモートスタート後、10 分以内に有効な操作を行わないと、電源ポジションが「OFF」になりターンシグナルランプが 2 回点滅します。
3. リモートスタート後、リモートキーの「スタート/ストップ」ボタンを約 2 秒間長押しすると、電源ポジションが「OFF」になりターンシグナルランプが 2 回点滅します。



車の運転

運転前の点検

車両外部

- **タイヤ**：タイヤの空気圧、タイヤトレッドに割れ、破損、異物の噛み込みがないか、タイヤに異常、過度な摩耗がないかを点検します。過度な摩耗や偏摩耗がある場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でのホイールのアライメント調整および関係する点検をしてください。
- **ホイールナット**：ナットの緩みや外れがないかを点検します。
- **漏れ**：車を止めてからしばらく待ち、車の下にオイルや冷却水、その他の液体が漏れていないかを点検します（エアコンの作動により発生する水は異常ではありません）。
- **照明**：ヘッドライト、ポジションランプ、ターンシグナルランプおよび他のライトの作動、ヘッドライトの明るさを点検します。

車両内部

- **シートベルト**：バックルがしっかりロックでき、シートベルトに摩耗や擦り傷がないことを点検します。
- **コンビネーションメーター**：メンテナンス表示灯、コンビネーションメーター照明とデフロスターの作動に異常がないことを点検します。
- **ブレーキペダル**：ブレーキペダルの操作に必要なスペースがあることを点検します。
- **モータールームの起動バッテリーとケーブル**：つなぎ目に腐食や緩み、外れがなく、モータールームのバッテリーケースに割れ目がないことを点検します。

モータールーム内部

- **バックアップ用フューズ**：それぞれのフューズのバックアップがあることを点検します。フューズボックスには、各種の定格電荷量に対応する仕様が記載されている必要があります。
- **冷却水の量**：冷却水の量が正しい範囲であることを点検します。
- **ブレーキフルードの量**：ブレーキフルード量が正しい範囲にあることを点検します。

始動後の点検

- コンビネーションメーター：故障を示す警告灯およびスピードメーターの作動に異常がないことを点検します。
- ブレーキ：安全な場所で車両を直進走行し、ステアリングホイールをしっかりと維持した状態でブレーキを掛けたとき、偏りがなく真っすぐ走ることを点検します。
- その他の異常な現象：緩んだ部分や漏れ、異常な騒音がないかを点検します。

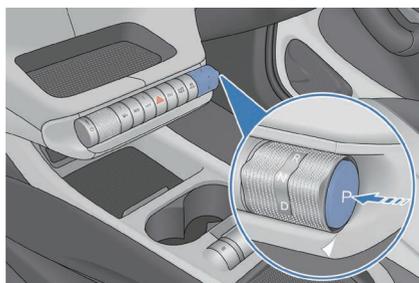
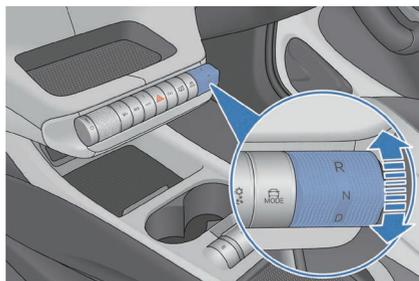
運転前の準備について

- 車に乗り込む前に、車の周りの状況を確認してください。
- シートポジション、シートバック角度、シートクッションの高さ、ヘッドレストの高さ、ステアリングホイールの角度を調節します。
- ルームミラーとドアミラーを調節します。
- すべてのドアを閉めます。
- シートベルトを確実に締めます。

シフト機構

ギアアクチュエーターのレンジマークは、インストルメントパネル内のコンビネーションメーターに表示されます。

- 「R」レンジ：リバースレンジで、車両が完全に止まってから使用してください。
- 「N」レンジ：ニュートラルレンジで、一時的に停止する場合に使用します。車両から降りる場合は、必ず「P」レンジに切り替えてください。
- 「D」レンジ：ドライブレンジで、通常の走行時に使用します。
- 「P」レンジ：パーキングレンジでボタンを押すと駐車できます。車両をスタートまたはストップする場合は、シフトレバーを「P」レンジに入れてください。ブレーキペダルを踏み込むと、「P」レンジからその他のレンジに切り替えることができます。



⚠ 警告

- モーターを OFF にしている場合は、制動力不足による事故を避けるために、絶対にシフトレバーを「N」レンジに切り替えた状態で車を移動しないでください。
- 電源ポジションが「OK」で、かつシフトレバーを「R」または「D」レンジに入れる場合は、必ずブレーキペダルを踏み込んで車両を停止させてください。ニュートラル状態でもトランスミッションが動力を伝達しているため、車両がゆっくり動きます。
- 前進時にシフトポジションを切り替える場合、事故を防ぐため、絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
- 事故を防ぐため、走行中はシフトレバーを「R」または「P」レンジにすることは絶対にやめてください。
- 事故を防ぐため、発進するときはアクセルペダルを踏んだままシフトレバーを操作しないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。
- 車両が始動していない状態であっても、「N」または「P」レンジのままで坂を下ることはしないでください。
- 自然発車を防ぐため、車両がしっかり止まってからパーキングブレーキを引き上げ、「P」レンジにしてください。
- 思わぬシフトチェンジが起き、車両が突然発進するなど事故の原因になるおそれがあるため、シフトレバーにものをかけないでください。

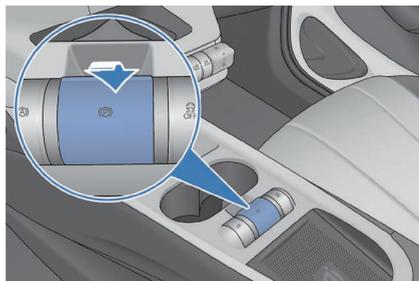
⚠ 注意

- トランスミッションの破損を防ぐため、「P」レンジは車両が完全に止まってから押してください。

電動パーキングブレーキ (EPB)

電動パーキングブレーキスイッチ

駐車時や車両から離れるときは、EPB スイッチを引き上げてください。



手動で EPB を掛ける

EPB スイッチを引き上げると、EPB は適切な制動力を適応します。また、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯(Ⓟ)は、点滅してから点灯状態になり、「電動パーキングブレーキ ON」の文字が表示されます。

4

使用および運転

⚠ 注意

- 電動パーキングブレーキ表示灯(Ⓟ)が点滅している場合は、EPB 作動中を表します。坂道では自然発車を防ぐため、電動パーキングブレーキ表示灯(Ⓟ)が点灯してからブレーキペダルを離してください。

自動で EPB が掛かる

ストップ時に自動的に EPB が掛かる

- 車両の電源ポジションを「OK」から「OFF」にすると EPB が自動で作動し、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯(Ⓟ)が点灯します。

「P」レンジ時に自動的に掛かる

- ブレーキペダルを踏み込んで車両を止めてから「P」レンジに入れると、EPB が自動で作動します。コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯(Ⓟ)が点滅から点灯状態になり、「電動パーキングブレーキ ON」の文字が表示されたらブレーキペダルを離します。

▲ 注意

- EPB スイッチと「スタート/ストップ」ボタンを同時に押した場合、EPB は自動で作動しません。車両が故障などで走れなくなり、レッカーなどで移動する必要があるときに使用してください。
- 坂道で停止している場合は、少し離しただけでも車両が自然に動くおそれがあるため、ブレーキペダルを早めに離さないでください。
- この機能は車両の自主安全性を上げるものであるため、機能を過信したり頻繁に使用しないでください。安全を確保するため、車両から降りるときは、必ずシフトレバーを「P」レンジにする、または EPB スイッチを引き上げてください。
- 電源ポジションを「OK」にしてからの数秒間は、EPB システムが電源投入時のセルフテストをしている状態のため、すべての機能に応答していません。

手動で EPB を解除する

- 車両の電源ポジションが「OK」またはスタート状態にあり、かつ「P」レンジ以外のレンジに入っている場合は、ブレーキペダルを踏み続けた状態でコンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯(P)が消灯するまで EPB スイッチを押すと、パーキングブレーキが解除することができ、コンビネーションメーターに「電動パーキングブレーキ OFF」と表示されます。

▲ 注意

- 「P」レンジは駐車するためのレンジであり、「P」マークは安定な駐車状態にあることを表しています。これに対して、EPB は車両の主なパーキング装置です。安全な駐車を確保するために、EPB スイッチでパーキングブレーキを解除できる操作は、「P」レンジ以外のレンジにした前提に限られます。

発車時に自動的に EPB を解除する

- 「P」レンジで車両を始動し、ブレーキペダルを踏み続けながらレンジを「P」または「N」から「D」あるいは「R」などのレンジに切り替えると、EPB が自動で解除され、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯(P)が消灯し「電動パーキングブレーキ OFF」と表示されます。

▲ 注意

- 正しいシフトチェンジをしてください。シフトチェンジ中は最後までブレーキペダルを踏み続け、コンビネーションメーターに目的のレンジが表示されてから、ブレーキペダルを離してください。

- 車両を始動し、シフトレバーが「D」や「R」などのレンジに入っている場合、手動で EPB スイッチを引き上げてから、アクセルペダルをある程度までゆっくり踏み込むと、EPB が自動で解除され、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (P) が消灯し「電動パーキングブレーキ OFF」と表示されます。

▲ 警告

- EPB によるブレーキの利用は、可能な限り避けてください。緊急ブレーキ機能の使用は、フットブレーキが利かない、または利きづらいなどの緊急時に限られます。
- EPB は、路面の摩擦力の物理限界を超えることはできないため、カーブや危険な道路、渋滞、悪天候などの走行時に緊急ブレーキ機能を作動させると、スリップや横滑り、またはコースアウトを引き起こすおそれがあるため、事故につながらないように注意してください。

故障時のリリース機能

- 手動で EPB を解除することができない場合は、EPB スイッチを 2 秒以上押し続けてください。EPB が解除されたときは、最寄りの BYD 正規ディーラーでブレーキランプスイッチ信号、および関係部品、回路などを点検してください。EPB スイッチを 2 秒以上押し続けても解除できないときは、すぐに BYD 指定サービス工場まで連絡してください。

フットブレーキが利かない場合の緊急ブレーキ機能

- 走行中にフットブレーキが利きにくい、または利かない場合は、EPB スイッチを引き上げ続けることで緊急ブレーキ機能が作動します。また、走行中の安全を確保するため、正常に走行しているときは EPB による緊急ブレーキを可能な限り避けてください。インテリジェントパワーブレーキシステムの故障やフットブレーキが利きにくいなどの緊急時は、車両に対する制御を常に維持しながら、正常運転状態で緊急ブレーキ機能を利用するようにしてください。

EPB システム表示灯

- EPB スイッチが引き上げられている状態で車両の電源ポジションを「ON」にすると、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯(P)が点灯状態になります。
- EPB スイッチが引き上げられている状態で車両の電源ポジションを「OFF」にすると、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯(P)が点灯してから約3秒後に消灯します。
- 電源スイッチを入れると EPB システムはセルフテストを実施し、コンビネーションメーターのパーキングシステム故障警告灯(!)が点灯してから約3秒後に消灯します。消灯しない場合は、EPB システムまたはブレーキシステムに不具合が発生しているおそれがあるため、ただちにBYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡してください。

EPB 作動音

- EPB スイッチを引き上げる、または EPB を解除すると、EPB モーターの作動音が聞こえます。
- 緊急ブレーキ機能を有効にしてから、焦げた臭いがする、または異常な音がする場合は、すぐに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡してください。

警告

- 車両が坂道で下がることを防ぐため、車両から離れるときは、EPB の代わりに「P」レンジのみで駐車しないでください。駐車するときは、EPB を引き上げてシフトレバーを「P」レンジに入れてください。
- 重大な事故の発生を避けるため、走行中は EPB スイッチを操作しないでください。
- EPB の制動力不足時の自然発車や、それによるシフトの引っ掛かりなどの異常を防ぐため、EPB スイッチを引き上げる、または解除するときは、できるだけブレーキペダルを踏まないでください。
- 急斜面や積雪、凍結した場所などでの駐車は避けてください。

オートビークルホールド (AVH)

オートビークルホールド (AVH) : 渋滞や信号待ちなどの長い間停車する必要がある場合、自動でブレーキを掛けることで長時間の停車を維持します。

オートビークルホールド (AVH) 待機状態

- 車両の電源ポジションが「OK」の場合、オートビークルホールド (AVH) スイッチを押して機能を ON にすると、コンビネーションメーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯(A)が点灯します。
- 再度オートビークルホールド (AVH) スイッチを押すと、機能が OFF になります。



オートビークルホールド (AVH) 機能の有効化

- コンビネーションメーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯(A)が点灯している状態でブレーキペダルを踏み停車すると、オートビークルホールド (AVH) 機能が作動します。このとき、車両は自動で停車してオートビークルホールド表示灯(A)が点灯します。

⚠ 注意

- オートビークルホールド (AVH) 機能の作動に必要な条件 (同時に満たす必要があります) :
 - ドライバーがシートベルトを確実に締め、かつドアが閉まっていること。
 - インテリジェントパワーブレーキシステムおよび電動パーキングブレーキ (EPB) システムの故障がないこと。
- アクセルペダルを踏んで「P」レンジに切り替えたり、EPB スイッチを引き上げたりすると、オートビークルホールドが解除されて待機状態に戻ります。
- 電源ポジション「OK」時のオートビークルホールド (AVH) 機能は、デフォルトで OFF に設定されています。

オートビークルホールド (AVH) 機能の作動

- オートビークルホールド (AVH) 機能が作動すると、ブレーキランプとハイマウントストップランプが点灯します。コンビネーションメーターのオートビークルホールド表示灯(A)が常時点灯していれば、オートビークルホールド (AVH) 機能が正常に作動しています。

- 車両が 10 分以上停車していると、システムは自動的にオートビークルホールド (AVH) を解除して待機状態に入ります。コンビネーションメーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯(Ⓐ)が点灯し、自動的に「P」レンジへ切り替わります。
- オートビークルホールド (AVH) 機能を有効にするには、「D」レンジに切り替えて走行した後、ブレーキペダルを踏んで停車してください。

⚠ 注意

- 電源ポジションを「OK」にしたときの AVH 機能はデフォルトで OFF と設定されています。待機状態に入ると、コンビネーションメーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯(Ⓐ)が点灯します。

オートビークルホールド (AVH) 機能のキャンセル

- オートビークルホールド作動中に以下の操作を行うと、自動的に「D」レンジから「P」レンジへシフトします：
 - 運転席ドアを開ける。
 - 運転席シートベルトを解除する。
 - 「D」レンジで停車中に、電動パーキングブレーキ (EPB) を ON にする。
 - ブレーキペダルを離れたときにオートビークルホールド (AVH) スイッチを押して、オートビークルホールド (AVH) 機能を OFF にする。

オートビークルホールド (AVH) 機能の抑制

- 「R」レンジに切り替えて低速移動モードになると、オートビークルホールド (AVH) 機能が移動モードに入ります。「R」レンジで低速で後進したり「R」から「D」レンジに切り替え低速で走行すると、オートビークルホールド (AVH) の作動が抑制されるため移動しやすくなります。
- 低速移動モードは、オートビークルホールド (AVH) スイッチを押すか、速度が 10km/h を超えると自動的に解除されます。このとき、オートビークルホールド (AVH) 機能が待機状態になり使用できるようになります。

⚠ 警告

- 人が乗降したり、荷物の積み下ろしを行ったり、洗車機を使用したりするときなどは、AVH 機能を OFF してください。不意に動き始めて、事故につながるおそれがあります。
- ブレーキペダルを離す前に、オートビークルホールド表示灯(Ⓐ)が点灯していることを確認してください。
- AVH 機能によりブレーキが保持されているときに OFF する場合は、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。ブレーキが解除された途端に車両が動き始め、事故につながるおそれがあります。

オートビークルホールド (AVH) 機能の待機に必要な条件 (同時に満たす必要があります)

AVH 機能を ON にしている状態：

- ドライバーがシートベルトを着用。
- 運転席側ドアが閉まっている。
- 車が始動している。
- ESC システムの故障がない。

⚠ 注意

- 電源ポジションを「OK」にしたときの AVH 機能は、デフォルトで OFF に設定されています。待機状態に入ると、メーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯(Ⓐ)が点灯します。

オートビークルホールド (AVH) 機能の作動に必要な条件

- AVH が待機状態に入っていること。
- ドライブレンジの状態で車がブレーキペダル操作で完全に停止していること。
- ドライバーがブレーキペダルを踏み込み、AVH 機能が ON になり動作表示灯が緑で点灯していること。
- AVH 機能が作動してから 10 分以上経過すると EPB が自動的にかかります。EPB がかかると AVH 機能は待機状態に戻ります。

⚠ 注意

- AVH 機能の有効化に必要な条件を同時に満たさなければ、AVH を有効にすることができません。
- シフトレバーが「R」レンジに入っている場合、AVH は機能しません。
- レンジを「D」から「R」に切り替えると、システムが移動モードに入ります。このとき、AVH 機能は有効になりません。AVH スイッチを押す、または速度が 10km/h を超えた場合、移動モードが解除になります。

運転要領

- 敷石が設置されている道路を走行する場合は、ゆっくりと走行しながら正しい角度を保ってください。タイヤを大きく破損させるおそれがあるため、とがっているものや障害物の上を走るとは避けてください。
- 衝撃でホイールを大きく破損させるおそれがあるため、悪路を走行するときはスピードを落としてください。
- 濡れた路面を走行するときは、深い水たまりを避けてください。
- 逆風の中では、車両をコントロールできるようにゆっくり走行してください。
- 洗車や深い水たまりを通り抜けてブレーキが濡れているときは、慎重に運転しながらブレーキペダルを軽く踏んでブレーキを乾かしてください。
- 氷雪、砂石、水濡れのタイル、エポキシ樹脂系塗床などの路面の摩擦係数が低いときは、自然発車がないようにできるだけ坂道での駐車を避けてください。

📌 アドバイス

- バッテリーは車両底部にあるため、ぶつけないように注意しながら運転してください。
- 運転前に、電動パーキングブレーキが解除されており、かつ電動パーキングブレーキ表示灯●が消灯していることを確認してください。
- 電源ポジションが「OK」となっているときは、車両から離れないでください。
- 車両から離れる場合は、リモートキーを携帯してください。
- 長い距離の下り坂を走行するときは、スピードを落としてください。また、頻繁にブレーキを掛けると、ディスクローターが高温になり正常に機能しないおそれがあります。
- 滑りやすい路面で加速したりブレーキを掛ける場合は、車両がスリップや横滑りを引き起こすおそれがあるため、十分に注意してください。
- 生命にかかわる交通事故の発生を避けるため、走行中は窓から頭や手を出さないでください。特に、お子様を乗せているときは十分に注意してください。
- モータールームに大量の水が侵入すると、パワートレインや電気部品の破損につながります。

⚠️ 警告

- ドライバーは、お子様などの乗員が誤った操作をするのを防ぐため、乗員に各機能の使い方を伝え、乗員の安全確保を心がけてください。

冬期の運転について

1. 冷却水が凍結防止の保護機能を発揮していることを点検します。
 - 本車に使われているオリジナル冷却水の型番と同じのものを使用します。冷却システムに冷却水を補充する場合は、周辺温度に応じて適切な冷却水の型番を選択してください。
 - 不適切な冷却水を使うと、冷却システムの破損につながります。
2. バッテリーやケーブルの状況を点検します。
 - 寒い気候では、起動バッテリーの電圧が低下します。そのため、起動バッテリーに十分な電圧を持たせて、始動できるようにしてください。
3. 氷雪によるドアロックの凍結を避けてください。
 - 凍結を防ぐために、ドアロックの鍵穴の中に除氷剤やグリセリンを吹き付けます。
4. 不凍液を含んだウォッシュ液を使います。
 - このような製品は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場やすべての自動車部品販売店で販売されています。
 - 水と不凍液の混合比は、メーカーの指示に従ってください。

⚠ 注意

- ウォッシュ液として冷却水や他の代替品を使わないでください。塗装の早期劣化などにつながるおそれがあります。

5. マッドガード下側への氷雪の付着を避けてください。
 - マッドガード下側に氷雪が付着すると、ハンドル操作が難しくなります。厳冬期の走行時はこまめに停車し、マッドガードの下に氷雪が付いていないかを点検してください。
6. 走行道路によっては、必要な非常用装備やアイテムを用意しておくことをおすすめします。

アダプティブクルーズコントロール（ACC）システム

- アダプティブクルーズコントロールシステム（ACC）は、従来のクルーズコントロールをベースに、レーダーおよびマルチファンクションビデオコントローラーで先行車と本車の相対距離、および相対速度を計測して本車の走行速度を自動的に調整し、先行車との車間距離を一定に保ちながら走る追従走行を可能にした機能です。先行車の有無により、システムがクルーズコントロールと追従型クルーズコントロールの自動切替を行います。
- クルーズコントロールボタンで本車の巡航速度および先行車との車間距離を設定することができます。本車と先行車との車間距離、30～150km/hの範囲内で巡航速度を設定し、0～150km/hの範囲内で車間距離を一定に保ちながら追従走行することもできます。

作動状況説明

- ACC 待機の場合：
 - システムを ON にすると、初期設定の待機状態となりコンビネーションメーターに  アイコンが表示され、手動操作によってシステムを有効にすることができます。作動条件が揃っていないときは、ドライバーが車両状態を確認し、システムを有効にする条件を揃える必要があります（巡航速度は変数）。
- ACC が有効になっている場合：
 - ACC を有効にすると、システムが作動してコンビネーションメーターに  アイコンが表示されます。車両は、設定速度で定速走行または先行車との車間距離を自動で調節して追従走行します（巡航速度は変数）。
- 追い越し時の加速の場合：
 - ACC を有効にした状態でアクセルペダルを踏むと、ACC が追い越しモードになり操作に反応して速度を上げ、ACC の機能を一時的に停止します。アクセルペダルを離すと、ACC が自動的に元のモードに戻ります。
- ACC 故障の場合：
 - ACC が故障すると、コンビネーションメーターに ACC システム警告灯  が表示され、すべての操作が使用できなくなります（巡航速度は変数）。

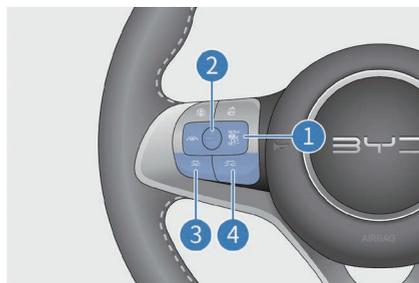
ACC システムの作動条件

- 電動パーキングブレーキ（EPB）は解除されている状態。
- シフトポジションは、「D」レンジ状態。
- 車両がバックしない状態。
- すべてのドア、ボンネット、テールゲートは閉まっている状態。
- ドライバーがシートベルトを着用している状態。
- ESC システムは ON で、なおかつ作動していない状態。
- 速度が $\leq 150\text{km/h}$ のとき。
- 速度が 0km/h のときは、ブレーキペダルを踏み込んだ状態。速度が 0km/h 以外のときは、ブレーキペダルを踏み込んでいない状態。
- コンビネーションメーターに車両ネットワーク通信故障のインフォメーションが表示されていない状態。
- 自動緊急ブレーキ機能が ON となっていない状態。

使い方

ACC ON/OFF ボタン

- ボタン①を押すと（作動条件を満たしている場合、システムはスタンバイ状態）、ACC ON/OFF の切り替えができます。（ボタン①を押して ACC を有効にすると、デフォルトとして現在の速度を巡航速度と設定されます。速度が 30km/h 未満の場合は、 30km/h と設定されます）。



ACC リセット / RES

- 走行中にクルーズコントロールがスタンバイ状態にある場合、システムは最後に設定された巡航速度を記憶します。このとき、上方向にレバー②を操作すると、前回クルーズコントロールを OFF にしたときに記憶した速度に戻すことができます。

設定速度の+ / -

- ACC 機能を ON にしてからレバー②を操作すると、 $30 \sim 150\text{km/h}$ の範囲内で巡航速度を設定できます。上下方向にレバー②を操作すると、設定速度は 5km/h ずつ加速または減速できます。

⚠ 警告

- 走行中の道路の速度制限を遵守し、速度超過にならないように速度を抑えて安全に運転してください。

ACC の解除

- ACC 作動中に再びボタン①を押す、またはブレーキペダルを踏むと、ACC が作動状態からスタンバイ状態に入ります。

車間距離の設定

- ドライバーは、安全な車間距離を選択する責任があります。
- このシステムは、同一車線を走行する先行車と適切な距離を保つように速度を調整することができます。ドライバーは、ステアリングホイールの③または④を操作することで、車間距離を 4 段階で調整できます。車間距離は速度に比例して変化し、速度が速いほど車間距離が広がります。

ACC システム使用時の自動加速 / 減速

- ACC が作動している状態でアクセルペダルを踏み込みスピードを上げることで、早めに設定速度を達成することができます。このとき、システムは追い越し時の加速状態になります。設定速度で走行中にアクセルペダルを踏み込みスピードを上げ、かつ他の操作を行わないときは、スピードを上げた後にアクセルペダルを離すと、設定されていた速度に自動で戻ります。
- ACC が作動している状態でブレーキペダルを踏み込むと、システムはスタンバイ状態になるため、ブレーキペダルを離して再度 ACC を作動する必要があります。

先行車に追従しての停止 / 発進

- システムは、通常の走行モードで先行車に追従して車両を停車させることができます。30 秒以内の停車時は、自動で先行車に追従して発進します。
- 30 秒～3 分以内の停車では、ドライバーがアクセルペダルを踏み込むか、レバー②を上方向へ操作すると ACC が作動します。

システムの限界

- 車両前部に設置されているフロントミリ波レーダーは、汚れにより視界が遮られると本来の機能を発揮できなくなります。特に、積雪でセンサーが覆われるとシステムがOFFになります。システムは、HMI（ヒューマンマシンインターフェース）を通じてドライバーにシステムOFFのメッセージを伝えます。このような場合は、汚れをきれいに取り除いて車両を再始動させる、または通常の道路を一定距離走行すると機能が回復します。
- 円形駐車場やトンネルなどの特別な道路を長時間走行した場合、フロントミリ波レーダー検出特性の限界により一時的に機能しないことがあります。このような場合は、車両を再始動する、または通常の道路を一定距離走行すると機能が回復します。
- カーブに進入またはカーブから抜け出した場合、先行車の選定が遅れたり干渉を受けることがあります。このような場合は、ACCが期待通りに作動しない、または作動が遅れることがあります。
- 曲がりくねった道などの急カーブでは、センサーが感知する前方の車両が数秒間消えることがあるため、ACCの走行速度が上がるおそれがあります。
- ドライバーは、先行車の流れ、雨や霧などの現在の状況に合わせて追従走行時の車間距離を調整し、ACCを適切に設定してください。ACCを適切に設定した後、いつでも車両の速度を減速して停止できるようにしてください。
- ACCは、静止またはゆっくり移動している物体（たとえば、車両や渋滞の後方、料金所、自転車、歩行者）を認識できずに衝突事故を引き起こすおそれがあるため、ドライバーは常に周りの状況に気を付けてください。
- ACCは、歩行者や対向車を認識することはできません。
- ACCは制動力が限られているため、急ブレーキに対応できません。
- フロントミリ波レーダーは、レールや道路工事用金属板などの金属物が中距離レーダーと干渉すると、正常に作動しないことがあります。
- フロントミリ波レーダーが振動や衝突の影響を受けると、性能が低下することがあります。このような場合は、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場まで連絡してください。

警告

- ACCはセーフティシステム、障害物検知システム、または衝突警告システムではなく、快適な運転を支援するためのシステムです。ドライバーは常に車両をコントロールし、自己責任で運転してください。
- ACCはドライバーを支援することはできませんが、ドライバーの代わりに運転するものではありません。ドライバーは常に交通ルールに従い車両をコントロールし、自己責任で運転してください。
- ACCは、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、アダプティブクルーズコントロール機能を使うかどうかを判断してください。

ご注意

- 安全上の理由から、ESCをONにしていない状態では、ACCを有効にすることはできません。
- ACCは、高速道路や状況が良好な公道で走行する場合に適しています。複雑な市街地や山道での走行には適していません。
- 先行車との車間距離を保つことはドライバーの責任です。ACCの車間距離は、現地の運転環境に要求される最小車間距離に適合しています。
- ACC作動時、ドライバーがアクセルペダルまたはブレーキペダルを踏むと、車両のコントロールはドライバーに引き継がれます。このとき、ACCシステムの車間距離制御機能は作動しません。
- 先行車が急ブレーキをかけた場合（緊急停車）、ACCが反応できない、または反応が遅れてブレーキが遅れるおそれがあります。このとき、ドライバーに車両制御への介入を要請するメッセージは届きません。
- 状況によっては（本車の速度に対して先行車が遅い、車線変更速度が速い、安全距離が短いなど）、システムが相対速度を落とすのに必要な時間がない場合があります。このとき、ACCはどのような状況でも音声や映像で警告を出すことができるわけではないため、ドライバーが適切な操作してください。
- 車両が停止している状態でACCを有効にすると、ACCは前方にある静止物を対象車両として認識し、停止状態に維持します。これは、発進時の安全を確保して予期せぬ発進による衝突を避けるためです。ただし、この機能はすべての障害物に対応できるわけではないため、ドライバーは正面方向に障害物や他車がないことを確認してください。
- ACC付き車両が、隣接車線を走行する他車との車間距離が狭い（隣接車線を走行する他車がACC付き車両に近すぎた）場合、ACCが作動することがあります。

- 本車が ACC 付き車両の進路に車線変更し、かつフロントミリ波レーダーの検知範囲内に入っている場合、この車両を対象車両として認識してそれに応じた反応をするため、強力な制動力が掛かったり、ブレーキが遅れることがあります。
- 環境によっては、検知に影響を受けたり遅れることがあり、対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、バイク、歩行者など）場合は、ACC が前車との距離を検知できないおそれがあります。このとき、対象物に対して反応が遅れたり反応できなくなるため、ドライバーが速度をコントロールしてください。また、ノイズや電磁波による干渉などの影響を受けると、検知の遅延や干渉が発生することがあります。
- 本車が先行車と一直線上に走行していない場合、ACC は先行車を対象車両として認識できません。このようなときは、ドライバーが常に車両をコントロールしてください。
- 先行車に追従し停止する場合、まれに先行車の後端を検知できずに下端（車高の高いトラックの後軸や車のバンパーなど）を検知することがあります。このとき、ACC が適切な停止距離を確保できなくなるため、ドライバーは常に注意を払っていつでもブレーキを掛けられる準備をしてください。
- 車高を下げたりナンバープレート取り付けブラケットを変更するなど、車両の構造的な改造はシステムに影響を与えるおそれがあります。
- 視界が悪い場所、坂道やカーブが続く道路、滑りやすい路面（雪道、凍結路、濡れた道路や水浸しの道路など）を走行する場合は、絶対に ACC を使わないでください。
- けん引 / 雪道 / めかるみ / 砂道 / 山地などの特別な運転モード * では、ACC は作動できません。
- 次の場合は、必ず BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でのフロントミリ波レーダー、マルチファンクションビデオコントローラーの校正、点検をしてください。
 - フロントミリ波レーダー、フロントバンパー、フロントガラスを取り外すとき。
 - 車輪の振れによりホイールアラインメント調整を行ったとき。
 - 衝突したとき。
 - ACC の性能低下、またはコンビネーションメーターからシステム異常のメッセージに気づいたとき。

ナビゲーションパイロット (ICC)

- ナビゲーションパイロットは、アダプティブクルーズコントロールシステム (ACC) とレーンキープアシストシステム (LKS) の機能を組み合わせたシステムで、速度が 0 ~ 120km/h 以内において、前後左右方向への制御を支援してドライバーの運転負荷を軽減し、安全で快適な運転環境を提供します。
- 機能が作動中、ドライバーは常にハンドルを持ち、必要なときに車両のコントロールをする必要があります。
- 前後方向制御支援は ACC によって行われ、速度および先行車との車間距離を一定に保ちながら走行することができます。

作動状況説明

- ICC 待機の場合：
 - ICC システムは、初期設定の待機状態となりコンビネーションメーターに  アイコンが表示され、ドライバーの操作でシステムを有効にすることができます。作動条件が揃っていないときは、ドライバーが車両状態を確認し、システムを有効にする条件を揃える必要があります。
- ICC が有効になっている場合：
 - ICC を有効にすると、システムが作動してコンビネーションメーターに  アイコンが表示されます。車両は、設定速度で定速走行または先行車との車間距離を自動で調節して追従走行します。
- ICC 故障の場合：
 - ICC が故障すると、コンビネーションメーターに ICC システム警告灯  が表示され、機能が使用できなくなります。

ICC システムの作動条件

- 電動パーキングブレーキ (EPB) が解錠されている状態。
- シフトポジションは、「D」レンジ状態。
- 車両がバックしない状態。
- すべてのドア、ボンネット、テールゲートは閉まっている状態。
- ドライバーがシートベルトを着用している状態。
- ESC システムは ON で、なおかつ作動していない状態。

- 速度が ≤ 150km/h のとき。
- 速度が 0km/h のときは、ブレーキペダルを踏み込んだ状態。
速度が 0km/h 以外のときは、ブレーキペダルを踏み込んでいない状態。
- コンビネーションメーターに車両ネットワーク通信故障のインフォメーションが表示されていない状態。
- 自動緊急ブレーキ機能が ON となっていない状態。
- 双方向車線が明瞭に表示され、かつ本車が車線の中央部を走行している状態。

使い方

- ステアリングホイールのボタンを押すと、ナビゲーションパイロット機能の ON/OFF 操作を行うことができます（機能が ON になると初期設定としてクルーズ速度が設定され、現在の車速がデフォルトのクルーズ速度となります。速度が 30km/h 未満の場合は、30km/h に設定されます）。
- クルーズ速度および車間距離の設定は、ACC 機能の使い方を参照してください（詳細は「[アダプティブクルーズコントロール \(ACC\) システム](#)」を参照）。
- ドライバーは、 → **ADAS** → **インテリジェントドライブ** の設定画面から **ナビゲーションパイロット** の ON/OFF を行うことができます。（ソフトスイッチが ON になっていると、シフトレバーが「P」レンジに入っている場合に限り、OFF にすることができます）。車両始動時の設定は、前回の状態を維持します。

ご注意

- ナビゲーションパイロットは、アダプティブクルーズコントロールシステム (ACC) とレーンキープアシストシステム (LCC) の機能を組み合わせたシステムのため、ご利用の際は、ACC 機能の注意を必ず守ってください（詳細は「[アダプティブクルーズコントロール \(ACC\) システム](#)」を参照）。
- 機能を ON にして作動させた後、本車の速度が 0 ~ 120km/h の範囲内の場合：
 - 前方に車線境界線がないときは、ICC の横方向制御が抑制されて ACC のみ機能します。このとき、コンビネーションメーターの ICC システム作動状態表示灯が灰色で点灯します。
 - 前方の車線境界線が明瞭に認識できるときは、ICC の横方向制御が自動で機能します。このとき、コンビネーションメーターに ICC システム作動状態表示灯が有効状態であることを表示します。

- ナビゲーションパイロットは、天気や照明の明るさ、車線境界線の明瞭さの影響を受けるため、日陰、夕日、路面の積雪および著しい摩耗がある路面では、性能が著しく低下します。
- 急カーブが連続する道や凍結して滑りやすいカーブ、または悪天候（濃霧、大雨、大雪など）により、フロントミリ波レーダーやマルチファンクションビデオコントローラーの視野が遮られている場合は、ナビゲーションパイロットの利用を避けてください。
- 機能が使えない場面：
 - センサーが遮られているとき。
 - 悪天候のとき。
 - 能動的安全システムが機能しているとき。
 - 走行速度の範囲を超えているとき。
 - けん引/雪道/ぬかるみ/砂道/山地などの特別な運転モード*では、ICCは作動できません。

⚠ 警告

- ナビゲーションパイロットは、運転を支援するためのシステムであり、自動運転ではありません。ドライバーは常に車両をコントロールし、長時間ステアリングホイールから両手を離さないでください。そうしないと、警告メッセージが表示された後にシステムがOFFになります。
- ナビゲーションパイロットは、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、ナビゲーションパイロットを使うかどうかを判断してください。

衝突予測警告 (PCW) および自動緊急ブレーキ (AEB)

衝突予測警告システム (PCW) および自動緊急ブレーキシステム (AEB) は、レーダーとマルチファンクションビデオコントローラーにより本車線上の先行車や歩行者を検知します。システムは、本車が先行車または歩行者と正面衝突するおそれがあると判断した場合、音声・視覚警告を出してドライバーへ回避行動を取るよう促すと同時に、潜在的な制動力を強くして対応できるための反応時間を確保することができます。衝突の可能性が高くなりつつあると判断した場合は、ブレーキを自動で作動させてドライバーが衝突を回避できるようにアシストし、衝突の被害を軽減します。

使い方

- ドライバーは、 → ADAS → アクティブセーフティ の設定画面から、**衝突予測警告 (PCW)** および **自動緊急ブレーキ** を設定することができます。
- 衝突予測警告の警告方法は、音声による警告、文字による警告、ポンピングブレーキ警告があります。
- 衝突予測警告が作動したときは、緊急度合いによりコンビネーションメーターの警告灯が緑または赤で点滅してメッセージが表示されます。
- 自動緊急ブレーキが作動したときは、コンビネーションメーターの警告灯が赤で点灯してメッセージが表示されます。
- 機能が故障した場合は、コンビネーションメーターにが表示されません。
- ドライバーが自動緊急ブレーキを OFF にした場合は、コンビネーションメーターにが表示されます。

PCW システムの作動条件

- 車両設定から機能を ON にする。
- 速度が、16km/h ~ 150km/h の範囲。
- シフトポジションは、「D」レンジ状態。
- 車両がバックしない状態。

AEB システムの作動条件

- 車両設定から機能を ON にする。
- 速度が、4km/h ~ 150km/h の範囲。
- 電動パーキングブレーキ (EPB) は解除されている状態。
- シフトポジションは、「D」レンジ状態。
- 車両がバックしない状態。
- すべてのドア、ボンネット、トランクリッドは閉まっている状態。
- ドライバーがシートベルトを着用している状態。
- ESC システムは ON で、なおかつ作動していない状態。

システムの限界

- 対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、バイク、歩行者など）場合、状況によっては、感知に影響が出たり遅れることがあるため、システムが前方の対象物との距離を検知できないおそれがあります。そのため、反応が遅れる、または反応できなくなります。
- 次の場合は、システムが影響を受けるまたは機能しないことがあります。
 - 雨、雪、霧、または大きな水しぶき、反射光、直射日光、照明の明るさの急激な変化。
 - センサーの汚れ、曇り、破損、または遮断。
 - レーダーが他のレーダー源の干渉により故障する。たとえば、立体駐車場での強いレーダー反射。
- 交通状況が複雑な場合、システムは下記の場面に正しく対応できないことがあります。
 - ハイスピードでセンサーの検知範囲に現れた歩行者や車両。
 - 他のものに遮られている歩行者。
 - 背景と見極めができない歩行者の輪郭。
 - 特殊な衣服、または他のものに覆われているなどで検知されない歩行者。
 - 半径が小さいカーブ。
- 対向車がいる場合：
 - 対向車と衝突するリスクを検知すると、システムが緊急ブレーキを自動で作動させます。事故の発生が回避できないときは、システムの作動によって衝突速度が下がります。

ご注意

- 自動緊急ブレーキの作動は、走行速度が一定速度より速い場合に限られます。このシステムは、いかなるモードでも正しく作動できるわけではないため、慎重に運転してください。
- ESC システムが OFF または警告灯が点灯している場合は、自動緊急ブレーキシステムが正常に作動できません。
- 衝突予測警告システムが警告を出している場合、ドライバーは交通状況に応じてブレーキ操作で速度を落とす、またはハンドル操作で障害物を回避してください。
- 車間距離が近い状態で長時間走行すると、安全距離警告システムが車間距離を取るよう警告を出します。先行車が急ブレーキをかけると衝突は避けられません。
- 緊急警告時にドライバーが気づいている場合は（ドライバーがハンドルを切ったりアクセルペダルやブレーキペダルを踏むなど）、自動緊急ブレーキは作動しません。
- 円形駐車場やトンネルなどの特別な道路を長時間走行した場合、フロントミリ波レーダーの検出特性の限界により一時的に機能しないことがあります。このような場合は、車両を再始動する、または通常の道路を一定距離走行すると機能が回復します。
- フロントミリ波レーダーやマルチファンクションビデオコントローラーが、表面の汚れや異物付着を誤って認識するエラーの場合は、コンビネーションメーターに関係メッセージが表示されるため（表面の汚れや異物の付着によりセンサーが感知できなくなった）、メッセージに従ってセンサー表面の異物を取り除いてください。エラーの間は、衝突予測警告と自動緊急ブレーキシステムが OFF になり、エラーが解消されると、衝突予測警告と自動緊急ブレーキシステムが正常に作動できるようになります。
- 歩行者保護システムは、克服できない物理的な条件の制限があるため、ドライバーは危険モードに対して車両制御に素早く介入してください。
- 歩行者保護をシステムそのものに頼っていると、事故や重大な傷害を完全に避けることができません。
- 歩行者保護システムは、曲がっている幹線道路などの複雑な状況では、不必要な警告発信やブレーキ操作を行うことがあります。
- システムに故障がある場合は、間違った警告発信やブレーキ操作を行うことがあります（たとえば、フロントミリ波レーダーやマルチファンクションビデオコントローラーの角度ずれ）。

- 自動緊急ブレーキが作動すると、ブレーキペダルの操作フィーリングが重くなります。また、短時間でブレーキキャリパーを動かすのに大きな油圧が必要となるため、「ズズ」という音が聞こえることがあります。
- 予測緊急ブレーキは、ドアを閉めてシートベルトを着用している場合に限り作動します。次の場合は、予測緊急ブレーキシステムが機能しないことがあります。
 - ドアが閉まっていない、または走行中にドアが開いたとき。
 - シートベルトを着用していない、または走行中にシートベルトを外したとき。
 - ドライバーが急アクセルまたは急ブレーキ操作をしたとき。
 - 半径が小さいカーブ。
- 次の場合は、システムが常に最適な性能を発揮することができないおそれがあります。
 - 事故や他の原因により、フロントバンパーに強い衝撃を受けたとき。
 - タイヤ空気圧の過不足、またはタイヤの過度な摩耗があるとき。
 - 規定に合わないタイヤを装着したとき。
 - タイヤチェーンを装着したとき。
 - 小型スペアタイヤ、または緊急用パンク修理キットを使ったとき。
- 次の場合は、必ずBYD 正規ディーラーまたはBYD 指定サービス工場ですべてのセンサーの校正を行ってください。
 - フロントミリ波レーダーまたはマルチファンクションビデオコントローラーを取り外したとき。
 - ホイールアライメント調整中に、トーインやリアタイヤのキャンバー角を調節したとき。
 - 衝突事故発生後に、フロントミリ波レーダーまたはマルチファンクションビデオコントローラーの位置が変わったとき。
- 紙箱、鉄板、ダミー人形などで予測緊急ブレーキシステムの作動試験を勝手に行わないでください。システムが正常に機能せず事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

- 自動緊急ブレーキは、いかなる状況でも衝突の回避ができるわけではありません。交通状況が複雑な場合は、システムが車両と歩行者の認識をきちんと対応できないことがあります。また、マンホールカバーや鉄板、道路標識に反応し、誤って警告を発したりブレーキをかけるおそれがあります。
- 必ず安全運転を心がけて運転し周囲の交通状況に注意してください。いかなる場合も、通常のブレーキの代わりに自動緊急ブレーキを使用しないでください。
- 事故の発生や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあるため、自動緊急ブレーキを過信しないでください。このシステムは運転を支援するためのものであるため、ドライバーは自己責任で先行車との車間距離を適切に保って速度を制御し、必要に応じてブレーキを掛けたりハンドルを操作できるようにしてください。また、ドライバーは常に車両をコントロールし、自己責任で運転してください。
- 歩行者保護をシステムそのものに頼っていると、事故や重大な傷害を完全に避けることができません。
- 衝突予測警告および自動緊急ブレーキは運転を支援するためのシステムです。そのため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- 衝突予測警告および自動緊急ブレーキは、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、衝突予測警告および自動緊急ブレーキを使うかどうかを判断してください。

フロントクロストラフィックアラート (FCTA) および フロントクロストラフィックオートブレーキ (FCTB)

フロントクロストラフィックアラート (FCTA) およびフロントクロストラフィックオートブレーキ (FCTB) は、フロントバンパーの左右両側に搭載されるフロントミリ波レーダーで本車の先方を横切る車両を検知すると、ドライバーに知らせるとともに、必要に応じて自動でブレーキを掛けます。本車が低速で走行中に、先方を横切る車両と衝突する危険を検知すると、音声・視覚警告でドライバーに知らせます。また、衝突事故が発生しそうなときは、自動でブレーキを作動させて衝突事故の発生を避けます。

使い方

- ドライバーは、 → ADAS → アクティブセーフティ の設定画面から フロントクロストラフィックアラート および フロントクロストラフィックブレーキ の ON/OFF を設定することができます。
- フロントクロストラフィックアラートを有効にしたときは、ドアミラー警告灯が点滅して音声警告を出します。
- フロントクロストラフィックオートブレーキが作動したときは、コンビネーションメーターの警告灯が赤で点灯し、音声警告を出すと同時に自動で緊急ブレーキを作動させます。
- フロントクロストラフィックアラート / オートブレーキに故障があったときは、コンビネーションメーターにが表示されます。

ご注意

- システムは前方の監視を支援しますが、ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではありません。そのため、ドライバーは常に車両をコントロールし自己責任で運転してください。
- 対象車両が側面からハイスピードで本車に接近してきた場合、システムは警告機能を発揮できないことがあります。
- ドライバーは、システムが正常に作動するように泥や雪などの付着物を早めに取り除き、フロントバンパー左右両側のフロントミリ波レーダーの設置部位を良好な状態に維持してください。
- ノイズや電磁波による干渉などの影響を受けると、システムの検知が遅れたり干渉を受けることがあります。

- 感知システムが影響を受けたり遅れることがあった場合、状況によっては、システムが運転を支援できないことがあります。考えられる状況は次に示す場合を含みますが、それらに限られません。
 - 側面から接近してきた車両が最後のタイミングで車線を切り替えるとき。
 - 対象車両が遮られたとき。
 - 対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、バイクなど）とき。
 - 雨、雪などの悪天候のとき。
 - フロントミリ波レーダーの緩みや外れ、干渉があるとき。
 - 金属製ガードレールがあるなど、道路環境が複雑なとき。
- 次の場合は、システムが機能しなくなります。
 - 対象物がミリ波レーダーの検知範囲外にあるとき。
 - フロントクロストラフィックアラート/オートブレーキスイッチがOFFになっているとき。
 - シフトポジションが「D」以外のレンジに入っているとき。
 - 4つのドアが閉まっていないとき。
 - システムの初期化が完了していないとき。
 - フロントミリ波レーダーに故障があるとき。
 - 急カーブや坂道などで先方の横から接近してきた車両の感知が遅れたとき。
- ミリ波レーダーセンサーの校正が振動や衝突の影響を受けたことにより、システム性能が低下するおそれがあります。このようなときは、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡してください。

⚠ 警告

- フロントクロストラフィックアラート/オートブレーキは運転を支援するためのシステムです。そのため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- フロントクロストラフィックアラート/オートブレーキは、天候や道路環境などにより機能しない、または作動が遅れるおそれがあります。
- ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、フロントクロストラフィックアラート/オートブレーキを使うかどうかを判断してください。

交通標識認識システム (TSR)

交通標識認識システム (TSR) は、マルチファンクションビデオコントローラーおよび地図*により道路の速度制限標識を認識します。また、コンビネーションメーターに認識した速度制限標識を表示して、速度が制限速度を超えたときは、ドライバーへ警告情報を発信します。

使い方

- ドライバーは、 → **ADAS** → **ドライビングアシスト** の設定画面から **交通標識認識システム** を設定することができます。
- 交通標識認識システムが交通標識を認識すると、コンビネーションメーターに赤  のアイコンが表示されます。
- 交通標識認識システムにより、認識した制限速度が現在の道路に適用しているかを判断できない場合は、コンビネーションメーターに赤  のアイコンが表示されます。
- 交通標識認識システムの性能が低下した場合は、コンビネーションメーターに黄色  のアイコンが表示されます。
- 交通標識認識システムの性能が低下し、かつシステムで認識した制限速度が現在の道路に適用しているかを判断できない場合は、コンビネーションメーターに黄色  のアイコンが表示されます。
- 交通標識認識システムが故障している場合は、コンビネーションメーターに黄色  のアイコンが表示されます。
- 交通標識認識システムを OFF にした場合は、コンビネーションメーターに  アイコンが表示されます。
- 上記の数字は、実際の交通標識に合わせて表示されます。

ご注意

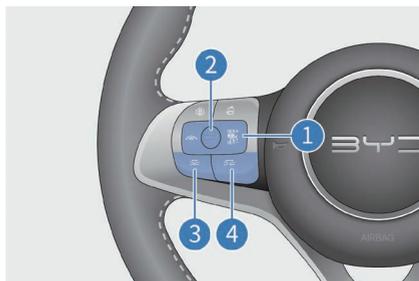
- 交通標識認識システムは制限速度標識のみを認識するため、車両のアクティブ制御には関与しません。そのため、ドライバーは常に車両をコントロールできる適切な速度で運転してください。
- 定められたサイズに一致していない重量制限標識の場合は、誤って制限速度標識として認識されることがあります。
- 標識が不明瞭で、歪み、傾き、反射、部分的な遮断などがある場合は、マルチファンクションビデオコントローラーの認識能力が低下したり認識できなくなります。
- 交通標識認識システムの性能は、天気や照明の明るさ、道路標識の明瞭さに影響を受けます。夜間、日陰、夕暮れ、雨天、霧、もや、氷雪の付着、砂塵、明るさの急激な変化などにより、認識能力が低下して標識を認識できないことがあります。
- 衝突事故が発生した、またはマルチファンクションビデオコントローラーセンサーの脱着をした後は、システム性能への支障がないようにBYD 正規ディーラーまたはBYD 指定サービス工場にセンサーの校正を依頼してください。

警告

- 交通標識認識システムは運転を支援するためのシステムです。そのため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- 交通標識認識システムは、天候や道路環境などにより機能しない、または作動が遅れるおそれがあります。
- ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、交通標識認識システムを使うかどうかを判断してください。

インテリジェントスピードリミットコントロール (ISLC)

■ インテリジェントスピードリミットコントロール (ISLC) は、アダプティブクルーズコントロールシステム (ACC) と速度制限標識認識システム (TSR) を組み合わせた機能です。機能を ON にすると速度制限標識を認識し、本車が速度超過になっている場合は、認識した制限速度に ACC 巡航速度を調節するかを知らせます。ドライバーが操作（下方向へ ACC 速度制御レバー②を操作）すると、車両が制限速度以下で走行するようにシステムは認識した制限速度に ACC 巡航速度を自動で調節します。



■ ドライバーは、速度 30km/h ~ 150km/h の範囲内で機能を ON にすることができます。

使い方

■ ドライバーは、 → ADAS → ドライビングアシスト → 交通標識認識システム の設定画面から、スピードリミットコントロール (ISLC) の設定を ON/OFF することができます。

■ 交通標識認識システムを OFF にすると、インテリジェントスピードリミットコントロールのアイコンが灰色になり機能が OFF されます。交通標識認識システムを ON にすると、インテリジェントスピードリミットコントロールを操作することができます。

■ インテリジェントスピードリミットコントロールは、ACC 機能が ON の場合に作動させることができます。

ご注意

- インテリジェントスピードリミットコントロールは、アダプティブクルーズコントロールと交通標識認識システムを組み合わせたシステムです。利用する場合は、アダプティブクルーズコントロールおよび交通標識認識システムの注意事項を守ってください（詳細は「[インテリジェントスピードリミットコントロール \(ISLC\)](#)」および「[交通標識認識システム \(TSR\)](#)」を参照）。
- インテリジェントスピードリミットコントロールは運転を支援するためのシステムです。そのため、ドライバーは常に車両をコントロールしてください。
- インテリジェントスピードリミットコントロールの性能は、天気や照明の明るさ、道路標識の明瞭さに影響を受けます。夜間、日陰、夕暮れ、雨天、霧、もや、氷雪の付着、砂塵、明るさの急激な変化などにより、認識能力が低下して標識を認識できないことがあります。

警告

- インテリジェントスピードリミットコントロールは運転を支援するためのシステムです。そのため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- インテリジェントスピードリミットコントロールは、天候や道路環境などにより機能しない、または作動が遅れるおそれがあります。
- ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、インテリジェントスピードリミットコントロールを使うかどうかを判断してください。

ハイビームアシストシステム (HMA)

ハイビームアシスト (HMA) は、マルチファンクションビデオコントローラーセンサーにより現在の運転環境を判断し、速度が 35km/h 以上になるとハイビームを自動で ON/OFF します。

作動状況説明

- ハイビームアシストシステムが待機の場合：ON になっているが作動していない状態です。このとき、コンビネーションメーターにアイコンが表示されます。
- ハイビームアシストシステムが有効の場合：機能を ON にしてライトスイッチがオート的位置にある場合、速度が 35km/h を超えて明るさの条件を満たしていれば自動で作動します。このとき、コンビネーションメーターにアイコンが表示されます。
- ハイビームアシストシステムが故障の場合：機能の故障が起きている状態です。このとき、コンビネーションメーターにアイコンが表示されます。

使い方

- ドライバーは、 → ADAS → ドライビングアシスト の設定画面からハイビームアシスト (HMA) の設定を ON/OFF することができます。また、車両を再始動時の設定は前回の設定になります。
- 機能を ON にしてライトスイッチがオート的位置にある場合、速度が 35km/h を超えて明るさの条件を満たすと、システムが実際の走行状況に応じてロービーム / ハイビームを自動で切り替えます。

ご注意

- ハイビームアシストシステムはライトを制御するための支援機能であり、高速走行中は利用することをおすすめします。ただし、システムはドライバーに完全に取って代わるものではないため、常に道路交通規則を遵守し、道路環境の変化に合わせてロービームとハイビームを適切に切り替えてください。
- ABS や ESC の作動など、車両がハイダイナミックレンジな状態にある場合は、ライトの切り替えが制限されます。
- ドライバーがフォグランプ、ターンシグナルランプを点ける、ワイパーを高速作動に切り替える、バックで車両を走行させる、ライトスイッチをオート以外に切り替える、環境光が強すぎる場合は、ハイビームアシストシステムが OFF になります。
- 衝突事故が発生した、またはカメラセンサーの脱着をした後は、システム性能への支障がないように BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にセンサーの校正を依頼してください。

警告

- ハイビームアシストシステムが ON で作動している場合でも、環境や条件によっては誤作動や作動しないことがあるため、そのような場合は手で操作してください。代表的な状況は次の通りです。
 - 照明が弱い交通参加者（歩行者や自転車など）や、鉄道や水路に近隣する道路または野生動物が出没している道路を走行したりするとき。
 - フロントガラスに霧や汚れが付いている、またはラベルやアクセサリなどで遮られているとき。
 - 光を強く反射するものがあるとき（高速道路上の交通標識、路上の水たまり、先行車のトレーラーの反射する後端など）。
 - 雨や雪、強風などの悪天候のとき。
 - パンクなどによりタイヤの空気圧が低下して傾いているとき。
- ハイビームアシストシステムは運転を支援するためのシステムです。そのため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- ハイビームアシストシステムは、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、ハイビームアシストシステムを使うかどうかを判断してください。

レーンサポートシステム (LDA)

車線逸脱警告 (LDW)

車線逸脱警告 (LDW) は、マルチファンクションビデオコントローラーにより前方車線を検知します。速度が 60km/h ~ 150km/h のときにドライバーの不注意で車線から逸脱すると、システムがステアリングホイールの振動、音声、コンビネーションメーターへの表示などにより、車線の逸脱をドライバーに知らせます。

車線逸脱防止 (LDP)

車線逸脱防止 (LDP) は、マルチファンクションビデオコントローラーにより前方車線を検知します。速度が 60km/h ~ 150km/h のときにドライバーの不注意で車線から逸脱すると、電動パワーステアリングシステム (EPS) 制御により、反対方向にステアリングホイールを軽く回して車線のはみ出しを防ぎます。

車線逸脱防止が作動を開始してから 5 秒を超えた場合、5 秒後に警告を出します。警告の出し方は音声警告と視覚警告があり、警告はシステムが作動状態を終了するまで続きます。180 秒以内に 2 回またはそれより多くシステムを連続的に作動させた場合は、ただちに警告を出します。また、3 回目の作動 (および以後の作動) からは、警告時間を前の時間より 12 秒以上長くします。

使い方

- ドライバーは、 → **ADAS** → **ドライビングアシスト** の設定画面から、**レーンサポートシステム** の設定を ON/OFF することができます。
- レーンサポートシステムの警告パターンは、音声警告のみ、ステアリングホイール振動のみ、音声警告 + ステアリングホイール振動の 3 つがあります。
- 車線逸脱警告や車線逸脱防止を ON にすると、コンビネーションメーターに  アイコンが表示されます。
- 車線逸脱警告が作動すると警告 (警告の出し方: 音声警告、視覚警告、ステアリングホイール振動による警告) を出して、コンビネーションメーターの車線境界線が赤色になります。
- 車線逸脱防止が作動すると警告 (警告の出し方: 音声警告、視覚警告) を出して、コンビネーションメーターの  アイコンが 2 回点滅して車線境界線が青色になります。

- 故障があった場合は、コンビネーションメーターにアイコンが表示されます。

システムの限界

複雑な道路環境では、レーンサポートシステムが誤った検知をしたり車線を検知できないことがあります。次の場合は、システムが機能しない、または性能が著しく低下するおそれがあります。

- 雪、雨、霧により、視界が悪くなったとき。
- フロントガラスの汚れや曇り、またはマルチファンクションビデオコントローラー前方への異物付着。
- 直射日光、路面の水たまりの反射、対向車などからの反射光。
- トンネルの出入口など周囲環境の明るさの急激な変化。
- 直射日光が路面に当たり、木陰が車線に干渉したとき。
- 道路と道端の草・土壌・縁石などとの境界線が認識できないとき。
- 機能の頻繁な作動による操作の妨げを防ぐため、狭い車線を走るときは当該機能が抑えられることがあります。

ご注意

- ドライバーがターンシグナルランプを点灯させて指示した方向へ車線を切り替えた場合、レーンサポートシステムは無効になります。
- 車線境界線上を走行中に、車線境界線が目立たない、細すぎる、摩耗、不明瞭、汚れや氷雪が付着している場合は、レーンサポートシステムが無効になることがあります。
- 車線が広い狭い、車線の数が多い少ない、誘導路や高速道路の出口など短時間で境界線が切り替わる、複雑な車線を切り替える場合は、レーンサポートシステムが無効になることがあります。
- 坂道や曲がった道路を走行中に、先行車との距離が近すぎる、または車線境界線が先行車に遮られた場合は、レーンサポートシステムが無効になることがあります。
- 走行中の道路事情により激しいデコボコ路があり、急アクセルや急ブレーキまたは急ハンドル操作をすると、レーンサポートシステムが無効になることがあります。また、マルチファンクションビデオコントローラーの視界範囲内のガラス割れ、フロントガラスの着色、規則に適合しない塗膜、インストルメントパネルの上に置いた光を反射するもの、およびカメラの視界を妨げる後付け部品のすべては、システムの正常な作動に影響を与えるおそれがあります。

- 安全のために、自ら車線逸脱警告機能の作動試験を行わないでください。また、マルチファンクションビデオコントローラーの視界が遮られたり、強い光に干渉しないようにしてください。視野が一時的に遮られたり、強い光に干渉すると機能が OFF になり、視野が正常に戻ると自動で復帰します。自動で復帰しないときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 下記の場合は、レーンサポートシステムを OFF にすることをおすすめします。
 - スポーティーな走りのとき。
 - 悪天候のとき。
 - 悪路を通り抜けるとき。
- 次の場合は認識される保証がありません。次のシーンを含みますがそれらに限りません。
 - 不明瞭な車線。
 - 部分的に消えている車線。
- 以下の場合は、マルチファンクションビデオコントローラーの機能障害または機能の作動遅れにつながるおそれがあります。次のシーンを含みますがそれらに限りません。
 - マルチファンクションビデオコントローラーの緩みや外れ、干渉があるとき。
 - 雨、雪、PM2.5 など極端な気象のとき。
 - マルチファンクションビデオコントローラーのレンズの一部、または全部が遮られているとき。

⚠ 警告

- レーンサポートシステムは、前方不注意または視界不良による危険を回避するものではなく、運転を支援するためのシステムです。システムには限界があるため、過信せず安全運転を心がけてください。
- レーンサポートシステムは、運転を支援するためのシステムです。そのため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- レーンサポートシステムは、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、レーンサポートシステムを使うかどうかを判断してください。

緊急時車線維持支援 (ELKA)

緊急時車線維持支援 (ELKA) は、マルチファンクションビデオコントローラーで先方の車線を検知し、リアコーナー部のミリ波レーダーで隣接車線を走行する後続車を検知します。速度が 50km/h ~ 150km/h の範囲内で、本車を実線の車線境界線から逸脱して道路をはみ出す、または対向車や隣接車線を走行する車両と衝突するおそれがあると判断すると、システムが電動パワーステアリング (EPS) を操作して反対方向にステアリングホイールを軽く回し、現在の車線を維持しようとします。

使い方

- ドライバーは、 → ADAS → ドライビングアシスト → レーンサポートシステム の設定画面から、**緊急時レーンキープアシスト** の設定を ON/OFF することができます。
- 緊急時車線維持支援を ON にすると、コンビネーションメーターの  アイコンが点滅します。
- 緊急時車線維持支援が故障すると、コンビネーションメーターに  アイコンが表示されます。
- 緊急時車線維持支援を OFF にすると、コンビネーションメーターに  アイコンが表示されます。

システムの限界

- 複雑な道路環境では、緊急時車線維持支援が誤った検知をしたり車線を検知できないことがあります。次の場合は、システムが機能しない、または性能が著しく低下するおそれがあります。
 - 雪、雨、霧により、視界が悪くなったとき。
 - フロントガラスの汚れや曇り、またはマルチファンクションビデオコントローラー前方への異物付着。
 - 直射日光、路面の水たまりの反射、対向車などからの反射光。
 - トンネルの出入口など周囲環境の明るさの急激な変化。
 - 直射日光が路面に当たり、木陰が車線に干渉したとき。
 - 道路と道端の草・土壌・縁石などとの境界線が認識できないとき。
- 機能の頻繁な作動による操作の妨げを防ぐため、狭い車線を走るときは当該機能が抑えられることがあります。

ご注意

- 次の場合は認識される保証がありません。次のシーンを含みますがそれらに限りません。
 - 歩行者、動物、特殊車両、または異形車。
 - 不明瞭で、部分的に消えている車線。
- 以下の場合、マルチファンクションビデオコントローラーの機能障害または機能の作動遅れにつながるおそれがあります。次のシーンを含みますがそれらに限りません。
 - マルチファンクションビデオコントローラーの緩みや外れ、干渉があるとき。
 - 雨、雪、PM2.5 など極端な気象のとき。
 - マルチファンクションビデオコントローラーのレンズの一部、または全部が遮られているとき。
- 以下の場合、ミリ波レーダーの機能障害または機能の作動遅れにつながるおそれがあります。次のシーンを含みますがそれらに限りません。
 - ミリ波レーダーの緩みや外れ、干渉があるとき。
 - 雨、雪、PM2.5 など極端な気象のとき。
 - 金属製ガードレールがあるなど、道路環境が複雑なとき。

警告

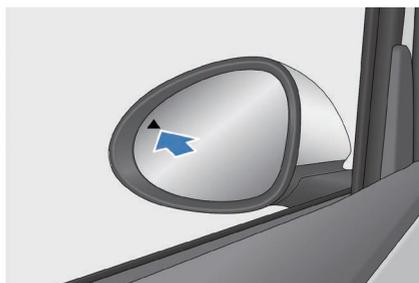
- 緊急時車線維持支援は運転を支援するためのシステムです。そのため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- 緊急時車線維持支援は、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、緊急時車線維持支援を使うかどうかを判断してください。

ブラインドスポットアシストシステム (BSA)

■ ブラインドスポットアシストシステム (BSA) は、ブラインドスポットインフォメーション (BSD)、リアクロストラフィックアラート (RCTA)、リアクロストラフィックブレーキ (RCTB)、後方衝突予測警告 (RCW)、ドアオープンワーニング (DOW) 機能を備えています。主にリアバンパーの左右両側にあるミリ波レーダーで本車の後方の交通状況を判断し、ドライバーに安全運転を心がけるように知らせます。

ブラインドスポットインフォメーション (BSD) *

速度が 15 ~ 150km/h のときに、リアコーナー部のミリ波レーダーにより隣接車線の死角領域内に車両がいる、または隣接車線から急接近する車両を検知した場合、該当のドアミラーの警告灯が点灯します。このとき、同じ方向のターンシグナルランプを点灯すると、危険を知らせるためにドアミラーの警告灯が点滅し、安全に注意するように知らせます。



4

使用および運転

リアクロストラフィックアラート (RCTA) *

速度が 15km/h 以下で後退中に、リアコーナー部のミリ波レーダーにより後方の死角領域を走行する車両を検知し、斜め後方から接近してくる車両が本車と衝突するおそれがあると判断した場合は、ドアミラーの警告灯を点灯させると同時に音声警告を出して、ドライバーに注意喚起をして衝突の可能性を低減します。

リアクロストラフィックブレーキ (RCTB) *

車両速度が 9km/h 以下のときに、リアコーナー部のミリ波レーダーにより斜め後方の死角領域を走行する車両を検知し、斜め後方から接近してくる車両が本車と衝突するおそれがあると判断した場合は、自動で緊急ブレーキを作動させます。

後方衝突予測警告 (RCW) *

速度が 5 ~ 146km/h で走行中に、リアコーナー部のミリ波レーダーにより後続車の急接近を検知し、追突のおそれがあると判断した場合は、ハザードランプを点滅させて後続車のドライバーに知らせます。

ドアオープンワーニング (DOW) *

停車中でドアを解錠しているときに、リアコーナー部のミリ波レーダーにより自転車や自動車などの移動物が後方の隣接車線から本車に接近してきた場合、ドアミラーの警告灯を常時点灯させて自動車などの存在をドライバーに知らせます。このとき、ドライバーがドアを開けようとするときドアミラーの警告灯が点滅すると同時に音声警告を出します。

機能ボタンの操作

- ドライバーは、 → ADAS → アクティブセーフティ → ブラインドスポットアシスト の設定画面から、ブラインドスポットインフォメーション、ドアオープン警告 (DOW)、後方衝突予測警告システム (RCW)、リアクロストラフィックアラート (RCTA)、リアクロストラフィックブレーキ (RCTB) の ON/OFF を設定することができます。
- ブラインドスポットアシストシステム OFF：コンビネーションメーターの関係機能の表示灯が消えます。
- ブラインドスポットアシストシステム待機：速度、シフトポジションなどの作動条件を満たしていないと、コンビネーションメーターの表示灯が灰色になり機能しません。
- ブラインドスポットアシストシステム故障：コンビネーションメーターに黄色のアイコンが表示されます。
- ブラインドスポットアシストシステム ON：コンビネーションメーターの表示灯が緑色に点灯して機能が有効となり、いつでも作動できる状態になります。

警告

- ブラインドスポットインフォメーションは、左右ドアミラーの死角領域の監視を支援するものですが、ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両をコントロールし、自己責任で運転してください。
- ブラインドスポットアシストシステムは運転を支援するためのシステムです。そのため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- ブラインドスポットアシストシステムは、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、ブラインドスポットアシストシステムを使うかどうかを判断してください。

▲ 注意

- 対象車両が後方から高速で本車に接近してくる場合は、ブラインドスポットインフォメーションの警告機能が十分に発揮できないことがあります。
- ドライバーは、ブラインドスポットインフォメーションが正常に作動するように、泥や雪などの付着物を早めに取り除き、リアコーナー部のブラインドスポットインフォメーションレーダーの設置部位を良好な状態に維持する必要があります。
- 道路工事中の道路脇の大型防護柵、大型看板、トンネル内の反射板、反射断面積が大きい物体など、後側方や後方にある無関係の対象物を誤って対象車両として認識し、ブラインドスポットインフォメーションが警告を出すことがあります。
- 状況によっては、検知に影響を受けたり遅れることがあります。対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、電動車、歩行者など）場合は、システムが対象物を認識できずに誤って警告を出すことがあります。また、ノイズや電磁波による干渉などの影響で、検知が遅れたり干渉を受けることがあります。
- 状況によっては、感知システムに影響を受けたり遅れることで、システムが運転を支援できない場合があります。考えられる状況は次に示す場合を含みますが、それらに限りません。
 - 後方から接近してきた車両が最後のタイミングで車線を切り替えたとき。
 - 急カーブや坂道などで後方から接近してきた車両の感知が遅れたとき。
 - 対象車両が遮られたとき。
 - 後方から接近してきた車両の相対速度が 80km/h を超えたとき。
 - カーブの半径が小さすぎる、またはカーブを出入りするとき。
 - 雨、雪などの悪天候のとき。
 - リアコーナー部のミリ波レーダーの緩みや外れ、干渉があるとき。
 - 金属製ガードレールがあるなど、道路環境が複雑なとき。
 - 次の対象物に反応しないおそれがあります。歩行者、動物を含みますが、それらに限りません。
 - 周りに電磁波による干渉など影響が存在している。
- リアコーナー部のブラインドスポットインフォメーションレーダーセンサーの校正は、振動や衝突による影響でシステム性能が低下することがあります。このようなときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

ドライバー眠気注意力警告 (DAW)

ドライバーモニタリングシステムは、ドライバーの操作状態を検知してドライバーの疲労度合いを評価します。評価結果に応じて、リアルタイムにドライバーへ注意喚起することで運転の安全性を高めます。

使い方

車両の電源ポジションが「ON」の状態、ドライバーは、 → **ADAS** → **ドライビングアシスト** の設定画面から、**ドライバー注意喚起機能 (DAW)** の設定をすることができます。設定は今回のみ有効で、次回始動時には乗員の安全を確保するため初期設定に戻ります。

警告

-  運転で疲れている場合は、早めに車両を止めて休憩を取ってください。

注意

-  この機能は補助的なシステムであり、いかなる場合でも危険を認識して警告を出すことができるわけではないため、ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではありません。ドライバーは、常に車両をコントロールしながらすべての道路法を遵守して自己責任で運転してください。

幼児置き去り検知 (CPD)

車両の電源ポジションを「OFF」にした状態でドアを閉める、または施錠すると、お子様が車内に置き去りにされていないかをシステムが確認します。お子様が車内に置き去りにされていることを検知すると、ランプを点滅させてホーンを鳴らして警告を出し、エアコンを作動させます。警告中にドアを解錠する、またはいずれかのドアを開けると、警告を消すことができます。

使い方

ドライバーは、 → ADAS → ドライビングアシスト の設定画面から、**幼児置き去り検知** を設定することができます。設定は「OFF」、「ON」、「遅延」の3つがあります。

- 車両の電源ポジションを「ON」にすると、設定が **ON** になります。
- **OFF** にすると、警告機能は今回の運転のみ作動しません。
- **遅延** にすると、警告機能は今回の運転のみ遅延して作動します (約5分)。
- 詳細は、文字の先にある「！」マークを押してください。

システムの応答方法

- お子様などが車内に置き去りにされていることをシステムが検知すると、10秒以内に初期警告を約6秒出し続けます (ランプの点滅およびホーンを鳴らす)。
- 警告が解除されていない場合は、90秒以内に警告レベルを上げて (ランプの点滅およびホーンを鳴らす)、警告を約25分間出し続けます。
- それでも警告が解除されない場合は、警告レベルを上げてから約3分後に、エアコンを約30分間作動させます。

警告

- システムは、ランプの点滅やホーンを鳴らす、APPによるプッシュ通知やエアコンの作動などで、車内への置き去りによるお子様への傷害を軽減させることができますが、傷害を完全に避けることはできません。
- 傷害の悪化を避けるため、システムが警告を出したときは早めにお子様を車内に閉じ込められていないかを確認してください。
- バッテリー残量 (SOC) が少なく (15%以下) になると、システムは警告が出せずエアコンも作動できません。そのため、十分なバッテリー残量を確保してください。

⚠ 注意

- 幼児置き去り検知は、誤作動や誤警告を起こすことがあります。
- 幼児置き去り検知は、大人 / 子供 / ペットなどの生命体を検知し、警告を出すことができます。
- 幼児置き去り検知は、携帯用 APP による解錠で警告を消すことができません。

タイヤ空気圧モニタリング

直接式タイヤ空気圧モニタリング

- 直接式タイヤ空気圧モニタリングシステムは、タイヤの空気圧をリアルタイムにモニタリングすることで走行中の安全性や快適性を向上させ、空気圧不足によるタイヤの早期摩耗やエネルギー消費量の増加を低減する支援システムです。
- ドライバーは、ステアリングホイール上の  ボタンを操作してメーターメニューに入ることができます。また、ステアリングホイール上の  および  を操作して走行情報画面を切り替え、ホイール操作でタイヤ空気圧の表示画面を選択することができます。

タイヤ空気圧モニタリングシステムの警告

- いずれかのタイヤ空気圧が、温度補正後の適正空気圧 80% 以下の状態でシステムが作動している場合、タイヤ空気圧警告灯が点灯してタイヤ空気圧の値が黄色になります。ドライバーは車両を停車させて該当のタイヤからエアが漏れていないかを点検し、空気圧が適正な範囲に入るように空気圧を補充してください。
- いずれかのタイヤ温度が 3 分間連続で 85℃ を超えた場合は、システムが高温警告を出して関係タイヤの温度値が黄色になります。ドライバーは車両を停車させて、該当のタイヤ温度が下がってから運転を再開することをおすすめします。
- システム作動中に故障が起きた場合は、タイヤ空気圧警告灯が点滅してから常時点灯に変わり、コンビネーションメーターに「信号異常」または「タイヤ空気圧モニタリングシステムを点検してください」と表示されます。そのため、関係するタイヤ空気圧モニタリングモジュールが正常であるか、長い時間強い電界範囲に囲まれていないかを点検し、警告灯が長時間点灯し続けているときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に対応を依頼してください。

⚠ 注意

- モニタリングモジュールの使用時間は、毎日の走行距離などの要素に関係します。
- モニタリングモジュールはタイヤ空気圧などの情報を定期的にコンビネーションメーターに送信しています。そのため、走行中に発生したタイヤ空気圧の急激な低下やバーストなどは、次にシステムが立ち上がるまでデータをコンビネーションメーターに送信することができないため、運転が制御不能になる場合があります。また、タイヤ破損と共にモニタリングモジュールも破損して情報が発信できていない、またはタイヤが破損している疑いがあるときは、コンビネーションメーターに警告が表示される前に、車両を安全な場所に停車させてください。
- モニタリングモジュールの取り付けを誤るとタイヤの気密性に影響を与えるため、モニタリングモジュールの取り付けや交換は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。
- タイヤ空気圧は外気温度により変化するため、コンビネーションメーターに表示されている空気圧および適正空気圧に合わせて、空気圧の調整をしてください。
- BYD 純正部品以外の電気部品を後付けしている場合は、システムが干渉を受けるおそれがありますが、システムが故障しているわけではありません。
- アルミホイール、スペアタイヤの交換*、または4輪のタイヤローテーションを行った場合は、タイヤ空気圧モニタリングシステムに対するキャリブレーションを行う必要があります。この作業は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。

⚠ 警告

- タイヤ空気圧に異常がある状況でも走行を停止しないように、ドライバーは電源ポジションを「ON」にした状態でタイヤ空気圧がメーカー推奨の適正空気圧になっていることを運転前に点検してください。メーカー推奨の適正空気圧になっていないと、車両の破損、自身や他人に怪我を負わせるおそれがあるため、必ず空気圧を調整してから運転してください。
- 運転中にタイヤ空気圧の異常が見つかった場合は、ただちに空気圧を点検してください。タイヤ空気圧警告灯が点灯しているときは、急ハンドルや急ブレーキを避けながら速度を落とし、安全な場所に停車してください。空気圧不足のまま走行し続けるとタイヤの破損や交換につながり、タイヤを大きく破損すると死傷者が出るほどの交通事故につながるおそれがあります。

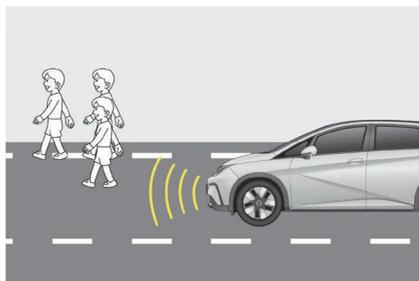
車両接近通報装置 (AVAS)

車両接近通報装置 (AVAS) は、低速走行するときに歩行者に車両の接近を知らせるものです。

■ 前進時：

- 速度が $0\text{km/h} < V \leq 20\text{km/h}$ の場合、警告音はスピードアップするにつれ強くなります。
- 速度が $20\text{km/h} < V \leq 30\text{km/h}$ の場合、警告音はスピードアップするにつれ弱くなります。
- 速度が $V > 30\text{km/h}$ の場合、警告音は自動的に止まります。

■ 後退中は、車両から一定間隔で警告音を出し続けます。



使い方

ドライバーは、 → **車両設定** → **スマートリマインダー** の設定画面から、**車両接近通報装置** の設定をすることができます。車両接近通報装置の音源は **スタンダード**、**ブランド** の2つがあります。

⚠ 警告

- 低速走行中に車両接近通報装置の通報音が聞こえない場合は、車両を安全で静かな場所に駐車し、ウィンドウガラスを開けてから「D」レンジで 20km/h の一定速度で走行（このときの音量が最大）して通報音が聞こえるかを確認してください。通報音が聞こえないときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

BYD アラウンドビューシステム

車両の電源ポジション「OK」時にステアリングホイールの  ボタンを押す、またはマルチメディアから **車両イメージ** をタッチすると、アラウンドビューシステムに切り替わります。



■ 横画面表示の場合：

- マルチメディアタッチスクリーン左下のフロント側、リア側、レフト側、ライト側を表示するアイコンをタッチすると、左側の画面にフロントビュー、リアビュー、ライトビュー、レフトビューのシングルビューが表示されます。
- フロントビュー、リアビューのシングルビューで映像領域をダブルタップすると、180° 視角の全画面表示に切り替わります。
- BYD アラウンドビューシステムのレーダーアイコン  をタッチすると、レーダー表示をONにでき、再度タッチするとOFFになります。レーダー表示をONにして障害物に接近すると、映像に障害物が映って警告音が鳴ります。



■ 縦画面表示の場合：

- マルチメディアディスプレイ下側のフロント、リア、レフト、ライトのいずれか2つの領域に表示されるアイコンをタッチすると、上側と右下の映像領域に選択された2つのシングルビューが表示されます。

■ 右側のボディビューをタッチすると、透明ボディと現物ボディの切り替えができます。

■ 始動後、透明の全景画面に前回電源ポジション「OFF」時の画像が表示されます。このとき、車両の底部や周辺の死角領域にある物体は、実際のものとは異なることがあります。発進すると画像がリアルタイムに更新されて、ボディ長さ相当の距離以上を走行すれば更新が完了します。新規または更新は、車間距離を超えた後にのみ完了できます。

警告

- BYD アラウンドビューシステムは、車両底部の映像が見える透明全景機能を備えています。この機能は、駐車や走行時に車両底部の確認を支援するためのものです。車両底部の異物や危険を確認するときは、人や車両の安全を確保するために、必ず別の方法で確認を行ってください。
- 低速走行中、透明全景機能は速度の変化やブレーキ操作の繰り返しによる影響を受けるため、車両底部の画像位置が車外の画像と一致しないことがあります。
- BYD アラウンドビューシステムは、駐車や走行を補助するためのものであり、車両前後には死角領域が存在しているため、システムだけに頼るのは危険です。駐車または走行中の事故を避けるために、必ず他の方法で車両周辺の状況を確認してください。
- システムは広角魚眼カメラが搭載しているため、表示画面に映っているものには若干の歪みが発生することがあります。
- ドアミラーが最後まで展開されていない場合は、BYD アラウンドビューシステムを使用しないでください。BYD アラウンドビューシステムを通じて車両を操作するときは、すべてのドアが閉まっていることを確認してください。
- BYD アラウンドビューシステムの画面に映されている距離は、目視で確認した距離とは異なることがあります。特に、障害物が車両に近くあるときは、複数の手段で車両と障害物の距離を判断する必要があります。
- カメラは、フロントバンパー、左右ドアミラーの下側およびリアライセンスプレートの上側に搭載されています。必ずカメラの視界が異物などで遮られないようにしてください。
- 高圧洗浄機でボディを洗浄する場合は、カメラ性能への影響を避けるために、可能な限りカメラに直接噴射しないでください。また、カメラに水分やほこりが付着しているときは、早めに拭き取ってください。
- カメラの故障や破損につながるおそれがあるため、カメラを叩かないでください。
- 始動直後のマルチメディアシステムが完全に立ち上がっていない状態では、BYD アラウンドビューシステムのスイッチ操作やシフトレバーを「R」レンジに入れても、BYD アラウンドビューシステム表示画面への出力が遅れたり画面がちらつくことがあります。これは、カメラ起動時の電源投入プロセスで正常な現象です。
- システムの特定のカメラまたは複数のカメラが壊れている場合は、該当の画面がブラックになります。
- 動作可能なカメラがない場合は、画面がブラックになり「ビデオ信号が検知されていません」と表示されます。

駐車支援システム

- 駐車支援システムはセンサーで障害物を検知しており、駐車時にマルチメディアディスプレイ * に表示する映像やスピーカーの警告音で、車両と障害物の距離をドライバーに伝えます。
- 駐車支援システムはバック駐車を支援するための機能です。バック時は、車両後部や周辺の状況を目視で確認してください。

警告

- 駐車支援システムはドライバーの駐車操作を支援するものであり、ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではありません。ドライバーは車両周辺を確認したうえで操作してください。
- 速度が 10km/h を超えると、駐車支援システムは作動が停止します。速度が 10km/h に下がると、駐車支援システムは作動を再開します。
- センサーの作動範囲内に他のものを取り付けしないでください。
- センサーの故障につながるおそれがあるため、洗車時は水や蒸気でセンサー部位を洗浄しないでください。

後方レーダーの電源スイッチ

- ドライバーは、 → **ADAS** → **パーキングアシスト** の設定画面から、**後方レーダー** の ON/OFF を設定することができます。
- 電源ポジションを「OK」にすると、EPB がリリース状態に入って駐車支援システムが自動的に立ち上がります。
- システム ON 時に車両周辺に障害物がある場合は、警告メッセージが表示されます。OFF にすると警告メッセージは表示されません。

センサータイプ

- センサーが障害物を検知すると、障害物の方位や車両と障害物の距離により、画像がマルチメディアディスプレイ*に表示されます。
- 縦列駐車や車庫入れをする場合、センサーが車両と障害物の距離を検知して、マルチメディアディスプレイおよびスピーカーでお知らせします。当該システムを利用するときは、必ず周辺的环境に注意してください。

- ① 右前側面センサー
- ② フロント中央センサー
- ③ 左前側面センサー
- ④ 右後側面センサー
- ⑤ リア中央センサー
- ⑥ 左後側面センサー



距離表示ブザー

センサーが障害物を検知した場合、マルチメディアディスプレイに障害物の向きおよび車両と障害物との距離が表示されてブザーが鳴ります。

中央部センサーの作動例

おおよその距離 (mm)	マルチメディア表示例	警告音
約 700 ~ 1200		低速
約 300 ~ 700		高速
約 0 ~ 300		鳴り続ける

角度センサーの作動例

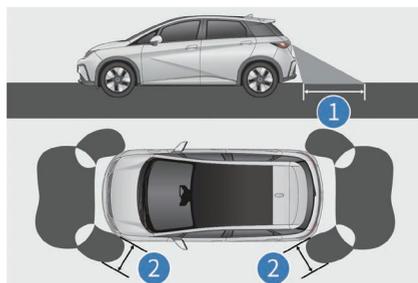
おおよその距離 (mm)	マルチメディア表示例	警告音
約 300 ~ 600		高速
約 0 ~ 300		鳴り続ける

作動するセンサーおよびその検知範囲

車両がバックすると、すべてのセンサーが作動します。

図はセンサーの検知範囲を示しています。検知範囲は限られているため、車両周辺の状況を観察して慎重にバックしてください。

- ① 約 1200mm
- ② 約 600mm



⚠ 警告

- 車両に近すぎる障害物は、センサーが検知できないおそれがあります。
- 駐車支援システムはドライバーの駐車操作を支援するためのものであり、ドライバー自らの判断に取って代わるものではありません。ドライバーは車両周辺を確認したうえで操作してください。
- システムの正常な作動に影響を与えるため、センサーが障害物を検知する場所にアクセサリーやその他のものを置かないでください。
- 状況によっては、システムが正常に作動せず障害物に接近しても検知しないことがあります。そのため、常に車両周辺の状況を確認してシステムだけに頼らないでください。
- 後方レーダー故障時、コンビネーションメーターに「後方レーダー故障 BYD サービスに点検」のメッセージが表示されてブザーが1回鳴ります。このようなときは、早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡して点検を依頼してください。

センサーからの検知情報

- 車両状況や周辺環境によっては、障害物を正しく検知するセンサー性能に影響を与える場合があります。影響を与える可能性がある特定の状況を以下に示します。
 - センサーに汚れ、水分や曇りがあるとき。
 - センサー上に雪や氷が付着しているとき。
 - センサーが何かに覆われているとき。
 - 車両が明らかに傾いたり、最大積載量を超えているとき。
 - デコボコが激しい道路、坂道、砂利道や草原を走っているとき。
 - センサーを新たに塗装したとき。
 - ホーンの音、バイクのエンジン音、大型車両のエアブレーキの作動音や超音波が発生するその他の騒音、車両付近が非常に騒がしいとき。
 - 近くに駐車支援システムを搭載した車両があるとき。
 - 車両にけん引フックを取り付けたとき。
 - バンパーやセンサーが強い衝撃を受けたとき。
 - 車両が高い縁石または曲がりくねった縁石に接近したとき。
 - 炎天下や厳しい寒さのとき。
 - 純正品でない、車高の低いサスペンションキットを取り付けるとき。
- 上記の他に、障害物自身の形状により、センサーが実際の距離を感知できないことがあります。
- 障害物の形状や材料は、センサーの検知を妨げることがあります。特に下記に示す障害物に注意してください。
 - 電線、柵、ロープなど。
 - 綿、雪、その他の電波を吸収する材料。
 - 角がとがっているもの。
 - 低い障害物の。
 - 上部が外側に向き、車両の方に伸びている高い障害物。
 - バンパー下にあるもの。
 - 車両に近づいているもの。
 - 車両近くの人（服装のパターンによる）。

- マルチメディアディスプレイ*に画像が表示されたりスピーカーが鳴っている場合は、センサーが障害物を検知している、またはセンサーが外部からの干渉を受けている可能性があります。このような現象が続くときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

⚠ 注意

- センサーの故障につながるおそれがあるため、洗車時は水や蒸気でセンサー部位を洗浄しないでください。

ペダル踏み間違い時加速抑制装置

ペダル踏み間違い時加速抑制装置は、自動車の安全なスタート/ストップを図るための補助装置です。

- ペダル踏み間違いの防止：始動または低速走行時、走行方向の先に障害物がある場合は、ドライバーがアクセルペダルをブレーキペダルと間違えたときに、アクセルペダルの踏み込み量を抑えます。
- ペダル踏み間違い時加速抑制装置が ON の状態で走行方向の先に障害物がある場合は、アクセルペダルを強く踏み込んでも、急加速信号に応答せず、「走行方向に障害物を検知しているので、加速が抑制されています。そのまま走行するなら、アクセルペダルを軽く踏んでください」の文字メッセージが表示されます。
- 始動または低速走行時（速度 ≤ 10km/h）、走行方向 3メートル以内に障害物がある場合は、急アクセル時の加速機能が抑制されます。

安全運転支援システム

安全運転支援システムは、走行中の安全性を向上するためにさまざまな走行条件に合わせて自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものであり、車両を運転するときはシステムに過度に頼るべきではないことに注意してください。

インテリジェントパワーステアリングシステム

インテリジェントパワーステアリングシステムは、先端的な分離型電気油圧式ブレーキシステムで、マスターバック、電子真空ポンプおよびアンチロックブレーキシステム（ABS）、横滑り防止装置などの機能を集積しています。インテリジェントパワーステアリングシステムは、ドライバーの制動操作上の必要性に応じてBS、EBD、TCS、VDC、CST、HHC、HBA、CDPなどの高度な制動を支援し、車両の安定性や快適さの改善および制動エネルギーの回収効率を向上します。

ビークルダイナミクスコントロール (VDC)

走行中に突然方向を切り替えた場合、VDCシステムがステアリングホイールの角度や走行速度などの情報により、ドライバーの意図を判断して車両の実際の状況と比較します。車両がドライバーの目的の車線から外れると、VDCがサイドスリップ制御を支援し、車両の方向安定性を保つために関係車輪へ制動力を加えて修正を行います。

トラクションコントロールシステム (TCS)

モーターのパワーを弱めることで加速走行時の駆動輪のスリップ防止や、必要ときに制動力を加えて駆動輪の空転を防止します。走行条件が悪いときは、トラクションコントロールシステムの作動により車両の発進、加速、上り坂の走行が容易になります。

警告

- トラクションコントロールシステムは走行安定性を向上させるもので、急転回することで引き起こされる衝突事故を防止するものではありません。作動には限界があるため、滑りやすい路面では速度を落とし安全運転を心がけてください。
- 下記の場合は、トラクションコントロールシステムの機能が効果的に発揮できないことがあります。
 - 滑りやすい路面を走行するときはトラクションコントロールシステムが正常に作動しますが、方向が制御できなかつたり必要な駆動力が出ないことがあります。
 - 安定性や動力が維持できなくなる状況では、車両を運転しないでください。

ヒルスタートホールドコントロール (HHC) システム

ブレーキペダルを離した後、約 1 秒間ブレーキ油圧を保持して車両の後退を防止します。

⚠ 警告

- 滑りやすい路面の坂道ではスリップして後退することがあるため、機能を過信せず安全運転を心がけてください。
- 駐停車時にヒルスタートホールドコントロールを使用しないでください。停車時はブレーキペダルを踏み続け、駐車時は電動パーキングブレーキのスイッチを引き上げてパーキングブレーキを掛けてください。

ハイドロリックブレーキアシスト (HBA) システム

ドライバーが素早くブレーキペダルを踏んだ場合、システムが緊急ブレーキと認識してブレーキ油圧を能動的に高めることで、ABS をより早く介入させて制動距離を効果的に短くすることができます。

減速度制御 (CDP) システム

電動パーキングブレーキスイッチを引き上げると、システムが作動します。車両が停止するまで一定の減速度（ブレーキを踏まずに電動パーキングブレーキスイッチを引き上げるときの減速度が 0.4g、電動パーキングブレーキスイッチを引き上げると同時にブレーキペダルを踏むときの減速度が 0.8g）で制動します。ドライバーが電動パーキングブレーキスイッチを解除すると、システムが停止します。

ESC システム操作について

インテリジェントパワーブレーキシステムは、従来の ESC システムに対して、次の機能を追加しています。

■ ブレーキペダル制御モード

- ブレーキペダル制御モードは、ブレーキペダルフィーリングを調整する場合に使用します。ブレーキペダルの深さと車両減速度の関係曲線がモードによって異なるため、ドライバーはお気に入りのブレーキペダルフィーリングを選択することができます。
- ドライバーは、 → **車両設定** → **スマートシャーシ** の設定画面から、**ブレーキアシストモード** の設定をすることができます。

■ コンフォートブレーキ (CST)

- コンフォートブレーキは、緊急時以外の減速や停止時にインテリジェントパワーブレーキシステムが4つのブレーキの油圧を制御することにより、停車時のサスペンションの揺れや衝撃を軽減し、ドライバーにスムーズなコンフォートブレーキを提供します。
- ドライバーは、 → **車両設定** → **スマートシャーシ** の設定画面から、**コンフォートブレーキ** のON/OFFを設定することができます。
- コンフォートブレーキが作動すると、制動距離が約2～5cm長くなることがあるため、停車前に先行車や前方障害物との距離を適切に空けてください。

■ ブレーキディスクワイピング

- ディスクローターに水分が付着すると、ブレーキの制動距離が長くなります。ブレーキディスクワイピングは、湿気が多い環境で走行中に低圧アクチュエーターの作動でブレーキパッドをブレーキディスクに当てることで、水分を切ってディスクローターから湿気を拭き取ります。システムが雨滴や濡れている道路を検知すると、一定間隔でブレーキディスクの拭き取りを繰り返します。

■ ESC 作動時

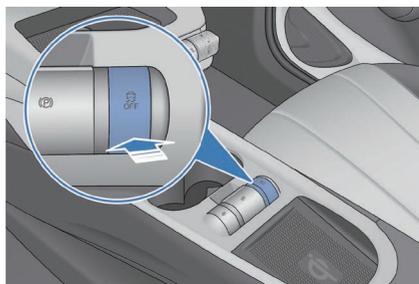
- 坂道発進時、車両が滑ったり後退する、いずれかの駆動輪が空転する可能性がある場合は、ESCが作動してESC表示灯が点滅します。

■ ESCの使用禁止について

- 車両が積雪やぬかるみでスタックすると、ESCはモーターからホイールへの出力を下げる場合があります。スタックなどを脱出するときは、ESCをOFFにする必要があります。

■ ESC を OFF にする場合

- ESC を OFF にする場合は、 → **ADAS** → **アクティブセーフティ** の設定画面から、**ESC OFF** を OFF にします。また、ESC はリアルタイムで作動状態を確認しており、ESC 作動中に ESC を OFF にすると、すぐに OFF せず能動的に制御に介入し、制御介入が完了するまでは ESC が OFF にはなりません。



- ESC を OFF にした後、ESC を ON にする、または速度がしきい値 (80km/h) を超えると、ESC が再度 ON になります。ESC が車両走行の制御に介入していない場合のみ、再度 ESC を ON にすることができます。

■ ESC OFF スイッチの誤操作

- ESC OFF スイッチを押し続ける時間が 10 秒を超えると、システムは誤操作と判断してすべての内部機能の正常作動を保ちます。

■ 電源ポジション [OFF] 後の ESC 再開

- ESC を OFF にしてから再度電源ポジションを [ON] にすると、ESC 作動が自動で ON になります。

■ 速度連動による ESC の作動

- ESC が OFF の状態で速度がしきい値 (80km/h) を超えると、車両の姿勢が極めて不安定になるため、ESC が自動で ON になります。

■ ESC 起動時

- ESC 故障警告灯  が点滅しているときは、慎重に運転してください。

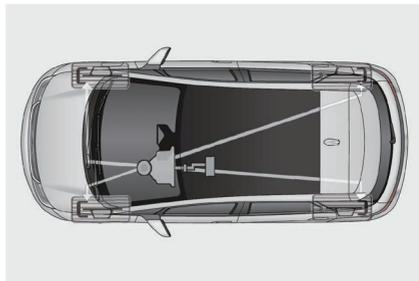
- ESC を OFF にした場合
 - 細心の注意を払いながら、道路状況に応じた速度で運転してください。ESC は、車両安定性と駆動力を確保してくれるため、必要がない状況を除き OFF にはしないでください。
- タイヤの交換
 - すべてのタイヤは、寸法、ブランド、トレッドパターン、輪荷重を同一にしてください。また、推奨空気圧になるまでタイヤに空気を入れてください。
 - 異なる種類のタイヤを装着すると、ABS と ESC が正常に作動できなくなります。
 - タイヤやホイールの交換については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。
- タイヤおよびサスペンションの処置
 - 不具合があるタイヤの使用やサスペンションの改造は、安全運転支援システムに影響を与えてシステムの故障を引き起こすおそれがあります。

多重衝突ブレーキ機能 *

- 事故でエアバッグが展開すると、自動でブレーキを作動させます。
- 車両減速、横滑り防止装置、ABS などの運転支援システムが共同で役割を果たし、車両の安定性を維持させて現在の車線を走り続けるようにします。
- 緊急警告灯およびブレーキランプが点灯し、対向車に警告して衝突の再発を防ぎます。
- 救援やロードサービスに対応するため、事故後にブレーキを解除してブレーキランプを消灯します。
- ドライバーは、加速やブレーキ操作でいつでも多重衝突ブレーキ機能を一時的に解除することができます*。

アンチロックブレーキシステム (ABS)

- ABS の油圧システムは独立する 2 つの回路があり、それぞれの回路は対角線上にあります (右側フロントブレーキと左側リアブレーキとの接続など)。1 つの回路が故障しても、残り 2 つのホイールに制動力を加えることができます。
- ABS は、急ブレーキや滑りやすい路面でのブレーキ操作時に、車輪のロックやスリップを防止してステアリング制御の維持に役立ちます。
- フロントタイヤがスリップしたときは、ハンドル操作ができずにハンドルを回しても車両が直進します。脈動する急ブレーキは、人間の反応よりもはるかに速いため、ABS は車輪のロックを防いでステアリング制御の維持に役立ちます。
- ABS が効かなくなるおそれがあるため、ブレーキペダルをポンピングして踏まないでください。危険を回避するためにハンドルを操作する場合は、ABS が作動するようにブレーキペダルを強く踏み続けてください。
- ABS が作動すると、ブレーキペダルが振動して作動音が聞こえることがあります。これは、ABS がポンピングブレーキによるもので異常ではありません。



電子制御制動力配分システム (EBD)

- 電子制御制動力配分システムは ABS を支援する機能です。ABS が機能する前に後輪のスリップ率が高い場合は、ABS が後輪の制動力を調節することで、安定した理想的な制動力分配を実現します。

⚠ 警告

- ABS は、車両を停止させるのに必要な時間および距離を短縮させることはできません。この機能は、ブレーキを掛けたときのステアリング制御を支援するものであるため、ドライバーは常に安全な車間距離を保ってください。
- 軟弱な路面やデコボコ路（砂利道や積雪路面）を走行する場合、ABS 搭載車は ABS 非搭載車に比べると、制動距離が長くなります。このようなときは、速度を落として他の車両との車間距離をさらに確保してください。
- 下記の場合は、ABS を効果的に発揮できません。
 - グリップ力が弱いタイヤを使っているとき（雪が積もっている路面で過度な摩耗があるタイヤを使うなど）。
 - 高速で滑りやすい路面を走行するとき、または車両がスリップしたとき。
- ABS は、制動距離の短縮を目的として設計されたものではありません。次のような場合は、必ず先行車との車間距離を確保してください。
 - むかみ、砂利道や積雪路面を走行するとき。
 - へこみが多い道路、または平坦でない道路を走行するとき。
 - デコボコ路を走行するとき。

⚠ 注意

- ABS 故障警告灯とパーキングシステム故障警告灯が同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- このような場合、ABS が機能しないだけでなく車両姿勢も極端に不安定な状態になります。
- ABS は、急旋回や急な車線変更などのハンドル操作によるスリップを防ぐことはできません。路面状況および天候を問わず、常に安全な速度で慎重に運転してください。
- ABS は、安定性の低下を防ぐことはできないため、急ブレーキ時は適切なハンドル操作を行ってください。また、大きなカーブや急カーブでは、対向車線に飛び出したり道路からはみ出すおそれがあります。

ルームミラー

手動防眩機能

ルームミラーは、昼間走行および夜間走行に対応する2つのモードを搭載しています。夜間走行モードに合わせると、後続車のヘッドライトの光を軽減することができます。

- 昼間走行：レバーを①の位置に合わせると、ルームミラーの映りがきれいです。
- 夜間走行：レバーを②の位置に合わせると、夜間走行時に後続車のヘッドライトの光を軽減することができます。眩しさは軽減されますが、後方の視界や視認性が落ちるため注意してください。



ルームミラーの手動調節

上下、左右にルームミラーを回してルームミラーを適切な位置に調整します。



警告

- 運転に集中できず、死傷につながる思わぬ事故を引き起こすおそれがあるため、ドライバーは、走行中にルームミラーを調節しないでください。
- ルームミラーに重量物を掛けたり、力強く揺らしたり引っ張らないでください。
- ルームミラーを手動で調節する場合に引っ掛かりがあるときは、ルームミラーが脱落しないように乱暴に調整しないでください。

電動ドアミラー

ドアミラーの調整ボタン

電動ドアミラースイッチを操作して、ドアミラーに車両両側が映るように調節します。

サイドミラーの選択ボタン

-  左側ドアミラー調整ボタン
-  右側ドアミラー調整ボタン

ドアミラー調整ボタン

ドアミラーのレンズを調整します。希望の方向に合わせてスイッチを押します。



4

使用および運転

警告

- 車両の操縦を誤り、思わぬ事故を引き起こすおそれがあるため、走行中にドアミラーを調節しないでください。

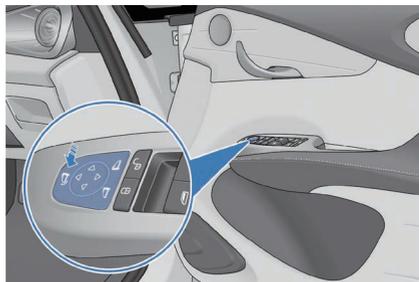
アドバイス

- ドアミラーが凍り付いた場合は、コントローラーを操作したり、ドアミラーの表面を削ったりしないでください。解氷スプレーでドアミラー表面の氷を落としてください。

可倒式ドアミラー

ドライバーは、 → **車両設定** → **サイドミラー** の設定画面から、**ドアミラー自動格納** を ON/OFF することができます。

-  ボタンを押すと、電動ドアミラーが格納されます。再度ボタンを押すと、電動ドアミラーが展開します。
- イモビライザーが作動すると、ドアミラーが自動的に格納されます。イモビライザーを解除すると、ドアミラーが自動的に展開します。



ワイパー

ワイパーブレードの交換

6 ヶ月、または 10000km 毎にフロントおよびリアワイパーブレードを点検して、ゴム部に割れや部分的な硬化がないかを確認し、割れや硬化が見つかったときはブレードを交換してください。そのまま使用すると、スジ状の線または拭きムラが残り雨天時の視認性が悪くなります。

仕様 1

1. 始めに運転席側のワイパーアームを立て、次に助手席側のワイパーアームを立てます。
2. ブレードロックボタンを押します。
3. ブレード留め具を持ち、図に示す方向にブレードを取り出します。
4. 新しいブレードを取り付けるときは、ブレードの外し方と逆の手順で作業します。



仕様 2

1. 始めに運転席側のワイパーアームを立て、次に助手席側のワイパーアームを立てます。
2. 図に示す位置に来るまでリアワイパーブレードを反転させます。
3. ロックボタンを押しながら、アームから外れるように矢印方向にブレードを押し付け、ブレードを回転させながら取り出します。
4. 新しいブレードを取り付けるときは、ブレードの外し方と逆の手順で作業します。



▲ 注意

- 洗車後にワイパーブレードを戻す場合は、ブレードがフロントガラスに直接ぶつかるようにワイパーアームを押し倒さないでください。
- ワイパー作動時、ワイパーブレードを折り曲げたり手などでワイパーブレードの動きを阻止しないでください。
- ボンネットおよびワイパーアームが破損するおそれがあるため、ワイパーアームを立てている状態でボンネットを開けないでください。
- ワイパーブレードを交換する場合は、ワイパーアームを立てた後に手でしっかり支え、ブレード交換後はゆっくりと倒してください。ブレードを取り付けていない状態で誤ってワイパーアームがガラスに当たると、ガラスを破損させるおそれがあります。

タイヤチェーン

- タイヤチェーンは、緊急時対応またはチェーン規制が実施されている道路を通行するときには使用するものです。
- タイヤチェーンはフロントタイヤに装着してください。また、凍結路面や雪道でタイヤチェーンを装着して運転するときは、細心の注意を払って運転してください。タイヤチェーンによっては、タイヤ、ホイール、サスペンションおよびボディーを破損させるおそれがあるため、適切なサイズのタイヤチェーンを選定し、タイヤとホイールハウス内の他の部品との間に隙間を作るようにしてください。
- 部品組立図およびタイヤチェーンメーカーの他の取扱説明書をよく読んでください。
- タイヤチェーンを購入する前に、お買い上げのBYD 正規ディーラーまたはBYD 指定サービス工場に問い合わせてください。
- タイヤチェーンを装着した状態で雪道を走行する場合は、タイヤチェーンの種類に合った速度に抑えて走行してください。
- タイヤとタイヤチェーンとの摩耗を軽減するため、タイヤチェーンを装着したまま積雪路や凍結路以外の道路を走行しないでください。

4

使用および運転

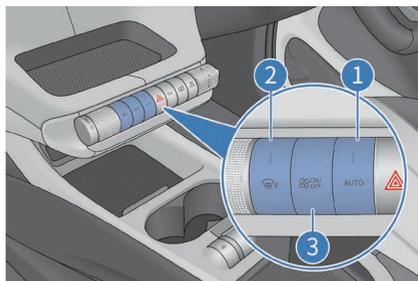
アドバイス

- 走行速度は、タイヤチェーンメーカーに推奨された速度を超えて走行しないでください。
- 突起物や穴、急カーブに注意しながら慎重に運転してください。乗り上げた場合、ジャンプするおそれがあります。
- 制御不能による事故を避けるため、タイヤチェーンを装着しているときは、急ハンドルや急ブレーキを避け、カーブに進入する前にスピードを落としてください。
- タイヤチェーンから異音が聞こえる場合は、タイヤチェーンがサスペンションやボディー、ブレーキチューブなどに干渉しているため、ただちに車両を止めて点検してください。
- タイヤチェーンは左右対称に装着し、積雪路を抜けたらすぐに取り外してください。

5-1 空調システム	222
エアコンについて	222
5-2 小物入れ	229
吹き出し口	229
ドアポケット	229
駐車券収納ボックス	229
インストルメントパネル	
センターボックス	230
グローブボックス	230
センターコンソール	
ボックス	231
カップホルダー	232
サングラスホルダー *	233
シートバックポケット	233
5-3 その他の装置	234
サンバイザー	234
アシストグリップ	235
USB ポート	235
SD カードスロット *	236
12V アクセサリー電源	237
ワイヤレス充電エリア *	238
リアシェルフ	240
カーペット	240
フック	241
緊急脱出ハンマー	241
5-4 マルチメディア	
システム	243
マルチメディアコントロール	
パネル PAD	243

エアコンについて

- 1 オートボタン
- 2 フロントガラスデフロスターボタン
- 3 エアコン ON/OFF ボタン



i アドバイス

■ エアコンリモートスタート機能：

- ユーザーは、車両のリモートキーまたは「BYD クラウドサービス」APP でエアコンを付けることができ、乗車時に快適な室内環境を提供することができます。



- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 エアコン設定アイコン | 9 エアコン ON/OFF |
| 2 シートヒーターアイコン | 10 オートモード |
| 3 エアコン操作画面アイコン | 11 ファン ON/OFF |
| 4 換気 | 12 助手席側エアコン温度調節 |
| 5 外気導入 / 内気循環切替 | 13 運転席側エアコン温度調節 |
| 6 リアガラスおよびドアミラーデフロスター | 14 吹き出しモード選択 |
| 7 フロントガラスデフロスター | 15 風量調節 |
| 8 最大エアコン | |

オートモード

- このアイコンをタッチするとアイコンが点灯し（フロントエアコンパネルの AUTO アイコン表示灯が点灯）、コンプレッサーの状態、風量の強さ、吹き出しモードを自動的に調節します。
- 風量や吹き出しモードを設定すると、オートモードが OFF になります。設定した操作機能を除き、その他の機能はオートモードのままです。

ファン ON/OFF

- エアコンが ON の状態でこのアイコンをタッチすると、エアコンを OFF にすることができます。
- エアコンが OFF の状態でこのアイコンをタッチすると、エアコンを ON にすることができます。

風量調節

- ご希望の風量調節アイコンを押します。数が多いほど風量が強くなります。

フロントガラスデフロスター

- フロントガラスデフロスターをタッチすると、エアコンがフロントガラスデフロスター制御に入り、吹き出しモードがフロントガラスデフロスターモードに切り替わります。再度タッチすると、エアコンのフロントガラスデフロスター制御が OFF になります。
- このアイコンをタッチすると、フロントガラスデフロスター制御が ON になると同時にエアコンが作動します。

温度調整

- エアコン操作画面内の上側の矢印をタッチ、または温度表示部を押しながら下へスライドすると、温度が高くなります。下側の矢印をタッチ、または温度表示部を押しながら上へスライドすると、温度が低くなります。
- 温度を最小にする場合は「Lo」、温度を最高にする場合は「Hi」にします。

最大エアコン

- 最大エアコンをタッチすると、エアコンがフル冷房モードで稼働します。自動で温度を Lo、風量を最大風量、内気循環モードで吹き出し口が上半身送風になります。
- 再度タッチすると、エアコンの最大エアコンが OFF になります。

エアコン ON/OFF

- エアコン ON/OFF でエアコンを ON にすることができます。アイコンが点灯してコンプレッサーが作動し、冷房または暖房を行います。再度タッチすると、コンプレッサーが停止してアイコンが消灯します。

外気導入 / 内気循環切替

- 外気導入にしている場合、外気導入 / 内気循環タッチすると、外気導入から内気循環に切り替わります。再度タッチすると、内気循環から外気導入に切り替わります。

⚠ 警告

- 内気循環を長時間使用すると、ガラスが曇りやすくなり視界が損なわれて危険なため、一時的な使用にしてください。
- 吹き出し風が長時間当たらないように注意してください。低温やけどや思わぬ傷害を受けるおそれがあります。
- フロントガラスデフロスターを ON にしているときに、エアコンの設定温度を低くしないでください。フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。
- 湿気が多いときは、フロントガラスに冷風を吹き付けないでください。フロントガラスの車内外での温度差により、フロントガラスが曇ることがあります。
- お子様や介護を必要とされる方、ペットを車内に置き去りにしないでください。エアコンの設定をしても、自動停止などにより車内が高温または低温になることがあり、死亡につながるおそれがあります。

i アドバイス

- 駐車時オートリサキュレーションの設定が ON になっている場合は、車内の空気の質を確保するため、排気ガスが車内に入らないように駐車時循環モードが内気循環に切り替わります。

リアガラスおよびドアミラーデフロスター

- リアガラスおよびドアミラーデフロスターをタッチすると、リアガラスおよびドアミラーデフロスターを ON にすることができます。再度タッチすると、リアガラスおよびドアミラーデフロスターを OFF にすることができます。また、再度操作しない場合は、15分作動するとシステムが自動で OFF になります。
- この機能は、雨滴を乾燥させたり、雪を溶かしたりするものではありません。

⚠ 警告

- ドアミラーの表面が熱くなるためリアガラスおよびドアミラーデフロスターボタンを ON 後は、鏡面を触らないでください。

⚠ 注意

- リアガラス内側のクリーニングを行うときは、熱線およびその接続部を傷付けたり破損させないように注意してください。
- 起動バッテリーの放電を防ぐため、モーター稼働時はリアガラスおよびドアミラーデフロスターボタンを OFF にしてください。

i アドバイス

- 長時間ドアミラー内蔵のヒーターで除霜機能を使う場合は、ガラスの早期劣化につながるおそれがあるため、不要なときは早めにリアガラスおよびドアミラーデフロスターを OFF にしてください。

換気

- 換気をタッチすると、エアコンの換気制御が ON になり外気が送り込まれます。
- 再度タッチすると、エアコンの換気制御が OFF になりオートモードに入ります。

吹き出しモード選択ボタン

- エアコン操作画面内の該当箇所をタッチすると、吹き出しモードを選択できます。吹き出しモードは自由に組み合わせることができ、希望に応じて吹き出しモードを3つまで同時に ON することができます。



1. 主に上半身へ送風します。
2. 主にフロントガラスおよびウィンドウガラスに送風します。
3. 主に足元へ送風します。

ご利用要領

- 車内の温度が高い場合は、車内の温度を素早く下げるために窓を開けて数分間運転してください。熱気を車外へ出すことで、素早く車内を冷やすことができます。
- 車内の温度を素早く下げるには温度を「Lo」に調節し、内気循環モードで数分間エアコンを稼働してください。

- フロントガラス前のエアインレットグリルが、落ち葉や雪などで詰まっていないことを確認してください。
- 車内の空気が循環できるように、フロントシートの下に荷物を置かないでください。
- ウィンドウガラスの曇りを低減するため、寒いときはエアコンの風量を強の方に設定して1分間稼働し、吸気経路にある雪や湿気を取り除いてください。
- 車内の温度が低い場合は、車内の温度を素早く上げるために内気循環モードで数分間エアコンを稼働します。フロントガラスが曇らないように、車内が温まった後は外気導入モードにします。
- ほこりが多い道路で他車の後ろを走行する場合、または風とほこりがある状況で走行する場合は、すべてのウィンドウガラスを閉めることをおすすめします。また、エアコンを内気循環に設定し、エアコンをONにします。
- 暖房運転時、エアコンON/OFFアイコンを押してアイコンが点灯（エアコンをON）すると、空気中の湿気を減らすことができます。
- 換気モードでは、車外の自然な空気を車内に導入するため、春や秋の運転に適しています。

i アドバイス**■ エアコンの異臭について：**

- エアコン作動時に吹き出した風からカビの臭いがすることがありますが、エアコンからの異臭発生は異常ではありません。エアコン使用中は、エバポレーターに結露が付着しやすく、フィルターにキャッチされなかった人の汗やタバコの煙などが湿ったエバポレーターに吸着されます。暗く湿ったエバポレーター表面にはカビが発生しやすいため、カビが長期間にわたって発酵することにより、異臭が発生しやすくなります。

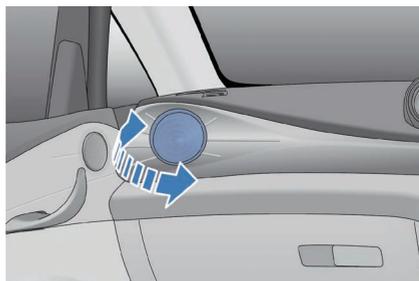
■ 異臭の防止について：

- 停車前にエアコンを消し、外気導入で換気することにより、比較的乾燥した状態を保つことができます。
- エアフィルターを定期的に点検、清掃、交換します。
- できるだけ車内を清潔にし、車内の空気をきれいに保ちます。

■ 異臭対策を行っても異臭が発生する場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場 で修理してください。**■ エアコンから発生する異臭を改善するため、エアコン作動状態で電源ポジションを「OFF」にして施錠すると、エアコンのブロワーがしばらく作動を続けることがあります。ブロワーが作動する目的は、エバポレーター表面の結露を乾かし、エバポレーター表面のカビによる異臭を避けるためです。車両施錠後も、エアコンのブロワーが自動的に作動していても異常ではありません。**

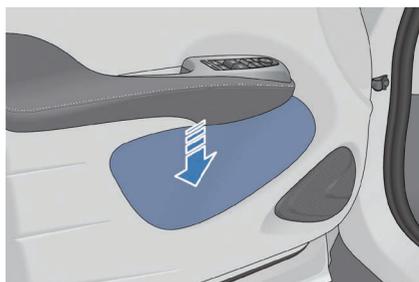
吹き出し口

調節レバーの操作で、風量や吹き出し口の開度を調節することができます。ノブを最後まで動かすと吹き出し口を閉じることができます。



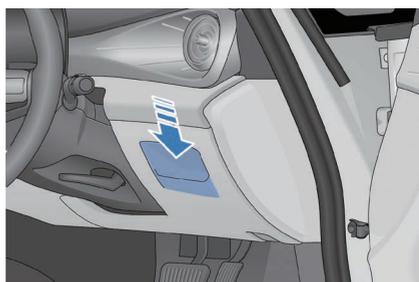
ドアポケット

- それぞれのドアには、ペットボトルや小物などを格納するためのドアポケットが付いています。



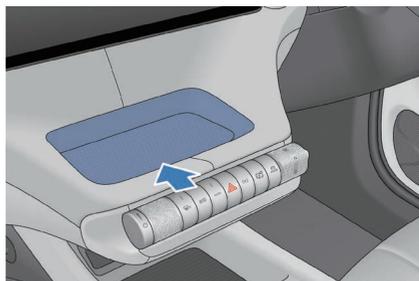
駐車券収納ボックス

- 運転席側インストルメントパネルにあり、駐車券などを入れることができます。



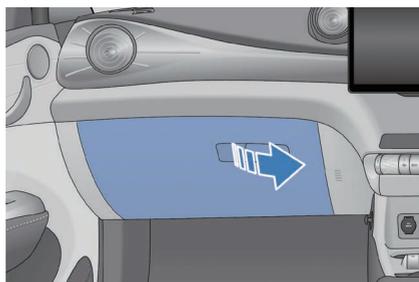
インストルメントパネルセンターボックス

- インストルメントパネルの中央部にあります。



グローブボックス

- ノブを引くと、グローブボックスを開けることができます。
- グローブボックスを押し上げると、閉めることができます。

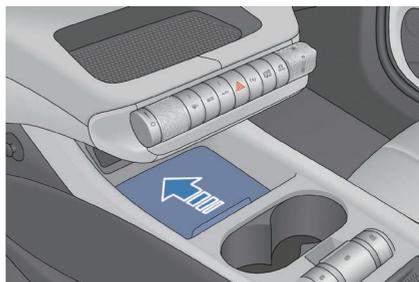


⚠ 警告

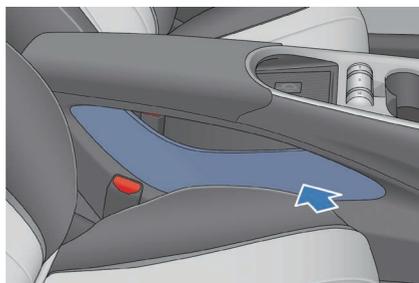
- 思わぬ事故や急ブレーキ時に怪我をする可能性を減らすため、運転時はグローブボックスを閉めてください。
- グローブボックスはゆっくり開けてください。開いたときに身体に当たると、怪我につながるおそれがあります。
- 可燃性ガスの入ったスプレー缶やガスライターを、グローブボックスなどの小物入れに入れたままにしたり、床やシートの際間に落としたままにしないでください。引火して爆発や火災につながるおそれがあります。

センターコンソールボックス

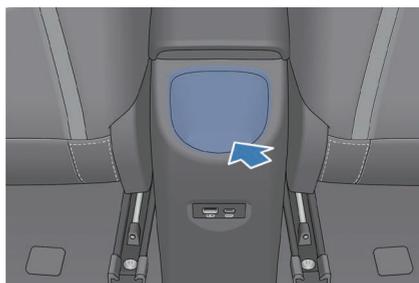
- インstrumentパネルセンターボックスの下側、センターコンソールの前方にあるボックスの蓋を開けると使えます。



- センターコンソールの下側にあります。



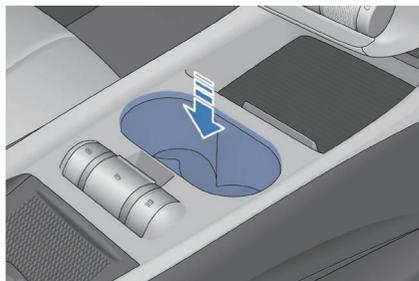
- センターコンソールの後部にあります。



カップホルダー

フロントカップホルダー

フロントシートのカップホルダーは、センターコンソールの中央部にあります。



リアカップホルダー

リアシートセンターアームレストを反転するとリアカップホルダーがあります。



⚠ 警告

- 運転中は、カップホルダーから飲み物を出し入れしないでください。前方不注意により、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中に飲み物がこぼれないように、蓋が付いていないカップやしっかりと蓋をしていないボトルは、カップホルダーに入れしないでください。スイッチや配線などの電気部品にかかると故障や火災の原因となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告 (続き)

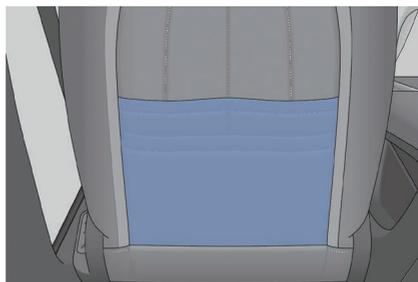
- 熱い飲み物は、カップホルダーに置かないでください。急発進や急ブレーキでこぼれて飛び散ると、乗員がやけどをするおそれがあります。
- ビンなどの硬いものは入れないでください。側面衝突のときに、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 車内のスイッチや、マルチメディアコントロールパネル PAD などに飲み物をこぼさないでください。故障や火災の原因となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

サングラスホルダー *

- サングラスホルダーを引き下げると、サングラスを入れることができます。

**シートバックポケット**

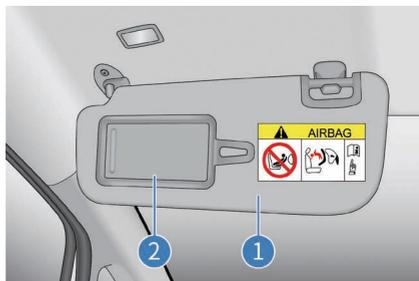
- フロントシートバックには、雑誌、新聞などを入れるためのシートバックポケットが付いています。



サンバイザー

- ① サンバイザー
- ② バニティーミラー

- 前方からの光を遮るには、サンバイザーを下方向に操作してください。
- 側方からの日差しを遮るには、サンバイザーを下げた状態でフックから外し、横へ回します。
- バニティーミラーは運転席側および助手席側サンバイザーにあります。サンバイザーを下方向に操作し、バニティーミラーの蓋をスライドすると使うことができ、同時にバニティーミラーランプが点灯します。バニティーミラーの蓋を閉じる、またはサンバイザーを上方向に操作すると、バニティーミラーランプは消灯します。

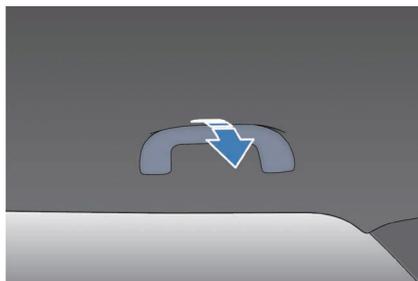


i アドバイス

- 正しく適切にサンバイザーを使うと、運転時の快適性や安全性を向上させることができます。

アシストグリップ

- アシストグリップを使うときは下に引き、使わないときは手を離すと自動で戻ります。



⚠ 注意

- 怪我やアシストグリップの破損を避けるため、アシストグリップに重量物をかけないでください。

USB ポート

フロント側充電ポート：

- 1 USB 充電ポート
- 2 USB データ伝送インターフェース



リア側充電ポート



SD カードスロット *

センターコンソールボックスの上側にSDカードスロットが設定されています。マルチメディアシステムは、容量が最大128GBまでのTFカード(Micro-SD)メモリーカード(Class10およびそれ以上、FAT32ファイルシステム)を使い、カードからビデオや歌などを読み出すことができます。



⚠ 注意

- 互換性がないカードを使う場合は、マルチメディアシステムによる認識、読み出しができないおそれがあります。
- カードを差し込むときは真っすぐ差し込んでください。

12V アクセサリー電源

- 作動電圧 DC12V、かつ作動電流が 10A までのアクセサリに対応します。
- 12V アクセサリー電源を使うときは、蓋を開けて車の電源ポジションを「OK」にしてください。



⚠ 警告

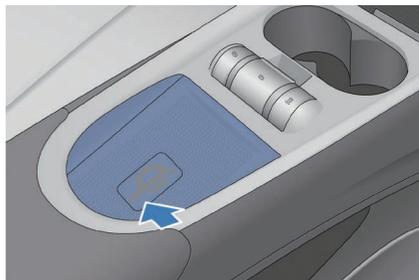
- 電源ソケットを使う場合は、下記の事項を守ってください。不適切な使用によりフューズが切れるだけでなく、車両火災や乗員がやけどするおそれがあります。
 - 消費電力 120W 以下の電気器具を使用する
 - アクセサリーのプラグは電源ソケットの奥まで挿入する
 - 電源ソケットに水をかけない
 - 電源ソケットに異物を入れない
- 電源ソケットやアクセサリーのプラグは熱くなることがあります。

⚠ 注意

- フューズ切れを防ぐため、電気使用量が車の総負荷 12V/120W を超えないでください。
- 起動バッテリーが切れることを防ぐため、駆動モーターが稼働していない場合は、長時間 12V アクセサリー電源を使わないでください。
- 12V アクセサリー電源を使わない場合はカバーを閉じてください。また、電気のトラブルを引き起こすおそれがあるため、適切なプラグ以外を 12V アクセサリー電源に差し込んだり、液体が侵入したりすることがないようにしてください。

ワイヤレス充電エリア*

- ワイヤレス充電器は、電源ケーブルを使わずに電磁誘導で携帯電話を充電するものです。
- マルチメディアタッチパネルPADの **ショートカットメニュー** から、**ワイヤレス充電機能設定**  をタッチすると、アイコンが点灯してワイヤレス充電機能が ON になります。
- 車両始動後に、携帯電話の画面を上向きにしてワイヤレス充電エリアに置くと、携帯電話が自動的にワイヤレス充電モードになります。
- ワイヤレス充電機能を OFF にする場合は、マルチメディアタッチパネルPADの **ショートカットメニュー** から、**ワイヤレス充電機能設定**  をタッチすると、アイコンが消灯してワイヤレス充電機能が OFF になります。
- ワイヤレス充電機能は、すべての携帯電話ではなく、Qi 認証取得済みの携帯電話のみに対応しています。
- カードの焼損を防ぐため、充電中はキャッシュカードなどのチップ付きカードを携帯電話ケースと携帯電話の間に入れしないでください。



警告

- 運転中に、携帯電話の充電状況を長時間確認しないでください。交通事故につながるおそれがあります。
- やけどをするおそれがあるため、ワイヤレス充電中は携帯電話とゴムパッドの間に詰まった金属製の異物を、素手で取り除かないでください。

注意

- ワイヤレス充電機能が作動しているときは、リモートキーをワイヤレス充電エリアから 25cm 以内に置かないでください。
- 事故にかかわるワイヤレス充電機能の異常を避けるため、コインや金属キー、金属リング、金属成分を含んでいる他のものを、携帯電話と一緒にワイヤレス充電エリアに置かないでください。

▲ 注意 (続き)

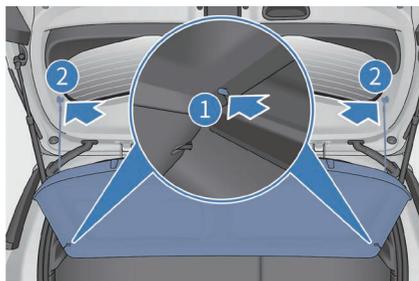
- 充電エリアの破損を避けるため、充電エリアには重量物を置かないでください。また、ワイヤレス充電機能が故障して正常に使えないときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 誤った使い方による問題について、当社はいかなる責任も負いません。製品の解体や改造があった場合、無償保証サービスが受けられなくなります。
- 火災などにつながるおそれがあるため、ドライバーが車内にいない状態で携帯電話を充電しないでください。
- より良い充電効果を得るためには、携帯電話のコイルの中心をワイヤレス充電器の中心（充電エリアの印字部）に合わせてください。合わせないと充電できないことがあります。
- 充電エリアに水がかからないようにしてください。水がゴムパッドの隙間からワイヤレス充電器に侵入し、充電器が故障するおそれがあります。
- 温度が高すぎると携帯電話の充電が止まることがあります。温度が下がると充電が再開します。
- 外付けのワイヤレス充電コイルによる不具合について当社は一切保証できませんので、注意してご使用ください。

📌 アドバイス

- 一度に 1 台の携帯電話しか充電できません。
- 携帯電話ケースが厚すぎる場合は、充電できないことがあります。
- 悪路を走行中は、ワイヤレス充電機能が充電停止と充電再開を繰り返すことがあります。
- 可能な限り、携帯電話の裏側を充電モジュールと密着するように置いてください。携帯電話がワイヤレス充電エリアからずれて充電が止まったときは、携帯電話をワイヤレス充電エリアに戻してください。
- 携帯電話が正常に充電できないときは、始めにワイヤレス充電エリアに異物がないか確認し、ワイヤレス充電エリアが冷えてから充電を再開してください。それでも充電できないときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 車両の電源ポジション [OFF] 後、携帯電話がワイヤレス充電エリアにある状態で運転席側ドアを開けると、コンビネーションメーター内のブザーが 1 回鳴り、「携帯電話置き忘れ注意」のメッセージが 5 秒ほど表示されます。
- 充電するしないにかかわらず、携帯電話は横置きでご使用ください。携帯電話を縦置きにすると、ワイヤレス充電エリアからはみ出し、「R」レンジへのシフトチェンジを妨げることがあります。

リアシェルフ

- プライバシーを守り、直射日光を避けるために、リアシェルフで荷物を覆うことができます。
- リアシェルフのフック部①を両側のCピラーパネル下部の突起にはめ込んでから、リアシェルフの紐②をかけます。
- リアシェルフの取り外し方は取り付けと逆の手順です。



⚠ 警告

- リアシェルフを取り付けるときは、リアシェルフがしっかり取り付けられていることを確認してください。
- リアシェルフにものを置かないでください。
- お子様をリアシェルフに乗せないでください。リアシェルフの破損やお子様の生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

カーペット

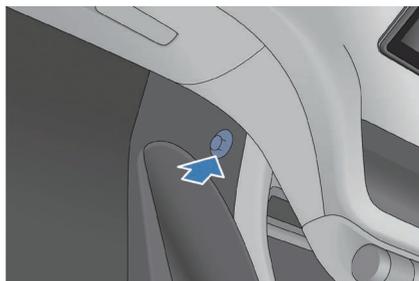
- 専用のカーペットが設定されていますので、正しく固定してご使用ください。

⚠ 警告

- 運転前に、カーペットが正しく固定されていることを定期的を確認してください。車内のクリーニング後は必ず確認してください。
- 運転席にカーペットを敷く場合は、カーペットでペダルを覆ったり、重ねて敷いたり、前後逆さまや裏返して使用しないでください。
- タバコの火種をカーペットに落とさないでください。火災につながるおそれがあります。

フック

- 180度回転することができます。
- 3kg以下のもののみかけることができます。

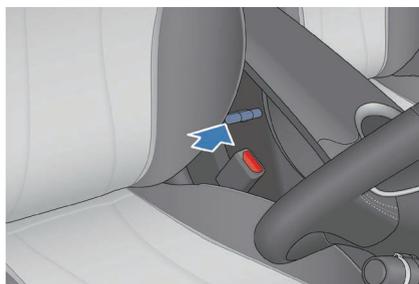


⚠ 注意

- フックの破損を避けるため、耐荷重以上の荷物をかけないでください。

緊急脱出ハンマー

緊急脱出ハンマーは、非常時に緊急脱出するためのツールでセンターコンソールボックスの近くに格納しています。車の火災や水没などで車内に閉じ込められた場合は、緊急脱出ハンマーを使用してウィンドウガラスを割り、車外へ脱出してください。

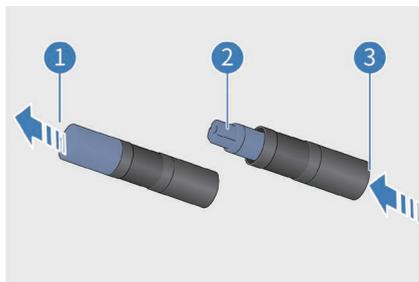


ガラスを割る方法について

1. ウィンドウガラスを割る位置を決める
 - 簡単に割ることができるウィンドウガラスを選択してください。フロント/リアガラスの表面には、振動を防ぐため特殊な塗料をコーティングしています。
 - ウィンドウガラスの隅部分を選択してください。そうしないと、ウィンドウガラスを素早く破壊することができません。
2. ウィンドウガラスを割る
 - 緊急脱出ハンマーをウィンドウガラスの隅部分に当て、力強く底部を押してウィンドウガラスを破壊します。ガラスが割れない場合は、割る位置は変更せず、割れるまで緊急脱出ハンマーの底部を力強く押してください。
3. ガラスを取り除く
 - ガラスがすべて割れず残るときがあります。この場合は、緊急脱出ハンマーでガラスを落とすように叩きます。
 - ウィンドウガラスにフィルムが貼り付いている場合は、足でガラスを蹴って開けてください。
4. 車外へ脱出する
 - 脱出できる隙間ができたなら、ただちに車内から脱出し安全な場所に移動してください。

緊急脱出ハンマーの使い方について

1. 緊急脱出ハンマーのキャップ①を外します。
2. 緊急脱出ハンマーの先端②をウィンドウガラスの隅部分に当てます。
3. 緊急脱出ハンマーの底部③を力強く押します。

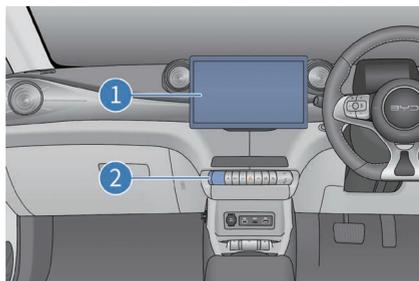


i アドバイス

- 緊急脱出ハンマーは、緊急時に車外へ脱出するためのツールです。紛失を避けるため、使わないときは取り外さないでください。
- ガラスを割る際に、ガラスで怪我をしないように注意してください。

マルチメディアコントロールパネル PAD

車両の電源ポジションを「OK」にすると、初期画面を数秒表示してからシステムが作動します。マルチメディア関連の機能（たとえば、APP やインターネット通話など）を活用するときは、インターネットに接続してから使用してください。



① マルチメディアタッチスクリーン

② ホイールボタン

- マルチメディアが作動している状態でホイールボタン②を1回押すと、オーディオがOFFになります。再度押すと、オーディオがONになります。3秒以上長押しすると、マルチメディアが再起動します。
- マルチメディアが作動している状態で上方向（フロント方向）にホイールボタン②を回すと、音量が上がります。下方向（リア方向）にホイールを回すと、音量下がります。音量は0～39の範囲内で変化し、音量が0のときは、ステータスバーにミュートマークが表示されます。

工場出荷時設定に戻す場合

- 工場出荷時設定に戻すをタッチすると、マルチメディア機器に設定されているすべてのデータが工場出荷時の状態に戻ります。
 - 工場出荷時の状態に戻している間は、車両の電源は切らないでください。また、エラーの発生を防ぐためマルチメディア機器のアイコンに触れないでください。
 - 工場出荷時の状態に戻す作業は、2～5分掛かるためしばらくお待ちください。

⚠ 警告

- 車内でハイパワーインバーターを使わないでください。マルチメディアシステムの異常につながるおそれがあります。
- オペレーティングシステム入れ替えや Root 化は禁止です。マルチメディアシステムや車両の異常につながるおそれがあります。
- 安全運転のために、運転中はマルチメディアタッチスクリーンを横向きにして使ってください。
- 前方不注意になるおそれがあるため、運転中は絶対にオーディオなどをマルチメディアタッチスクリーンで操作しないでください。
- オーディオの音量を大きくしすぎると、車外の状況が分からないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンターテインメント機能の使用は、駐車中だけにしてください。運転中の使用は交通事故につながるおそれがあります。
- 運転中のテキスト送信の禁止やハンズフリーの使用義務など、電話の使用に関する法規に従ってください。Bluetooth を ON にした状態でも、運転中の携帯電話の使用やプログラミングは交通事故につながるおそれがあります。
- アップグレードプロセス中は車両は走行できず、施錠 / 解錠、室内ランプ、ウィンカーおよび窓の開閉機能を除いた車両機能は一時的に無効となります。

⚠ 注意

- タッチスクリーンの破損を防ぐために
 - 指でタッチスクリーンを軽くタッチしても反応がないときは、タッチスクリーンから指を離し、再度タッチしてください。
 - タッチスクリーンを拭くときは柔らかい布を使用し、洗剤は使わないでください。
- タッチスクリーンを使う場合は
 - タッチスクリーンの温度が低いと、表示された画像が暗く見えたり、システムの作動がいつもより遅いときがあります。
 - サングラスをかけてタッチスクリーンを見ると、暗く見えたりきれいに見えないときがあります。タッチスクリーンの角度を変えるか、サングラスを外してください。
 - 灰色のアイコンは操作できません。
- タッチスクリーンの表示は参考表示であり、具体的には現物に準じません。

6-1	メンテナンス上の	
	ご注意	246
	メンテナンス周期および	
	メンテナンス内容	246
6-2	定期メンテナンス	253
	定期メンテナンス	253
	車両の防食について	254
	塗装メンテナンスのお願い	255
	洗車	256
	車内の清掃	258
6-3	セルフメンテナンス	261
	セルフメンテナンス	261
	車両の保管	265
	ボンネット	266
	冷却システム	267
	ブレーキシステム	268
	ウォッシャー	269
	空調システム	270
	ワイパーブレード	271
	タイヤ	273
	フューズ	277

メンテナンス周期およびメンテナンス内容

車両メンテナンス計画

- メンテナンス計画は、安定した走行、故障の低減、安全運転およびエコ運転を実現するために設計されています。
- メンテナンスの間隔は、メンテナンス周期表を参照して走行距離や時間間隔に合わせて判断し、いずれかの早い方に準じます。
- 期限切れのメンテナンス項目も、同じ時間間隔でメンテナンスを行う必要があります。
- ホース（冷暖房システム、ブレーキシステムなどに使われるホース）は、メンテナンス周期表に従い、専門の技術者に点検を依頼してください。
- これらは特に重要なメンテナンス項目であるため、それぞれのメンテナンス間隔がメンテナンス周期表に記載されています。ホースに劣化や破損がある場合はただちに交換してください。
- メンテナンス周期表には、車両を常に最適な状態に保つために必要なすべてのメンテナンス項目を記載しています。
- メンテナンス作業は BYD の基準および規格に従い、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で実施してください。
- メンテナンス周期表に記載されている点検項目および走行時間や走行距離は、車両を通常の交通手段である乗員や荷物の搬送に使用する用途として想定しているため、過積載がないようにしてください。

注意

- BYD の「品質保証書およびメンテナンスノート」の記載内容に従って、車両メンテナンスを定期的 to 実施してください。

メンテナンス計画について

通常のメンテナンス周期表に従って、車両のメンテナンスを実施してください。

下記の状況が1つ以上当てはまる場合は過酷な使用条件となり、一部項目のメンテナンス周期が異なります。

■ 路面状況

- 悪路、ぬかるんだ路面、融雪路
- ほこりの多い路面

■ 運転状況

- キャンピングトレーラーやルーフラックを含むトレーラーの使用

メンテナンス周期表

メンテナンス時の走行距離と使用時間のうち、いずれか早い方に準じます。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
シャーシ各部固定ネジの確認および締付*	12ヶ月、または20000km毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ブレーキペダルと電動パーキングブレーキスイッチの点検	初回は6ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は24ヶ月、または40000kmで点検する。その以後は24ヶ月、または40000km毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は3ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000kmで点検する。その以後は12ヶ月、または20000km毎に点検する。
ブレーキパッドとディスクの点検	12ヶ月、または20000km毎に点検する。
ブレーキシステムのラインおよびホースを点検	初回は6ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は24ヶ月、または40000kmで点検する。その以後は24ヶ月、または40000km毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は3ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000kmで点検する。その以後は12ヶ月、または20000km毎に点検する。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
ブレーキキャリパー ASSY のガイドピンを確認	初回は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その後は 24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。
ステアリング、タイロッドの点検	初回は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その後は 24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。
ドライブシャフトダストブーツの点検	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。
ボールジョイントダストブーツの確認	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。
前後サスペンションの確認	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。
タイヤと空気圧の確認 (TPMS を含む)	初回は 6 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
前後輪アライメントの点検	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。
タイヤローテーション	毎月 1 回以上空気圧とタイヤを点検し、10000km 毎に位置を交換する。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
ドアストッパーの確認	湿らせた柔らかい布でチェックロッドのほこりを取り除き、チェックロッド、リベットジョイント、回転軸に0.3～0.8gのグリスを塗布する。12ヶ月、または20000km毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ホイールベアリングの遊びを確認	24ヶ月、または40000km毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は3ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000kmで点検する。その後は12ヶ月、または20000km毎に点検する。
サブタンクのクーラントレベルを確認	初回は6ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000km毎に点検する。その後は12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
パワーモーター冷却水の交換	4年、または100000km毎にロングライフ有機酸系クーラントを入れ替える。いずれかの早い方に準ずる。
ブレーキフルードの点検	初回は6ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000km毎に点検する。その後は12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ブレーキフルードの交換	2年、または40000km毎に入れ替える。
車両モジュールの故障コードを確認（記録後にクリア）	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
パワーバッテリートレイ、ガード、クラッシュバー、取付部のトルクを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
パワーバッテリーセルフキャリブレーション	72000km、または6ヶ月毎に（アドバイスを参照）

メンテナンス項目	メンテナンス周期
トランスミッションギアオイルの点検および交換	ギアオイル入れ替えの初回は24ヶ月、または40000kmで、その後は24ヶ月、または40000km毎にギアオイルを入れ替える
パワートレインに液漏れや衝突などがないかを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
高電圧ワイヤーハーネスまたはコネクタの緩みがないかを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
高電圧モジュールの外観部品の変形、油の付着の有無を確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
各充電コネクタのインターフェースに異物、焼損などがないかを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
HECフィルター（クリーンエアフィルター）の確認*（HEC：High-Efficiency-Carbon）	12ヶ月、または20000km毎に定期点検を行う。いずれかの早い方に準ずる。 必要に応じて交換する。環境が極端に悪い地域では、6ヶ月毎に点検し、必要に応じて交換する。
電球とLEDが正常に点灯しているかを確認	初回は6ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000km毎に点検する。その後は12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ハイビームアシストが正常かを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ロービームの高さ調整が正常かを確認	10000km毎に校正する
EPSグラウンドに異物や焼損がないかを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
EPS コネクタの緩みがないか、コネクタのピンが焼損していないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
EPS ECU が腐食していないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
EPS ECU とモーターの接続に異物や腐食がないかを確認 *	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
車両モジュールのソフトウェア更新をチェックし、あれば更新する	初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。破損がある場合は、早めに交換する。
高電圧部品に浸水の痕跡がないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ワイパーアームロックナットのトルクを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ボンネットヒンジのストッパボルトに付いているゴムブッシュが、破れていないかを点検	初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。破損がある場合は、早めに交換する
ボンネットロックおよびストライカーを確認	12 ヶ月毎に点検する
※ シャーシ各部固定ネジの確認および締付の点検をするとき、シャーシ部品に異常や破損が見つかった場合は、早めに交換してください。	

i アドバイス

- パワーバッテリーセルフキャリブレーションとは、パワーバッテリーを最適な状態に保つため、定期的（最小6ヶ月、または72000kmで、いずれか早い方に準ずる）にフル放電とフル充電を行い、バッテリーの自己校正による活性化を目的とするものです。普段車両の利用頻度が低く、15～100%の充電をされない方は点検を受けてください。BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場にバッテリー容量のテストおよび校正を依頼してください。

過酷な使用条件とは：

- ほこりの多い地域を走行する、または塩分を含む空気にさらされる場合。
- デコボコ路、浸水路や山道を走行する場合。
- 寒冷地を走行する場合。
- 頻繁にブレーキをかける、または急ブレーキをかける場合。
- トレーラーをけん引する場合。
- タクシーとして使用する場合。
- 32℃以上の気温で交通量の多い市街地を走行する時間が、総走行時間の50%を超える場合。
- 30℃以上の気温、120km/h以上の速度で走行する時間が、総走行時間の50%を超える場合。
- 過積載で走行する場合。

定期メンテナンス

■ 車両性能や音の変化、および点検を指示するための直観的な兆候に注意してください。次の状況がある場合は、できるだけ早く BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で調整や修理を実施してください。

- モーター始動時の異音。
- 冷却水の高温状態が続いている、冷却水が流れない、水漏れがある。
- モーターの引っかかりおよび異音。
- モーター回転時の振動が激しい。
- モーターが始動できない。
- 電動パワートレインからオイルが漏れている。
- 電動パワートレインから異臭がする。
- 動力が明らかに弱まっている。
- 車両の下部から水漏れがある（エアコンからの水は異常ではない）。
- タイヤのエア漏れ、曲がるときの過度なタイヤ騒音。不均一なタイヤ摩耗。
- 平坦な道で直進すると車両が片側に流れる。
- サスペンションにかかわる異音。
- ブレーキが利かない、ブレーキペダルが軽い、ペダルが床に接触する、ブレーキ時に車両が片側に流れる。
- モーター冷却水がやや熱い状態が続いている。
- バッテリー容量が明らかに下がっている。
- バッテリーの高温状態が続いている、過熱保護、出力が出ない。

⚠ 注意

- 未点検の車両を運転しないでください。車両が大きく破損したり身体に危害を与えるおそれがあります。
- BYD の「品質保証書およびメンテナンスノート」の記載内容に従って、車両メンテナンスを定期的実施してください。

車両の防食について

車両腐食でよくある要因：

- 車両の下にアルカリ性土壌、ほこりや湿気が付着する。
- 湿度が高い環境、または車両のある部位が長期間高湿高温にさらされる。
- 軽微な衝突、または小石や砂利で塗装や下地が傷付く。

車両腐食を防ぐために、下記のルールを守ってください。

- こまめに洗車する。
 - 冬場に塩分のある路上を走行する場合、または海沿いに住んでいる場合は、毎月1回以上、土や泥がよく付着する箇所を洗浄してください。高圧洗浄機や蒸気でシャーシとホイールハウスを洗浄することで腐食を軽減します。また、冬が終わったらシャーシ部分を徹底的に洗浄してください。
- ボディーの塗装とアクセサリーを点検する。
 - 塗装の破片や塗装割れがある場合は、腐食を防ぐためにただちに補修してください。塗装剥がれがある場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で補修してください。
- 車内を点検する。
 - 水分やほこりがカーペット下に堆積すると腐食につながるため、カーペット下をよく点検し、これらの部位を乾燥状態に保ってください。
 - 化学品、洗浄剤、化学肥料、塩などを運ぶ場合は特に注意してください。適切な容器で運び、あふれたり漏れがあるときは、すぐに洗浄して乾かしてください。
- マッドガードを使用する。
 - アルカリ分が多い地域または砂利舗装路を走る場合は、マッドガードで車両を保護してください。マッドガードは、寸法が大きく地面に近いほど効果があります。
- 車両を十分に換気された乾燥した場所に駐車してください。

塗装メンテナンスのお願い

- 色違いや配合不良を防ぐため、塗装に明らかな擦り傷がない場合は、安易に再塗装しないでください。
- 長期間車両を放置する場合は、車庫や風通しの良いところに駐車してください。また、冬場は専用のボディーカバーで覆ってください。一時的に駐車するときは、直射日光が当たらない涼しい場所を選んでください。
- ボディーの塗装への強い衝撃を避け、当たり傷や擦り傷などを防いでください。塗装に傷、へこみ、剥がれがあるときは早めに補修するため、可能な限り専門のカーケアショップで補修してください。
- 化学反応を避けるため、油で汚れた手でボディー塗装の表面を触ったり油で汚れた布で塗装の表面を拭く、また、油汚れが付いている工具や有機溶剤を含んだ布をボディーの上に置かないように注意してください。
- 毎月 1 回、またはボディー表面の撥水性が落ちた場合、車用ワックスを塗布して定期的に（四半期毎に 1 回）手入れを行い、早めにボディー塗装の輝きを取り戻してください。
- なお、ボディーコーティングなどの BYD 商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。

注意

- 再度塗装が行われ、かつ高温の塗装ブースに置く間は、高温によりバンパーを破損させるおそれがあるため、車両の樹脂製バンパーを取り外してください。

洗車

- 下記の場合は、塗装剥がれまたはボディーや部品の錆びを引き起こすおそれがあるため、早めに車両を洗浄してください。
 - 沿海部で走るとき。
 - 凍結防止剤をまいている道路を走るとき。
 - コールタールが付いている道路を走るとき。
 - 樹脂、鳥の糞や虫の死骸が付いたとき。
 - 煙塵、石炭灰、ほこり、鉄くずや化学物質を大量に含んでいる地域を走るとき。
 - ほこりや泥で車両が明らかに汚れているとき。
 - 雨が降った後。

手洗い洗車をするとき

日が当たらない涼しい場所に車両を止め、車両が十分に冷えてから洗車をします。

1. ホースで表面の汚れを洗い落とし、下回りやホイールの奥に付いているすべての泥や塩分汚れをきれいに洗い落とします。
2. 中性洗剤で洗浄する場合は、洗剤の取扱説明書に従って洗剤を混ぜ合わせてください。柔らかい布に洗剤を浸け、水流方向に上から下へ拭きます。円を描くように拭いたり、横方向に拭かないでください。
3. 水で十分に洗い落とします。洗剤が乾くと痕が残るため、暑い時期に洗車する場合は、水で各部分を素早くきれいに洗い流してください。
4. 水痕が残らないように、清潔な柔らかいタオルでボディーの水分を拭き取ってください。また、塗装が傷付くおそれがあるため、強く拭いたり押し付けて拭かないでください。

警告

- 下回りを洗うときは、手を怪我しないように注意してください。
- 電気部品が故障するおそれがあるため、モータールーム内に水をかけないでください。
- 故障や感電につながるおそれがあるため、高圧洗浄機で精密機器のセンサーやカメラ部に衝撃を与えないでください。

i アドバイス

- 強アルカリ性の粉石鹼、石鹼水、洗剤、脱脂洗浄剤、有機物質（ガソリン、灯油、揮発油、または強溶剤）を使わないでください。
- コンビネーションランプのレンズ割れにつながるおそれがあるため、コンビネーションランプを洗浄する場合は、ガソリン、アルコール、シンナー、希釈剤、四塩化炭素などの化学溶剤で、コンビネーションランプの表面を拭かないでください。
- 沿海部や汚染が深刻な地域で走る車両については、毎日1回の洗車をおすすめします。
- ボディーの汚れをカッターで削ったり、ガソリンで洗わないでください。有機物質によって、プラスチック製ホイールトリムが損傷します。有機物質がホイールトリムに付いた場合は、必ず水で洗い流してから部品の傷みがないかを点検してください。著しい破損があるプラスチック製ホイールトリムは、移動中にホイールトリムが外れて事故を起こすおそれがあるため、早めに交換してください。
- 研磨剤を含んだ洗浄剤でバンパーを拭かないでください。
- メッキ処理の金属部品の洗浄は、専用の洗剤を使って定期的に専用ワックスを塗布することをおすすめします。

自動洗車をするとき

塗装面に傷が付くおそれがあるため、自動洗車機で洗車する場合は、ブラシのタイプ、ろ過されていない洗浄水、または洗車機に設定された洗浄プログラムに注意してください。特に色が濃い車両は、塗装表面の擦り傷により塗膜の耐久性や光沢度が低下します。可能な限り、洗車前に洗車専門店のスタッフに問い合わせて、塗装面に最も安全な洗車プログラムを確認してください。

車内の清掃

アドバイス

- 内外装を洗浄する場合は、水が直接インストルメントパネルや床、近くの電気部品に流れ込まないようにしてください。水の侵入により機能の異常につながるおそれがあります。
- ボディー腐食を避けるため、水で車両の床を洗浄しないでください。

カーペット

- 高品質の泡タイプの洗剤でカーペットを洗浄してください。
- まずは、できるだけ掃除機でほこりをきれいに掃除します。使える泡タイプ洗剤が数種類あり、スプレーや粉末、液体で水と混合して泡を発生させるものもあります。泡立てたスポンジやブラシでカーペットを洗浄し、円を描くように拭きながら洗浄します。
- 水を使わず、できるだけカーペットを乾燥状態に保ってください。

警告

- カーペットがペダルに干渉しないように、運転席のカーペットが正しく固定されていることを確認してください。また、カーペットの上に別のカーペットやその他のカバーを重ねないでください。

シートベルト

- シートベルトは、中性石鹼水やぬるま湯でクリーニングすることができます。
- スポンジや柔らかい布でシートベルトを拭きます。洗浄中に、シートベルトに過度な摩耗、破れや切れがないかを点検してください。

注意

- シートベルトの強度が落ちるおそれがあるため、染色剤や漂白剤でシートベルトを洗浄しないでください。
- シートベルトは、乾燥するまで使わないでください。

ドアおよびウィンドウガラス

- ドアおよびウィンドウガラスは、一般家庭用の洗剤で洗浄できます。
- 定期的にドアチェッカーを点検してください。ドアチェッカーのロッドにほこりが付着している場合は、水で濡らした布でドアチェッカーのロッドを拭いて、表面のほこりを落としてください。

⚠ 注意

- リアガラス内側のクリーニングを行うときは、熱線およびその接続部を傷付けたり破損させないように注意してください。

エアコンパネル、カーオーディオ、インストルメントパネル、コントロールパネルとスイッチ

- エアコンパネル、カーオーディオ、インストルメントパネル、コントロールパネルとスイッチは、水で濡らした柔らかい布でクリーニングします。
- 水や温水で濡らしたきれいな布でほこりを軽く拭き取ります。

⚠ 注意

- 表面の変色、シミや剥がれにつながるおそれがあるため、有機物質（溶剤、灯油、アルコール、ガソリンなど）、酸性やアルカリ性溶液を使わないでください。
- 洗剤や艶出し剤を使う場合は、その組成に上記の物質を含んでいないことを確認してください。
- 新規の液体洗剤を使う場合は、液体を車内の表面にこぼさないでください。液体に上記の成分を含んでいる可能性があるため、液体をこぼしたときは、素早くきれいに拭き取ってください。

車内の人工皮革部分

- 人工皮革部分は、毛織物に使える中性洗剤で洗浄することができます。
- 中性洗剤の溶液を浸けた柔らかい布でほこりを拭き取ってから、水で濡らしたきれいな布で残りの洗剤を完全に拭き取ります。
- 洗浄後または人工皮革が濡れている場合は、清潔な柔らかい布で水分を拭き取り、風通しが良い涼しいところで人工皮革を乾かします。
- 車両の洗浄についてご質問がある場合は、現地のBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に問い合わせてください。

▲ 注意

- 中性洗剤で汚れが取れない場合は、有機溶剤を含まない洗剤で洗浄することができます。
- 人工皮革の色落ちにつながるため、揮発油、アルコール、ガソリン、酸性やアルカリ性溶液などの有機物質で、人工皮革を洗浄しないでください。
- ナイロンブラシや人造繊維製の布などを使うと、人工皮革表面の模様が傷付きます。
- 汚れている人工皮革部分はカビが生えることがあります。特に油汚れに注意し、人工皮革部分を常に清潔に保ってください。
- 長時間日光に当たると、人工皮革の表面が固くなったり縮むことがあります。特に夏場は、日が当たらない涼しい場所に駐車してください。
- 夏の暑い時期は車内の温度が上昇しやすく、人工皮革に固着してしまうおそれがあるため、人工皮革部分の上にポリエチレン製やワックスを含む材料で作ったものを置かないようにしてください。
- 人工皮革部分の洗浄を誤ると、色が落ちたり、まだらになったりします。

セルフメンテナンス

セルフメンテナンス上のご注意

- 自らがメンテナンスを行う場合は、本章に記載されている手順で正しくメンテナンスをしてください。
- 不適切で不完全なメンテナンスは、車両の正常な使用に影響を与えることをご了承ください。
- 本章には、ユーザーが実施できるメンテナンスのみを記載しています。そのため、資格のある技術者が専用工具を使って作業する必要があるメンテナンス項目は、数多くあります。
- メンテナンスを実施する場合は、思わぬ怪我を防ぐために下記の注意事項を必ず守り、細心の注意を払ってください。

⚠ 警告

- 高電圧システムで感電するおそれがあるため、パワーバッテリー充電接続表示灯が点灯・点滅しているときは、整備作業を行わないでください。
- メンテナンスを行うときは、車両から充電コネクタを取り外してください。
- モータールーム内の作業時は、電源ポジションを「OFF」にしてください。EV システム作動中に、手や工具などを入れると思わぬ怪我をするおそれがあります。
- ルーフに積もった雪は落としてください。フロントガラスに滑り落ちる雪が視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車両を長期間駐車していると、小動物が巣を作り、思わぬ火災につながるおそれがあるため注意してください。

⚠ 警告 (続き)

- 電装システムの破損や火災につながるおそれがあるため、規定の容量以外のフューズや、フューズの代わりに針金などを絶対に使用しないでください。
- 自動車で使用される液体（バッテリー酸、バッテリー冷却水、ブレーキフルード、フロントガラス用ウォッシュ液など）の中には有毒なものがあるため、これらの液体を吸入または飲み込んだり、傷口に触れさせないでください。安全のため、液体容器に表示されている説明を必ず読み、指示に従ってください。

⚠ 注意

- 車両の一部回路や部品には高電流や高電圧が掛かっているため、ショートさせないように細心の注意を払ってください。
- 冷却水があふれた場合は、部品や塗膜の破損を防ぐために、乾燥した布や紙できれいに拭き取ってください。
- ブレーキフルードがあふれた場合は、部品や塗膜の破損を防ぐために、水できれいに洗い流してください。
- ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーでガラス表面に傷が付かないようにしてください。
- ボンネットを閉めるときは、工具や布などがモータールーム内に残っていないかを点検してください。
- 車内や車外を問わず、異物や液体が目に入らないように、作業時は保護メガネをかけてください。
- ブレーキフルードは皮膚や目を傷めるため、ブレーキフルードを注入する場合は注意してください。ブレーキフルードが皮膚や目に付着したときは、ただちに水で付着部位を洗い流してください。まだ、手や目に痛みなどがあるときは、ただちに医師の手当てを受けてください。

点検

使用状況や推奨の走行距離に従い、下記の項目を点検してください。

- 冷却水レベル——充電のたびにラジエーターの冷却水レベルを点検してください。
- ウォッシュ液——毎月1回リザーブタンクのウォッシュ液の残量を点検してください。悪天候で頻繁にウォッシュ液を使った場合は、充電のたびにウォッシュ液の残量を点検してください。
- フロント・リアガラスワイパー——毎月1回ワイパーを点検してください。ワイパーがフロント・リアガラスをきれいに拭き取れない場合は、摩耗、亀裂やその他の損傷がないかを点検してください。
- ブレーキフルードレベル——毎月1回レベルを点検してください。
- ブレーキペダル——ブレーキペダルがスムーズに操作できるかを点検してください。
- 電動パーキングブレーキスイッチ——スイッチが正常に機能していることを点検してください。
- 起動バッテリー——毎月1回バッテリーの状況および端子の腐食状況を点検してください。
- 空調システム——毎週エアコン装置の稼働状況を点検してください。
- タイヤ——毎月1回タイヤ空気圧を点検してください。タイヤトレッドの摩耗状況および異物の挟み込みがないかを点検してください。
- ガラスデフロスター——毎月、暖房装置やエアコンを使うときは、デフロスター装置の吹き出し口を点検してください。
- ライト——毎月1回ヘッドライト、ポジションランプ、テールライト、ハイマウントストップランプ、ターンシグナルランプ、リアフォグラップ、ブレーキランプおよびリアライセンスプレートランプの状況を点検してください。
- ドア——テールゲートおよび他のドア（リアドアを含む）のスイッチが、すべて確実にスムーズに施錠できるかを点検してください。
- ホーン——ホーンに異常がないかを点検してください。

アドバイス

- 未点検の車両を運転しないでください。車両が大きく破損したり、人に怪我を負わせるおそれがあります。

コンビネーションランプ

フロントコンビネーションランプの光軸調整

- 工場出荷時、フロントコンビネーションランプの光軸調整が行われています。重い荷物を運ぶことが多い場合は、新たにフロントコンビネーションランプの光軸調整を行う必要があります。フロントコンビネーションランプの光軸調整については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。

ライトの曇り

- 大雨や洗車の後、コンビネーションランプ、テールライト、またはドアミラーのターンシグナルランプには曇りが発生することがあります。これは、雨天時に車内側のフロントガラスが結露することと似ていますが、故障ではありません。
- ライトは、空間が相対的に密閉しており狭く、かつ点灯時の温度が高いため（レンズ、リフレクターなどが高温で変形しやすい）、放熱用の通気口が必要です。点灯時は放熱するため、ケースに設置された放熱用通気口を通じて周辺環境と対流を発生し、温度差が高いほど対流が活発になります。対流中に空気中の水蒸気がライト内部に持ち込まれるため、日光、対流、ランプ発熱量などによって、温度が低い箇所の表面に結露や水滴が発生します。この現象は、ライト曇りと呼ばれています。

⚠ 警告

- ヘッドライトの電球は点灯により非常に熱くなるため、電球表面の油や汗、または擦り傷により電球が過熱して割れることがあります。
- 事故などで破損したライトのまま走行しないでください。内部に水が入ることにより、火災につながるおそれがあります。

🔍 アドバイス

- コンビネーションランプの内側、ドアミラー内のターンシグナルランプの内側に曇りが発生する場合は、空気の湿度が高い、または車両と周辺環境の温度差が大きいことが考えられます。コンビネーションランプやターンシグナルランプを付けてしばらく走行することで、ライト内の水蒸気が消えます。
- ライト内に明らかに水が入っている場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

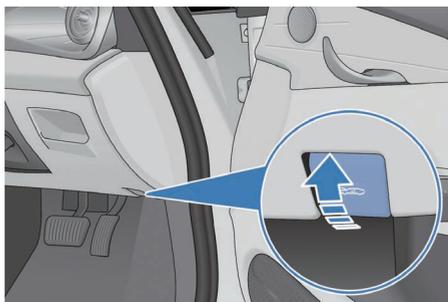
車両の保管

- 長期間（1 ヶ月以上）車両を放置する場合は、下記に示す準備を実施することで、車両性能などの劣化を効果的に防止できます。また、可能な限り屋内に駐車してください。
- 推奨の時間通り充電します。
- ボディーの外部を徹底的に洗浄し、乾かします。
- 車内を掃除し、カーペット、床などを完全に乾かします。
- パーキングブレーキを解除し、シフトレバーを「P」レンジに切り替えます。
- ウィンドウガラスを1枚少し下げます（屋内駐車の場合）。
- 起動バッテリーの負極（-）端子を取り外します。
- フロントワイパーアームがフロントガラスに接触しないように、ワイパーアームの下に折りたたんだタオルや布を入れておきます。
- 固着を軽減させるために、すべてのドアのシール部にシリコン潤滑剤を塗り付け、ドアウェザーストリップ接触部の塗膜表面にボディーワックスを吹き付けます。
- 布のような「多孔質材料」で作られた通気性カバーでボディーを覆います。ビニールシートのような無孔質材料では湿気が溜まるため、ボディー表面の塗膜を破損させるおそれがあります。
- 可能な限り、定期的に車両を始動させます（毎月1回を推奨）。1年間、またはそれ以上に放置した場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で全体のメンテナンスを行ってください。

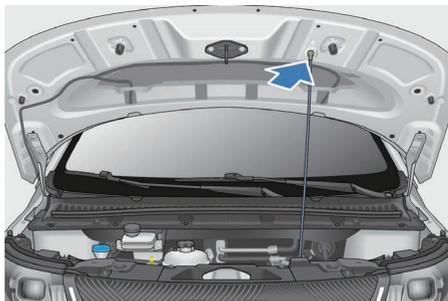
ボンネット

ボンネットの開け方

1. インストルメントパネル下の右側にあるボンネットリリースレバーを2回連続で引き上げると、ボンネットが解錠され、少し隙間ができるように開きます。



2. ボンネットを持ち上げて、ボンネットステーでボンネットを支えます。
3. ボンネットを閉めるときは、フロントグリルから約30cm高い位置に下げたところから両手を離し、自由落下させてロックします。



4. ボンネットを閉めたら、確実にロックされているかをコンビネーションメーターで確認してください。

⚠ 警告

- ボンネットが閉まっており、確実にロックされていることを確認します。ロックされていないと、運転中にボンネットが突然開いて事故につながるおそれがあります。
- 強風時は、ボンネットをしっかり持ちゆっくり開けてください。
- 開けたボンネットに頭などをぶつけないよう注意してください。
- ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。

i アドバイス

- ボンネットを施錠するときは、勢いよくボンネットを落したり、大きく開けた状態からボンネットを落とさないでください。

冷却システム

- 液面がリザーバタンクの最大値 (MAX) と最小値 (MIN) の間にあれば問題ありません。
- 冷却水は、添加剤を入れずに BYD 指定の冷却水と同じ仕様のもので使ってください。異なるブランドや型番の冷却水を混ぜ合わせて使用しないでください。



- 最小値 (MIN) の目盛りを下回る場合は、最大値 (MAX) の目盛りに達するまで冷却水を補充し、冷却システムの漏れがないかを点検します。

⚠ 警告

- ラジエーターなどの高温部に触れると、やけどをするおそれがあります。
- モーターが完全に冷えていないときにリザーバタンクの蓋を開けると、冷却水の噴出により、重度のやけどにつながるおそれがあります。

⚠ 注意

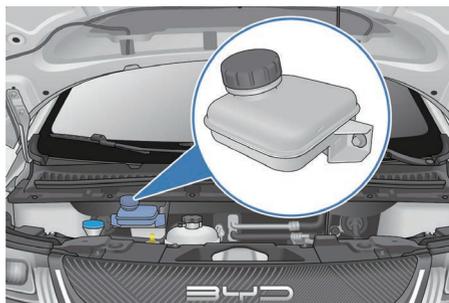
- 冷却システム内に防錆剤や他の添加物を絶対に追加しないでください。添加物は、冷却水やモーターの部品と相性が悪い可能性があります。
- リザーバタンクの蓋を開ける前に、モーター、集積型高電圧電気制御モジュール、リザーバタンクおよびラジエーターがすべて冷えていることを確認してください。
- BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場ではバッテリー専用の冷却水を注入してください。

ℹ アドバイス

- バッテリー冷却水は、直射日光などの紫外線が強い環境にさらされると色落ちするおそれがあります。車両の使用やメンテナンスなどでボンネットを開ける必要があるときは、直射日光を避けるようにしてください。

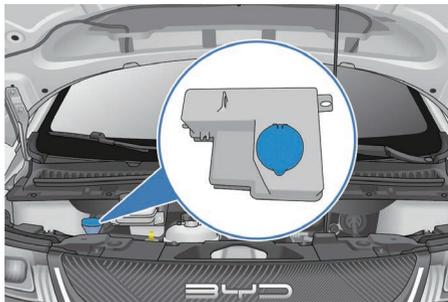
ブレーキシステム

- 毎月 1 回、ブレーキフルードリザーバタンク内のフルードレベルを点検してください。ブレーキフルードは、定期メンテナンス表に記載された走行時間と走行距離に従い交換してください。
- ブレーキフルードは、純正品のブレーキフルードと同じものを使用してください。また、規格外のブレーキフルードを混ぜ合わせて使用しないでください。
- フルードレベルがリザーバタンクの最大値 (MAX) と最小値 (MIN) の間にあれば問題ありません。
- コンビネーションメーターにブレーキフルードレベルが低いと表示された場合は、ブレーキシステムからの液漏れやブレーキパッドの摩耗がないかを点検してください。



ウォッシャ

- 毎月1回以上、ウォッシャ液タンクのレベルを点検してください。
- 悪天候でウォッシャをよく使う場合は、ウォッシャ液タンクのレベルを確認する頻度を増やしてください。
- 高品質のウォッシャ液を使用することで、汚れをよく落として凍結を防ぐことができます。
- ウォッシャ液補充時にこぼれた場合は、清潔な布で拭き取ってください。拭き取った布でワイパーブレードのゴム刃を清掃すると、ゴム刃を良好な状態に保つことができます。



⚠ 警告

- 出火するおそれがあるため、ウォッシャ液を高温部にかけないでください。

⚠ 注意

- 絶対にウォッシャ液タンクに酢水溶剤を注入しないでください。
- 適合したウォッシャ液を使用してください。

空調システム

- 空調システムはクローズドシステムです。大事なメンテナンス作業のすべては、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で行ってください。
- 空調システムを正常に機能させるため、下記の内容を確認してください。
 - ラジエーターおよびエアコンコンデンサーを定期的に点検します。
 - 異物が詰まると空気の流れを妨げて冷房能力が落ちるため、前側の表面に詰まっている落ち葉や虫、ほこりを取り除きます。
 - 冷媒に含まれている潤滑油を循環させるため、寒い季節は毎週 1 回以上、毎回 10 分以上エアコンをつけてください。
- 空調システムの冷房能力が通常より落ちている場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

注意

- 空調システムの点検は、冷媒の再循環装置を確実に使用してください。この装置は、冷媒をリサイクルすることができ、冷媒を大気に出すことで発生する環境汚染を防ぎます。

ワイパーブレード

ワイパーブレードの材質は合成ゴムで消耗品です。車両の使用環境やドライバーの使用習慣により、ワイパーブレードが破損するおそれがあります。ワイパーブレードの寿命と安全を確保するため、下記の内容に注意してください。

- フロントガラスの表面に付いている氷をワイパーブレードでは拭き取らないでください。氷は車両専用のアイス・スクレーパーを使ってください。
- 汚れや油、ワックスが付着しているフロントガラスの表面をブラシでこすらないでください。
- ガラスの表面をきれいに保ってください。また、ガラスの表面に付着しているほこりや砂、虫、異物などを取る時は、ガラスの表面をこすらないでください。
- 洗車やボディー塗装のメンテナンス時は、フロントガラスに専用ワックスを吹き付けしないでください。夜間走行時にワックス層が光を反射して視界が悪くなり、安全な走行に影響を与えます。また、洗車後は水でワイパーブレードを洗い、専用のワックス除去剤でフロントガラスに付着したワックスを落としてください。
- ワイパーブレードの破損を防ぐため、洗車時は高圧洗浄機をワイパーブレードに直接吹き付けしないでください。

メンテナンス細則

- 定期的にフロントガラスとワイパーブレードを洗浄してください（1週間～2週間毎に1回を推奨）。
- 定期的にワイパーを作動させてください（1日～2日毎に1回を推奨）。ワイパーブレードでフロントガラスを拭くときは、ガラスを濡らしてから拭いてください（雨が降っていないときはウォッシュ液をガラスに噴射してください）。
- フロントガラスを専用の洗剤で洗浄します。
- フロントガラスに付着している泥、虫の死骸は、早めに布できれいに拭き取ってください。
- フロントガラスに飛び石などの傷が付いている場合は、早めに修理してください（フロントガラス修復用樹脂製品の使用を推奨。傷が多かったり大きいときは、フロントガラスの交換を推奨）。

- ワイパーブレードを定期的（半年に1回）に交換することをおすすめします。
 - フロントガラスを洗淨するときは、事前にワイパーアームを立てておく必要があります。操作方法の詳細は次の通りです。
1. 作業者は、 → **車両状況** → **リペアー** の設定画面から **Fr. ワイパーチェック** を **ON** すると、ワイパーアームが立てられる位置に移動します。
 2. ワイパーアームの上側を持ち、ワイパーアームとブレードアセンブリをしっかりと引き上げます。

タイヤ

- 安全運転のために、自車に適合する型番やサイズのタイヤを選定してください。また、トレッドパターンが良好で、空気圧を適正にする必要があります。

⚠ 警告

- 過度な摩耗、空気圧の不足、または空気圧が高すぎるタイヤを使うと、生命にかかわる事故につながるおそれがあります。
- 本マニュアルに記載されている空気圧調整およびメンテナンスに関する内容に従ってください。
- 著しく摩耗に差のあるタイヤや、空気圧が規定値と著しく異なるタイヤは装着しないでください。車両の性能を発揮できず、安全性を損なって故障の原因となるおそれがあります。

空気を入れるとき

- タイヤ空気圧の適切な調整は、操縦性、タイヤトレッドの寿命および運転快適性の最適な組み合わせを実現します。
- 空気圧不足のタイヤを使用すると、タイヤの偏摩耗が起こったり操縦性やエネルギー消費に影響を与えるだけでなく、過熱による空気漏れにつながるおそれがあります。
- 空気圧が高すぎるタイヤを使うと、車両の快適性が悪くなり路面のデコボコによりタイヤが傷付くため、最悪の場合は、バーストを引き起こすおそれがあります。また、タイヤの偏摩耗が起こりタイヤの寿命が短くなります。
- 冷間時（タイヤ空気圧モニタリングシステム装備車）、コンビネーションメーターに表示されたそれぞれのタイヤ空気圧により、空気補充の必要性を判断することができます。
- タイヤ空気圧は冷間時に測定してください。冷間時とは、少なくとも停車してから3時間後に測定することを意味します。タイヤ空気圧を測定する前に走行する必要があるときは、走行距離が1.6kmを超えなければ冷間時と考えて問題ありません。
- 温間時（数kmほど走った後）のタイヤ空気圧を点検する場合は、圧力計の指示値が冷間時より30～40kPa（0.3～0.4bar）高くなりますが、異常ではありません。また、空気圧不足につながるため、指示値が推奨の冷間時空気圧になるまで空気を抜かないでください。

i アドバイス

- 推奨するタイヤ空気圧のラベル（運転席側ドア開口部に貼ってあります）には、推奨の冷間時空気圧が明記されています。
- チューブレスタイヤは、パンク時に一気に空気が抜けにくく、少しずつ空気が漏れていきます。タイヤ空気圧が下がり出したら、空気漏れの位置を特定してください。

点検

- タイヤ空気圧を点検するときは、タイヤの傷や摩耗状態、異物などが刺さっていないかも合わせて点検してください。
 - タイヤトレッドや側面の傷および膨らみのいずれかがあった場合は、タイヤを交換してください。
 - タイヤ側面の擦り傷や割れ、切れ、カーカスおよびビードワイヤーが見えた場合は、タイヤを交換してください。
 - タイヤトレッドの過度な摩耗。
- タイヤトレッド内部にスリップサインが設置されています。タイヤトレッドの摩耗によりスリップサインが現れると、溝の深さが 1.6mm 以下であることを意味します。摩耗がここまで進んだタイヤは、滑りやすい路面で走るときのグリップ力が悪くなります。
- タイヤトレッドにスリップサインが現れるまで摩耗した場合は、タイヤ性能が著しく落ちるため、タイヤを交換してください。



メンテナンス

- 適切な空気補充以外に、正確なホイールアライメントもタイヤトレッドの摩耗を効果的に軽減します。
- タイヤの偏摩耗が起きた場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でのホイールアライメントの点検を行ってください。
- 工場出荷前にホイールアライメント調整が行われていますが、一定時間走行後に、ホイールアライメント調整を新たに行う必要があります。

- 比較的速い速度（80km/h）で運転中に継続的に振動を感じているが、低速時は振動を感じない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でのタイヤの点検をしてください。
- 補修したタイヤが1つでもある場合は、必ずホイールアライメント調整を新たに行ってください。
- 新しいタイヤを装着したり、新しいホイールに交換した場合は、必ずホイールアライメント調整を行ってください。

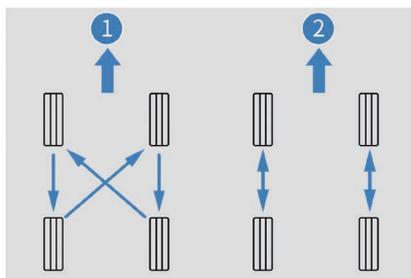
⚠ 注意

- バランスウェイトの取り付けを誤ると、ウェイトが脱落し、走行時に自車や周りのものを破損させるおそれがあります。
- バランスウェイトの取り付けを誤ると、アルミホイールを破損させるおそれがあります。バランスを確実に取るため、オリジナルバランスウェイトの使用をおすすめします。

タイヤの位置交換

- タイヤの摩耗を一定に保って長持ちさせるため、タイヤローテーションを定期的にすると同時に、ホイールアライメントの点検・調整を行う必要があります。
- 一時的にスペアタイヤもしくはテンパータイヤを利用する場合は、タイヤローテーションしないでください。
- タイヤを購入する際、「方向性」が決まっているタイヤがあります。このようなタイヤは同じ回転方向で位置交換してください。方向性が決まっているタイヤを使う場合は、図のようにフロントタイヤ、リアタイヤの入れ替えしかできません。

- ① 方向性が決まっていないタイヤおよびホイール。
- ② 方向性が決まっているタイヤおよびホイール。



- タイヤの装着位置を交換すると、専用診断機によるキャリブレーションを行う必要があります。実施する際は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場へお問い合わせください。

タイヤとホイールの交換

- 本車のオリジナルタイヤは、車両性能を最大限に引き出すために選定されたもので、それと同時に、操縦性や乗り心地の良さおよび使用寿命の最適な組み合わせとなっています。
- BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に指定タイヤに交換してください。
- ABS (アンチロックブレーキシステム) は、タイヤの回転数を比較することで機能するものです。タイヤを交換する場合は、オリジナルタイヤと同じサイズのものを使用してください。タイヤのサイズおよび構造は、ホイールの回転数に影響を与え、システム動作の不一致につながるおそれがあります。
- ホイールを交換する必要がある場合は、オリジナルホイールの仕様と同じホイールを選定してください。新品ホイールは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場から購入することができます。交換する前に BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に問い合わせてください。

警告

- サイズ、負荷範囲、定格回転数および最大の冷間時空気圧 (タイヤの側面に表示) が異なるラジアルタイヤに交換したり、ラジアルタイヤとダイアゴナル構造のテンパータイヤを混用すると、車両の制動能力、駆動力 (グリップ力) および操舵精度の低下につながるため、安全性が損なわれて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤを誤って装着すると、車両の操縦性や安定性に影響を与えるため、生命にかかわる事故につながるおそれがあります。
- 4つのタイヤを同時に交換し、1つのタイヤだけを交換しないでください。車両の操縦性に著しい影響を与えます。

アドバイス

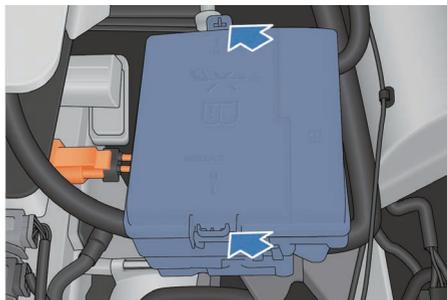
下記の内容を守ってください。運転中の代表的な危険を引き起こして、車両が制御できなくなるおそれがあります。

- ラジアルタイヤ、バイアスタイヤやダイアゴナル構造のテンパータイヤを混用しないでください。
- メーカーの推奨サイズ以外のタイヤを使わないでください。
- ホイールナットの締め付けトルクは、 $120 \pm 5 \text{ N} \cdot \text{m}$ です。

フューズ

ショートや過負荷を防ぐため、回路毎にフューズを設置しています。フューズは、モータールームのフューズボックスとインストルメントパネルのフューズボックスに格納されています。フューズボックスの中にはフューズのラベルが貼ってあり、ラベルでフューズと電気部品との関係を特定できます。

- モータールームのフューズボックスは、モータールームの左側後部にあります。開けるには、モータールームの化粧板を取り外して図のようにクリップを押すと、フューズボックスが開きます。



- 車内のインストルメントパネルのフューズボックスは、運転席側インストルメントパネルの下右側にあります。インストルメントパネル下側を取り外すと、フューズの点検ができます。

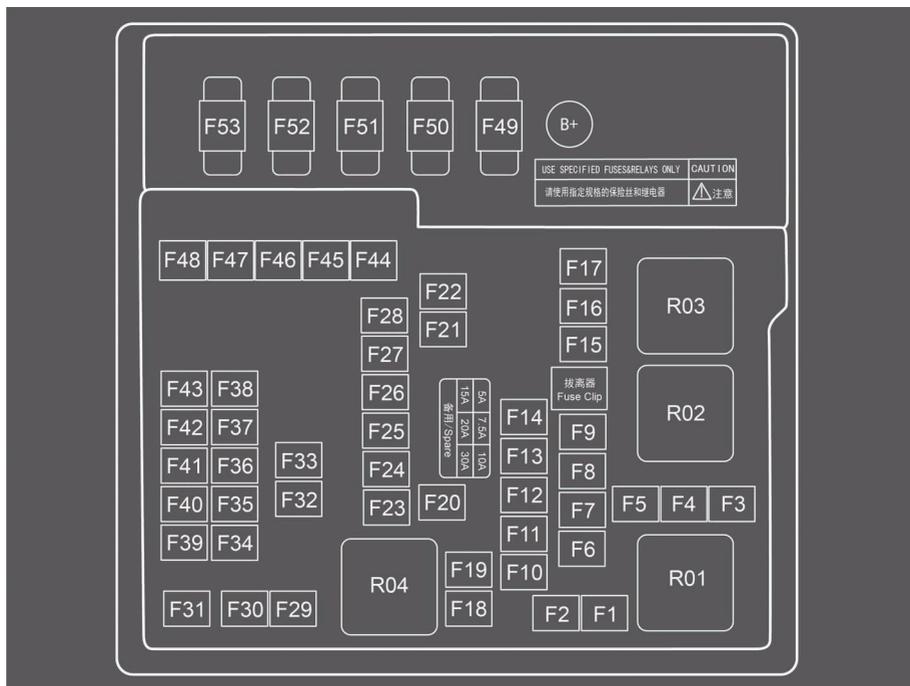


- アンペア数が高いフューズで、切れたフューズを入れ替える場合は、対象電気システムを破損させる可能性が極めて大きくなります。
- 回路に適合するアンペア数の代替フューズがない場合は、代替品としてアンペア数が比較的小さいフューズを使ってください。

i アドバイス

- 定格アンペア数より高いフューズを使わないでください。また、著しい破損を引き起こしたり火災を招くおそれがあるため、フューズの代わりに他のものを使わないでください。
- フューズが切れたら、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での点検や交換をしてください。

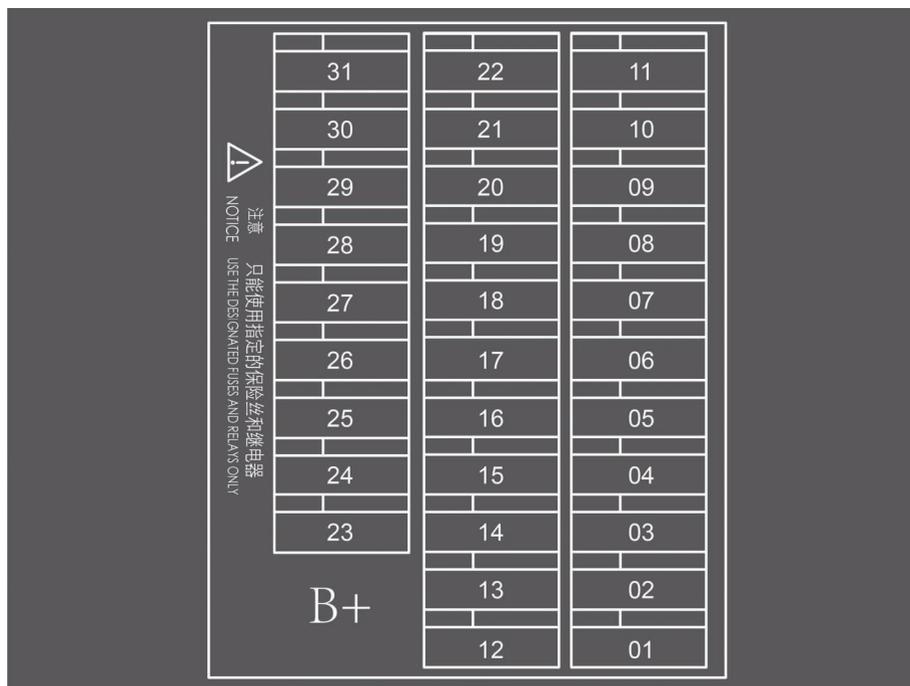
モータールームのフューズボックスラベル



番号	アンペア (A)	保護対象のユニットまたは回路
F1	60	PTC3
F2	-	-
F3	-	-
F4	-	-
F5	-	-
F6	-	-
F7	-	-
F8	-	-
F9	15	高電圧統合 PDC コントローラー
F10	15	左前コンビネーションランプ
F11	15	右前コンビネーションランプ
F12	7.5	コンプレッサー
F13	10	電子制御タイプ冷却水ポンプ
F14	10	モーターコントローラー
F15	7.5	サーマルマネジメント用統合モジュール

番号	アンペア (A)	保護対象のユニットまたは回路
F16	60	PTC2
F17	-	-
F18	30	PTC1
F19	-	-
F20	7.5	右側デイトタイムランニングライト
F21	30	フロントワイパー
F22	30	リアデフロスター
F23	15	12V アクセサリー電源
F24	15	USB
F25	10	USB
F26	-	-
F27	15	12V アクセサリー電源
F28	15	USB
F29	-	-
F30	60	ESC
F31	20	トレーラー用電源
F32	-	-
F33	15	高電圧統合 PDC コントローラー
F34	15	ステアリングホイールヒーター
F35	5	リアボディーコントロールモジュール
F36	5	コンビネーションメーター
F37	7.5	ETC
F38	10	SRS
F39	5	ADAS
F40	-	-
F41	5	EPS
F42	5	ESC
F43	-	-
F44	60	ESC
F45	40	ブローワー
F46	-	-
F47	-	-
F48	10	リアワイパー
F49	200	バッテリー
F50	70	CEPS
F51	-	-
F52	60	電子制御ファン
F53	-	-

インストルメントパネルのフューズボックスラベル



番号	アンペア (A)	保護対象のユニットまたは回路
01	30	汎用型コントローラー
02	30	トレーラー用電源
03	5	ブレーキランプスイッチ
04	10	診断用ポート
05	5	コンビネーションメーター
06	10	アルコールロック
07	5	シフトレバーパネル
08	20	マルチメディア
09	15	外付けアンプ
10	10	ADAS
11	7.5	コンビネーションスイッチ
12	30	リアボディーコントロールモジュール
13	30	リアボディーコントロールモジュール
14	10	CCS
15	20	左側フロントウィンドウ
16	20	右側フロントウィンドウ

番号	アンペア (A)	保護対象のユニットまたは回路
17	20	左側リアウィンドウ
18	20	右側リアウィンドウ
19	5	E-Call
20	7.5	ワイヤレス充電
21	30	左フロントパワーシート
22	30	右フロントパワーシート
23	-	-
24	-	-
25	-	-
26	-	-
27	-	-
28	-	-
29	-	-
30	-	-
31	-	-

アドバイス

- 車種仕様によっては、一部のフューズ（マルチメディア）のアンペア数が異なるため、修理や交換時は現物に準じてください。

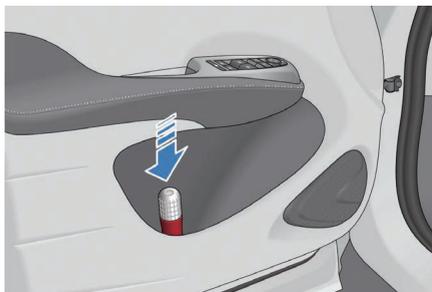
7-1 故障が発生したとき……	284
非常信号灯……………	284
リモートキーのバッテリーが 切れたら……………	285
緊急時シャットダウン システム……………	286
車両火災が発生したら……………	287
バッテリーの液漏れが 発生したら……………	288
レッカー移動が必要なとき…	290
タイヤのエア漏れが 発生したら……………	292

非常信号灯

高速道路や踏切などで故障・事故により緊急停車したときに使用します。

使い方

1. 非常信号灯を助手席側ドアポケットのホルダーから取り出します。
2. 本体のスイッチを入れ、点滅を確認します。
3. 底部のマグネットで車体に設置して、後続車に危険を知らせます。



⚠ 注意

- 強い衝撃を与えないでください。
- 底部のマグネットで車体を傷付けないようご注意ください。
- 取り付けたまま走行せず、元の保管場所に戻してください。
- 非常時に使用できるように、動作確認を定期的に行ってください。

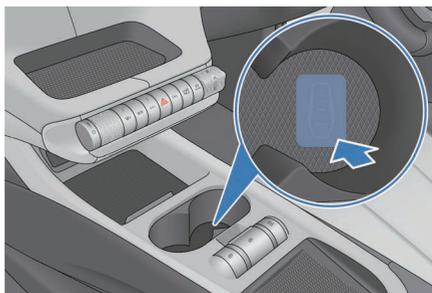
リモートキーのバッテリーが切れたら

リモートキー表示灯が点滅せず、スタート機能で車両を始動することができない場合は、バッテリーが切れていることが考えられます。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場でのバッテリーを交換してください。この場合は、電池レスモードで車両を始動することができます。

⚠ 注意

- 温度が高い場所にリモートキーを置かないでください。
- 固いものでリモートキーを叩いたり、投げ付けしないでください。
- 磁気を帯びた機器からリモートキーを遠ざけてください。
- ドアを施錠してイモビライザーが作動状態で車両を使わない場合は、リモートキーを車両から遠ざけてください。車両がリモートキーに電波を自動的に送信し続けるため、起動バッテリーの電気エネルギーが消費されます。

1. メカニカルキーで解錠します。
2. ブレーキペダルを踏み込んでから「スタート/ストップ」ボタンを押します。このとき、リモートキーシステム警告灯が点灯し、ブザーが1回鳴ります。
3. ブザーが鳴ってから30秒以内にリモートキーを電池レスモードのマークにかざすと、リモートキーシステム警告灯が消灯し、5秒以内に始動します。



緊急時シャットダウンシステム

- 次の条件を満たした場合、緊急時シャットダウンシステムが ON になり、高電圧システムが自動的に OFF になります。
 - 前方衝突後、エアバッグが作動しなかった。
 - 後面衝突。
 - 車両システム故障。
- 上記の衝突や車両システム故障が発生すると、走行可能表示灯（「OK」表示灯）が OFF になります。
- 上記の衝突で緊急時シャットダウンシステムが作動することにより、傷害または思わぬ事件の発生リスクを最小限に低減することができます。
- 一度、緊急時シャットダウンシステムが ON になると、システムは走行可能状態に入らなくなります。電源ポジションを走行可能に切り替えても、システムはすぐに OFF になるため、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に救援を依頼してください。

車両火災が発生したら

車両火災が発生した場合は、実際の状況に応じて以下の方法で車両を操作してください。

1. 電源ポジションを「OFF」にし、車両から離れてください。
2. 火勢が弱い場合は、身の安全を確保している状態で乾燥粉末消火器で鎮火し、すぐに119番に通報してください。
3. 火勢が強く勢いよく燃え広がる場合は、ただちに車両から遠く離れ、消防や救援者に対してパワーバッテリーパックが搭載されていることを伝えて救援をお待ちください。

注意

- 車両を解体する場合は絶縁手袋を着用してください。水での消火や消火器の使い方を誤ると感電につながるおそれがあるため、指定された消火器で火を消してください。
- 特別な状況により、部品（内装部品やガラス）などが飛ばされるおそれがあるときは車両から離れてください。また、早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に現場対応を依頼してください。

バッテリーの液漏れが発生したら

衝突後にバッテリーの液漏れが発生し、車内に酸性の臭いがする、または酸性の液体が明らかに流出してバッテリーパック内部から煙が出ている場合は、以下の方法で車両を操作してください。

1. 電源ポジションを「OFF」にします。可能であれば、起動バッテリー（12V）を切り離します。
2. ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、消防や救援者に対しては、パワーバッテリーパックが搭載されていることを伝えて救援をお待ちください。

衝突事故が発生したら

衝突事故が発生した場合は、実際の状況に応じて以下の方法で車両を操作してください。

1. 電源ポジションを「OFF」にします。可能であれば、起動バッテリー（12V）を切り離します。
 2. ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場までご連絡いただき、救援を要請してください。
 3. 状況に応じて、簡単な点検を行ってください。たとえば、パワーバッテリートレイの縁に割れがないか、明らかな液体の流出がないかなど。
- いずれの場合でも高電圧部品の破損が識別できるわけではないため、破損した部品やアクセサリ、他の金属品をそれらの部品に触れさせないでください。
 - 漏れた液体が身体に付着した場合は、ただちに大量の水で 10～15 分ほど洗い流してください。痛みを感じたときは、2.5% のグルコン酸カルシウムジェルを塗り付ける、または 2～2.5% のグルコン酸カルシウム溶液に浸けて痛みを止めます。効果がなく気分が悪いときは、すぐに医師の手当てを受けてください。
 - 絶対にオレンジ色の高電圧ケーブルや他の高電圧部品に対して勝手に作業をしないでください。高電圧システム作業の資格を取得している BYD 指定サービス工場で、高電圧システムに対する作業を依頼してください。
 - 絶対にオレンジ色の高電圧ケーブルの破損、変更、取り外し、または高電圧配線網から切り離さないでください。
 - 消防や救援者に対してパワーバッテリーパックが搭載されていることを伝えてください。

⚠ 警告

- 漏れ出した液体には触らず、液漏れした場所やパワーバッテリーから遠く離れてください。
- 漏れ出した液体を水や土壌などへみだりに流さないでください。
- 本車のシステムは高電圧の直流電源を使用します。車両を始動させる前後および電源ポジションを「OFF」にすると、システムには大量の熱が発生するため、高電圧や高温に注意してください。
- 高電圧のバッテリー部品および接続ケーブルに対して、解体や移設、変更をしないでください。コネクタによっては、重度のやけどや感電が発生し、怪我や死亡につながるおそれがあります。オレンジ色の接続ケーブルである高電圧ワイヤーハーネスを自ら修理しないでください。修理が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に修理を行ってください。
- リモートキーや高電圧部品は、身体に医療機器が付いている方に影響を与えるため、傷害を負わせるおそれがあります。
- 高電圧部品および高電圧ケーブルが露出しているときは絶対に触れないでください。
- 走行中に床下に強い衝撃を受けたときは、安全な場所に停車し、損傷がないか点検してください。床下に損傷が見られる場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 事故により車両が損傷した場合は、車両から離れて BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 事故により車両が損傷し、板金・塗装による修理が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

レッカー移動が必要なとき

レッカー車でけん引し移動する必要がある場合は、BYD 指定サービス工場またはけん引サービス専門業者、もしくはご入会のロードサービスに救援を依頼してください。

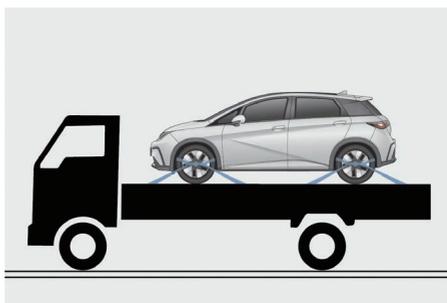
警告

■ ロープやチェーンだけでのけん引はしないでください。

通常のけん引方法：

■ 積載車

- 前輪の回転により高電圧部品が破損するおそれがあるため、故障で車両をけん引するときは積載車を呼んでください。



けん引フック

けん引フックの取り付け位置は図の通りです。

1. けん引フック差し込み口の蓋を押し開けます。
2. けん引フックを差し込み口に取り付けます。



i アドバイス

- けん引フックを使用した車両の搬送はおすすめしません。可能な限り、けん引サービス専門業者、またはご入会のロードサービスに救援を依頼してください。
- 車両を破損させるおそれがあるため、車載工具に入っているけん引フックのみ使用してください。
- 車両を破損させるおそれがあるため、4輪接地で後部からけん引しないでください。

タイヤのエア漏れが発生したら

- 直線走行を保ちながらゆっくりと速度を落とし、交通量の多い場所を離れて、安全な場所に移動します。
- 車両を堅固で平坦な地面に駐車し、高速道路の中央分岐に停車しないようにしてください。
- 電動パーキングブレーキスイッチを引き、「P」レンジにします。
- 電源ポジションを「OFF」にし、ハザードランプを点滅させます。高速道路では三角表示板を置き、非常信号灯を使用して、後続車に危険を知らせてください。
- 乗員全員が車両から降り、ガードレールの外など安全な場所に避難します。
- 自然発車を防ぐため、車両を確実に固定します。空気が漏れているタイヤの対角線上にあるタイヤに、輪留めを設置してください。



⚠ 注意

- タイヤから空気が漏れたまま運転を続けしないでください。短距離走行でも、修復できないほどタイヤが破損するおそれがあります。

車載工具

車載工具は、テールゲートの下の工具箱に格納しています。

車載工具は、三角表示板、反射ベスト、ホイールナットキャップの取り外しクリップ、パンク修理剤、けん引フックなどを用意しています。

- ① 三角表示板
- ② 反射ベスト
- ③ ホイールナットキャップの取り外しクリップ
- ④ タイヤ補修キット
- ⑤ けん引フック



三角表示板の設置

i アドバイス

- 故障や電欠でやむなく道路上に駐停車する場合は、後方車両に知らせるため、三角表示板の赤い反射部を後方車両進行方向に向け、車両後部から50m以上離れた場所に設置してください。移動の準備ができたなら、三角表示板を回収してください。
- 故障で緊急停車する場合は、車載工具に入っている反射ベストを早めに着用してください。

三角表示板は、後方車両が停止中や修理中の車両と衝突するのを避け、速度を落とすように危険を知らせるためのものです。

三角表示板の使い方：

1. ケースから三角表示板を取り出します。
2. 正三角形となるように三角表示板を組み立てます。
3. 三角表示板の足を広げます。設置後の状態を図に示します。



パンク修理剤

- パンク修理剤は、小さいパンク穴、特にトレッドパターン内の穴を塞ぐことができます。パンク修理剤で補修するのは、最寄りのサービス工場まで走行できる状態まで復旧するための応急処置にすぎません。タイヤから空気が漏れていないとしても、緊急時の短距離走行に対応するだけです。

⚠ 警告

- パンク修理剤は、トレッドパターン内に開いた直径 6mm までの穴を補修することができます。直径が 6mm より大きい穴、またはタイヤの他の位置に開いた穴は、パンク修理剤を使わずにロードサービスを依頼してください。
- パンク修理剤は、引火性が高く、かつ健康に害をおよぼすため、蒸気を吸い込まないでください。修理中は、裸火の使用や喫煙を禁止し、皮膚や服、目に付着することを避けてください。また、お子様の手が届かないところに保管してください。

パンク修理剤に触れたとき

- パンク修理剤が皮膚や目に付着した場合は、ただちに多量の水で付着部位を洗い流してください。
- ただちに汚れた服を脱いでください。
- アレルギー症状が出た場合は、ただちに医師の手当てを受けてください。
- 誤ってパンク修理剤を飲み込んだ場合は、ただちにうがいで口の中をきれいに洗い、多量の水を飲んでください。その後、吐かせずに速やかに医師の手当てを受けてください。

- パンク修理剤の使い方の詳細については、コンプレッサーおよびパンク修理剤容器の本体に貼り付いているラベルの記載を参照してください。

i アドバイス

- パンク修理剤で破損したタイヤを補修するのは応急処置のみです。可能な限りお早めに専門のサービス工場にてタイヤを交換し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。また、タイヤの中にパンク修理剤が入っていることを整備士に伝えてください。
- タイヤパンク修理剤で補修したときは、急発進や高速でカーブを曲がることを避けてください。
- 80km/h の最高制限速度を守ってください。走行中に激しい振動や走行性能が不安定になったり、騒音が聞こえた場合は、運転を止めてください。
- パンク修理剤の有効期限が切れたときは（有効期限はパンク修理剤の容器に付いているラベルを参照）、新品のパンク修理剤に入れ替えてください。
- パンク修理剤を使用した後は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にて新品のパンク修理剤を購入してください。

8-1 データ情報	298
車両諸元.....	298
8-2 指示メッセージ	301
車両の表示.....	301
警告ラベル.....	303
マイクロ波通信用 ウィンドウ.....	305
8-3 適合宣言書	306
リモートキー.....	306
8-4 BYD 先進運転支援 システムについて	307
BYD 先進運転支援システムを 安全にお使い頂く上での 重要事項確認書.....	307

車両諸元

車両寸法

全長 (mm)	4290
全幅 (mm) (ドアミラーを含まない)	1770
全高 (mm)	1550
ホイールベース (mm)	2700
フロントトレッド (mm)	1530
リアトレッド (mm)	1530
フロントオーバーハング (mm)	830
リアオーバーハング (mm)	760
アプローチアングル (°)	16
デパーチャーアングル (°)	23

車両重量

車両重量 (kg)	1506	1658
前軸荷重 (kg)	855	894
後軸荷重 (kg)	651	764
車両総重量 (kg)	1916	2068
車両総重量前軸荷重 (kg)	977	1021
車両総重量後軸荷重 (kg)	939	1047
乗車定員 (人)	5	

駆動モーターの諸元

型式	TZ180XSF	TZ200XSQ
種類	永久磁石同期モーター	
駆動方式	二輪駆動	
定格出力 / 回転数 / トルク (kW/rpm/N・m)	35/4775/70	65/4433/140
最高出力 / 回転数 / トルク (kW/rpm/N・m)	70/15000/180	150/16000/310

車両の経済性および動力性能データ

環境条件での 100 キロ毎の電気 使用量 (kW・h/100km)	12.9 (WLTC モード)	13.8 (WLTC モード)
最高設計速度 (km/h)	150	160
最大登坂角度 (%)	30	

⚠ 注意

- 消費電力量の実績は、車の状況、道路条件、運転習慣などにかかっています。

ホイールとタイヤの諸元

タイヤの呼び	205/55R16
タイヤ空気圧 (kPa)	250
ホイールバランス (g)	≤ 10

ホイールアライメント調整値 (車両重量時)

フロントタイヤキャンバー角 (°)	-0.82 ± 0.75	
フロントタイヤトーイン (mm)	1.3 ± 1.82	
キングピン角 (°)	11.3 ± 0.75	
カスター角 (°)	3.16 ± 0.75	
リアタイヤキャンバー角 (°)	-1.38 ± 0.5 (トーションビーム式)	-1.07 ± 0.5 (4 リンク式)
リアタイヤトーイン (mm)	1.1 ± 3 (トーションビーム式)	1.56 ± 3.56 (4 リンク式)

ブレーキシステム技術諸元

ブレーキペダルの遊び (mm)	1 ~ 5	
フロントディスクローターの 厚み (mm)	23 ~ 25	
リアディスクローターの厚み (mm)	9 ~ 11 (トーションビーム式)	10 ~ 12 (4 リンク式)
フロントディスクパッドの厚み (mm)	2.5 ~ 8	
リアディスクパッドの厚み (mm)	2 ~ 6.5	

パワーバッテリー諸元

パワーバッテリータイプ	リン酸鉄リチウムイオンバッテリー	
パワーバッテリー定格容量 (Ah)	135	150

シート諸元

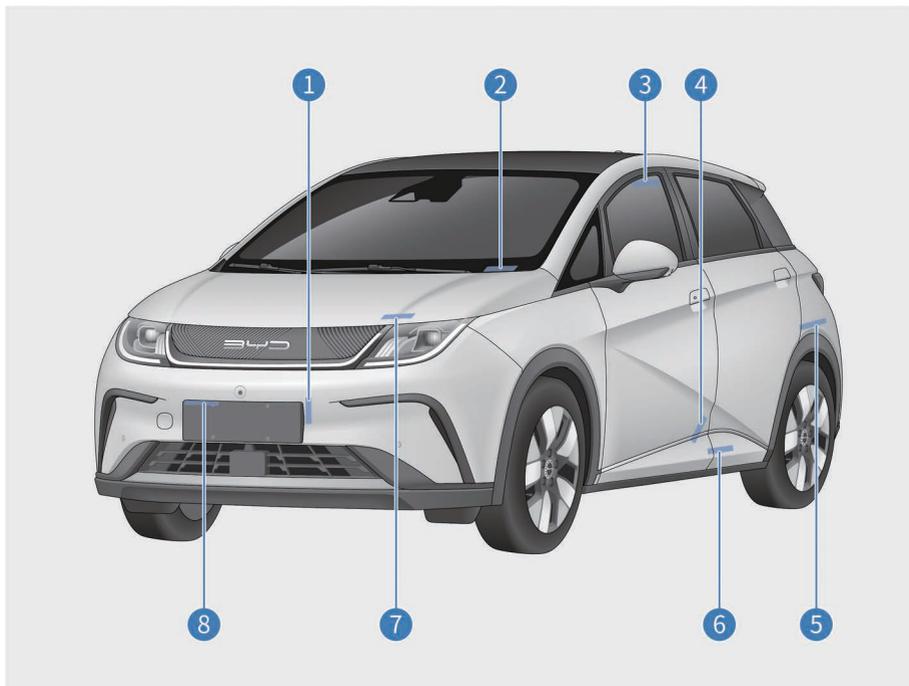
シート	項目	諸元
フロントシート	(シートクッション座面の深さを測定時) シートの前後位置	レールストロークの末端位置から先へ 70mm
	(シートクッション座面の深さを測定時) シートバックの角度位置	25°
	シートバックの通常使用状態	前方へ 24°、後方へ 50°、スライドレールが前方へ 190mm、後方へ 70mm、レール角度 4.5°
リアシート	((シートクッション座面の深さを測定時) シートの前後位置	スライドレールなし
	(シートクッション座面の深さを測定時) シートバックの角度位置	27°
	シートバックの通常使用状態	リアシートバック 27°、固定、調整不可

油脂類諸元

トランスミッションオイルの型番	Castrol BOT384	
トランスミッションオイルの注入量 (mL)	450 ± 50	600 ± 50
ブレーキフルードの型番と規格	Brake Fluid_Class6-T (HZY 6)、BASF HYDRAULAN®404 (DOT 4)	
ブレーキフルード注入量 (mL)	1100 ± 100	
モーター冷却水の規格	エチレングリコール系有機酸冷却液：不凍液 - 氷点 -40℃	
モーター冷却水の注入量 (L)	3.1 ± 0.2	3.3 ± 0.2
エアコン冷媒	R1234yf	
エアコン冷媒注入量 (g)	1000 ± 20	

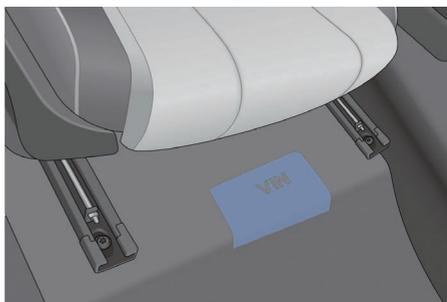
車両の表示

車両識別番号 (VIN コード)



- 1 トランスミッションの本体に貼ってあります。
- 2 フロントガラスのクロスシル、アッパーパネルのVINコード溝に貼ってあります。
- 3 テールゲートの上の中央板金面に貼ってあります。
- 4 左フロントドア左下のドア内側に貼ってあります。
- 5 左リアタイヤのフェンダ表面に貼ってあります。
- 6 左リアドアのサイドシル内側板金の表面に貼ってあります。
- 7 ボンネット内の板金表面に貼ってあります。
- 8 フロントクロスメンバー上側端部の板金表面に貼ってあります。

VIN コードは運転席側シートの下部に刻印されています。



注) 車両 VDS の接続を通じて車種を選定してから、右上で車両識別番号 (VIN) を読み出します。詳細は VDS 取扱説明書を参照してください。

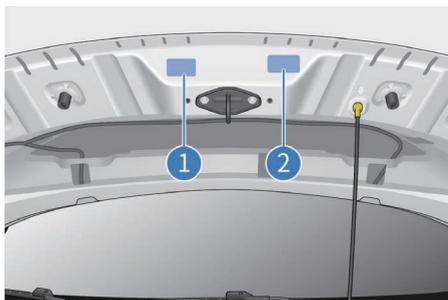
駆動モーターの型式および番号

- 1 駆動モーターの型式および番号は、駆動モーターケースに刻印されています。



警告ラベル

- ① 空調システム、冷却ファンラベル
- ② バッテリー搭載位置ラベル



サイドエアバッグ警告ラベルは、左右Bピラーのドアロックストライカーの下側に貼ってあります。



エアバッグ警告ラベルは、助手席側サンバイザーに表示してあります。



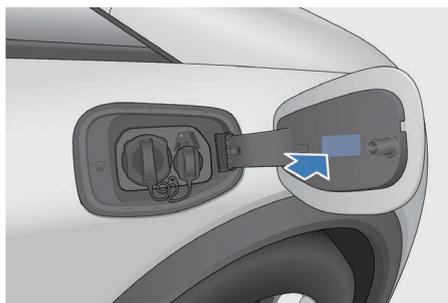
⚠ 警告

■ 絶対に前側にエアバッグが装備されているシートで後向きにチャイルドシートを使わないでください。お子様の死亡や重傷につながるおそれがあります。

タイヤ空気圧ラベルは右側 B ピラーのドアロックストライカーの下側に貼ってあります。



充電コネクタの警告ラベルは、充電ポートフラップ裏側の表面に貼ってあります。



チャイルドロックのマークは、左右リアドア板金の表面に刻印しています。



マイクロ波通信用ウィンドウ

マイクロ波通信用ウィンドウは、ウィンドウガラスの左上にあります。



⚠ 注意

- 車検検査標章を貼り付けるとき、ガラスのプリント部や他の物体への重なりを避けてください。

リモートキー

	<p>ウズベキスタン 型番：D0-92</p>
	<p>EU 諸国 型番：D0-92</p>
	<p>ブラジル 型番：D0-92 本デバイスは、有害な妨害から保護する対象外であり、また、正規認証を取得しているシステムに妨害を与えることはありません。</p>
<p>FCC ID : 2A5DH-DAEA-92</p>	<p>アメリカ 型番：D0-315</p>
	<p>日本 型番：D0-315</p>

BYD 先進運転支援システムを安全にお使い頂く上での重要事項確認書

先進運転支援システムを正しくご理解いただき、安全にお使いいただくための重要事項についてご説明いたします。

ご使用になる際のお客様へのお願い

- 運転者には安全運転の義務があります。運転者は各システムを過信せず、常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ご自身の操作で安全を確保してください。
- 各システムに頼ったり、安全を委ねたりする運転をされると思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車両姿勢が変化する架装・改造や、各種のカメラ・センサーを遮るような架装・改造を行うと、各機能が正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ご使用の前には、あらかじめ各システムの特徴や操作方法、動作条件などを必ずご確認ください。

先進運転支援各システム共通

- 各システムは、運転者の安全運転を前提とし、衝突回避の支援、あるいは衝突被害の軽減を目的としています。その効果はさまざまな環境条件により変わります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。また、各機能には限界がありますので、システムを過信せず、安全運転を心がけてください。
- 天候状況・道路状況・周辺環境・検知対象物の状態などによっては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動すること、あるいは衝突の可能性があってもシステムが作動しない、または作動状態が意図しないタイミングにて終了することがあります。
- フロントガラス、フロントバンパー、リアバンパー、ドアミラーに設置したカメラやセンサーで対象物を検知しています。センサー周辺は常に汚れがないように保ってください。センサー周辺が傷ついたり、汚れ・水滴・油膜・ステッカー・異物などが付着したりしている、またはそれらの除去が不十分な場合、対象物を検知できない・誤検知する場合があります。
- 故意に車や壁などに向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

アダプティブクルーズコントロールシステム / 予測緊急ブレーキシステム / レーンサポートシステム / ナビゲーションパイロット

- 自動運転システムではありません。運転者は常にハンドルを把持し、道路交通法に基づいて適切な運転操作をしてください。
- 対象物（レーダー波を反射しにくい形状の車両など）、天候状況（雨・雪・霧など）、道路状況（カーブが多い・起伏が激しいなど）などの条件によっては適切に作動しない場合があります。また、前方車が急ブレーキをかけたときや、他車が割り込んだときなどは十分な減速ができず、前方車に接近するなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。常に前方車や後続車との車間距離を確認し、必要に応じてブレーキやアクセルを操作してください。
- 高速道路や自動車専用道路以外の一般道での使用はお控えください。急なカーブや交通量が多く車間距離が十分にとれない道路、頻繁に加減速を繰り返すような道路で使用すると意図しない挙動や事故につながるおそれがあるためお控えください。
- ACCの初期設定速度は30km/hになっています。初期設定のまま走行中にRES + ボタンを押すと30km/hに急減速します。ACCを使用する場合は、SET - ボタンで速度設定を行ってください。

アダプティブクルーズコントロールシステム / 予測緊急ブレーキシステム / リアクロストラフィックブレーキ

- あくまで衝突時の被害を軽減するシステムです。日常のブレーキ操作の代わりには絶対にしないでください。
- 対象物（レーダー波を反射しにくい形状の車両など）、天候状況（雨・雪・霧など）、道路状況（カーブが多い・起伏が激しいなど）などの条件によっては適切に作動しない場合があります。常に前方車や後続車との車間距離を確認し、必要に応じてブレーキを操作してください。
- 運転者がアクセルやハンドルを強く操作した場合は、運転者の意思による回避操作と判断され、システムが作動しない場合があります。
- 隣接車線の走行車両や道路状況（マンホールカバー、鉄板や道路標識など）、周辺環境などにより、衝突の可能性がなくてもシステムが作動することがあります。

交通標識認識システム

- 交通標識認識システムは、安全運転を支援するシステムです。走行中はドライバーの責任で実際の標識を確認してください。
- 認識機能には限界があり、状況によっては交通標識を認識できなかったり、実際とは異なる標識を表示したりする場合があります。

レーンサポートシステム / ナビゲーションパイロット / 緊急時車線維持支援

- 自動運転システムではありません。常にハンドル操作で進路を修正してください。
- 天候状況（雨・雪・霧など）・道路状況（急カーブ・車線幅が極端に狭い・車線の白線（黄線）が見えにくいなど）の条件によっては、適切に作動しない場合があります。
- 対象物が見えにくいとき（縁石が低い、路内と路外に明暗さが無い、前方車で隠れるなど）、対象物と紛らわしい線が見えるとき（道路補修の消し残り線、影、残雪、水の溜まったわだちなど）には、レーンサポート機能が正常に作動しないことがあります。

ブラインドスポットインフォメーション

- 天候状況（雨・雪・霧など）、接近車両の状況（接近してこない・並走しているなど）、道路状況（車線幅が極端に広い / 狭いなど）、隣接する壁や駐車車両の状況などの条件によっては適切に作動しない場合があります。必ず、周辺の安全をミラーや目視で直接確認してください。
- レーダーセンサー（バンパーコーナ部など）付近に氷や雪などが多量に付着したときは、システムの作動を停止することがあります。氷、雪や泥が付着しているときにはこれらを取り除いてください。
- 本車はトレーラーをけん引する設計がされていません。トレーラーをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着した場合には、レーダーの電波が遮られるためシステムが正常に作動しない場合があります。

BYD アラウンドビューシステム / 駐車支援システム

- カメラの撮影範囲やセンサーの検出範囲には限界があります。また、モニターの映し出す映像は、実際の状況と異なることがあります。必ず、周辺の安全をミラーや目視で直接確認してください。

ハイビームアシストシステム

- 周囲に光源があるとき（街灯・信号機など）、天候状況（雨・雪・霧など）、道路状況（カーブが多い・起伏が激しいなど）、パンクなどによりタイヤの空気圧が低下して傾いている場合などの条件によっては適切に作動しない場合があります。状況に応じて手でライトを操作してください。

自動緊急通報システム E-Call

- 事故自動緊急通報装置は、標準装備ではなくオプション扱いの場合があります。仕様の確認をしてください。
- 携帯電話用の通信設備を利用するため、電波の届く範囲で利用できます。そのため、事故発生場所によっては自動通報されないことがあります。
- 軽微な衝突事故では、自動緊急通報システム E-Call が自動的に開始されない場合があります。

車両データ取扱いに関する確認

- BYD Auto Japan 株式会社（以下「BYD」といいます。）およびBYDの委託先は、イベントデータレコーダー、車両データ、ドライブレコーダーの画像などを記録したデータを、車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。なお、取得するデータは、次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。
 - お車の使用者の同意（リースは貸借主の同意）がある場合
 - 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力がある要請に基づく場合
 - 統計的な処理を行うなどの使用者や車両が特定されないように加工されたデータを研究機関などに適用する場合

- 当社が収集した個人データは原則として日本国内に保存いたします。なお、シンガポールの通信キャリア Singtel の通信サービス及び AWS のクラウドサービスを受ける場合は、日本またはシンガポールにデータが保管されます。お客様の同意を得た場合に限り、個人データを当社に送信頂くことにより、お客様の情報を日本以外の国の BYD に転送することに同意するものとします。BYD は、その所在地を問わず、各国間の個人データの転送に適用される法律を遵守いたします。ご不明な点は弊社プライバシーポリシーをご確認頂きますようお願いいたします。

免責事項

運転者が本書面記載の遵守事項を遵守せずに生命、身体、財産に対する損害を被った又は第三者に損害を与えた場合のほか、運転者が道路交通法等の各種法規に定められる義務を怠ったことを主たる原因とする損害については、BYD はそれらの損害を賠償する義務を含むあらゆる責任を負いません。

数字

12V アクセサリー電源 ……………237

A

ACC システムの作動条件 ……………165

AC 充電スタンドでの充電 ……………122

AEB システムの作動条件 ……………174

B

BYD アラウンドビューシステム ……200

D

DC 急速充電 ……………123

E

EPB 作動音 ……………158

EPB システム表示灯 ……………158

I

ICC システムの作動条件 ……………170

N

NFC カードキー …………… 67

NFC カードでの施錠 / 解錠 …………… 72

P

PCW システムの作動条件 ……………173

S

SD カードスロット ……………236

U

USB ポート ……………235

かな

あ

アシストグリップ ……………235

アダプティブクルーズコントロール
(ACC) システム ……………164

安全運転支援システム ……………207

安全運転上のご注意 ……………140

アンチロックブレーキシステム
(ABS) ……………212

い

一般充電故障の診断 ……………116

イモビライザー …………… 41

飲酒運転厳禁 ……………140

インストルメントパネル
センターボックス ……………230

インストルメントパネルの
フューズボックスラベル ……………280

インテリジェントスピードリミット
コントロール (ISLC) ……………182

インテリジェントパワーブレーキ
システム ……………207

う

ウィンドウロックキー …………… 99

ウォッシャー ……………269

運転席および助手席エアバッグ …… 23

運転前の準備について ……………152

運転前の点検 ……………151

運転要領 ……………162

え

エアコンについて	222
エアコンパネル、カーオーディオ、 インストルメントパネル、 コントロールパネルとスイッチ	259
エアバッグが作動しないとき	28
エアバッグが作動するとき	26
エアバッグ作動条件	26
エアバッグについて	22
エアバッグの作動条件および 注意事項	26

お

オートビークルホールド (AVH)	159
オートビークルホールド (AVH) 機能の作動に必要な条件	161
オートビークルホールド (AVH) 機能の待機に必要な条件	161

か

カーペット	240,258
外部給電方法	129,130
火災の予防	145
カップホルダー	232
家庭用 AC 普通充電	117
可倒式ドアミラー	216
ガラスを割る方法について	242
冠水路の走行	143

き

キー	64
起動バッテリー (12V)	136
起動バッテリーの電圧不足時の スリープ解除機能	137
機能ボタンの操作	192
機能を ON にする場合	75
客室に荷物を積み込む場合	141

距離表示ブザー	203
緊急時車線維持支援 (ELKA)	189
緊急時シャットダウンシステム	286
緊急脱出ハンマー	241
緊急脱出ハンマーの 使い方について	242

<

空気を入れるとき	273
空調システム	270
駆動モーターの型式および番号	302
車の運転	151
車の始動	149
車の第三者への譲渡、および オフラインモード	46
車を始動する場合	75
グローブボックス	230

け

警告灯 / 表示灯について	52
警告ラベル	303
けん引フック	290

こ

交通標識認識システム (TSR)	180
後方レーダーの電源スイッチ	202
交流充電ポートの非常解錠	128
故障時のリリース機能	157
ご注意	168,171,175,178,181 183,185,187,190
ご利用要領	226
コンビネーションメーター イメージ	50
コンビネーションランプ	264

さ

サイドカーテンエアバッグ	25
作動状況説明	164,170,184
作動するセンサーおよび その検知範囲	204
サングラスホルダー	233
サンシェードスイッチ	106
サンバイザー	234

し

シートについて	78
シートバックポケット	233
シートベルト	258
シートベルトについて	16
シートベルトの緊急ロック機能	17
シートベルトのプリテンショナー/ ロードリミット機能	17
シートベルトリマインダー	20
シートベルトを着用するとき	18
システムの限界	167,174,187,189
システムの応答方法	195
自動緊急通報システム E-Call	105
自動洗車をするとき	257
自動で EPB が掛かる	155
シフト機構	153
車載工具	293
車線逸脱警告 (LDW)	186
車線逸脱防止 (LDP)	186
車内からのテールゲートの 緊急時解錠	73
車内の人工皮革部分	259
車内の清掃	258
車両火災が発生したら	287
車両識別番号 (VIN コード)	301
車両諸元	298
車両接近通報装置 (AVAS)	199
車両データの処理	44

車両の表示	301
車両の防食について	254
車両の保管	265
車両メンテナンス計画	246
車両を安全運転可能な状態に保つ	140
集中ドアロック	100
集中ドアロックの施錠 / 解錠	73
充電上のご注意	112
充電方法	117
充電ポート盗難防止ロック機能	127
充電予約	125
充電について	111
手動で EPB を解除する	156
手動で EPB を掛ける	155
手動防眩機能	214
衝突事故が発生したら	288
衝突予測警告 (PCW) および 自動緊急ブレーキ (AEB)	173
助手席側ウィンドウスイッチ	100
助手席側エアバッグスイッチ	103

す

ステアリングホイール コンビネーションスイッチ	84
ステアリングホイールの調節	89
スマートエントリー & スタートシステム	75
スマート充電機能	125

せ

セキュリティ表示灯	42
セルフメンテナンス	261
セルフメンテナンス上のご注意	261
センサータイプ	203
洗車	256
前席サイドエアバッグ	24
センターコンソールボックス	231

そ

走行距離切替スイッチ	100
速度の抑制	140

た

タイヤ	273
タイヤ空気圧モニタリング	197
タイヤチェーン	219
タイヤとホイールの交換	276
タイヤの位置交換	275
タイヤのエア漏れが発生したら	292

ち

チャイルドロック	77
駐車券収納ボックス	229
駐車支援システム	202
直接式タイヤ空気圧モニタリング	197

つ

使い方	165,171,173,178,180,182 184,186,189,194,195,199
-----	--

て

手洗い洗車をするとき	256
定期メンテナンス	253
データの収集および処理	43
電気の省エネで車を 長持ちさせる方法について	147
点検	263,274
電動ドアミラー	215
電動パーキングブレーキ (EPB)	155
電動パーキングブレーキスイッチ	155

と

ドアおよびウィンドウガラス	259
ドアの施錠 / 解錠	68

ドアポケット	229
ドアミラーの調整ボタン	215
冬期の運転について	163
当局への個人情報開示	46
塗装メンテナンスのお願い	255
ドライバー眠気注意力警告 (DAW)	194
トランクルームに荷物を 積み込む場合	142
トレーラーのけん引	139

な

ナビゲーションパイロット (ICC)	170
慣らし運転期間	139

に

荷物の積み込み	141
---------	-----

の

ノブ操作でドアを開けるとき	68
---------------	----

は

ハイビームアシストシステム (HMA)	184
ハザードランプスイッチ	106
発車時に自動的に EPB を解除する	156
バッテリー特性	132
バッテリーの液漏れが発生したら	288
バッテリーの使い方について	133
パワーウィンドウスイッチ	97
パワーステアリングモードの設定	89
パワーバッテリー	132
パワーバッテリーの回収	135
パンク修理剤	294

ひ

ヒーターシステム	80
非常信号灯	284

ふ

吹き出し口	229
フック	241
フットブレーキが利かない場合の 緊急ブレーキ機能	157
フューズ	277
ブラインドスポットアシスト システム (BSA)	191
ブレーキシステム	268
フロントカップホルダー	232
フロントクロストラフィックアラート (FCTA) およびフロントクロス トラフィックオートブレーキ (FCTB)	178
フロントシートの調節	80
フロントワイパーとウォッシャー	95

へ

ペダル踏み間違い時加速抑制装置	206
ヘッドライトの高さ調節	94
ヘッドレスト	83
ヘッドレストの調節	83

ほ

ボンネット	266
ボンネットの開け方	266

ま

マイクロスイッチ操作での 施錠 / 解錠	70
マイクロスイッチ操作での テールゲート解錠	71
マイクロ波通信用ウィンドウ	305
マルチメディアコントロールパネル PAD	243

め

メーターのその他故障について	61
メーター表示灯	51
メカニカルキー	66
メカニカルキーでの施錠 / 解錠	68
メカニカルキーでの 全ドア緊急施錠	74
メンテナンス	274
メンテナンス計画について	247
メンテナンス細則	271
メンテナンス周期および メンテナンス内容	246
メンテナンス周期表	247

も

モータールームの フューズボックスラベル	278
モードスイッチユニット	101

ゆ

ユーザーのデータ保護の権利	47
---------------	----

よ

幼児置き去り検知 (CPD)	195
幼児用補助装置アンカー	35
幼児用補助装置 (チャイルドシート)	34
幼児用補助装置の 取り付けについて	37

ら

ライトスイッチ	90
---------	----

り

リアカップホルダー	232
リアシートの収納	82
リアシェルフ	240
リモートキー	64,306
リモートキー操作での施錠 / 解錠	69
リモートキーのバッテリーが切れたら	285
リモートキーの「リモートスタート機能」	150
リモートスタート機能	150

る

ルームミラー	214
ルームミラーの手動調節	214
ルームランプスイッチ	107

れ

冷却システム	267
レーンサポートシステム (LDA)	186
レッカー移動が必要なとき	290

わ

ワイパー	217
ワイパースイッチ	95
ワイパーブレード	271
ワイパーブレードの交換	217
ワイヤレス充電エリア	238

略語			
略語	名称	略語	名称
ECO	エコモード	NORMAL	ノーマルモード
SPORT	スポーツモード	AVH	オートビークルホールド
ACC	アダプティブクルーズ コントロール*	PCW	衝突予測警告
AEB	自動緊急ブレーキ	AVAS	車両接近通報装置
ABS	アンチロック ブレーキシステム	ESC	横滑り防止装置
VDC	ビークルダイナミクス コントロール	TCS	トラクション コントロールシステム
HHC	ヒルスタートホールド コントロール	HBA	ハイドロリック ブレーキアシスト
CDP	減速度制御	TPMS	タイヤ空気圧 モニタリングシステム
ECU	エレクトロニック コントロールユニット	VIN	車両識別番号

